山持遺跡 Vol.7（6 区）

国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9

2011 年 3 月

島根県教育委員会

山持遺跡 Vol.7（6 区）

国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9

2011 年 3 月
島根県教育委員会

山持遺跡 6 区⑦（上空から）

山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土楽浪土器

序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成21年度に実施した国道431号道路改築事業（東林木バイパス）予定地内に所在する山持遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

山持遺跡は出雲市西林木町・里方町に所在し、北山山系南麓に立地する弥生時代の大規模な集落遺跡です。周辺には県内最古級の前方後円墳である大寺１号墳や戦国時代の尼子氏・毛利氏の合戦の舞台となった鳶ヶ巣城跡など各時代の重要な遺跡が位置し、また近年では事業予定地内の東端にある青木遺跡から弥生時代の四隅突出型墳丘墓や銅鐸片、奈良時代の大量の木簡や墨書土器、神社跡と推定される遺構などが発見され、大きな話題となりました。

本遺跡については平成14年度から本格的な調査が行われて、既に報告書も数部刊行されており、本書では６区の調査成果を収録しました。

今回の調査では、弥生時代後期の土器群が多数見つかりました。また、この遺構の下層からは縄文時代後期から弥生時代後期までの遺物も多数出土しています。その中には朝鮮半島系と考えられるほぼ完全な形の土器も含まれており、当時の出雲の人々の多様な交流の一端をうかがうことができました。これらの調査成果は島根県の歴史を明らかにするうえで欠くことのできない貴重な成果であるとともに、本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたりご協力いただきました地元住民の皆様や、出雲市並びに島根県土木部をはじめとする関係機関の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成23年３月

島根県教育委員会
教育長　　今　井　康　雄

例　言

1．本書は、島根県土木部道路建設課からの委託を受けて、島根県教育委員会が平成21年度に実施した国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．発掘調査地は下記のとおりである。

出雲市西林木町666外　山持遺跡

3．調査組織は次のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

平成21年度　現地調査

［事　務　局］　川原和人（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、山根雅之（総務グループ課長）
廣江耕史（調査第３グループ課長）

［調査担当者］　今岡一三（調査第３グループ主幹）、飯塚由起（同調査補助員）、福田沙織（同調査補助員）

平成22年度　報告書作成

［事　務　局］　川原和人（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、山根雅之（総務グループ課長）

［調査担当者］　今岡一三（調査第４グループ課長）、井谷朋子（同調査補助員）

4．発掘調査、及びに報告書作成にあたっては以下の方々から有益な御助言･御協力をいただいた。記して謝意を表させていただく。

田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）、武末純一（福岡大学人文学部教授）

5．挿図中の北は、測量法に基づく平面直角第Ⅲ系のＸ軸方向を指し、座標系のＸＹ座標は世界測地系による。また、レベル高は海抜高を示す。

6．本書で使用した第２図は国土地理院発行の1/25,000地図、第３図は出雲市都市計画平面図を使用して作成したものである。

7．本調査に伴って行った自然科学的分析は、次の機関に委託して実施し、その成果については第６章に掲載した。

山持遺跡における放射性炭素年代（株式会社　加速器分析研究所）

8．本書に掲載した写真は、埋蔵文化財調査センターの職員の協力を得て今岡が撮影した。

9．本書に掲載した遺構･遺物実測図の作成は、各調査員のほか、田中玲子、岩橋康子、竹下尚志、田中裕貴、渡部桂司が行い、遺物・遺構の浄書は整理作業員が行った。

10．本書の執筆、編集は埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て今岡が行った。また、編集にあたってはＤＴＰを採用し、Adobe社のPhotoshopCS4、IllustratorCS4、InDesignCS4で編集作業を行った。

11．本文・図版中の表記に用いた遺構略号は次のとおりである。

SD：溝、SK：土坑、SR：自然河道、SX：その他の遺構

12．遺物実測図の断面は、縄文土器、弥生土器、土師器を白ヌキ、須恵器を黒塗りで示している。

13．本書に掲載した遺物及び実測図･写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）にて保管している。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1

第２章　山持遺跡の位置と環境 …… 2

第３章　調査の経過状況と概要 …… 7

第１節　過去の調査の経過と概要

第２節　調査の方法

第３節　調査の経過

第４章　第６調査区⑦の調査 …… 13

第１節　基本層序

第２節　砂礫層の調査

第３節　弥生・古墳時代の遺構の調査

第４節　第 10 層の調査

第５章　総括…… 68

第１節　山持遺跡の変遷

第２節　朝鮮半島系楽浪土器の様相と山持遺跡の評価

第６章　自然科学的分析…… 90

山持遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

挿図目次

第 1 図　山持遺跡の位置…… 2
第 2 図　山持遺跡の位置と周辺の遺跡…… 3
第 3 図　山持遺跡調査区配置図…… 7
第 4 図　山持遺跡 6 区調査区地区割り図…… 11
第 5 図　山持遺跡 6 区⑦調査区西壁セクション…… 13
第 6 図　山持遺跡 6 区⑦調査区南壁セクション…… 14
第 7 図　山持遺跡 6 区⑦遺構配置図…… 16
第 8 図　山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土遺物実測図（1）…… 17
第 9 図　山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土遺物実測図（2）…… 18
第 10 図　山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土遺物実測図（3）…… 19
第 11 図　山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土遺物実測図（4）…… 20
第 12 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 1 実測図 …… 22
第 13 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土遺物実測図（1）…… 23
第 14 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土遺物実測図（2）…… 24
第 15 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 2 実測図 …… 26
第 16 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 2 出土遺物実測図 …… 26
第 17 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 3 実測図 …… 27
第 18 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 3 出土遺物実測図 …… 28
第 19 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 4 実測図 …… 29
第 20 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土遺物実測図（1）…… 30
第 21 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土遺物実測図（2）…… 31
第 22 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土遺物実測図（3）…… 32
第 23 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 5 実測図 …… 33
第 24 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 5 出土遺物実測図 …… 33
第 25 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 6 実測図 …… 33
第 26 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 6 出土遺物実測図 …… 34
第 27 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 7 実測図 …… 36
第 28 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 7 出土遺物実測図 …… 37
第 29 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 8 実測図 …… 38
第 30 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 8 出土遺物実測図 …… 39
第 31 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 9 実測図 …… 40
第 32 図　山持遺跡 6 区⑦土器群 9 出土遺物実測図 …… 41
第 33 図　山持遺跡 6 区⑦ SK・SD 群実測図 …… 42
第 34 図　山持遺跡 6 区⑦ SK06 実測図 …… 43
第 35 図　山持遺跡 6 区⑦ SK06 出土遺物実測図 …… 44

第 36 図　山持遺跡 6 区⑦ SD01・02 実測図 …… 45
第 37 図　山持遺跡 6 区⑦ SD01 出土遺物実測図 …… 46
第 38 図　山持遺跡 6 区⑦ SD02 出土遺物実測図 …… 47
第 39 図　山持遺跡 6 区⑦ SD03・04、SK 群実測図 …… 48
第 40 図　山持遺跡 6 区⑦ SD03 出土遺物実測図 …… 49
第 41 図　山持遺跡 6 区⑦ SD04 出土遺物実測図 …… 49
第 42 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 実測図 …… 50
第 43 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（1） …… 51
第 44 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（2） …… 52
第 45 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（3） …… 53
第 46 図　山持遺跡 6 区⑦杭列実測図 …… 54
第 47 図　山持遺跡 6 区⑦杭列出土の杭実測図 …… 55
第 48 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（1）…… 58
第 49 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（2）…… 59
第 50 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（3） …… 60
第 51 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（4）…… 61
第 52 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（5）…… 62
第 53 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（6）…… 63
第 54 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（7）…… 64
第 55 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（8）…… 65
第 56 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（9）…… 66
第 57 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（10） …… 67

表目次

第 1 表　一般国道 431 号東林木バイパス建設予定地内遺跡調査報告書一覧 …… 1
第 2 表　山持遺跡における発掘調査 …… 8
第 3 表　山持遺跡 6 区⑦出土遺物観察表 …… 71
第 4 表　山持遺跡 6 区⑦出土木製品観察表 …… 89

本文写真目次

写真 1　発掘調査風景 …… 12
写真 2　完掘状況 …… 12

写真図版目次

図版１　１．山持遺跡６区⑦調査区西壁（南端、東から）
　　２．山持遺跡６区⑦調査区西壁（北端、東から）
図版２　１．山持遺跡６区⑦調査区南壁（北から）
　　２．山持遺跡６区⑦土器群１検出状況（南東から）
図版３　１．山持遺跡６区⑦土器群２検出状況（東から）
　　２．山持遺跡６区⑦土器群３検出状況（南東から）
図版４　１．山持遺跡６区⑦土器群４検出状況（北から）
　　２．山持遺跡６区⑦土器群５検出状況（南から）
図版５　１．山持遺跡６区⑦土器群６検出状況（北から）
　　２．山持遺跡６区⑦土器群７検出状況（西から）
図版６　１．山持遺跡６区⑦土器群８検出状況（南から）
　　２．山持遺跡６区⑦土器群９検出状況（南から）
図版７　１．山持遺跡６区⑦SK06 検出状況（南から）
　　２．山持遺跡６区⑦SK06 半裁状況（東から）
図版８　１．山持遺跡６区⑦SK06 土器出土状況（東から）
　　２．山持遺跡６区⑦SK06 完掘状況（南から）
図版９　１．山持遺跡６区⑦SD01・02 検出状況（南から）
　　２．山持遺跡６区⑦SD01・02 完掘状況（南から）
図版 10　１．山持遺跡６区⑦SD03 検出状況（南から）
　　２．山持遺跡６区⑦SD03 遺物出土状況（北から）
図版 11　１．山持遺跡６区⑦SD05 他検出状況（南から）
　　２．山持遺跡６区⑦ピット検出状況（東から）
図版 12　１．山持遺跡６区⑦ピット完掘状況（東から）
　　２．山持遺跡６区⑦杭列検出状況（西から）
図版 13　１．山持遺跡６区⑦杭列１検出状況（北から）
　　２．山持遺跡６区⑦調査区完掘状況（東から）
図版 14　１．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(1)（第８図）
　　２．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(2)（第９図）
図版 15　１．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(3)（第９図）
　　2．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(4)（第９・10 図）
図版 16　１．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(5)（第 10 図）
　　２．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(6)（第 10・11 図）
図版 17　１．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(7)（第 11 図）
　　２．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(8)（第 11 図）
図版 18　１．山持遺跡６区⑦砂礫層出土土器(9)（第 11 図）

２．山持遺跡６区⑦土器群１出土土器（1）（第 13 図）
図版 19 １．山持遺跡６区⑦土器群１出土土器（2）（第 13 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群１出土土器（3）（第 14 図）
図版 20 １．山持遺跡６区⑦土器群１出土土器（4）（第 14 図）
図版 21 １．山持遺跡６区⑦土器群１出土土器（5）（第 13・14 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群２出土土器（第 16 図）
図版 22 １．山持遺跡６区⑦土器群３出土土器（1）（第 18 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群３出土土器（2）（第 18 図）
図版 23 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（1）（第 20 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（2）（第 20 図）
図版 24 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（3）（第 20 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（4）（第 21 図）
図版 25 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（5）（第 21 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（6）（第 21 図）
図版 26 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（7）（第 21 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（8）（第 21・22 図）
図版 27 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（9）（第 22 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（10）（第 22 図）
図版 28 １．山持遺跡６区⑦土器群４出土土器（11）（第 22 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群５出土土器（第 24 図）
図版 29 １．山持遺跡６区⑦土器群６出土土器（1）（第 26 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群６出土土器（2）（第 26 図）
図版 30 １．山持遺跡６区⑦土器群７出土土器（1）（第 28 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群７出土土器（2）（第 28 図）
図版 31 １．山持遺跡６区⑦土器群８出土土器（1）（第 30 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群８出土土器（2）（第 30 図）
図版 32 １．山持遺跡６区⑦土器群８出土土器（3）（第 30 図）
２．山持遺跡６区⑦土器群９出土土器（1）（第 32 図）
図版 33 １．山持遺跡６区⑦土器群７・８・９出土土器（第 28・30・32 図）
図版 34 １．山持遺跡６区⑦土器群９出土土器（2）（第 32 図）
２．山持遺跡６区⑦ SK06 出土土器 (1)（第 35 図）
図版 35 １．山持遺跡６区⑦ SK06 出土土器 (2)（第 35 図）
２．山持遺跡６区⑦ SK06・SD01 出土土器（第 35・37 図）
図版 36 １．山持遺跡６区⑦ SD01 出土土器 (1)（第 37 図）
２．山持遺跡６区⑦ SD01 出土土器 (2)（第 37 図）
図版 37 １．山持遺跡６区⑦ SD02 出土土器（第 38 図）
２．山持遺跡６区⑦ SD03 出土土器（第 40 図）
図版 38 １．山持遺跡６区⑦ SD04 出土土器（第 41 図）

２．山持遺跡６区⑦SR01 出土土器（1）（第 43 図）
３．山持遺跡６区⑦SR01 出土土器（2）（第 44 図）
図版 39 １．山持遺跡６区⑦SR01 出土土器（3）（第 43 図）
２．山持遺跡６区⑦SR01 出土土器（4）（第 44 図）
図版 40 １．山持遺跡６区⑦SR01 出土土器（5）（第 44 図）
２．山持遺跡６区⑦SR01 出土木製品（第 45 図）
３．山持遺跡６区⑦杭列１～４出土の杭（第 47 図）
図版 41 １．山持遺跡６区⑦杭列２出土の杭（第 47 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（1）（第 48 図）
３．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（2）（第 48 図）
図版 42 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（3）（第 48・49 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（4）（第 49 図）
図版 43 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（5）（第 49 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（6）（第 49 図）
図版 44 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（7）（第 49 ～ 52 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（8）（第 50 図）
図版 45 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器（9）（第 50 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(10)（第 50・51 図）
図版 46 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(11)（第 51 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(12)（第 51 ～ 53 図）
図版 47 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(13)（第 52 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(14)（第 53 図）
図版 48 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(15)（第 53 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(16)（第 54 図）
図版 49 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(17)（第 54 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(18)（第 54 図）
図版 50 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(19)（第 54 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(20)（第 55 図）
図版 51 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(21)（第 55 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(22)（第 55・56 図）
図版 52 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(23)（第 55 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(24)（第 55・56 図）
図版 53 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(25)（第 56 図）
２.山持遺跡６区⑦10 層出土土器（26）（第 56 図）
図版 54 １．山持遺跡６区⑦10 層出土土器(27)（第 56 図）
２．山持遺跡６区⑦10 層出土木製品（第 57 図）

第１章　調査に至る経緯と経過

一般国道 431 号は、出雲市を起点として、松江市、鳥取県境港市を経て米子市に至る総延長 95.8 kmの道路であり、主として宍道湖･中海の北岸に沿って併走することから、地元では通称「湖北線」と呼称されている出雲部の大動脈である。一般国道 431 号東林木バイパスは、宍道湖・中海北岸の市町を連結する地域高規格道路「境港・出雲道路」の一部を構成する。現道の線形不良及び交通混雑の解消を目的とし、出雲市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長 4.2kmの４車線及び副道・歩道を両側設置する計画であり、平成 10 年 12 月に地域高規格道路の整備計画に組み込まれた道路である。副道は、東林木町内において平成 16 年度より一部の供用が開始されている。

島根県教育委員会では、平成 11 年度に出雲土木建築事務所 (現：出雲県土整備事務所) から遺跡有無の照会を受け､平成 12 年３月に事業予定地内の分布調査を実施し､予定地内において青木遺跡、馬渡り遺跡、山持遺跡、里方本郷遺跡、下澤遺跡の５遺跡を発見するとともに、遺跡の取り扱いについて協議が必要な旨を回答した。その後、島根県土木部道路建設課及び出雲土木建築事務所との協議を経て､平成 12 年５月 22 日付出雲土木建築事務所長名で､文化財保護法第 57 条の３（現第 94 条）に基づいて、上記４遺跡地内における土木工事の通知が島根県教育委員会教育長に対して行われ、島根県教育委員会では同年５月 29 日付で工事着手前に発掘調査が必要な旨を回答した。

上記の法的手続きに基づいて、島根県教育委員会では平成 13 年度から青木遺跡、平成 14 年度から山持遺跡の本発掘調査に着手した。青木遺跡については現地調査が終了し、既に報告書が刊行されているが、弥生時代の四隅突出型墳丘墓群や銅鐸片、奈良・平安時代の大量の墨書土器、木簡及び神社状遺構により全国的に注目されるところとなった。山持遺跡についても現地調査が終了した区域及びその一部については下記記載のとおり報告書が刊行されている。

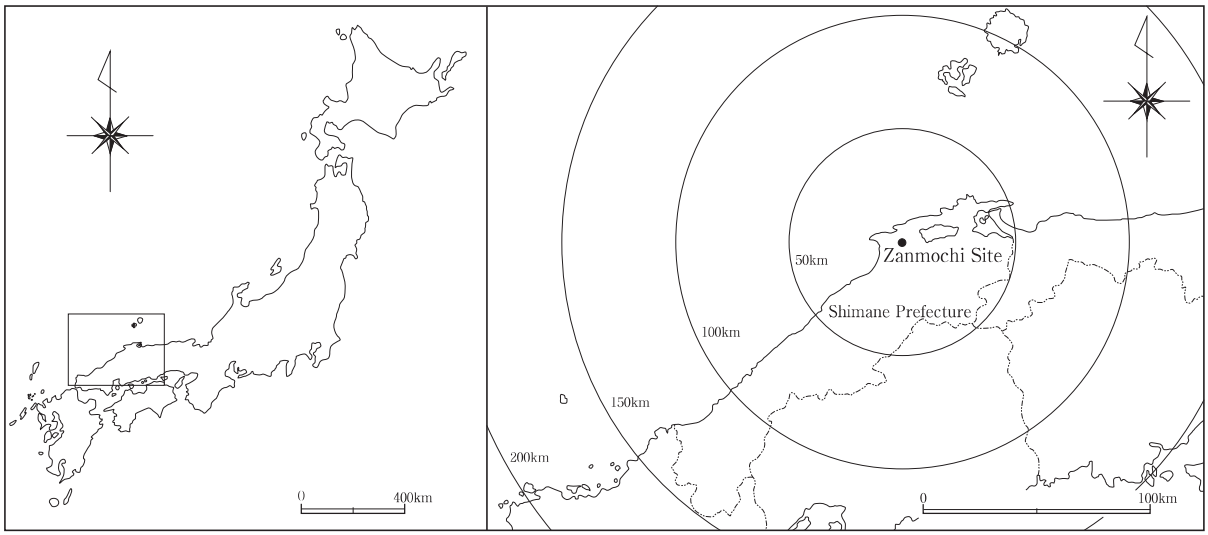
第１表　一般国道 431 号東林木バイパス建設予定地内遺跡調査報告書一覧（平成 21 年度分まで）

ｼﾘｰｽﾞ	調査年度	報告書名	報告書刊行年	報告の内容
1	平成 13・14 年度	青木遺跡（中近世編）	2004 年３月	青木遺跡のうち上層に位置した古代末～近世の遺構遺物を報告　文献にみられる林木荘に関する遺跡か
2	平成 14 年度	山持遺跡（Vol.1）	2005 年３月	弥生時代後期～古墳時代前期初頭の自然河道より大量の土器・木製品が出土　吉備の特殊壺・小型特殊器台の模倣品群
3	平成 14・15 年度	青木遺跡Ⅱ（弥生時代・奈良・平安時代編）	2006 年３月	出雲最古を含む四隅突出型墳丘墓４基、方形貼石墓群、銅鐸片、1000 点を越える墨書土器、木簡、神社状遺構、神像など
4	平成 15・16 年度	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区（Vol.2）	2007 年３月	中近世の水田跡、中世の自然河道と堰、奈良時代の畠状遺構、弥生時代の自然河道と大量の弥生土器、勒島式土器など
5	平成 16･17 年度	山持遺跡Ⅳ区（Vol.3）	2007 年３月	古代の畠状遺構、古墳前期の大溝と投棄された大量の古式土師器、ガラス玉や玉作関連遺物
6	平成 16･17･18 年度	里方本郷遺跡・山持遺跡４（５区・７区）	2008 年３月	里方本郷：弥生時代前期～中期の土器、古墳時代前期の溝・土坑　　山持：弥生時代後期の土坑・溝、古墳時代中期～後期の溝・土坑・井戸
7	平成 18･19 年度	山持遺跡 Vol. ５（６区）	2009 年３月	古代の道路状遺構、人物を描いた板絵、木簡、弥生土器とガラス玉
8	平成 19･20 年度	山持遺跡 Vol. ６（４，６，７区）	2010 年３月	奈良時代の連続ピット列の道路遺構、弥生後期後葉の多量の土器

第２章　山持遺跡の位置と環境

山持遺跡は出雲平野の北端、出雲市西林木町に所在する。出雲平野は斐伊川・神戸川の二大河川により形成された沖積平野であり、南から北へ徐々に標高が低くなり、急峻な断層山脈である北山山系に至っている。すなわち、当遺跡の位置する北山東南麓は出雲平野で最も標高の低い場所の一つであり、斐伊川や北山山系から流れ出る中小河川の影響を不断に受け続けた地域であった。天平五年に編纂された『出雲国風土記』では当遺跡周辺は出雲郡伊努郷に相当する。『風土記』には、国引きを行った意美豆努命の子である赤衾伊努意保須美比古佐委氣能命の社が郷内にあることが郷名の由来として記載されている。赤衾伊努意保須美比古佐委氣能命は「意保須美」＝「大洲見」から沖積地守護の神と想定されており（加藤 1957）、当地が古来より水との戦いを強いられてきた地域であることを雄弁に物語る記述と言えよう。当地域周辺の遺跡の動向は、こうした出雲平野の形成過程と切り離して考えることはできない。以下、各時代の歴史的環境について若干ふれておく。

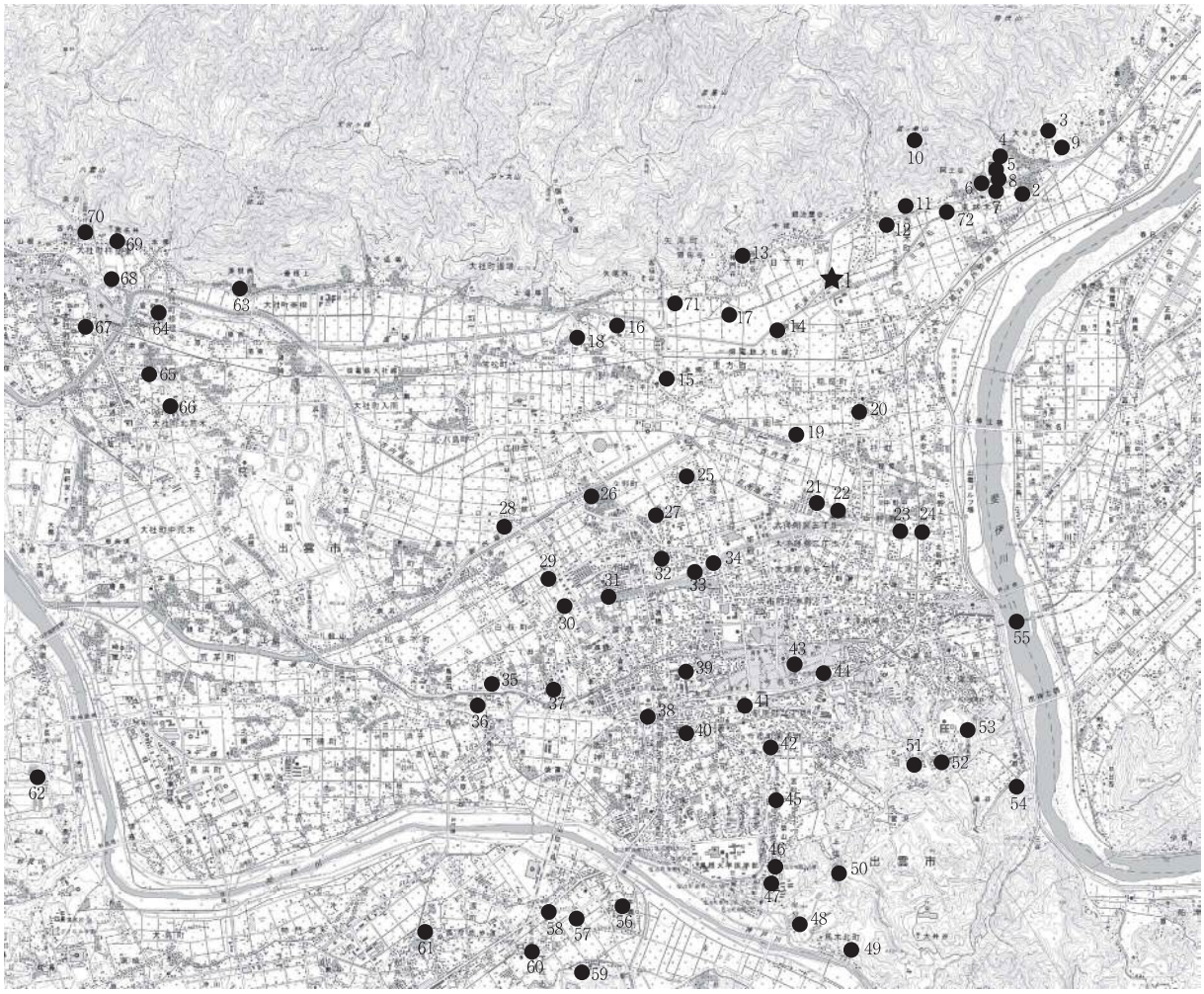
縄文時代　旧石器時代の遺跡は出雲平野西端の多伎町砂原遺跡において三瓶火山灰層に挟まれた土層中から石器と思われる石が出土し、日本最古の遺跡ではないかと注目されている。縄文時代早期になると菱根遺跡や上長浜貝塚などの遺跡が確認されるようになる。特に前者は当遺跡と同様な北山南麓に位置する遺跡であり、所謂「菱根式」と呼ばれる、当地域における早期末の繊維土器の標式遺跡として著名である。なお、繊維土器については６区からも出土している。縄文前・中期の遺跡は平野北半分ではこれまでのところ明確ではなかったが、６区包含層中から前・中期の土器が出土しており注目される。縄文時代後期では、出雲平野中央部に位置する矢野遺跡から縄文後期後葉の福田ＫⅢ式・元住吉山Ⅱ式が採集されている（池田・足立 1987）。神戸川の上流域に位置する三瓶山は約 3600 ～ 3700 年前頃に第Ⅶ期活動期と呼ばれる活発な噴火活動があり、当該期にこの活動に伴う大量の堆積物が出雲平野に流出したと想定されており（角田 2004）、矢野遺跡でも当活動期の堆積物が確認されている（大西・徳岡・高安ほか 1989）。続く縄文時代晩期には矢野遺跡のほか、善行寺遺跡や蔵小路西遺跡から当該期の遺物が出土しており、蔵小路西遺跡からは突帯文期の火処が確認されている（島根県教育委員会 1999）。このように縄文時代晩期までには出雲平野中央部までは確実に陸地化していたものと考えられる。山持遺跡の所在する北山南麓ではまだ確実な当該期



第１図　山持遺跡の位置

の遺跡は確認されていないが、6区では各時期の縄文土器がある程度出土していることから、遺跡周辺部の北山南麓縁辺部等に遺跡が所在する可能性が考えられる。ただ、遺跡周辺の平野部では縄文晩期段階までは安定した陸地化が達成されている可能性は低いと推測される。

弥生時代　出雲平野における弥生時代前期の遺跡としては、原山遺跡、矢野遺跡、三田谷Ⅰ遺跡などがある。遺跡の性格が判明する事例は乏しいが、原山遺跡では前期の配石墓が確認されており、出雲部における砂丘立地の弥生初期墓制として注目される（村上・川原 1979）。これらの遺跡は、矢野遺跡を除けばいずれも平野縁辺部に立地する遺跡である。当遺跡周辺では、これまで青木遺跡



1 山持遺跡　2 青木遺跡　3 大寺古墳群　4 平林寺山古墳群　5 膳棚山古墳群　6 古前西北崖上横穴墓　7 古前背後横穴墓群　8 傘屋背後横穴墓群　9 大寺三蔵遺跡　10 鳶ヶ巣城跡　11 東組遺跡　12 龍善寺東遺跡　13 矢尾横穴墓群　14 里方別所遺跡　15 高浜Ⅰ遺跡　16 里方八石原遺跡　17 里方本郷遺跡　18 高浜Ⅱ遺跡　19 高岡遺跡　20 荻杼Ⅱ遺跡　21 中野西遺跡　22 中野美保遺跡　23 中野清水遺跡　24 大津町北遺跡　25 大塚遺跡　26 矢野遺跡　27 小山遺跡第3地点　28 井原遺跡　29 白枝荒神遺跡　30 小畑遺跡　31 渡橋沖遺跡　32 小山遺跡第1地点　33 蔵小路西遺跡　34 姫原西遺跡　35 白枝本郷遺跡　36 余小路遺跡　37 壱丁田遺跡　38 天神遺跡　39 海上遺跡　40 高西遺跡　41 藤ヶ森遺跡　42 角田遺跡　43 塚山古墳　44 大念寺古墳　45 上塩冶築山古墳　46 上塩冶地蔵山古墳　47 半分古墳　48 三田谷Ⅰ遺跡　49 光明寺古墳群　50 上塩冶横穴墓群　51 菅沢遺跡　52 長者原廃寺　53 西谷墳墓群　54 長廻遺跡　55 斐伊川鉄橋遺跡　56 古志本郷遺跡　57 田畑遺跡　58 下古志遺跡　59 妙蓮寺山古墳　60 宝塚古墳　61 知井宮多聞院遺跡　62 上長浜貝塚　63 菱根遺跡　64 原山遺跡　65 南原遺跡　66 中分貝塚　67 鹿蔵山遺跡　68 五反配遺跡　69 真名井神社銅戈出土地　70 出雲大社境内遺跡　71 下澤遺跡　72 門前遺跡

第2図　山持遺跡の位置と周辺の遺跡

や門前遺跡でわずかに当該期の土器片が若干確認されてるのみであったが、山持遺跡６区ではある程度前期の土器も出土していることから、何らかの安定した集落が形成されている可能性が考えられる状況になってきている。当地域周辺で明確な遺跡が確認されるようになるのは弥生中期中葉段階であり、中期後葉以降に遺物が増加し、後期段階になって多量の遺物が確認されるようになる。山持遺跡では１区において中期中葉の土器が若干確認されているほか、３区でも中期後葉の土器が出土しており、この段階から不安定ながら集落が営まれつつあった状況を示している。出雲平野全体ではこの時期（弥生時代中期中葉）に爆発的に遺跡数が増加することが指摘されており（藤永 2005・米田 2006）、北山東南麓の集落の動向もこうした様相と軌を一にしたものと理解される。

出雲平野における弥生時代中期の集落としては、前述の遺跡のほか、天神遺跡、古志本郷遺跡、白枝荒神遺跡、中野美保遺跡、知井宮多門院遺跡などが比較的大規模なものとしてよく知られている。当該期の墳墓遺跡の様相は明確ではないが、中野美保遺跡では中期中葉に属する方形貼石墓が１基確認されており、後期以降当地で盛行する四隅突出墓の系譜を探る上で注目される遺跡である（島根県教育委員会 2004a）。また、遺物の面においても当該期では、古志本郷遺跡や下古志遺跡で須玖Ⅱ式壺が確認されており（角田 2006a）、荒神谷遺跡の銅矛、猪目洞窟遺跡のゴホウラ製貝輪とともに北部九州との交流を示す遺物として重要である。山持遺跡３区出土の勒島式土器や中野清水遺跡の鋳造鉄斧（島根県教育委員会 2004b）、本報告の楽浪土器等にみられるよう、この段階において既に朝鮮半島系遺物が確認されている点も幅広い交流を窺わせる注目すべき点といえる。

弥生時代後期は中期後半から形成された集落の多くが継続して営まれ、かつ遺物量が格段に増加する。遺跡ごとに多少の差はあるものの、この傾向は後期を通じて一貫して認められるようであり、後期末から古墳時代前期前半にそのピークを迎える。時期ごとの土器出土量から遺跡の盛衰を単純に読み取ることは厳に慎まねばならないが、大きな変化もなく順調な発展を遂げているものとして理解してよいだろう。また、他地域との交流も、前代からの北部九州系土器が引き続き認められるとともに、西谷墳墓群や矢野遺跡、山持遺跡などで吉備系特殊土器及びその模倣品が確認されているほか、西部瀬戸内系の土器も一定量出土するなど、広汎かつ多様な地域間交流の様相を窺い知ることができる。墳墓遺跡では西谷丘陵で最大級の四隅突出墓群が営まれるほか（島根大学法文学部考古学研究室 1992）、近年の平野部における調査の進展により、青木遺跡や中野美保遺跡などで中小規模の四隅突出型墳丘墓が営まれている状況が明らかとなり、墓制から見た出雲平野の地域社会構造へのアプローチが可能となりつつある。なかでも中期後葉段階まで遡ることが明らかとなった青木４号墓の発見は、四隅突出墓の起源論に一石を投じるものであり、今後の議論の展開が期待されよう。

古墳時代　こうした順調な発展を示していた出雲平野の地域社会が大きな変化を見せるのは古墳時代前期である。従来から指摘されているとおり（渡辺 1986）、当地域においては西谷９号墓に後続する前期前半の有力首長墓が現状では確認できない状況にある。９号墓に隣接する７号墳は近年の確認調査で四隅を削り出す特異な構造が注目されたが（出雲市教育委員会 2006）、規模的には９号墓と比較すると遙かに見劣りし、かつ築造時期も出土土器から前期後葉まで降る可能性が高い。その他の前期古墳としては、山地古墳、大寺１号墳、浅柄Ⅱ古墳、権現山古墳などが知られるが、時期不明な権現山古墳を除き、いずれも前期後葉（集成編年３期以降）に降るものである。特に当遺跡の東２㎞に位置する大寺１号墳は出雲平野の前期古墳では唯一の前方後円墳であり、その築造場

所も含め、その成立背景が注目されるところである（島根県古代文化センター 2005）。

一方、集落遺跡は、従来は古墳時代前期になると減少すると理解されていたが、古志本郷遺跡や中野清水遺跡のように前期中葉頃まで継続的に集落が営まれる事例も存在し、墳墓の動向とは単純にはリンクしないようである。しかし、小谷式後半期には集落数が減少する傾向は認められるようであり、如何なる要因に基づくものか、その背景が注目される。

古墳時代中期も出雲平野の様相は今ひとつ不明確である。古墳としては平野南西部に奥才型木棺を備える小規模な方墳である間谷東１号墳、全長約 70 ｍの前方後円墳である北光寺古墳が営まれている。前者は奥才古墳群や全国的な棺内礫敷組合式箱形木棺の動向から中期初頭に位置づけられ（岩本 2003）、海浜部立地中小古墳の広域的地域間交渉を物語るものとして重要である。後者は出土遺物や石棺残片から中期前～中葉に編年され、同時期としては出雲部最大の古墳であり、その突発的な出現の背景は出雲平野の地域史を再構成する上で大きな課題として残されている。集落も、九景川遺跡など、この時期から営まれる事例が幾つか認められる点も注意される。

古墳時代後期になると、大念寺古墳、上塩冶築山古墳など、全国的にも著名な巨石墳が相次いで築かれ、山代二子塚古墳、山代方墳に代表される出雲東部勢力と拮抗関係にあった出雲西部の大首長の奥津城と理解されている（渡辺 1986）。こうした巨石墳の背景には当然平野の開発の進展が想定されようが、今のところ当該期における大規模な集落は出雲平野では確認できず、生産遺跡の断片を知り得るのみである（角田 2006b）。こうした大型古墳の築造が停止されるのとほぼ軌を一にして平野南部の丘陵には上塩冶横穴墓群や神門横穴墓群などの大規模な横穴墓群が営まれる。当遺跡周辺では、金銅装馬具をはじめとする豊富な副葬品が一括出土した上島古墳（宮代 1997）、大型の横穴式石室を備える中村１号墳（平田市教育委員会 2004）、横穴式石室を主体部とする後期群集墳である定岡谷古墳群の存在が注目される。

奈良時代　奈良時代の出雲平野は斐伊川を境に西の神門郡と東の出雲郡に二分される。近年の発掘調査の進展により、神門郡家は出雲市古志本郷遺跡（島根県教育委員会 2003）が、出雲郡家の関連施設として斐川町後谷Ｖ遺跡（斐川町教育委員会 1996）が比定されているが、その他に神門郡内では天神遺跡、三田谷Ｉ遺跡、小山遺跡が官衙関連遺跡である可能性が指摘されている。冒頭に述べたとおり、当遺跡は出雲郡伊努郷に所在するが、多量の墨書土器・木簡の出土した青木遺跡を出雲郡家の出先機関的機能が存在する場所と評価する見方もある（佐藤 2004）。当遺跡においても、6 区ではいくつかの墨書土器のほか、吉祥天や人物像を描いた板絵や木簡が出土し注目されるところである。寺院跡では、古くから知られている神門寺境内廃寺、長者原廃寺のほか、青木遺跡の奈良時代Ｉ区建物跡群を寺院跡とみる見方もある（内田 2006）。

中世　中世の遺跡としては、注目すべきものとして蔵小路西遺跡で検出された居館跡があげられる。これは一町四方の大溝に囲まれた中に多数の建物を配置する方形居館跡で、出土した陶磁器類から 12 世紀後半から 15 世紀にかけてのものと考えられ、朝山氏または塩冶氏の居館である可能性が指摘されている（島根県教育委員会 1999）。当遺跡周辺では、青磁の優品を出土した荻杼古墓（近藤 1969）、多数の掘立柱建物跡、井戸が検出された青木遺跡があげられる。特に後者は皇室の荘園として九条家文書に記載のある林木荘戸の関連が注目される（島根県教育委員会 2004c）。当該期の遺物は当遺跡の２区・３区の土石流層中より一定量出土していることから、その調査区の北側に当該期の集落・屋敷が所在していた可能性が高い。また、当遺跡のすぐ北に屹立する丘陵上には戦国

時代に市内最大規模の山城である鳶ヶ巣城が築かれ、尼子氏復興戦の際には毛利氏による高瀬城攻略拠点となったことで著名である。

以上、北山東南麓を中心とした当遺跡周辺の歴史的環境を、他の出雲平野地域と比較しつつその概観を試みたが、同じ出雲平野でも、南部域や中央部域とはやや歴史的展開が異なるようである。その要因としては冒頭に述べたような地理的な要因や郡境に接するという地政学的要因が大きく作用していたものと推測され、今後の調査・研究の進展によるその具体的解明が待たれる。

参考文献

加藤義成 1957『出雲国風土記参究』今井書店

池田満雄・足立克己 1987「出雲市矢野遺跡出土の縄文土器」『島根考古学会誌』第 4 集

角田徳幸 2004「三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡」『島根考古学会誌』第 20・21 集

大西郁夫・徳岡隆夫・高安克己ほか 1989「出雲平野西部の形成過程」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究』島根大学山陰地域総合研究センター

島根県教育委員会 1999『蔵小路西遺跡 一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2』

村上　勇・川原和人 1979「出雲・原山遺跡の再検討」『島根県立博物館調査報告』第 2 冊

藤永照隆 2005「遺跡の分布からみた出雲平野の古地理再考」『八雲立つ風土記の丘館報』№182

米田美江子 2006「遺跡分布から見た出雲平野の形成史」『島根考古学会誌』第 23 集

島根県教育委員会 2004a『中野美保遺跡 一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 4』

角田徳幸 2006a「中野清水遺跡の調査」『中野清水遺跡 (3)・白枝本郷遺跡 一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 7』

島根県教育委員会 2004b『大津町北遺跡・中野清水遺跡 一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 5』

島根大学法文学部考古学研究室 1992『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』

渡辺貞幸 1986「古代出雲の栄光と挫折」『王権の争奪』集英社

出雲市教育委員会 2006『西谷墳墓群－平成 14 ～ 16 年度発掘調査報告書－』

島根県古代文化センター 2005『大寺 1 号墳発掘調査報告』

岩本　崇 2003「棺内礫敷をもつ組合式箱形木棺」『大手前大学史学研究所紀要』第 3 号 大手前大学史学研究所

角田徳幸 2006b「白枝本郷遺跡の調査」『中野清水遺跡 (3)・白枝本郷遺跡 一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 7』

島根県教育委員会 2003『古志本郷遺跡Ⅴ 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ』

佐藤　信 2004「出土文字資料が語るあたらしい古代史像」『出土文字資料が語る古代の出雲平野 平成 15 年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会資料』島根県埋蔵文化財調査センター

内田律雄 2006「出雲の神社遺構と神祇制度」『古代の信仰と社会』国士舘大学考古学会

近藤　正 1969「出雲市荻杼発見の骨蔵器について」『考古学雑誌』第 54 巻 3 号

島根県教育委員会 2004c『青木遺跡（中近世編）国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）建設予定地内発掘調査報告書 1』

平田市教育委員会 2004『中村 1 号墳』

宮代栄一 1997「島根県上島古墳の再検討」『島根考古学会誌』第 14 集

斐川町教育委員会 1996『後谷Ⅴ遺跡』

出雲市教育委員会 2006『門前遺跡発掘調査報告書』

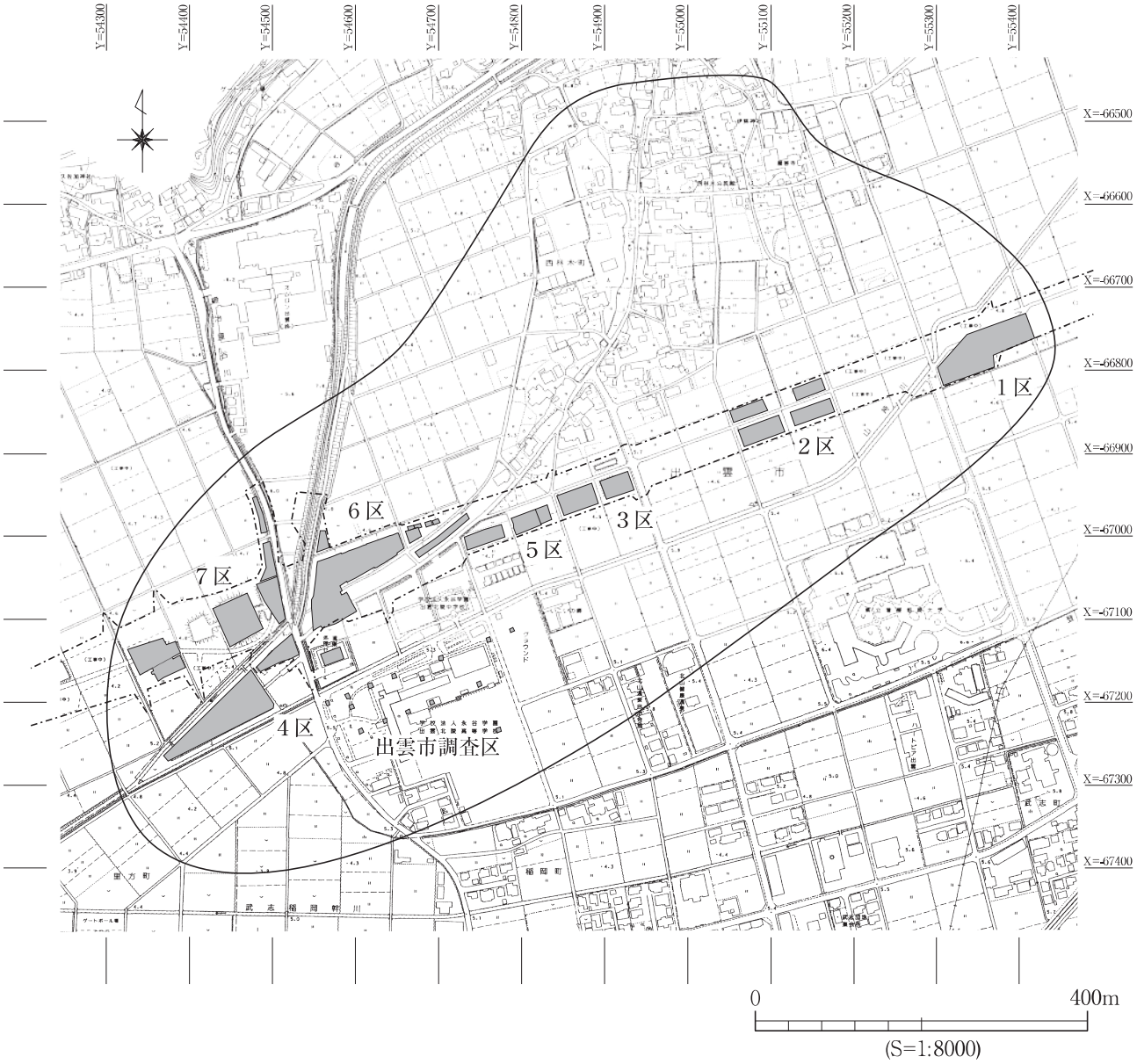
第３章　調査の経過状況と概要

第１節　過去の調査の経過と概要

ここでは山持川川岸遺跡も山持遺跡に含め過去の調査経過を辿ってみたい。

①遺跡の発見（1962 年）　山持遺跡が最初に確認されたのは 1962 年の山持川河川改修時に新宮元栄氏により土器が採集されたのを端緒とする。採集された土器は１～６区で出土したものとほぼ同じ様相を示し、弥生中期末～古墳前期にほぼ限定される。

②第１次調査（1980 年）　1980 年には出雲女子高等学校（現出雲北陵高等学校）建設に伴い、出雲市教育委員会によって範囲確認調査が実施され、当遺跡に初めて調査のメスが入ることとなった。グリッドの調査のため遺構等の様相は不明だが、各グリッドから弥生後期前葉から古墳前期にかけての土器がまとまって出土している。層位的には、山持川を挟んで北側に隣接する第２次調査時の



第３図　山持遺跡調査区配置図

様相と良く似ているようである。この段階では、遺跡の中心は北側の伊努谷川扇状地上に立地し、後背湿地である当調査区周辺に意図的に投棄されたものと理解されていた。

③第２次調査（1994 年）　第１次調査区の山持川を挟んだすぐ対岸に汚水処理施設が建設されるのに先立ち、出雲市教育委員会により発掘調査が実施された。この調査で特筆すべき点は、その湿潤的環境から居住地ではなく捨て場と認識されていた当遺跡から明確な遺構が検出され、居住域そのものであることが明らかになった点である。竪穴住居にはやや不明な点があるが、掘立柱建物跡は柱穴出土の土器から確実に弥生終末期に位置づけられるものであり、当該箇所が主たる居住域であったことは疑いない。遺構面は海抜 2.8 m前後であり、３区、４区、６区の遺構検出面とほぼ同じであり、特に道路を挟んで西側に隣接する４区の様相に近い。また、調査面積に対して遺物量が多く、搬入系遺物も確認されることから、規模的にも従来の想定よりかなり大規模な集落であったと想定され、当調査成果は従来の当遺跡の認識に大きな変更を迫る調査となった。

④第３次調査（2002 年度）　平成 14 年度から島根県教育委員会によって東林木バイパス建設に伴う当遺跡の発掘調査が開始された。調査初年である平成 14 年度は、遺跡東端にあたる看護短大北東部の１区約 4,300㎡が調査された。表土下約３ｍの湧水の著しい悪条件の中での調査であったが、自然河道中より弥生後期後半を中心として大量の遺物が出土した。特筆すべきは吉備系の小型特殊器台・特殊壺が河道に一括投棄された状態で多量出土したことである。これらのうち吉備からの搬入品は破片１点であり、その他はすべて在地で製作された模倣品である。その形態や文様のみは特

第２表　山持遺跡における発掘調査（2010 年度まで）

調査原因	調査年度	調査主体	備　考
１次：学校建設	1980 年度	出雲市教育委員会	1981 年３月報告
２次：下水処理場建設	1994 年度	出雲市教育委員会	1996 年３月報告
３次：道路建設（東林木バイパス）	2002 年度	島根県教育委員会	2005 年３月報告１区
４次：道路建設（東林木バイパス）	2003 年度	島根県教育委員会	2007 年３月報告２区
５次：道路建設（東林木バイパス）	2004 年度	島根県教育委員会	2007 年３月報告３区 2007 年３月報告４区 2008 年３月報告７区①
６次：道路建設（東林木バイパス）	2005 年度	島根県教育委員会	2007 年３月報告４区 2008 年３月報告５区
７次：道路建設（東林木バイパス）	2006 年度	島根県教育委員会	2008 年３月報告５区 未報告６区② 2009 年３月報告６区①
８次：道路建設（東林木バイパス）	2007 年度	島根県教育委員会	2009 年３月報告６区③ 2010 年３月報告６区⑤
９次：道路建設（東林木バイパス）	2008 年度	島根県教育委員会	2010 年３月報告４区②、７区②③ 未報告６区④⑧ 未報告７区④
10 次：道路建設（東林木バイパス）	2009 年度	島根県教育委員会	未報告７区⑤ 2011 年３月報告６区⑦（本書）
11 次：道路建設（東林木バイパス）	2010 年度	島根県教育委員会	未報告６区⑥ 未報告７区⑥

殊土器の使用法をめぐる上で注目すべき発見となった。また、旧河道中から木製品も多量に出土し、その中には装飾付栓や三稜木鏃、弩形木製品に類似したものなど特異な資料が含まれ、出雲地域における弥生時代後期木製品の代表的資料の一つとなっている。

⑤第4次調査（2003年度） 平成15年度の調査は前年度の調査区の西側にあたる2区の5,000㎡を対象に実施された。1区と同様湧水と墳砂に悩まされる調査であったが、中・近世の水田跡や弥生時代後期の自然河道、しがらみ状遺構を検出し、当該期の良好な木製品資料を得ることができた調査であった。

⑥第5次調査（2004年度） 平成16年度調査は2区の西側約200ｍの3区3,000㎡と遺跡の南西部分の4区3,400㎡、さらに高浜川を挟んだ北側の7区818㎡を対象に調査が実施された。3区の調査では、中世・奈良時代・弥生時代後期の3つの遺構面を調査している。中世の調査では全国的に見ても大型の卒塔婆状木製品が出土し、古代の遺構面では畠状遺構、道路状遺構等を確認している。弥生時代の遺構面では、自然河道からしがらみ状遺構を検出し、多量の弥生土器と共に朝鮮半島系無文土器の勒島式土器が出土している。4区の調査では古代の畠の畝間溝群、古墳時代の土器群が確認されている。7区の調査では古墳時代中期～後期の土坑や溝等を検出しており、山持遺跡の西端の様相が明らかとなり、遺跡全体の傾向として東から西へ居住域の移動を想定させる成果となった。

⑦第6次調査（2005年） 平成17年度の調査は前年度に引き続き4区3,400㎡及び5区470㎡について調査を実施した。4区の調査では昨年度に引き続き古代の畠もしくは水田跡を確認し、古墳時代前期～中期の掘立柱建物跡、溝、井戸等を検出している。遺物は大量の土師器やガラス製の勾玉・管玉・小玉が出土している。建物跡の検出によって居住域本体が明らかになった点で大きな成果であった。5区の調査では弥生時代後期～古墳時代前期の自然河道を検出している。

⑧第7次調査（2006年） 平成18年度の調査は、6区①及び6区②の調査と前年から引き続き5区の調査を実施した。6区①の調査では古代の道路遺構と旧河道を検出し、大量の木製品のほか木簡や人物を描いた板絵が出土した。また弥生時代後期～古墳時代前期の土坑や土器群を検出したほか、斐伊川の堆積作用による砂礫層中から縄文時代早期～弥生時代後期の土器が出土した。5区の調査では東側の3区で確認された自然河道に続くものが確認されたほか、弥生時代～古墳時代の土坑や土器溜まりが確認された。

⑨第8次調査（2007年） 平成19年度の調査は、6区①の南側を6区③、西側を6区⑤として実施した。6区③では前年度の6区①で確認された道路遺構の南側の続きを検出した。また弥生時代後期～古墳時代前期の土坑を多数検出した。6区⑤では杭列を伴う盛土工法による道路遺構や多数の波板状凹凸面による道路状遺構が検出された。この成果によって、6区①・③で確認されている道路遺構と併せ、古代の南北方向の道路遺構が多数集中する地点であることが判明した。また6区⑤では弥生時代後期～古墳時代前期の土器群や自然河道が検出された。

⑩第9次調査（2008年） 平成20年度の調査は、平成16･17年度に実施した4区の東側を4区②として、6区④・⑧、7区②～④の調査を実施した。4区②ではシルト層上面で弥生時代後期末の土器群を検出し、6区④では弥生時代後期末の竪穴状遺構や土坑等を検出している。7区②では古代と考えられる幅2～3ｍの大畔を確認し、7区③ではシルト層上面で古墳時代中期の溝や土師器や竹籠を廃棄した土坑が検出されている。7区④では古墳時代前期の溝や弥生時代後期末の流路と

護岸状の杭列が１条確認されている。

⑪第 10 次調査（2009 年）　平成 21 年度の調査は、平成 18・19 年度に実施した６区①・③の南側に位置する６区⑦と７区⑤の調査を実施した。６区⑦は６区①・③で検出された道路遺構が続いている可能性が考えられたが、中近世の旧河道の削平により道路遺構は確認できなかった。シルト層上面で弥生時代後期末の土器群と溝状遺構等を検出している。7 区⑤では古墳時代中期の流路跡２本と土坑等が確認されている。

第２節　調査の方法

調査区の設定　県出雲土木建築事務所（現在、出雲県土整備事務所）との協議の上、工事の進捗に合わせもっとも工事が急がれる橋脚部分周辺の調査について、ここを６区として調査を始めた。当初１年で調査を実施する予定であったが、道路遺構等の大規模な遺構が検出されたこと等から、平成 18 年度～平成 22 年度にかけて実施することとし、またそれ以降、工事の進捗等に合わせて調査可能となった部分について随時調査を実施することとなった。

現在までの調査としては、平成 18 年度に 6 区①・②、平成 19 年度に 6 区③・⑤、平成 20 年度に 6 区④・⑧、平成 21 年度は６区⑦について実施している。

また、6 区の調査については第Ⅲ座標軸系に基づき座標軸に合わせた 10m 四方のグリッドを設定し X=－ 67,140、Y=54,530 を原点とし、北へ向けてアルファベット順、東に向かってアラビア数字順に呼称し、それぞれの区画は各交点の南西隅をもってグリッド名称とし、これに基づいて遺物の取り上げ等を行った。

表土掘削　調査予定地の現況は市道部分であり、道路部分の撤去については出雲県土整備事務所が行った。撤去後の堆積土の除去はバケットに平爪を装着したバックフォーを用いて実施した。掘削は、遺物包含層上面までを対象に実施し、撤去後の地表面から深さ 1.5m 程度まで実施した。

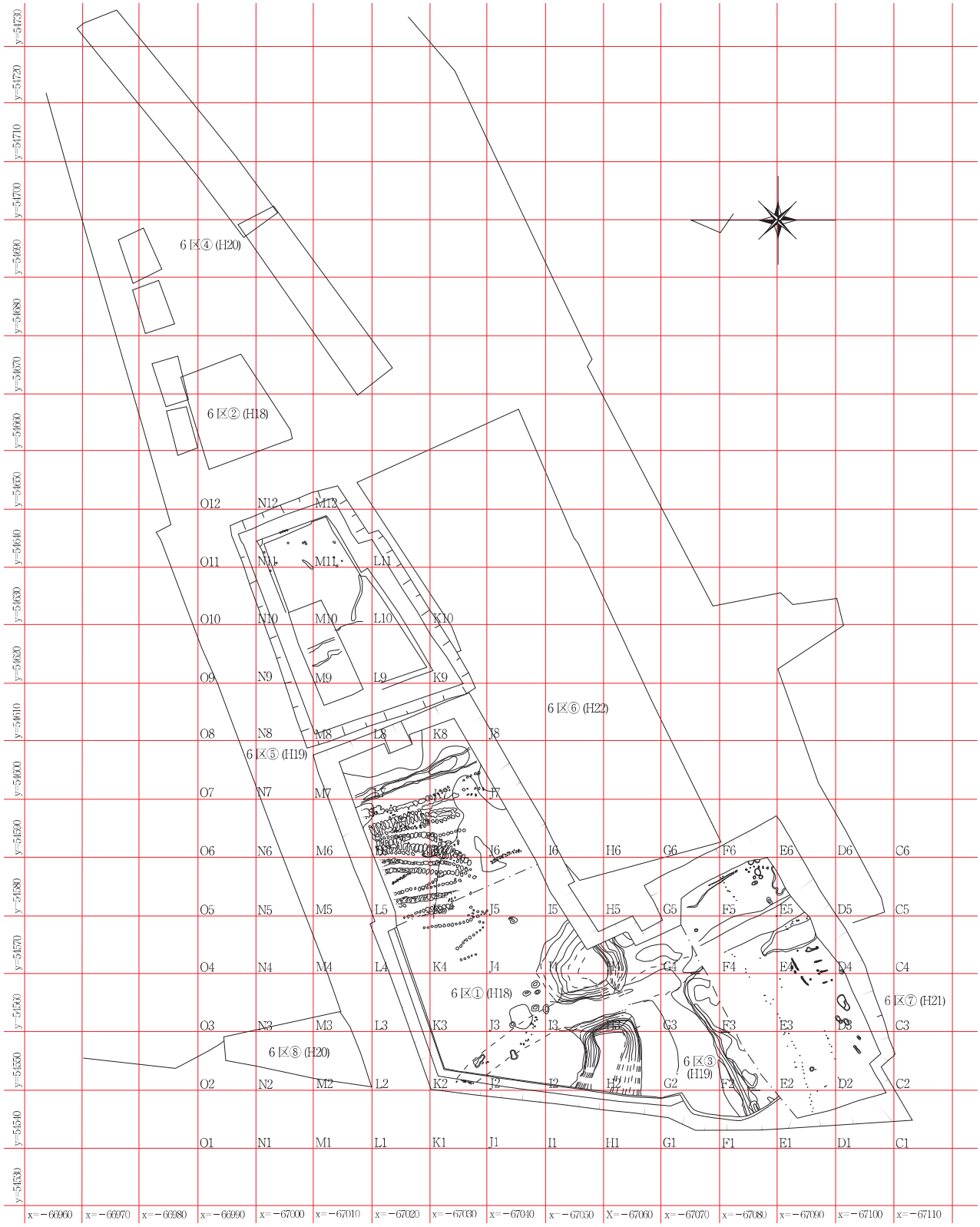
遺物包含層掘削・遺構の精査　遺物包含層及びそれ以下のシルト層・砂層については、主として鍬・スコップを用いて人力により掘り下げたが、遺物が集中する箇所については草削り・移植ゴテにより掘り下げた。遺構の検出はいったん鋤簾により大雑把に精査した後、遺構面を草削りを用いて丁寧に削り、遺構検出に努めたが、遺構覆土の判別が難しい場合や湧水等によって精査が必ずしも容易にはいかなかった。遺構内の調査は大型の土坑等については十字にベルトを設置し、小規模な遺構は半裁し、土層断面図を作成した。

記録の作成　遺構の平面図･土層図は、アイシン精機株式会社による遺跡調査システム「遺構くん」により測量を行い、出力後補正を行った。遺物の出土状況・取り上げについては、有意な遺物出土状況については手測りにより縮尺 1/10 により平面図・立面図の図化を必要に応じて行い、その他報告書掲載が見込まれる遺物については基本的に出土位置を「遺構くん」を用いて記録した上取り上げた。

遺構の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものについては６×７判フィルムによる撮影を行い、メモ・素図作成用、またはピット断面写真などは主として 35㎜フィルムカメラ (モノクロネガ・カラーポジフィルム) 及びデジタルカメラを使用した。

第３節　調査の経過

６区⑦の調査は道路部分撤去後の堆積土の除去を７月 13 日から行った。当初は他の調査区同様、腐植土層（オモカス層）上面までを掘削する予定であったが、今回の調査区ではオモカス層が確認できず、大半が中近世の河道と推定される砂礫層であり、この下層に弥生時代後期～古墳時代前期



第４図　山持遺跡６区調査区地区割り図

の遺物包含層が存在していたため、包含層上面までを掘削の対象として重機による掘削を行った。人力による掘削は７月 22 日から実施し、調査区壁沿いに排水用の溝を掘り下げることから開始した。排水用の溝掘削だけでバケツ 10 杯以上の土器が出土したことから多量の遺物が存在していることが容易に想像できた。またこの時点で湧水が著しく、100 ボルトの水中ポンプ 10 台を常時稼働しなければならない状況であった。

調査区の大半は東西方向に流れる旧河道の砂礫層が残り、特に北側に厚く堆積している旧河道をＳＲ０１として７月 27 日から掘り下げに入った。遺物は下層の包含層を削平していることもあり弥生時代後期～古墳時代前期の土器が大半を占めたが、須恵器や土師質土器も出土している。７月 30 日には卒塔婆状木製品が出土したことから、中世の河道であることが判明した。なお、今回の調査区は北側に隣接する６区①･③で検出された道路遺構の続きが確認できるものと想定されたが、ＳＲ０１直下には古代の遺構等は存在せず、オモカス層と共にこの旧河道によって削平されたものと推測される。

８月６日には遺物包含層の掘削も完了し、この時点でコンテナ 40 箱以上の土器が出土した。包含層下層には灰褐色のシルト層があり、この面で土器群９、溝状遺構４、土坑・ピット群多数を検出した。遺構の実測は基本的には「遺構くん」で行ったが、土器群の実測は手測りで行い、写真撮影、取り上げ等を行いながら遺構の調査は９月 24 日まで行った。湧水が著しいことに併せてシルト層の砂を含む割合が多いためか、排水用の溝から部分的に崩れることが多くなり溝の掘り直しを行いながら調査を進めた。

遺構の調査終了後の９月 25 日からシルト層の掘り下げに入った。湧水はさらに激しくなり、砂礫層上面に達した 10 月１日には調査区全体が水浸しのような状態であったため、200 ボルトの水中ポンプ２台を追加して調査を進めることにした。砂礫層からは弥生時代前期～後期の土器が出土することから、可能な限り調査を進める方針であったが、湧水の勢いが激しく、このまま調査を続けていくことが困難な状況となり、砂礫層の一部を調査した段階で調査を終了することとした。調査終了日の 10 月 13 日には上層からの混入と考えられる須恵器の壺と思われる土器が出土し、それを取り上げた時点で調査は終了した。

なお、報告書作成作業実施中に調査最終日に出土した須恵器と思われた土器が朝鮮半島系の楽浪土器であることが判明した。

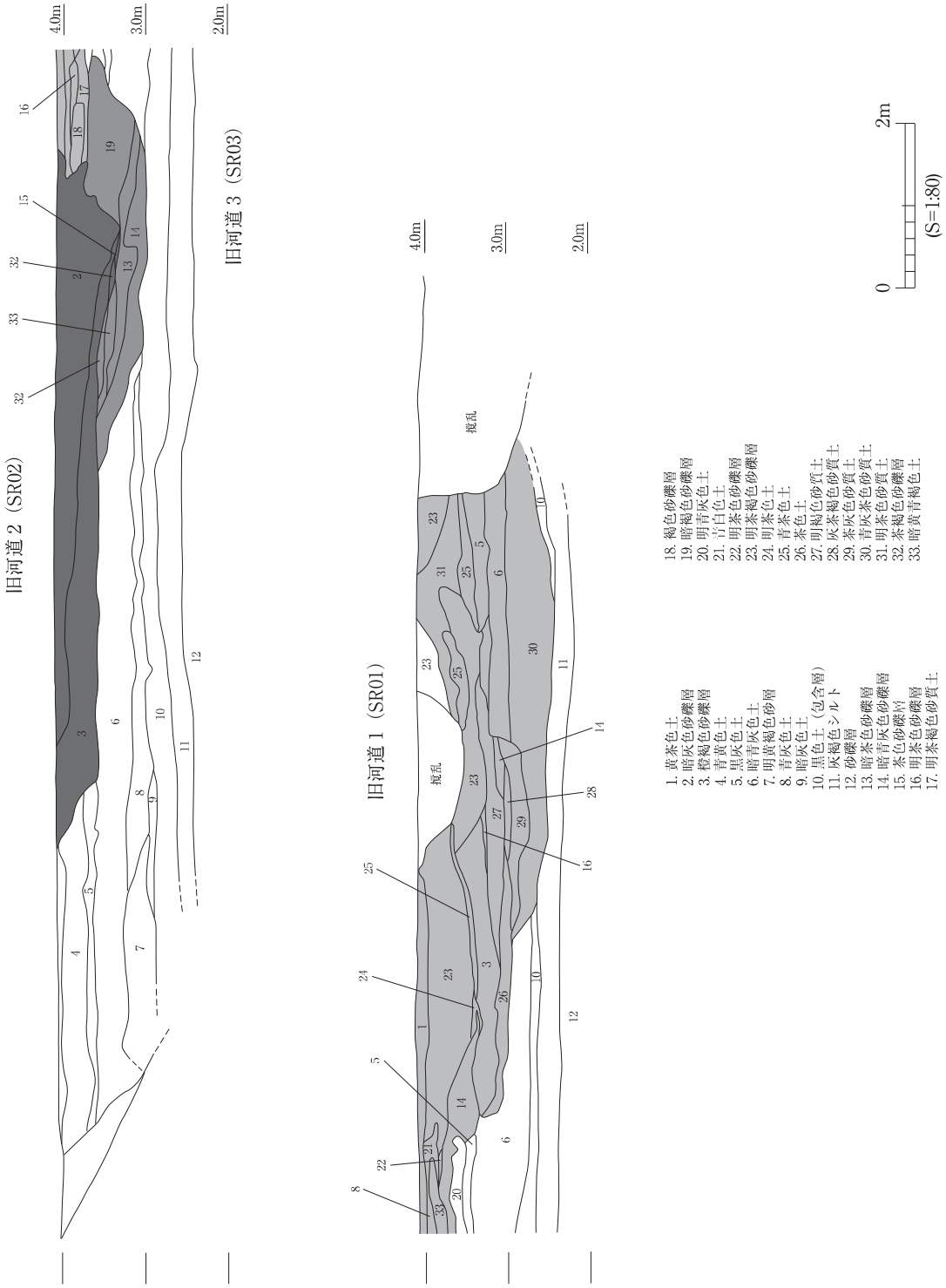
写真１　発掘調査風景

写真２　完掘状況

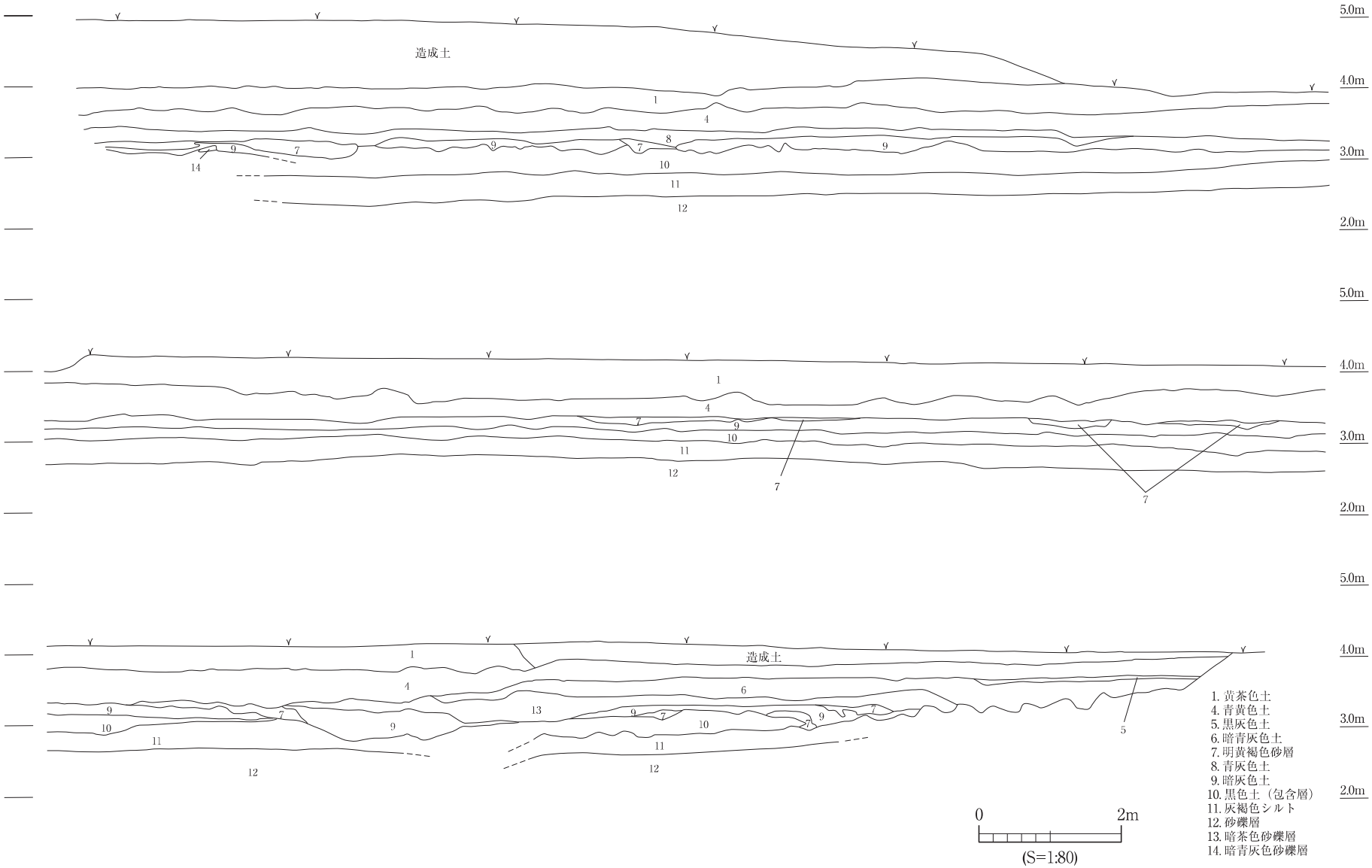
第４章　第６調査区⑦の調査

第１節　基本層序

第５・６図に調査区の土層図を掲載した。調査区全体で確認される層の概略を述べると、上層から10層上面までは中世以降の旧河道により堆積した砂礫層、10層は黒色土で弥生時代後期後半を



第５図　山持遺跡６区⑦調査区西壁セクション



第６図　山持遺跡６区⑦調査区南壁セクション

中心とする遺物包含層、11 層は灰褐色シルト層で弥生時代後期後半頃の遺構面、12 層は淡黄褐色の砂礫層で縄文時代～弥生時代後期前半の遺物包含層の順となる。なお、今回の調査区では他の調査区で確認されている中世の湿地に起因する腐植土層（オモカス層）はほとんど認められなかった。

中世以降の河道堆積層

調査区北側大半では、東西方向に流れていたであろう中世以降の旧河道に堆積した砂礫層が３本確認されている。おそらく現在自然堤防状の高まりとなっている市道に沿ってその流路が想定されるものである。堆積物の状況から河川の周辺部であった可能性が指摘されており、現在の伊努谷から流れ出る河川「伊努谷川」の旧河道であった可能性が考えられる。この旧河道によって中世のオモカス層及びその下部に存在していたと考えられる古代の遺構は削られたものと推測できる。

弥生時代後期後半の遺物包含層（10 層）

旧河道堆積層の下には、弥生時代後期後半を中心とする遺物を含む黒色土が堆積しており、この層から出土する遺物が最も多い。

弥生時代後期の遺構面（11 層）

遺物包含層の下層には灰褐色シルト層が堆積しており、この部分で遺構が確認されている。遺構出土の土器は上層の 10 層とほぼ同時期である。これまでの他の調査区の状況を見ると、やはりシルト系堆積層で遺構が確認され、上部の粘質土が遺物を包含する層であることは同一である。今回の調査では土器群９、溝状遺構４、土坑及びピット群を検出している。河川による氾濫がほとんどなくなり陸地化した状態になった弥生時代後期から、やっと居住域として利用され始めたものと理解される。

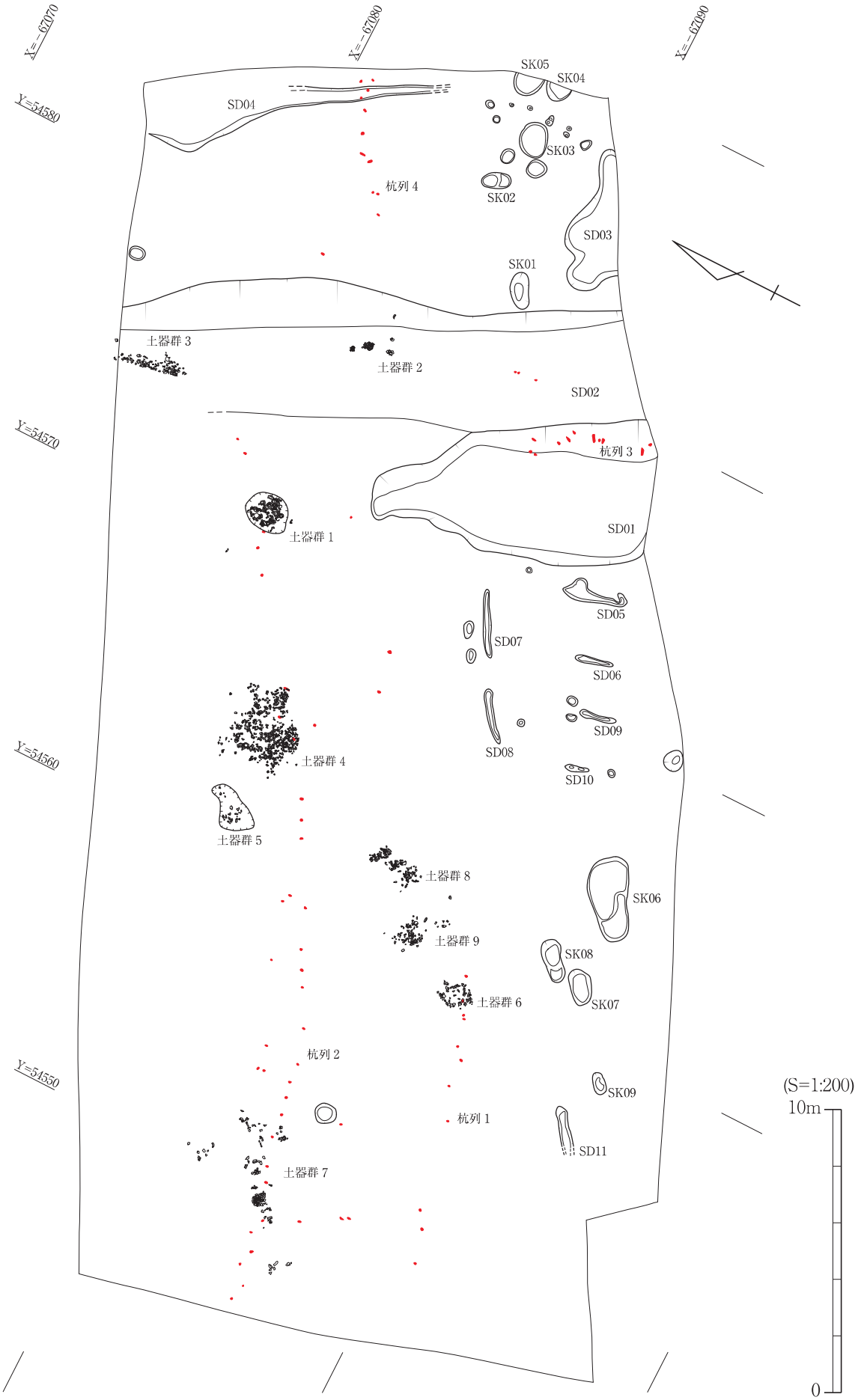
砂礫系堆積層（12 層）

６区の調査によって、遺跡内で初めて確認された層である。上層のシルト系堆積層が灰褐色系の還元色でシルト質であるのに対して、淡黄褐色系の色調の砂礫層であり、明確に層が分かれる。この層は、堆積する砂礫の観察から斐伊川の堆積作用によるものと判断され、少なくとも標高０ｍまで存在することが調査で確認されている。おそらくさらに深い位置まで存在していると想定される層である。この層の上面から 30cm 程度掘削すると砂利を多く含む層が存在し、その中に多くの遺物を包含していた。遺物は縄文時代～弥生時代後期前半までのものが含まれる。

第２節　砂礫層の調査

砂礫層は平成 18 年度の調査で初めて確認されたもので、縄文時代早期～弥生時代後期前半の遺物を包含することが確認されている。また、これまでに量的には少ないが朝鮮半島系や北部九州系の土器も出土している。

今回の調査では湧水が激しく、砂礫層全面を掘り下げることは不可能であり、調査区の一部をグリッド的に掘り下げることしかできなかった。遺物の出土状況は他の調査区同様で上層の細砂部分ではなく、下層の粗い砂に礫を含む層から出土しており、縄文時代後期～弥生時代後期前半までの土器が混在していた。縄文土器は全般的に小片で表面が磨耗しているものであることから、かなり流された影響と見ることができる。弥生土器は縄文土器に比べて良好に残っている。また、１点であるが朝鮮半島系楽浪土器がほぼ完形で出土したことが特筆される。



第 7 図　山持遺跡 6 区⑦遺構配置図

縄文土器（第８図）

全体的に出土量は少なく、掲載できたのは10点である。１は突帯文土器の深鉢で口縁外面に突帯をもつ。２は口縁部が外傾する深鉢で内面に条痕が施される。３は口縁部が大きく外反する浅鉢である。４～10は深鉢の胴部片であり内外面に条痕が施されている。これらは縄文時代晩期のものと考えられる。

弥生土器（第９～11図）

Ⅰ様式の壺（第９図１）　Ⅰ様式に属すると考えられる壺で、胴部以下を欠損している。直立気味にのびる頸部から短く外反する口縁部をもち、頸部外面に１条のヘラ描沈線文が施される。

Ⅱ様式の壺（第９図２）　Ⅱ様式に属すると考えられる壺で、胴部以下を欠損している。口縁部は緩やかに外反し、端部に格子状の文様を施す。頸部外面には15条のクシ描沈線文と楕円形状の刺突文をセットに施している。

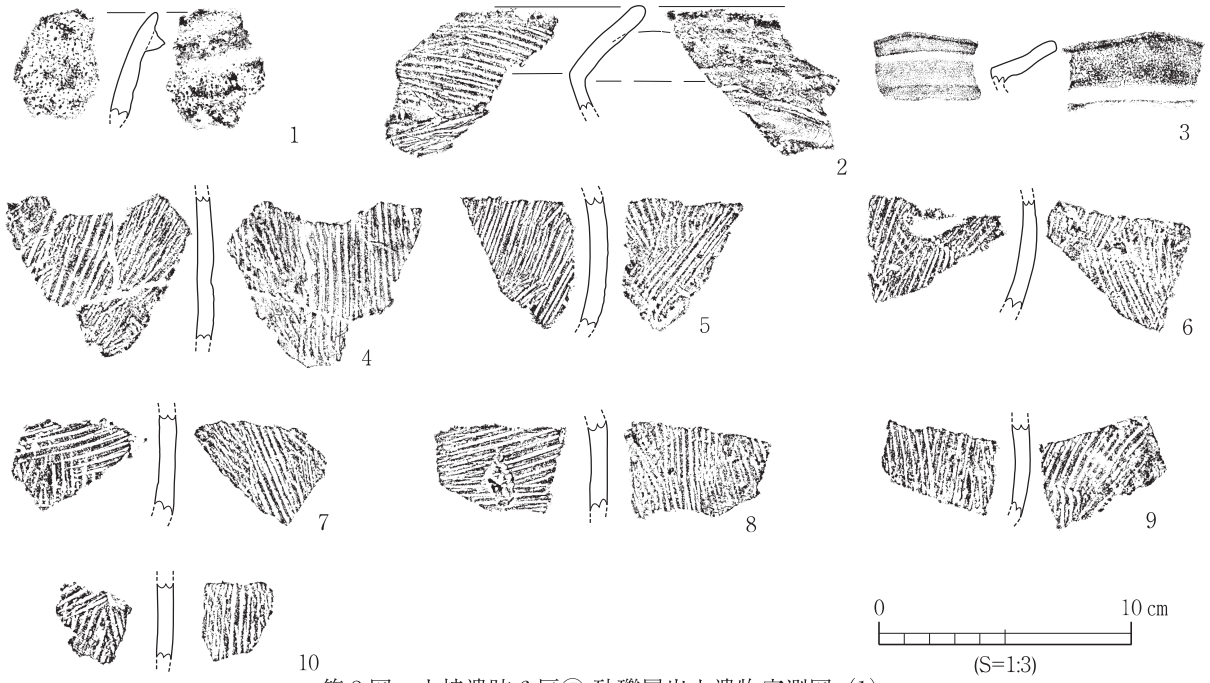
Ⅲ様式の壺（第９図３）　Ⅲ様式に属すると考えられる広口壺で、口縁端部下端が横方向に若干突出し、外面に刻目を施している。

Ⅳ様式の壺（第９図４・５）　Ⅳ様式に属すると考えられる壺で、くりあげ状の口縁部を有する。４・５共に口縁外面に４条、頸部外面に２条以上の凹線文を施すもので、４の口縁はやや厚いつくりとなる。

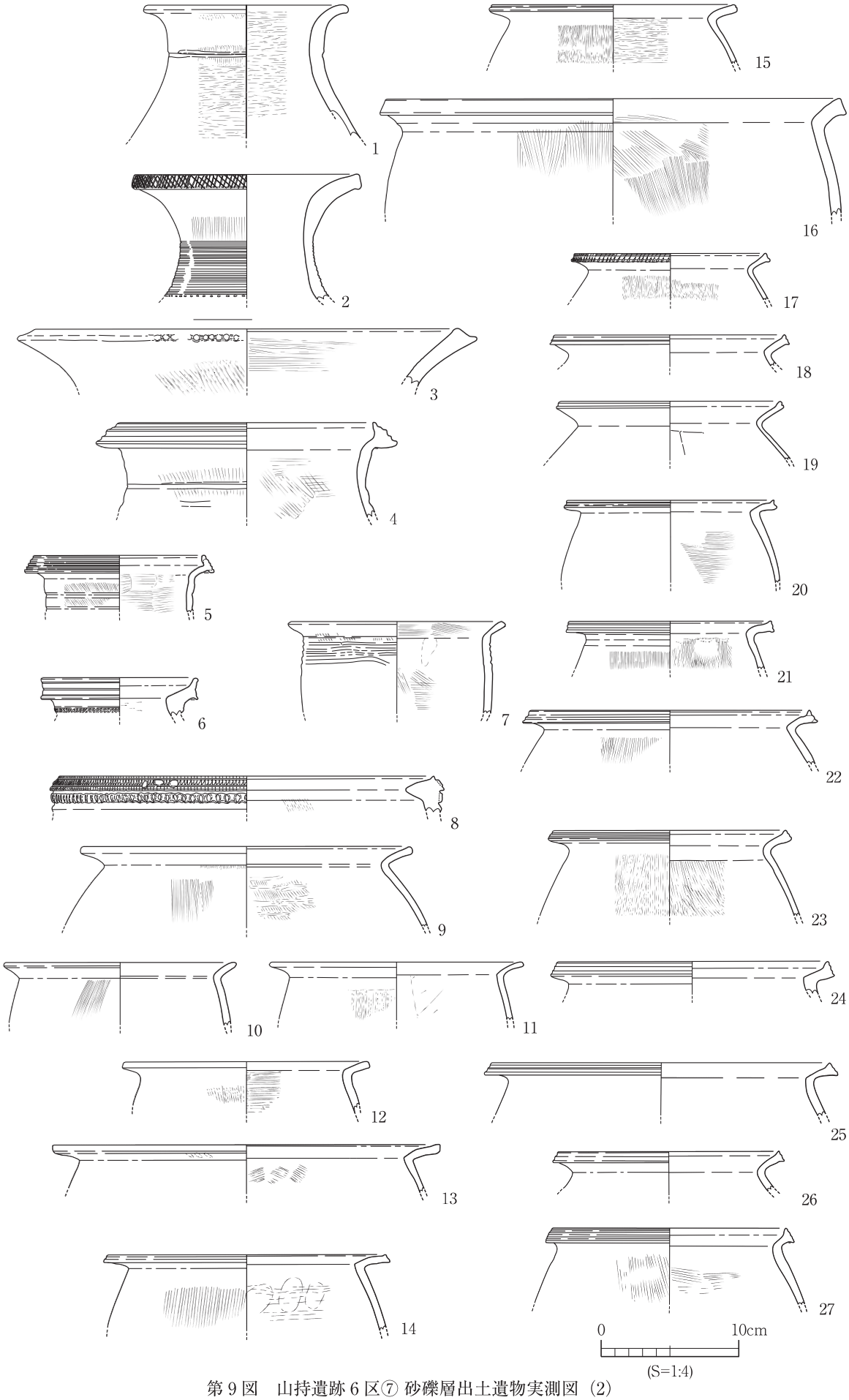
Ⅴ様式の壺（第９図６）　Ⅴ様式に属すると考えられる壺である。口縁部は複合口縁を呈し、外面に３条の凹線文、頸部外面に刺突文を施す。

Ⅰ様式の甕（第９図７）　Ⅰ様式に属すると考えられる甕で、胎土中に粗砂粒子を多く含む。口縁部は外方に屈曲し、頸部外面付近に４条のヘラ描沈線文を施す。

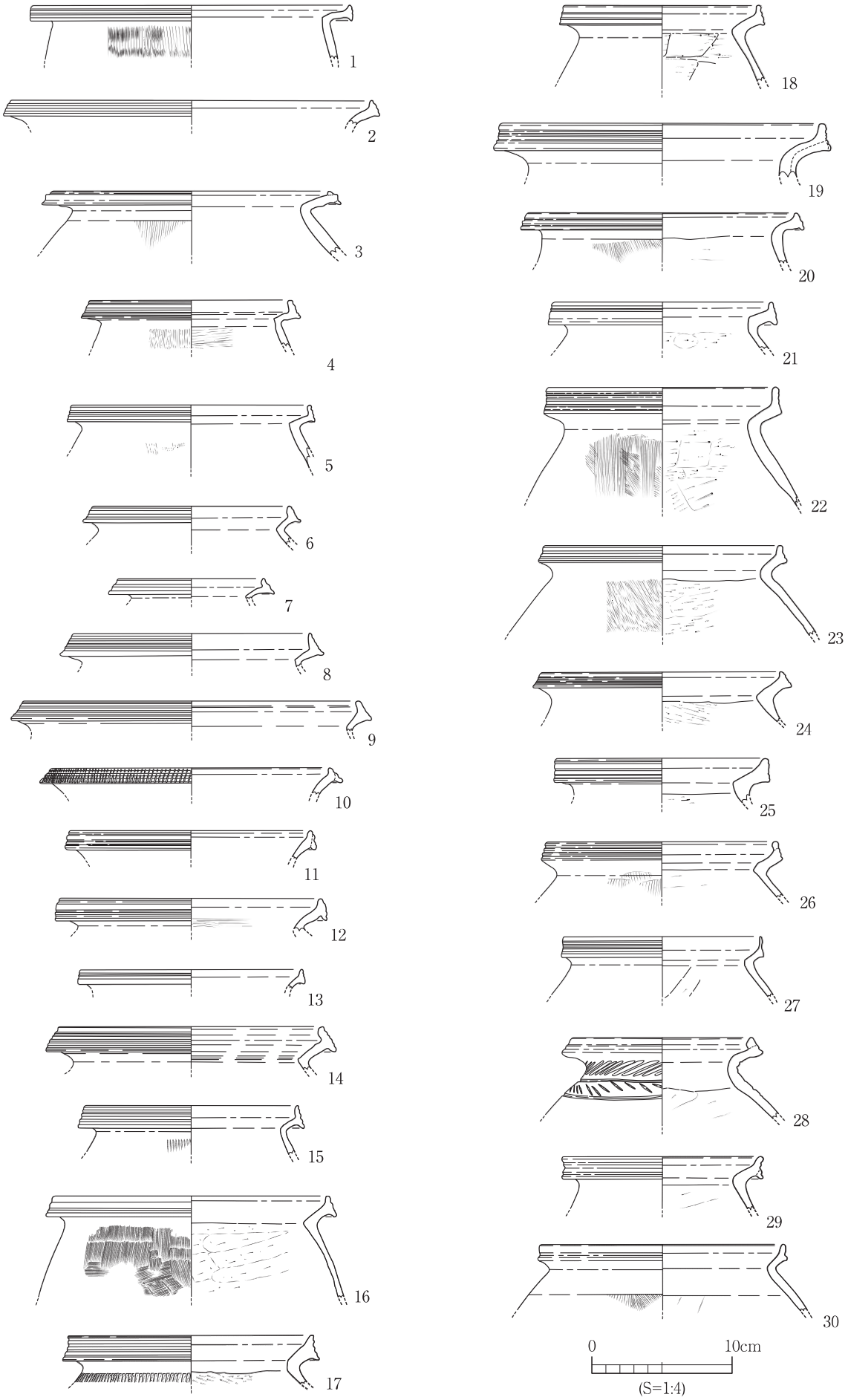
Ⅲ様式の甕（第９図８～16）　８～16はⅢ様式に属すると考えられる甕である。８を除いて口縁部は外方に屈曲し、端部が丸みをもつタイプと平坦面のタイプがある。８は口縁端部が内側に突出



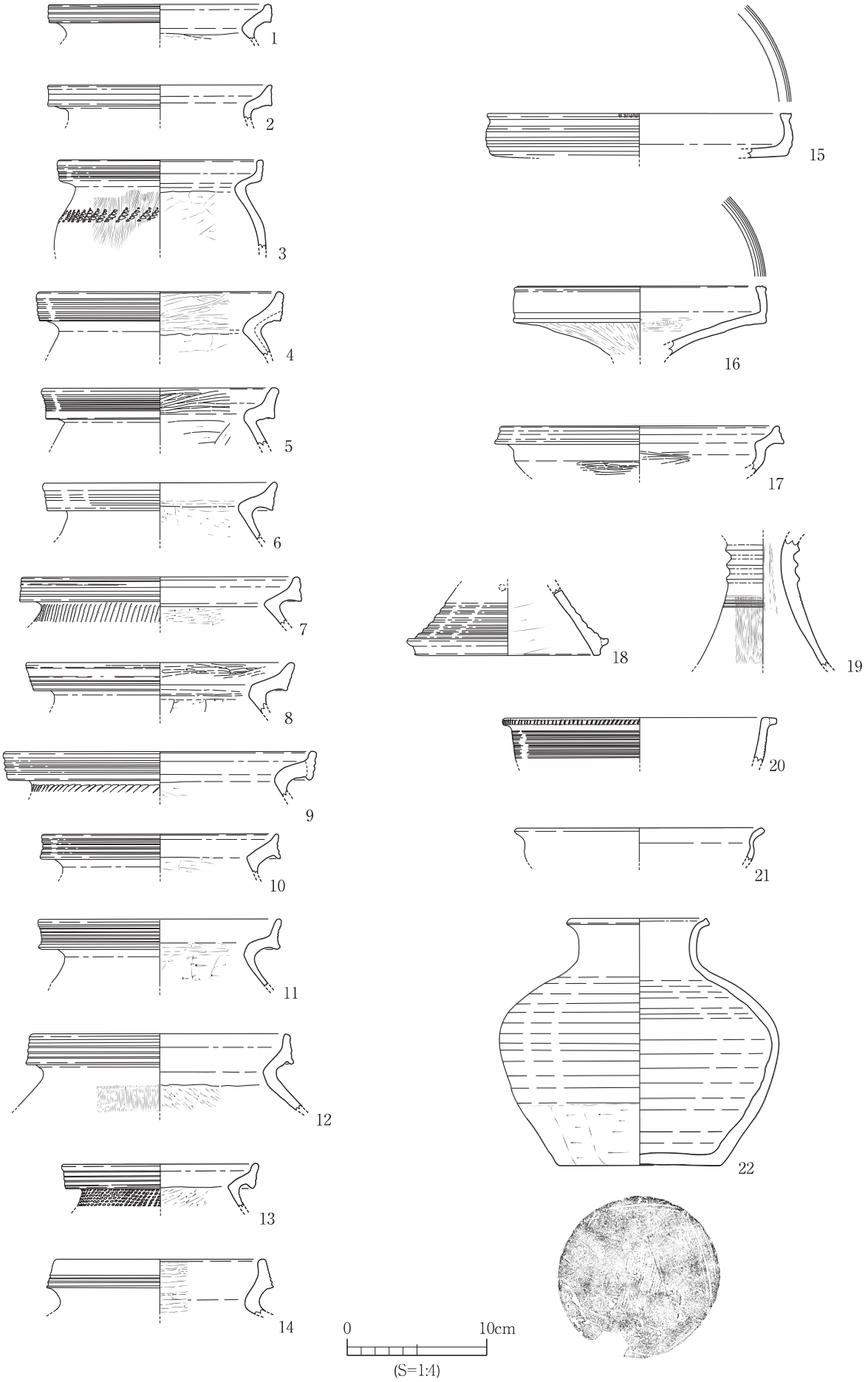
第８図　山持遺跡６区⑦ 砂礫層出土遺物実測図（1）



第９図　山持遺跡６区⑦ 砂礫層出土遺物実測図（2）



第 10 図　山持遺跡 6 区⑦ 砂礫層出土遺物実測図（3）



第 11 図　山持遺跡 6 区⑦ 砂礫層出土遺物実測図（4）

するもので鉢の可能性も考えられる。口縁外面に刻目文を施した後、円形浮文を貼り付け、頸部に指頭圧痕文帯をめぐらしている。９～11は口縁端部が丸く、12～16は小さな面をもつタイプで、14・15は端部に沈線か凹面をもっている。

Ⅳ様式の甕（第９図17～第10図15） Ⅳ様式に属すると考えられる甕である。第９図17～第10図３は口縁部が内傾し上下に若干肥厚するタイプで、第９図17は外面に刺突文を施し、その他は２～３条の凹線文を施している。第10図４・５は口縁部が上方に内傾してのびるタイプで、外面に３～４条の凹線文を施している。６～15は口縁部の上下の肥厚がやや大きめのもので、外面に３～５条の凹線文を施し、10は刺突文も施している。

Ⅴ様式の甕（第10図16～第11図14） 内面頸部以下をヘラ削りにより調整するものをⅤ様式に属する甕と考えた。口縁部外面には凹線文が施され、大半は外面に煤が付着し黒色化するという特徴をもっている。口縁部の形態はⅣ様式に近いものも存在するが、新たに直立気味か外傾してのびる複合口縁化したものが認められるようになる。第10図17、第11図７・９は頸部以下にヘラ状工具による刺突文を施している。28は頸部から肩部にかけて羽状の刺突文と２条の凹線を施している。第11図３は肩部に、13は頸部以下にクシ状工具による刺突文を施す。

高坏（第11図15～19） 15～17は坏部、18･19は脚部である。15･16は体部の屈曲が明瞭なもので、15の側面には４条、16は屈曲部上方に１条の凹線を施している。口縁端部上面は平坦に作られ数条の凹線を施し、15は側面に刺突文を施している。17は複合口縁状の口縁部をもつ坏部であり、口縁部には凹線文が施される。口縁内面から外面にかけて赤彩が施される。18は脚部外面に６条の凹線文を施し、19は筒部に断面三角形状の突帯を有し、その下方に４条の平行沈線を施している。17はⅤ様式、その他はⅣ様式に属するものと考えられる。

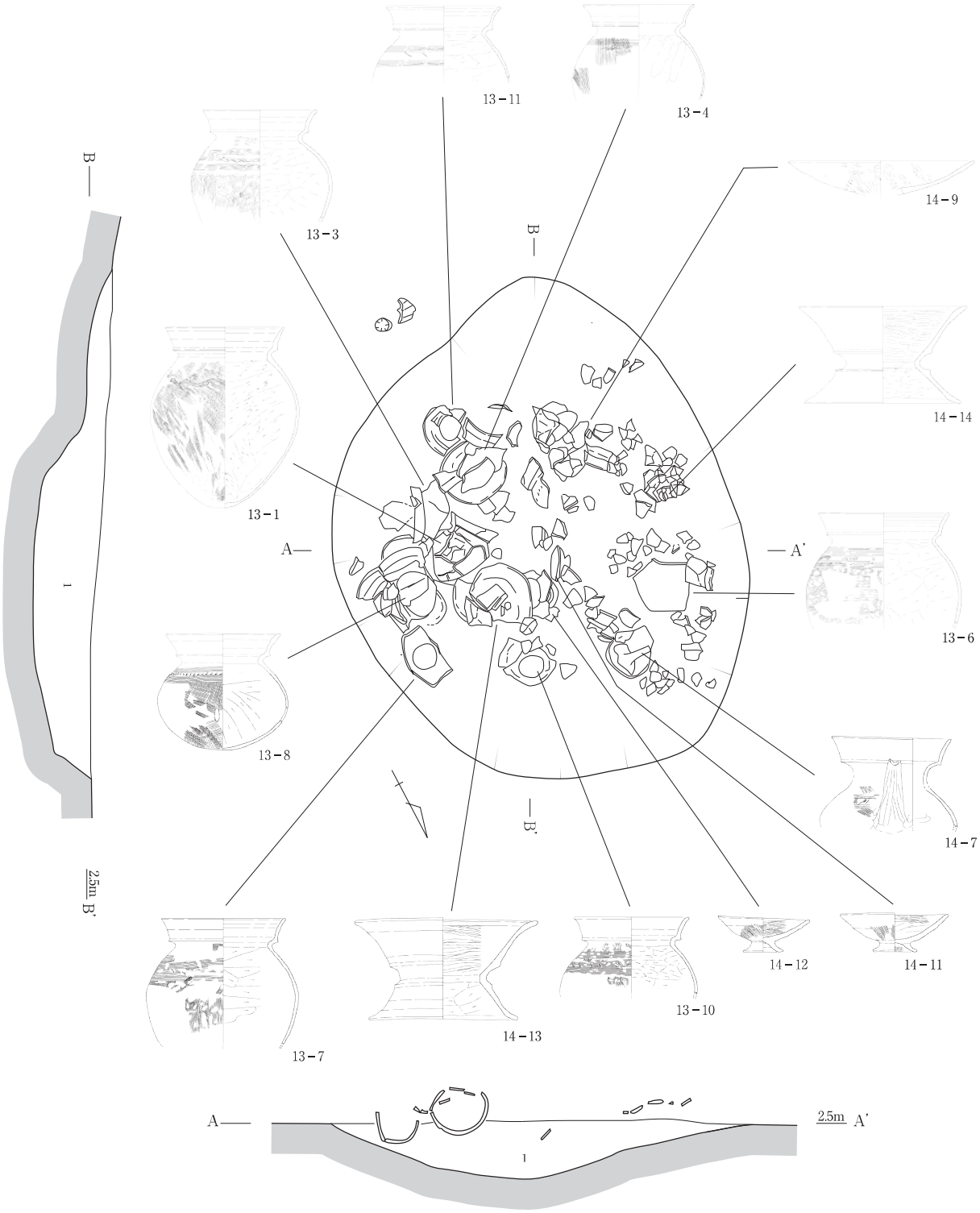
鉢（第11図20・21） 20は口縁端部が横方向に拡張され側面に刻目、体部外面にはクシ描沈線文を施している。Ⅱ様式に属するものと考えられる。21は口縁部が外方に緩やかに屈曲するもので、Ⅲ様式に属するものと考えられる。

非在地系土器（第11図22） 朝鮮半島系楽浪土器の壺で、やや軟質でほぼ完形に近い。直立気味にのびる頸部から外方に短く屈曲する口縁部を有し、端部は小さい面をもつ。肩部に最大径をもち、底部は平らで広い。胴部下半から底面付近は手持ちヘラケズリ、底面は静止糸切りの後軽いヘラケズリによる調整を行っている。胴部の叩き痕は回転ナデ下にうっすらと確認できる程度である。

第３節　弥生・古墳時代の遺構の調査

第11層のシルト系堆積層上面で弥生時代後期後葉以降の土器群、溝状遺構、土坑及びピット群、杭列を検出した。シルト系堆積層の標高は南側が一番高く2.9ｍを測るが、調査区北側は2.4ｍとやや低くなっており、南に向かって基盤層が高くなっているものと考えられる。土坑やピット等の遺構は圧倒的に調査区南側に集中し、中央から北側にかけては土器群が確認されている。建物跡は確認できなかったが、遺跡内においてこの時期の建物跡は、今回の調査区の南に隣接する調査区（1994年の第二次調査）と2010年度の調査で東側に隣接する６区⑥から布掘建物跡２棟が確認されており、このことから居住域の中心は６区の南側にあったものと推測される。

１．土器群

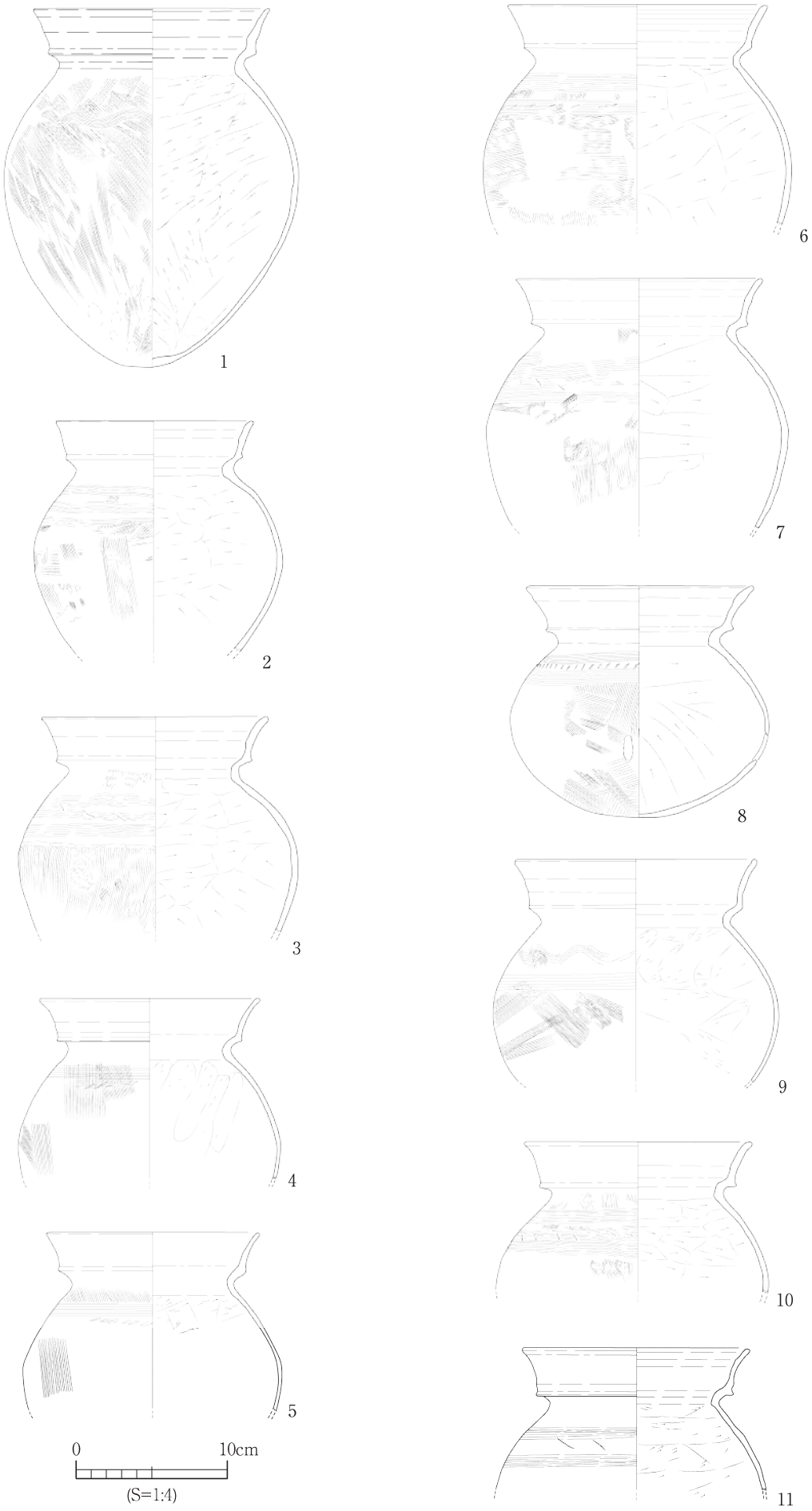


1. 黒灰色粘質土

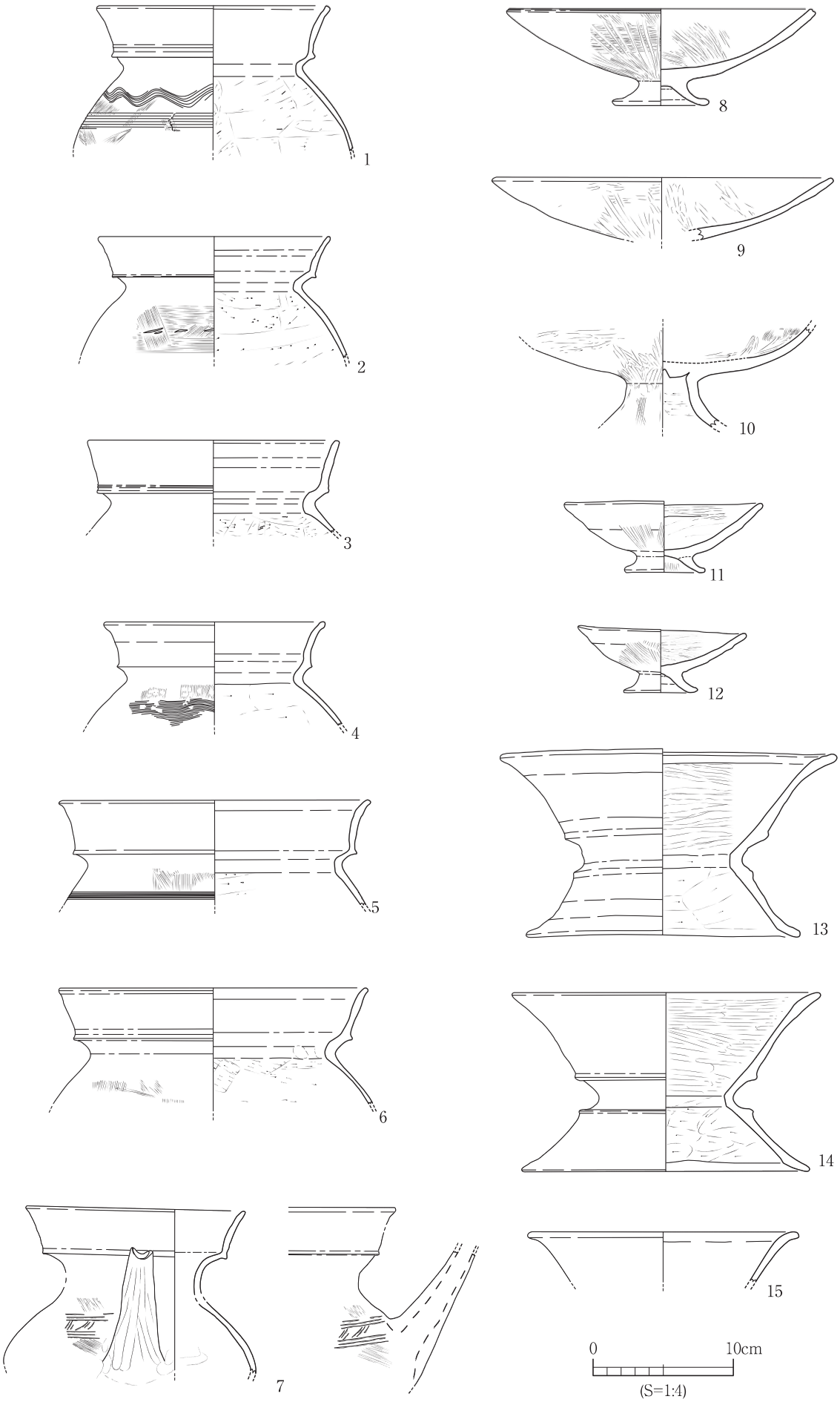
0　20cm
(S=1:8)

0　1m
(S=1:20)

第 12 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 1 実測図



第 13 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 1 出土遺物実測図（1）



第 14 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 1 出土遺物実測図 (2)

土器群は調査区中央から北側部分で東西に分散するような状態で９箇所検出した。いずれの土器も遺存状態は比較的良好であり、大型破片や完形に近いものが多く含まれている土器群も存在する。この状況は他からの流入の可能性は低く、土圧等の圧力によってその場で押しつぶされた状態と推察でき、人為的な土器廃棄に伴うものと考えることができる。また、土器群１と５は土坑内に投棄された資料で他とは様相を異にしている。

土器群１（第 12 図）

土器群１は調査区中央やや東寄りの地点で検出した土坑内に廃棄された土器群である。土坑は長軸 1.7 m、短軸 1.4 mの楕円形を呈し、深さは約 20cm を測る。覆土は黒灰色粘質土で土坑検出面のシルト層とは明らかに違うものである。土器群は甕、低脚坏、器台で構成されているが、出土状況を見ると破砕されて廃棄されたものではなく、ほぼ完形の土器がまとまって廃棄され、その場で押しつぶされたものの可能性が高く、ある程度の一括的な廃棄が想定される。時期は草田４期～５期に相当するものと考えられる。

土器群１出土土器（第 13・14 図）

甕 17 点、注口土器１点、低脚坏５点、器台３点が掲載できた。第 13 図１～第 14 図６は複合口縁の甕である。口縁部は外反して立ち上がり、端部はやや尖り気味で丸くおさめるものが大半であるが、第 13 図９や第 14 図１のように内側に肥厚するものも認められる。体部形態のわかるものは第 13 図１・８しかなく、１は倒卵形で底部に痕跡的な平坦面が残る。８は胴部中央に最大径をもつ扁平な形で、底部は丸みをもつ。胴部に楕円形状の孔が認められるが意図的なものかどうかは判断できなかった。大半のものに肩部から胴部にかけて波状文、平行沈線文、刺突文を施している。第 14 図７は注口土器で、口縁部の形態は他の甕と同様である。肩部にうっすらと平行沈線が残る。８～ 12 は低脚坏である。８～ 10 はやや大型のもので、坏部は外方に大きく広がり、８の端部は若干くぼみをもち、９は丸みをもつ。11 と 12 は小型のもので坏部は直線的にのびるものである。13 ～ 15 は鼓形器台である。口径に対して器高が低く、筒部が狭まっている。

土器群２（第 15 図）

土器群２はＳＤ０２の底面中央付近で検出した。５～６個の土器がその場で押しつぶされたような状態で出土したが、土器群１のように土坑等に廃棄されたものではない。土器には高坏等は認められず、ほぼ甕のみで構成されており、草田４期～５期に相当するものと考えられる。

土器群２出土土器（第 16 図）

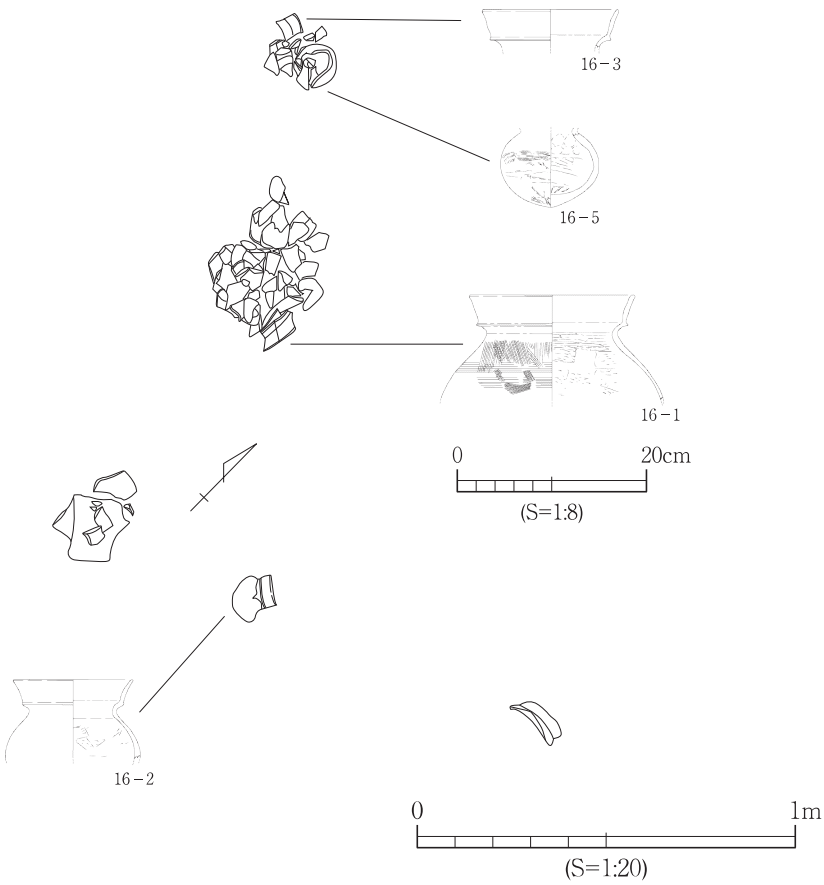
１～４は甕、５は口縁部を欠損するが小型丸底壺の胴部である。甕はいずれも複合口縁で、口縁部は外反してのび、端部は丸みをもつ。１の肩部には平行沈線文が施される。５は胴部中央に最大径をもつ。

土器群３（第 17 図）

土器群３はＳＤ０２の底面北側、土器群２から６m北側の位置で検出した、2.6 m × 0.6 mの範囲に直線的に広がる土器群である。レベル的には北側に向かって緩やかに低くなっている。甕、高坏、器台で構成され、中には草田７期と考えられるものも認められるが、草田５期～６期を中心とする時期と考えられる。

土器群３出土土器（第 18 図）

１は複合口縁の壺である。口縁部は外反してのび、端部は平坦につくられている。２～ 12 は甕



第 15 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 2 実測図

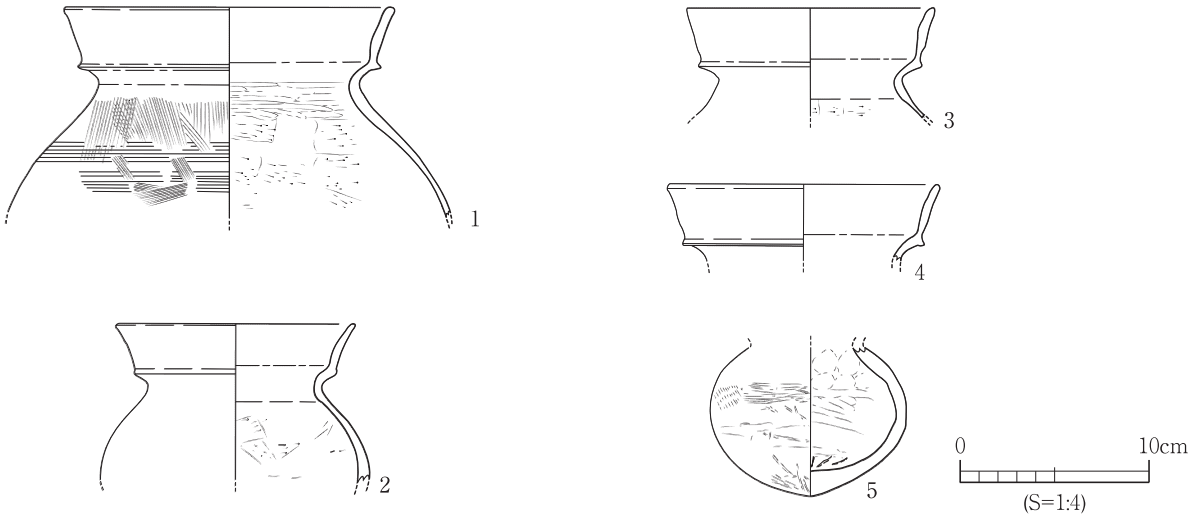
の口縁部でいずれも複合口縁である。口縁部は外反してのび、端部は丸みをもつものが大半を占めるが、2・7・8のように平坦につくられたものも認められる。13 は高坏もしくは低脚坏の坏部である。14 ～ 16 は鼓形器台で口縁部はヨコナデによって仕上げられ端部は丸くおさまる。

土器群 4（第 19 図）

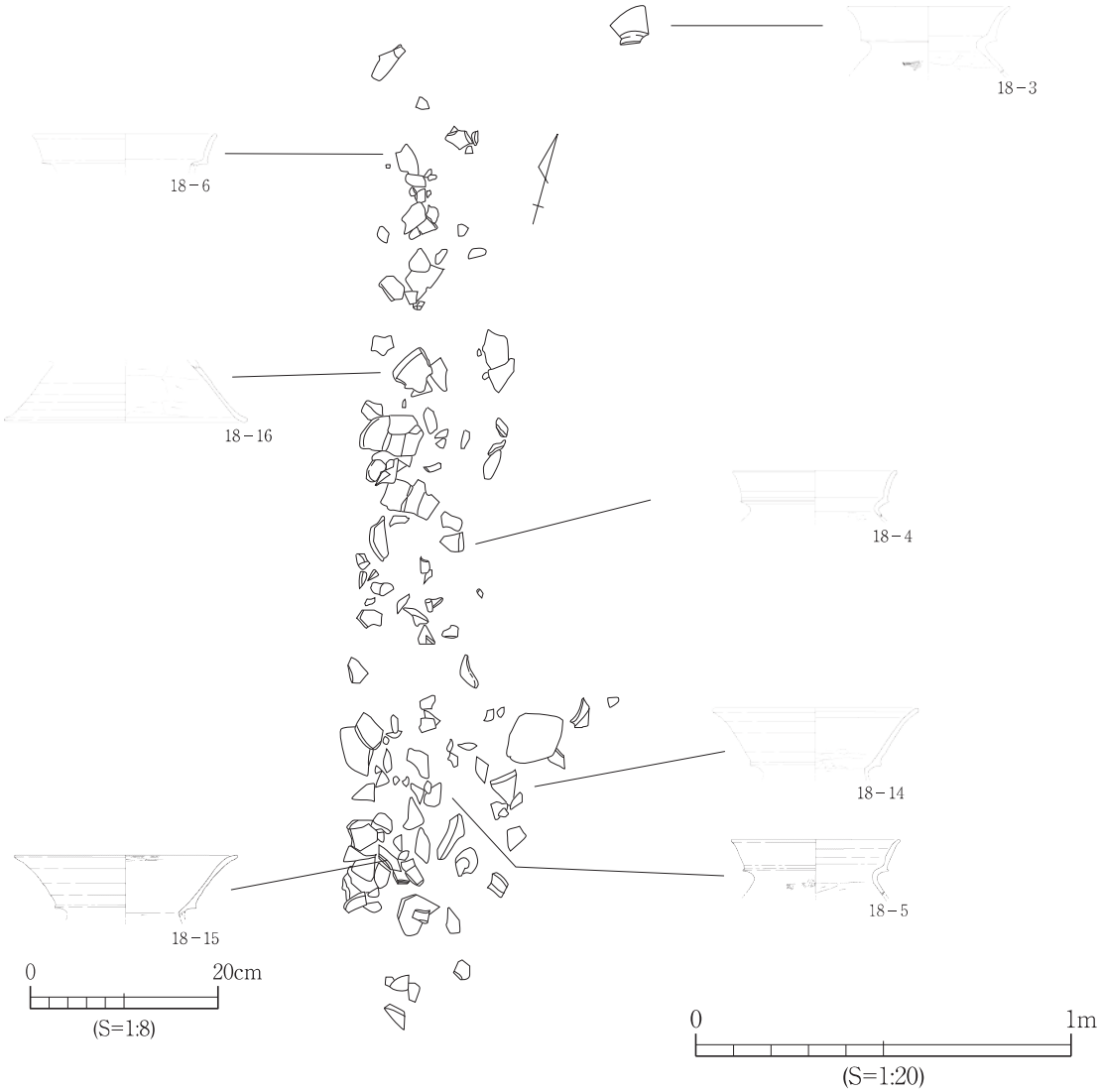
土器群 4 は調査区中央やや北寄りで検出した、3.5 m × 3 mの範囲に土器が集中的に投棄された土器群である。土器群の中で最も多くの土器が出土しており、破片もかなり大型なものが認められたが、完形までに復元できたものは少ない。大半は甕が占めるが、高坏や器台も含んでおり、草田 4 期～ 5 期に相当するものと考えられる。土器を取り上げた後に周辺の精査を行ったが土坑等の遺構は確認できなかった。

土器群 4 出土土器（第 20 図～第 22 図）

第 20 図 1 ～ 3 は壺である。1・2 は内傾する複合口縁で端部は丸みをもち、1 の肩部には平行沈線文と刺突文、2 の頸部には竹管文と平行沈線文を施している。3 は単純口縁で口縁部は外傾してのび、端部は丸くおさめる。肩部に平行沈線文と刺突文を施す。4 ～第 22 図 6 は複合口縁の甕



第 16 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 2 出土遺物実測図



第 17 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 3 実測図

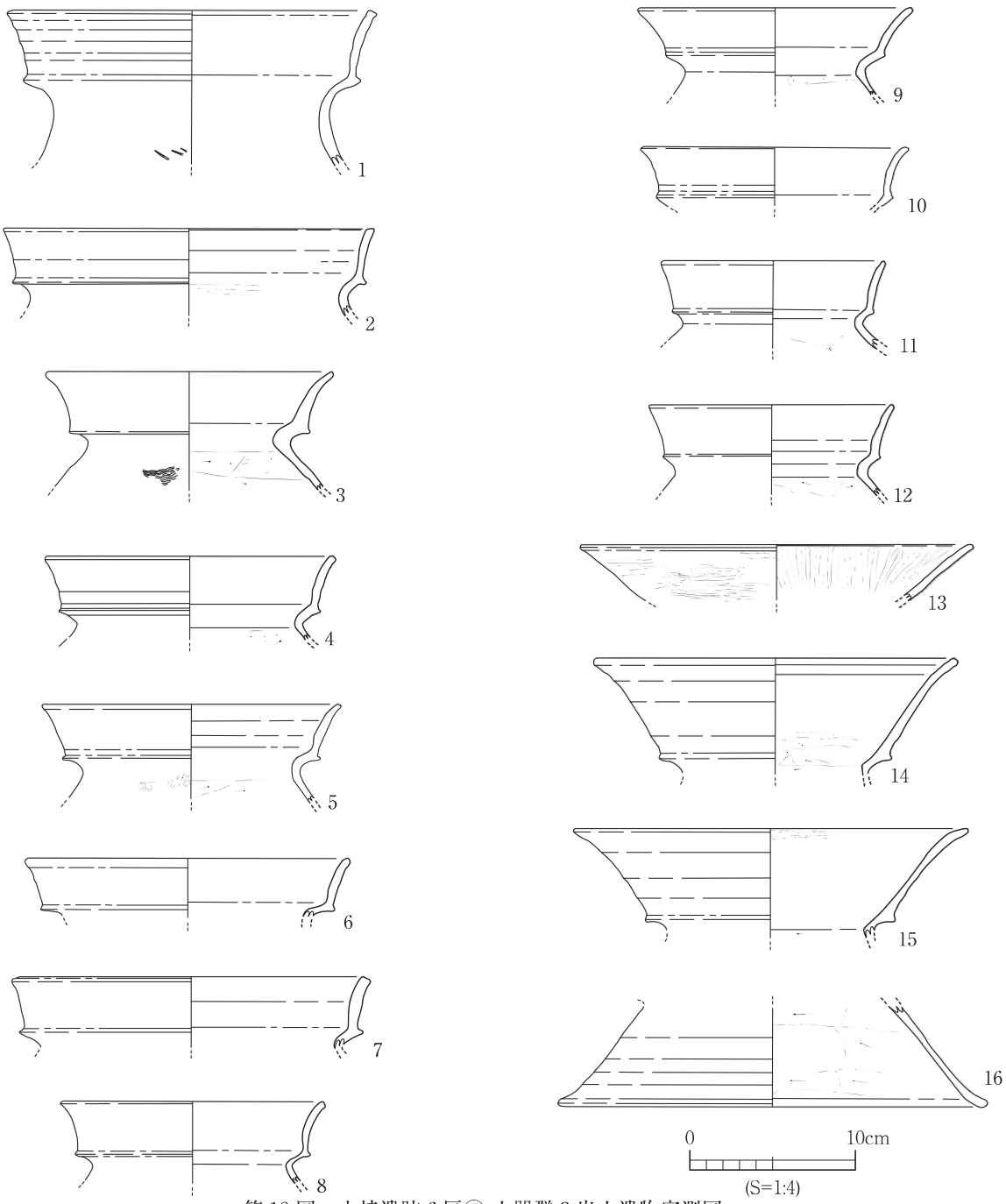
である。口縁部は外反してのび、端部は丸くおさめるものが大半であるが、第 21 図 24 ～ 26、第 22 図３のように端部に面をもつものも含まれる。また、肩部に平行沈線文や刺突文を施すものも多く認められる。第 22 図７～ 11 は高坏である。７・８は外方に大きく広がる浅めの坏部で、９・10 は碗状の坏部である。11 は八の字状に開く脚部である。12 ～ 15 は低脚坏で、坏部は碗状の形態で端部付近で外反する。脚部は八の字状に開く。16 ～ 25 は鼓形器台で筒部が狭いものである。

土器群５（第 23 図）

土器群５は土器群４の西側約２ｍの地点で検出した少量の土器で構成される土器群であるが、土坑内に投棄されたものと考えられる。土坑の形態は不整形な楕円形状で規模は長軸２ｍ、短軸 1.1 ｍ、深さは約 10cm 程度しか残存していなかった。覆土は土器群１同様に黒灰色粘質土で、土器は中央付近に集中して認められ、草田５期に属すると考えられる。

土器群５出土土器（第 24 図）

１は複合口縁の甕で、口縁部は外反してのび、端部は丸くおさめる。２は高坏の坏部で体部との境に小さな屈曲面を有する。３は高坏の脚部、４は低脚坏の脚部である。５は鼓形器台の器受部である。６は甑形土器の口縁部と思われる。



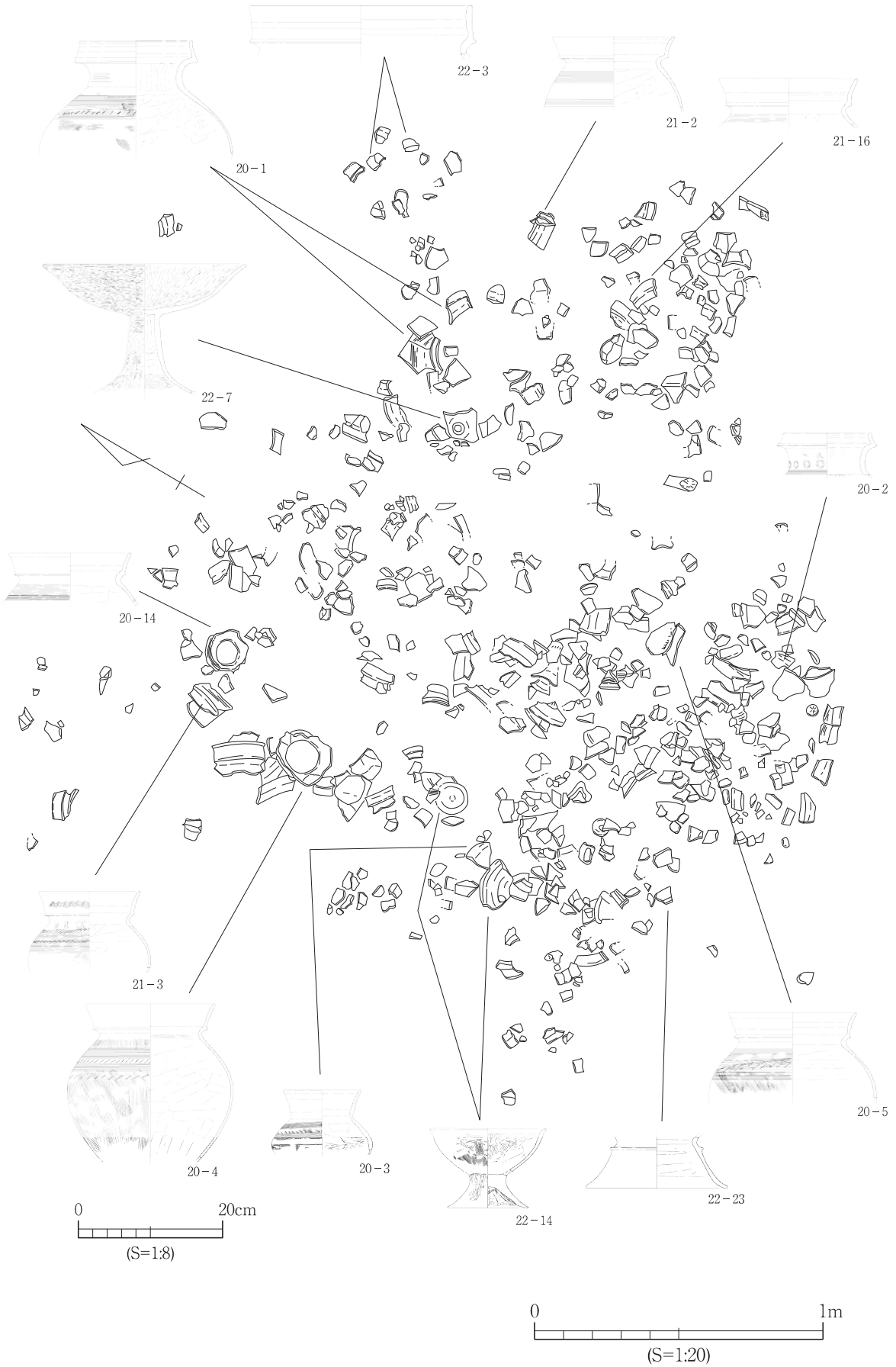
第 18 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 3 出土遺物実測図

土器群 6（第 25 図）

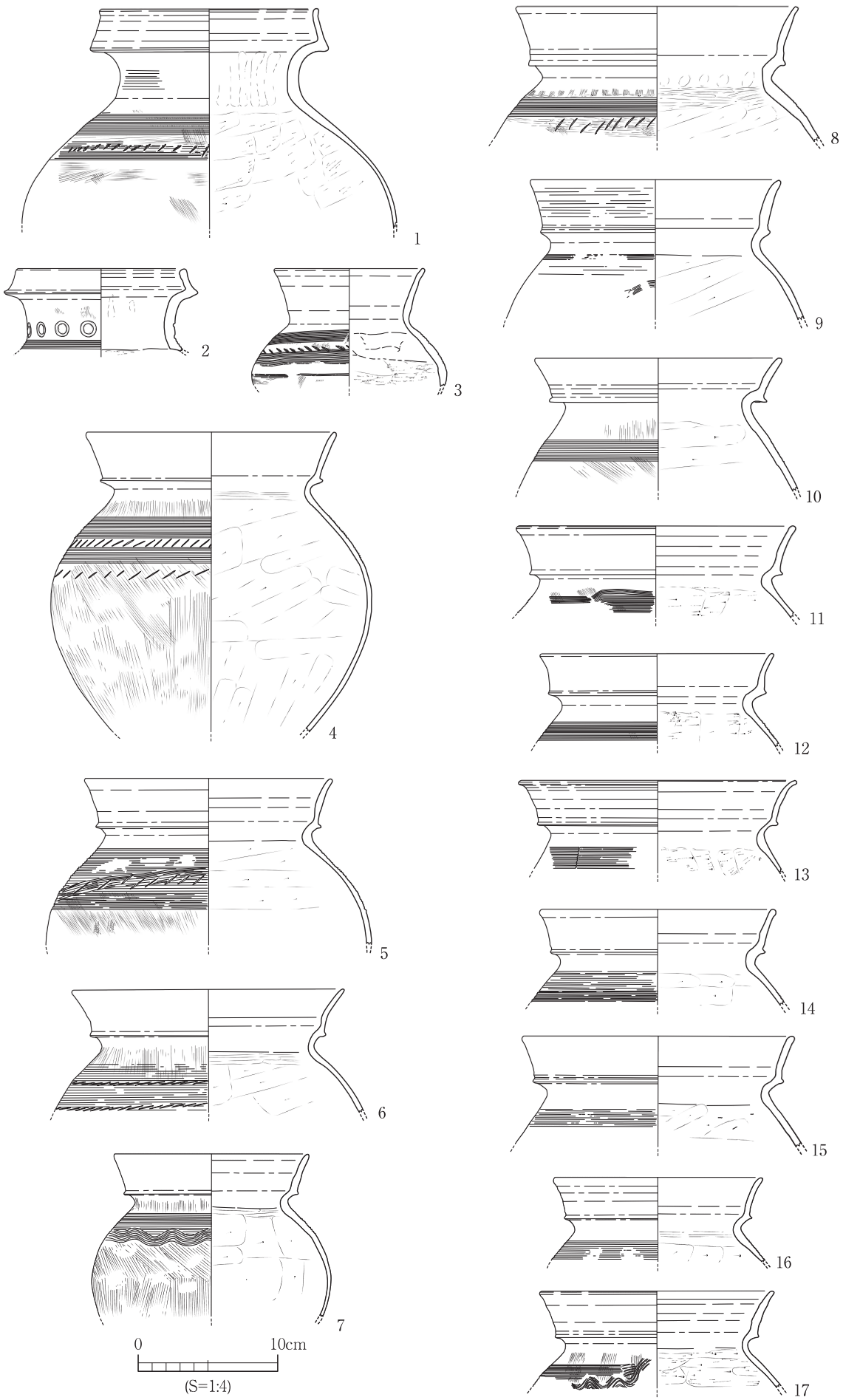
土器群 6 は調査区中央より西側に位置する。1.2 m × 1 mの範囲に土器が出土しており、平面的には方形もしくは楕円形状に分布していることから、土坑に投棄された可能性も推測されたが、土坑等の遺構は確認できなかった。草田 5 期に相当するものと考えられる。

土器群 6 出土土器（第 26 図）

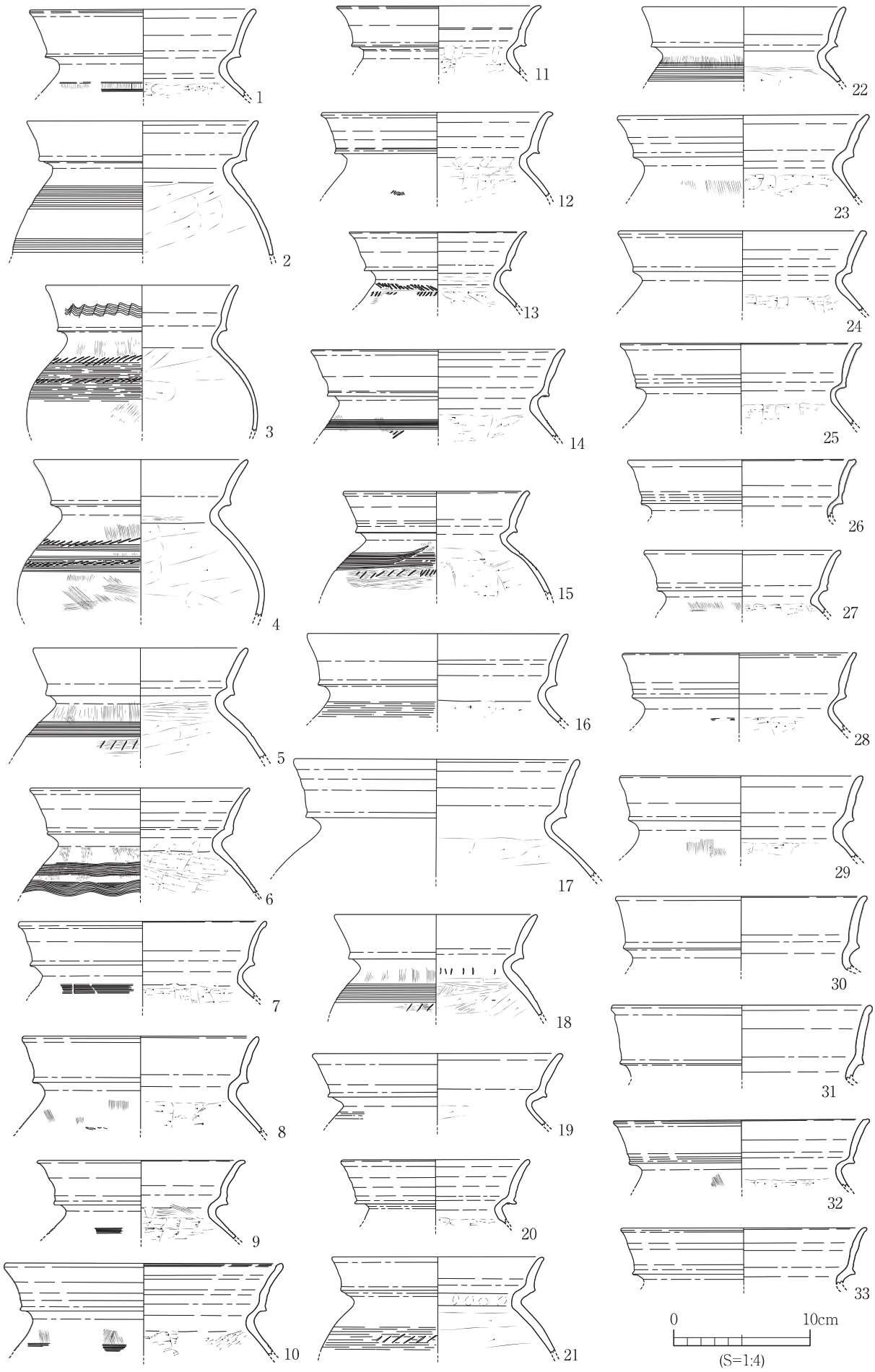
1 ～ 6 は複合口縁の甕である。口縁部は外反してのび、端部は丸くおさめるものがほとんどであるが、4 は外方に肥厚するタイプである。肩部に平行沈線文や刺突文を施している。7 は注口土器で、口縁部は甕と同様の複合口縁を有し、肩部の装飾も同様である。8 ～ 10 は高坏の坏部で、口縁端部付近で緩やかに外反する。11 は低脚坏、12・13 は鼓形器台である。



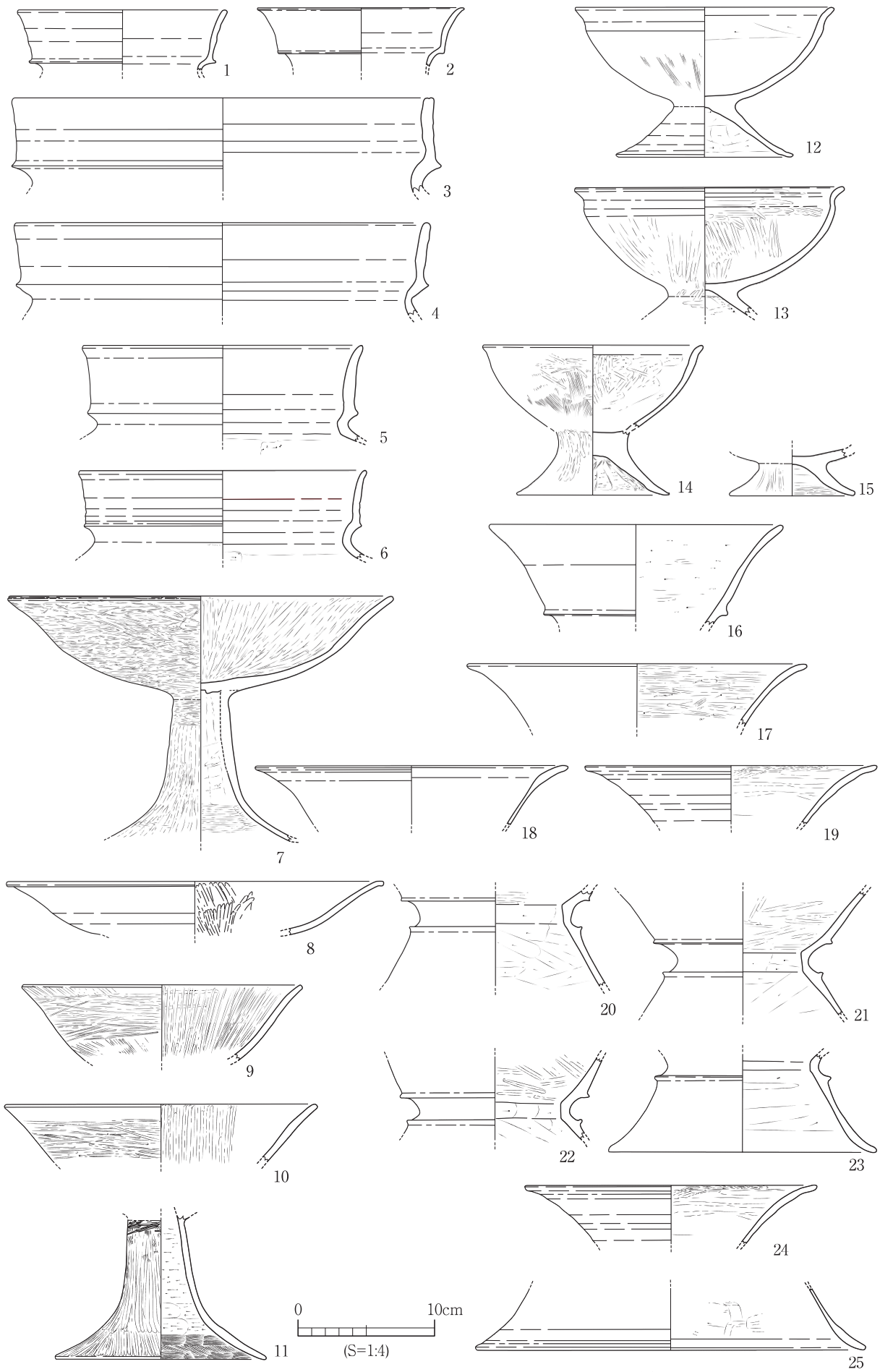
第 19 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 4 実測図



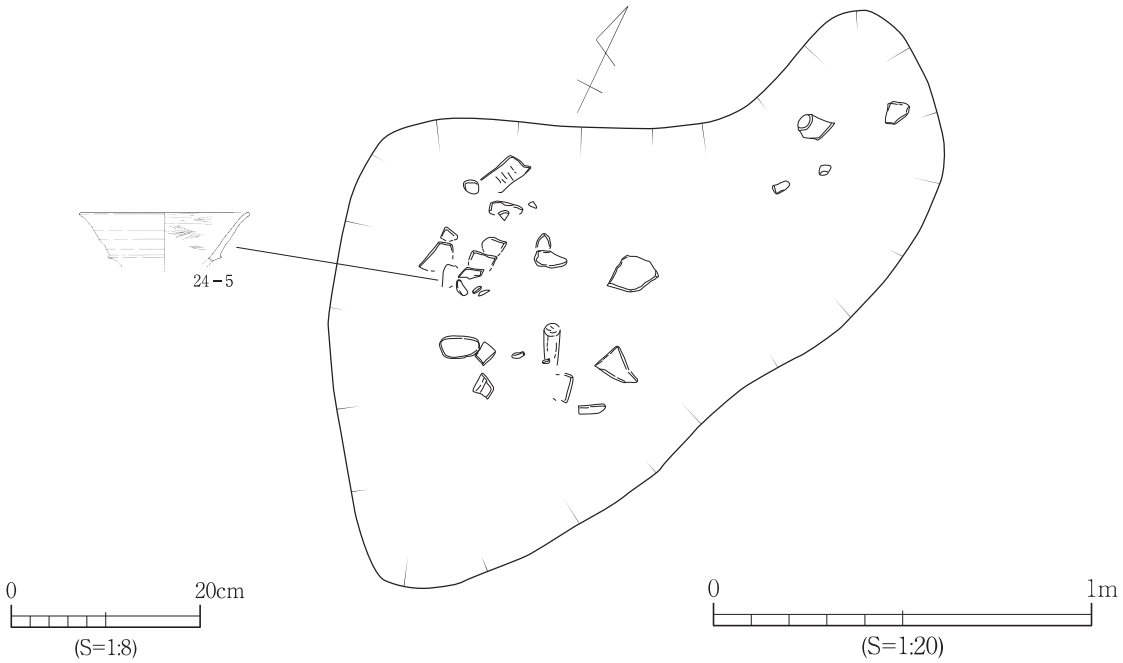
第 20 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 4 出土遺物実測図（1）



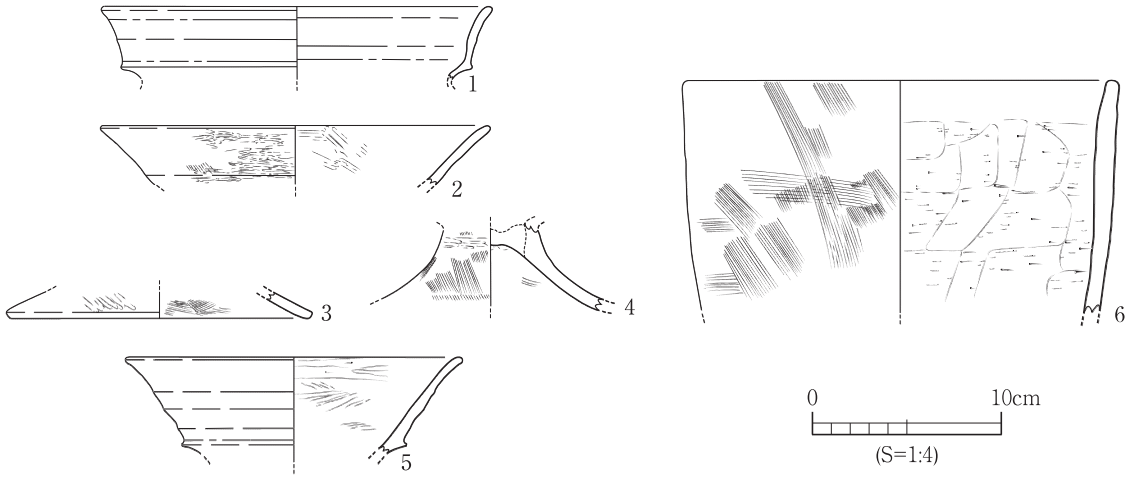
第 21 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 4 出土遺物実測図（2）



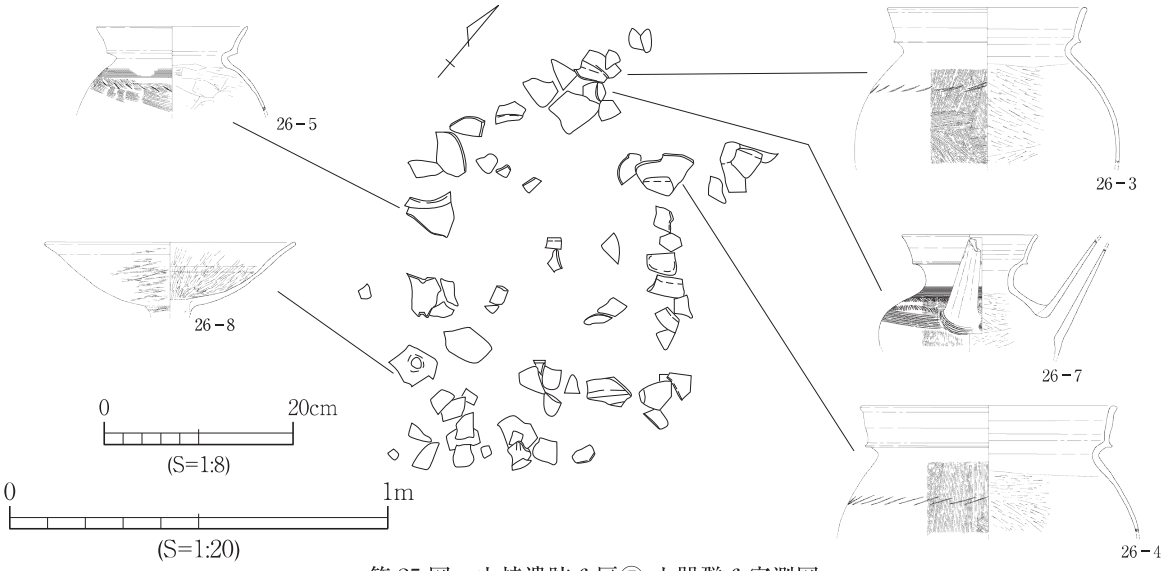
第 22 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 4 出土遺物実測図（3）



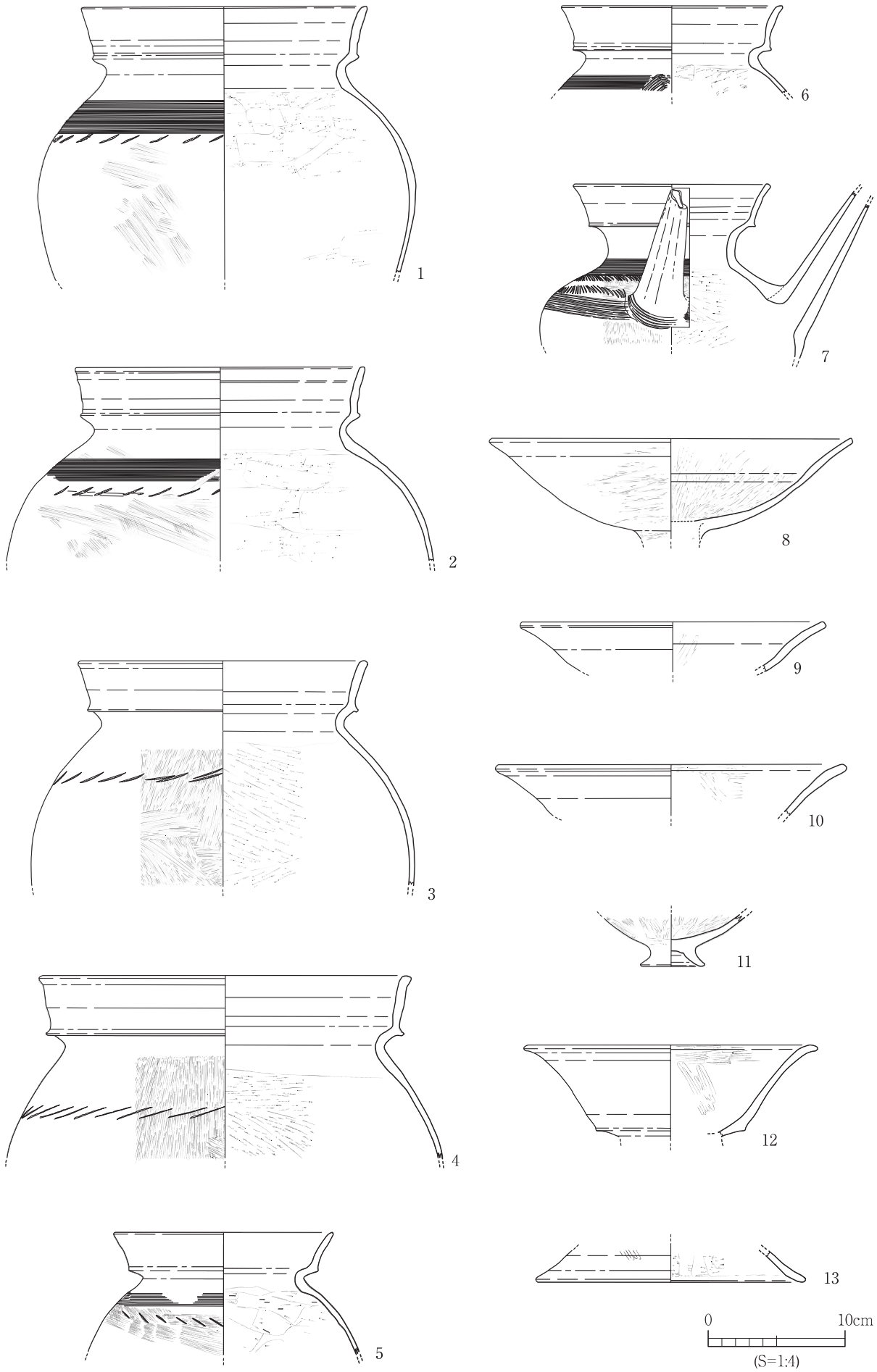
第 23 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 5 実測図



第 24 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 5 出土遺物実測図



第 25 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 6 実測図



第 26 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 6 出土遺物実測図

土器群７（第27図）

土器群７は調査区の北西側で検出した東西方向に長く広がる土器群で、土器の出土状況はやや散漫な状態で、密度も低い。草田３期の資料も含むが、大半は草田５期に属するものと考えられる。また、土坑等の遺構は確認できなかった。

土器群７出土土器（第28図）

１は複合口縁の壺である。口縁部は直立気味に立ち上がり、外面に擬凹線を施している。草田３期に相当すると考えられる。２～12は複合口縁の甕である。いずれも口縁部は外反してのび、端部は先細りか丸くおさめる。３の口縁部外面には波状文の痕跡が残る。肩部に平行沈線文や刺突文を施すものも認められる。13･14は壺か甕の底部で、13は平底で14は痕跡的な平底となっている。15は低脚坏で皿状の坏部を有する。16～18は鼓形器台である。

土器群８（第29図）

土器群８は土器群６の４ｍ東側に位置する地点で検出した。２ｍ×１ｍの範囲に土器が集中的に出土しており、大型破片も多いことからある程度の一括的な廃棄が想定される。草田５期に属する土器群と考えられるが、土坑等の遺構は確認できなかった。

土器群８出土土器（第30図）

１は単純口縁の壺で口縁部は外傾してのび、端部は丸くおさめる。２～21は複合口縁の甕で21は胴部である。口縁部は外反してのび､端部は先細りもしくは丸くおさめるものが大半を占めるが、17～19のように平坦面をもつものもある。16の口縁外面下半には擬凹線の痕跡が少し残り、内面頸部に刺突文を施している。肩部から胴部にかけて平行沈線文や波状文を施すものが認められる。22～25は高坏と低脚坏である。22はやや深めの坏部を有し、口縁端部付近で緩く外反する。23は口縁部の屈曲がやや大きいタイプである。24は筒部、25は低脚坏の脚部である。

土器群９（第31図）

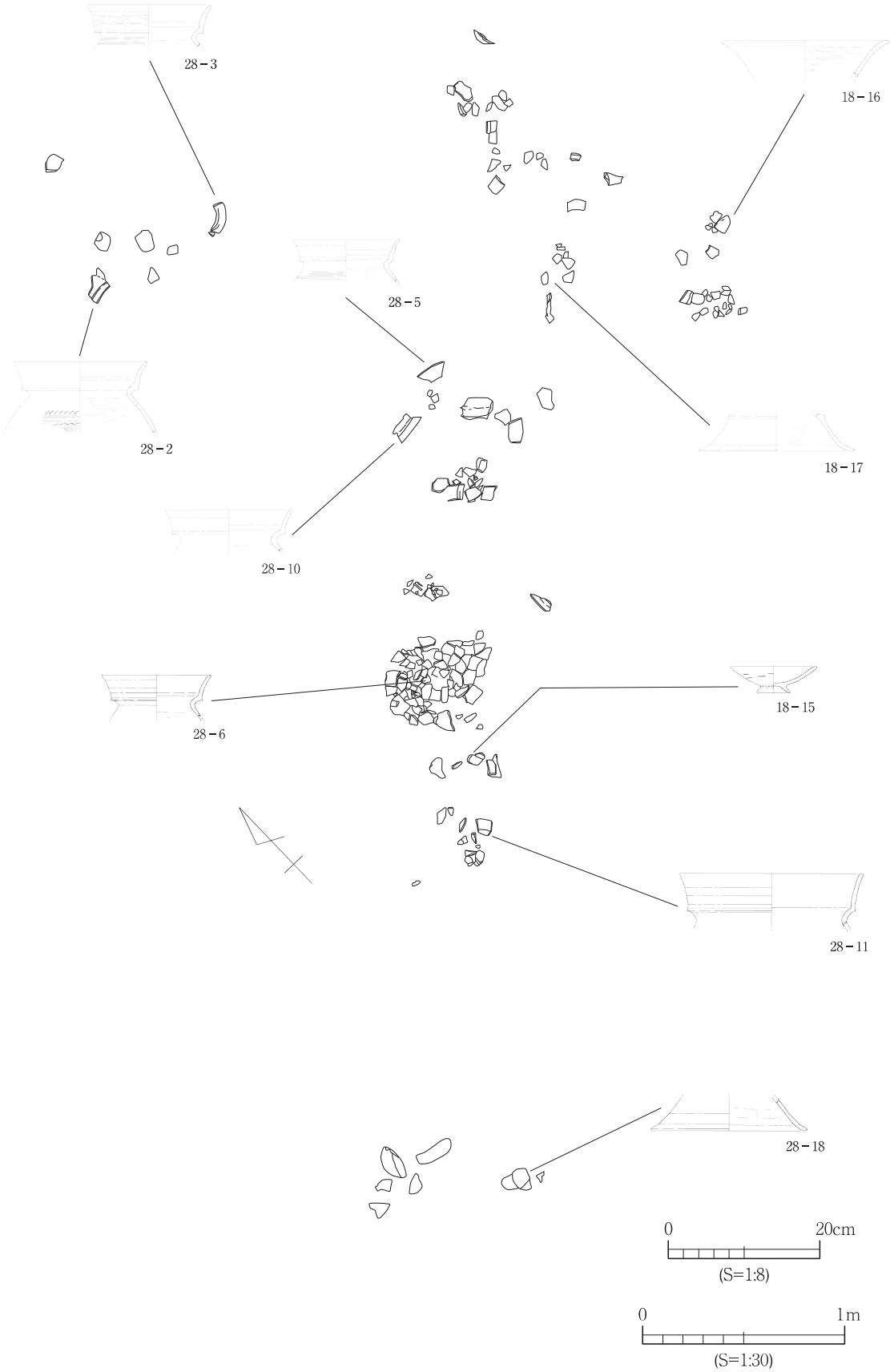
土器群９は土器群６と８に挟まれるような状態で検出した。検出時の状況は２ｍ×１ｍの範囲に５～６個の土器が廃棄されている状況に見えた。しかし、この下層に密集するように多くの土器が確認されたため、土坑等の遺構に廃棄された可能性も考慮しながら調査を進めたが、土器群１のように明確な覆土は確認できなかったことから、遺構に投棄したものではないと判断した。時期は草田３期～５期に属するものと考えられる。

土器群９出土土器（第32図）

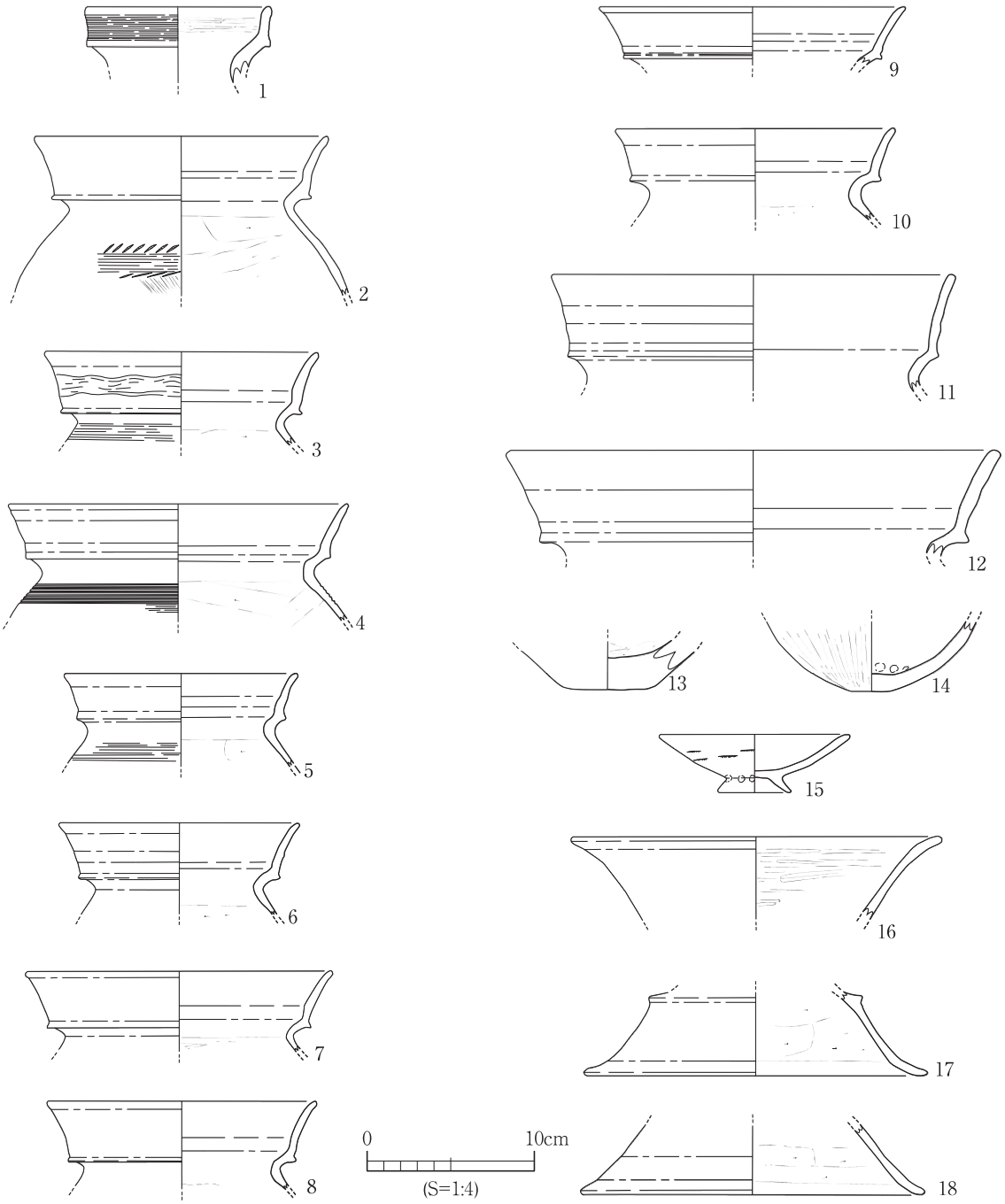
１～21は複合口縁の甕で、口縁端部は丸くおさめるものと平坦面をもつものがある。肩部から胴部にかけて平行沈線文と波状文と刺突文を施すものが認められる。このうち１と２は口縁外面に擬凹線を施すもので草田３期に相当するものと考えられる。10は口縁外面に平行沈線と波状文の痕跡が残るもので、草田４期であろうか。その他は５期に相当するものと考えられる。22～25は高坏の坏部である。22は口縁部の屈曲が大きく、内面に小さな段を有している。23は大きく広がる坏部で口縁部は緩やかに外反する。24は口縁部付近がやや厚いつくりとなっている。25は碗状の坏部で低脚坏の可能性もある。26と27は低脚坏、28は鼓形器台の器受部である。

２．土坑

土坑は調査区東側でＳＫ０１～０５の５基、西側でＳＫ０６～０９の４基の計９基を検出した。



第 27 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 7 実測図



第 28 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 7 出土遺物実測図

遺物を内包するものが少なく、すべての年代を特定することは困難であるが、遺物が出土した土坑から推測すれば、おそらく弥生時代後期に属する遺構と考えられる。

ＳＫ０１～０５（第 39 図）

ＳＫ０１の平面形態は隅丸の長方形状を呈し、長軸 1.2 m、短軸 0.6 m、深さ 15cm を測る。覆土は暗灰色土で内部から遺物が出土していないため、詳細な年代や性格については把握できない。

ＳＫ０２の平面形態は楕円形状を呈し、長軸１m、短軸 0.6 m、深さ５～ 10cm を測る。南側に浅いテラスを設けている。覆土は暗灰色土で内部から遺物が出土していないため、詳細な年代や性格については把握できない。

ＳＫ０３の平面形態は円形に近い楕円形状を呈し、長軸 1.3 m、短軸 1.1 m、深さ 10cm を測る。

第 29 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 8 実測図

覆土は暗灰色土で内部から遺物が出土していないため、詳細な年代や性格については把握できない。

ＳＫ０４の平面形態は東側を排水用の溝によって切られているが、残存する形態から円形もしくは楕円形を呈していたと推測される。残存する規模は長軸１ｍ、短軸 0.6 ｍ、深さ 30cm を測る。覆土は暗灰色土で内部から弥生時代後期頃と考えられる土器片が出土した。図化はできなかったが、土器群と同時期頃と考えられる。

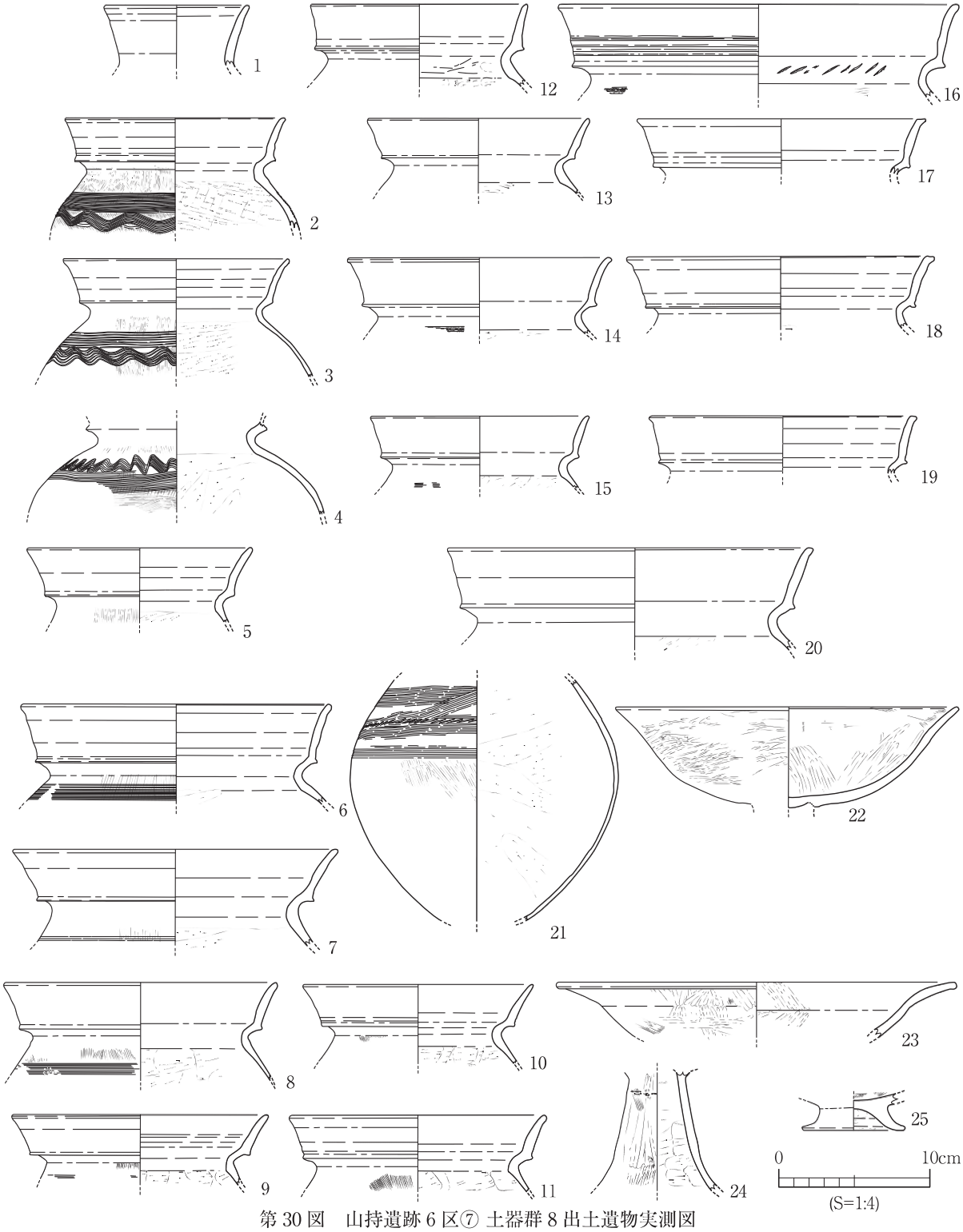
ＳＫ０５も０４同様に排水用の溝によって切られており、残存する形態から円形もしくは楕円形状を呈していたものと推測される。残存する規模は長軸１ｍ、短軸 0.9 ｍ、深さ 25cm を測る。覆土は暗灰色土で内部から弥生時代後期頃の土器が数点出土しているが、いずれも小片や胴部片であることから実測は不可能であった。土器群と同時期頃の年代と考えておきたい。

ＳＫ０６（第 34 図）

ＳＫ０６の平面形態は楕円形状を呈し、西側に浅いテラスを設け、二段に掘り込まれている。規模は今回検出した土坑の中では最も大きく、長軸３ｍ、短軸 1.6 ｍ、深さ 16cm ～ 40cm を測る。覆土は灰褐色土が堆積している。土坑の東寄りで多量の土器が集中的に出土しており、一括的に投棄されたものと想定できる。甕のみで構成され、草田１期の資料も含まれているが、大半は草田４期を中心とする。

ＳＫ０６出土土器（第 35 図）

すべて複合口縁の甕である。１は直立気味に短くのびる口縁部で外面に擬凹線を施している。草田１期に属するものと考えられる。２～ 16 は外反してのびる口縁部で、端部は先細るか丸くおさめるものである。肩部に平行沈線文、波状文、刺突文を施すものが認められる。

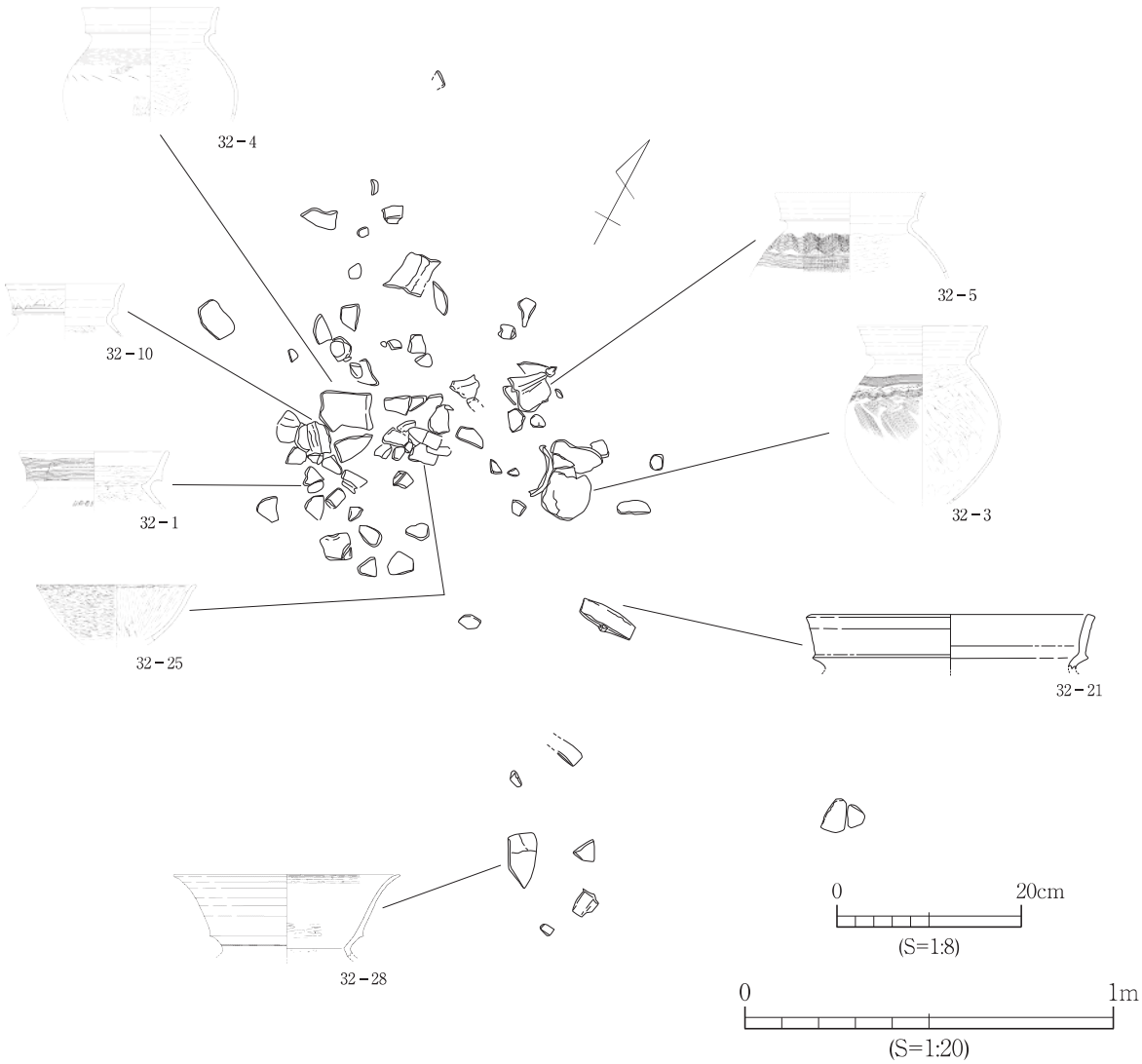


第 30 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 8 出土遺物実測図

ＳＫ０７～０９（第 33 図）

ＳＫ０７の平面形態は楕円形状を呈し、長軸 1.3 m、短軸 0.9 m、深さ 25cm を測る。覆土は灰褐色土が堆積している。実測不可能であったが内部から弥生時代後期頃と考えられる土器小片が数点出土している。

ＳＫ０８の平面形態はやや隅丸の長方形状を呈し、西側に浅いテラスを設けて二段に掘り込まれている。規模は長軸 1.5 m、短軸 0.7 m、深さ 15cm ～ 35cm を測る。覆土は灰褐色土で０７同



第 31 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 9 実測図

様に弥生時代後期頃の土器小片が少量出土している。

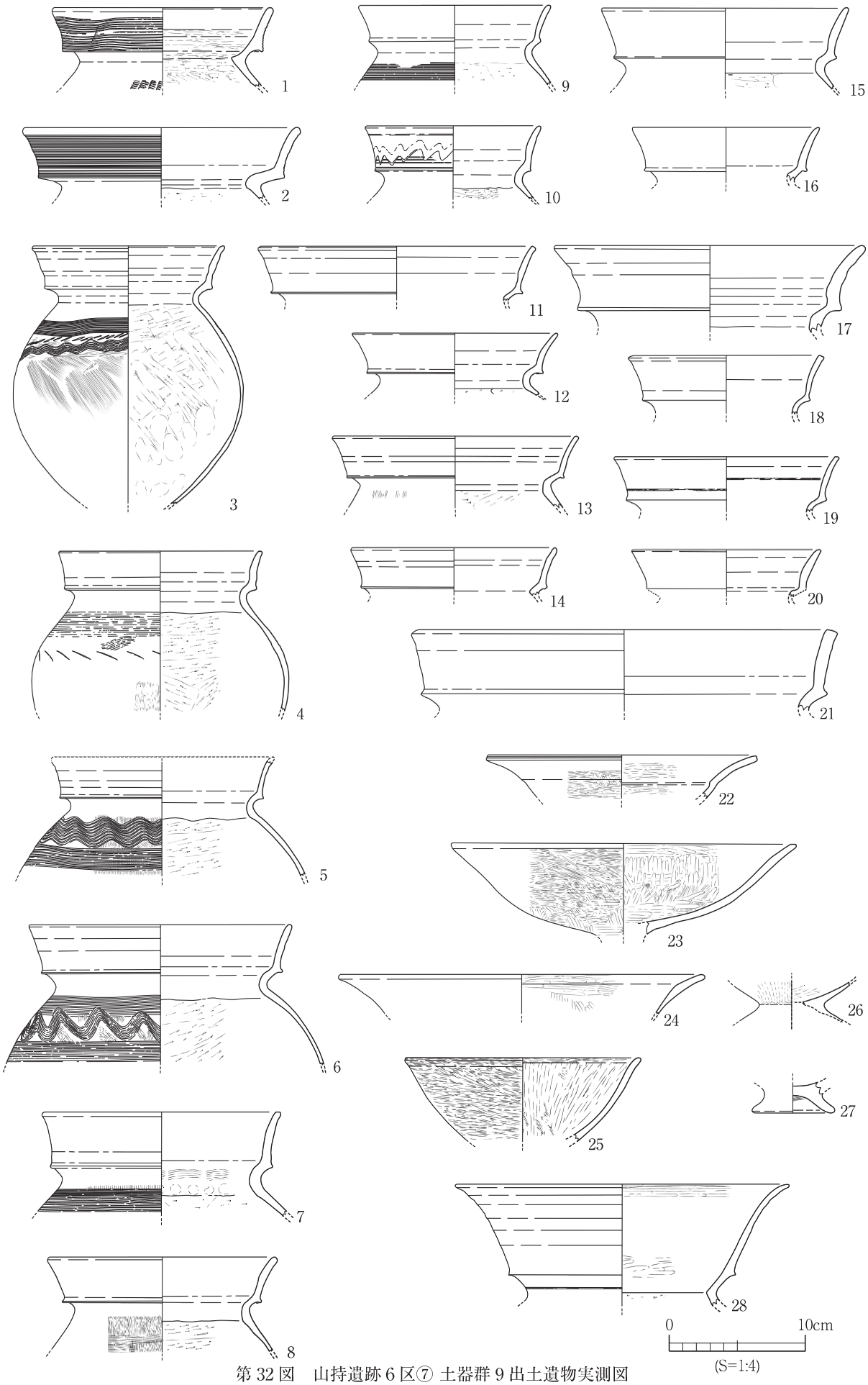
ＳＫ０９の平面形態は楕円形状を呈し、長軸 0.8 m、短軸 0.4 m、深さ 20cm を測る。覆土は灰褐色土が堆積している。内部から遺物が出土していないため、詳細な年代や性格については把握することができなかった。

３．溝状遺構

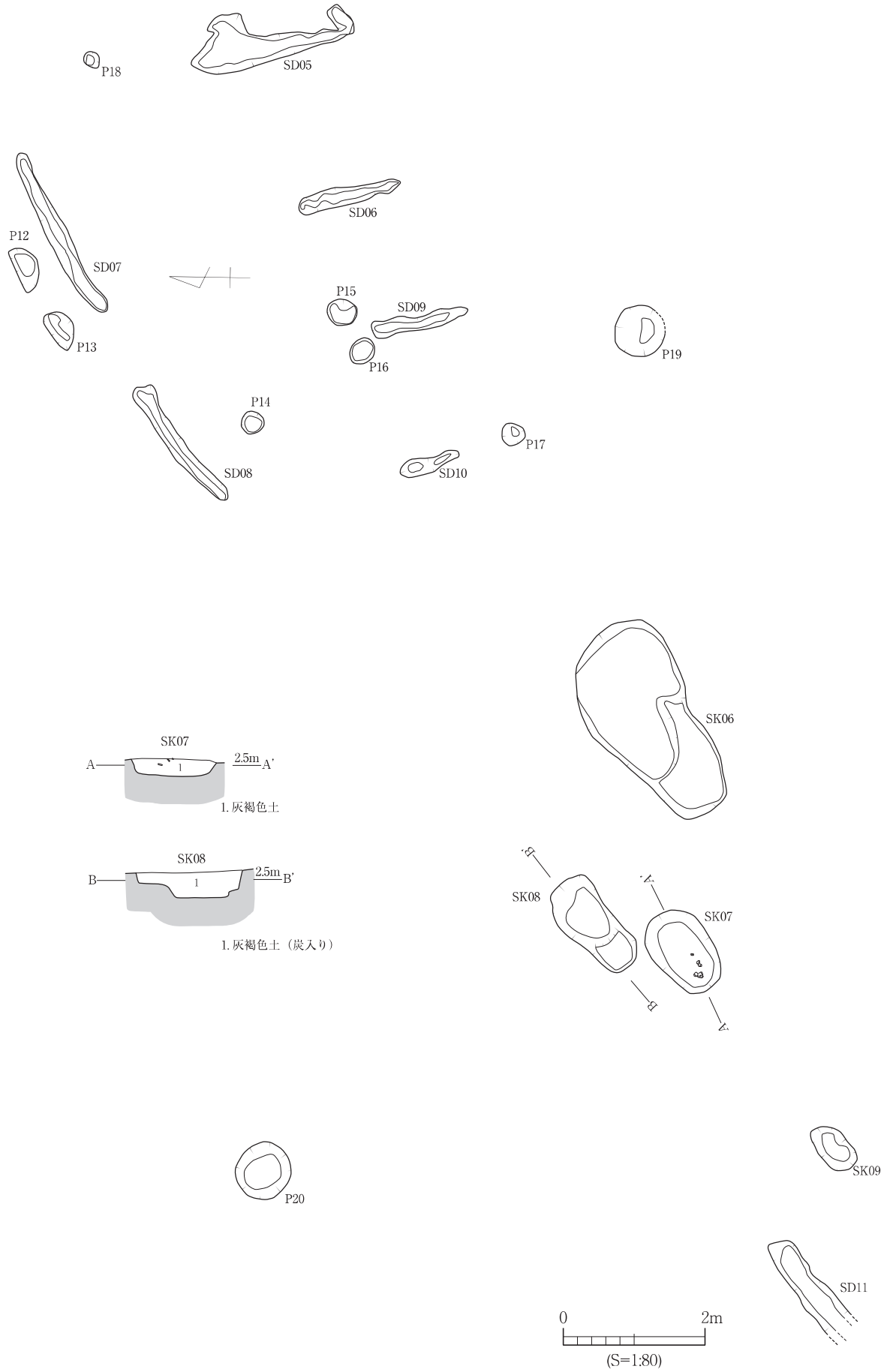
溝状遺構としたものは 11 条検出した。大規模なものと小規模なものが存在している。調査区の東側では大規模な溝状遺構４条を確認し、そのうち３条は南北方向に延びるものである。後述するがＳＤ０２としたものは溝とするより消滅したと考えられた古代の道路遺構の下部痕跡を示しているものと判断した。西側で検出したものは東西及び南北方向に延びる小規模なものであり、畝間小溝群などの他の用途の可能性が高い。

ＳＤ０１・０２（第 36 図）

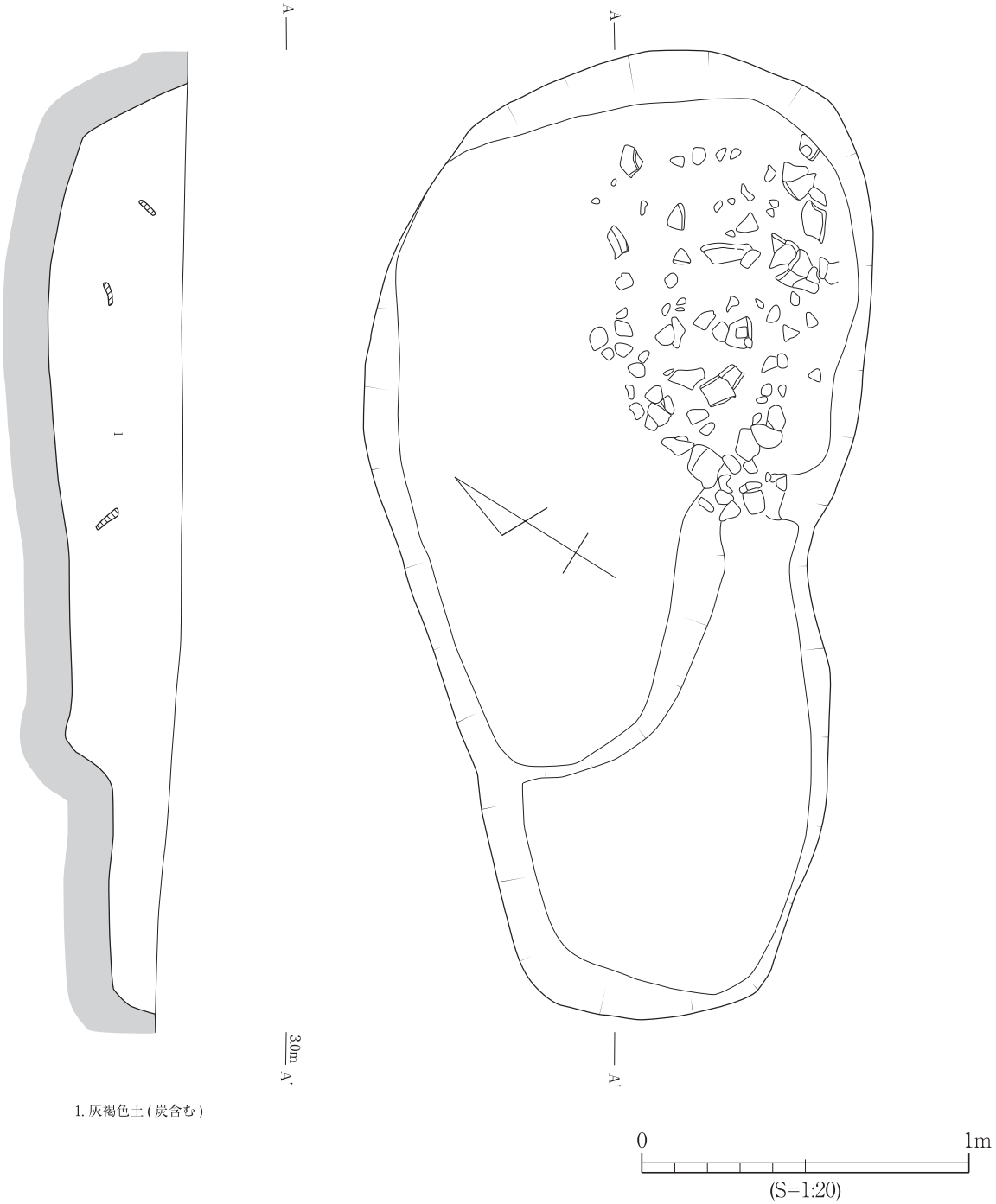
ＳＤ０１は調査区中央やや東側でＳＤ０２を切るような状況で検出した。調査区の南壁から北に向かって延びているが、約９ｍの地点で消滅している。南側が広く、北に向かって狭くなる形状で、幅 1.6 ～５ｍ、深さ 40 ～ 60cm を測る。溝の底面は第 12 層の砂礫層に到達していることから平ら



第 32 図　山持遺跡 6 区⑦ 土器群 9 出土遺物実測図



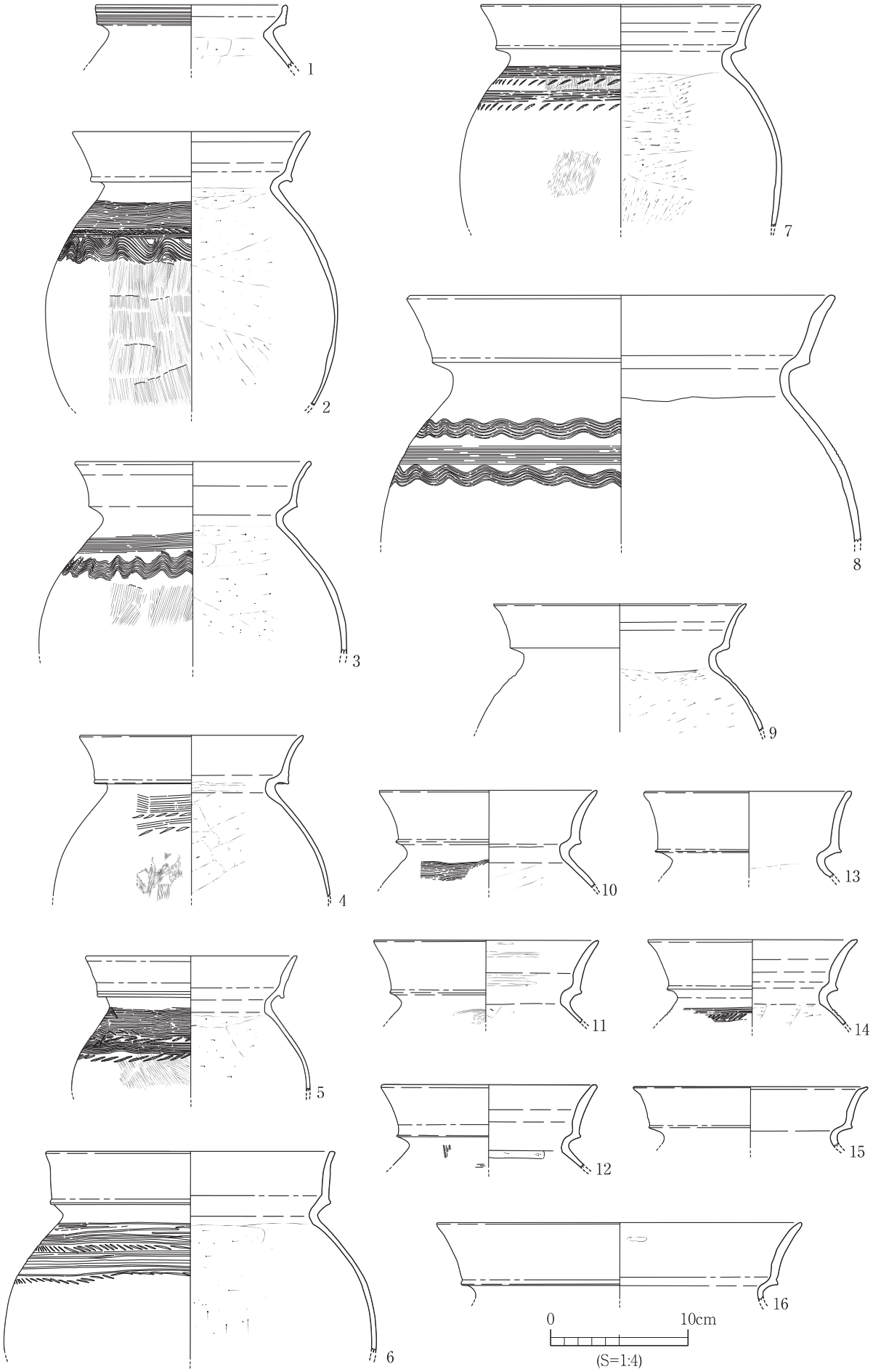
第 33 図　山持遺跡 6 区⑦ SK･SD 群実測図



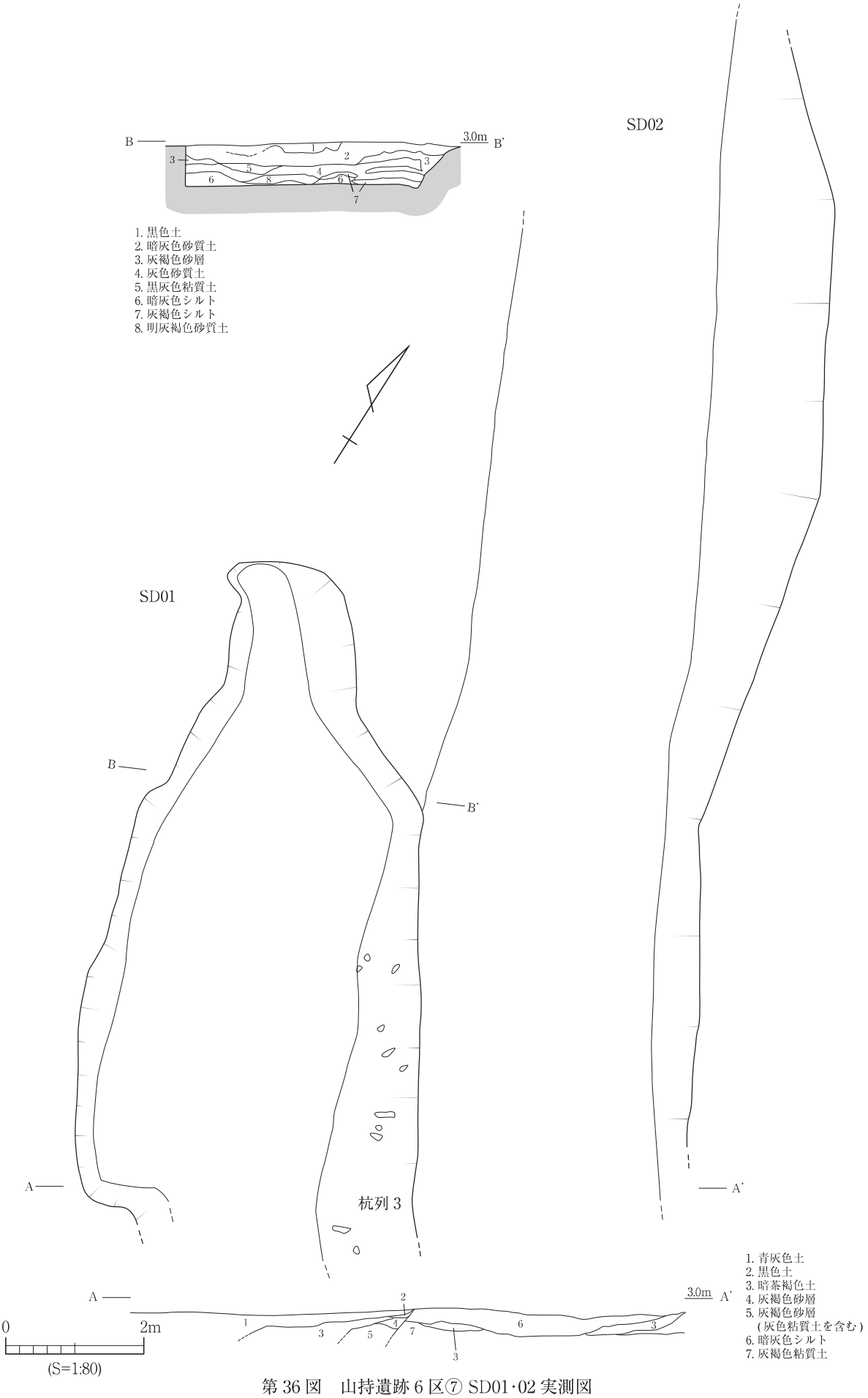
第 34 図　山持遺跡 6 区⑦ SK06 実測図

に近くなり、覆土は粘質土や砂質土が混在して堆積している。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が混在しており時期幅が認められる。また、東側掘り込み面に沿って南北方向に設置された杭列３を確認した。後述するがこの杭列のＡＭＳ年代測定の結果によれば、７世紀前葉～中葉という結果が示されている。

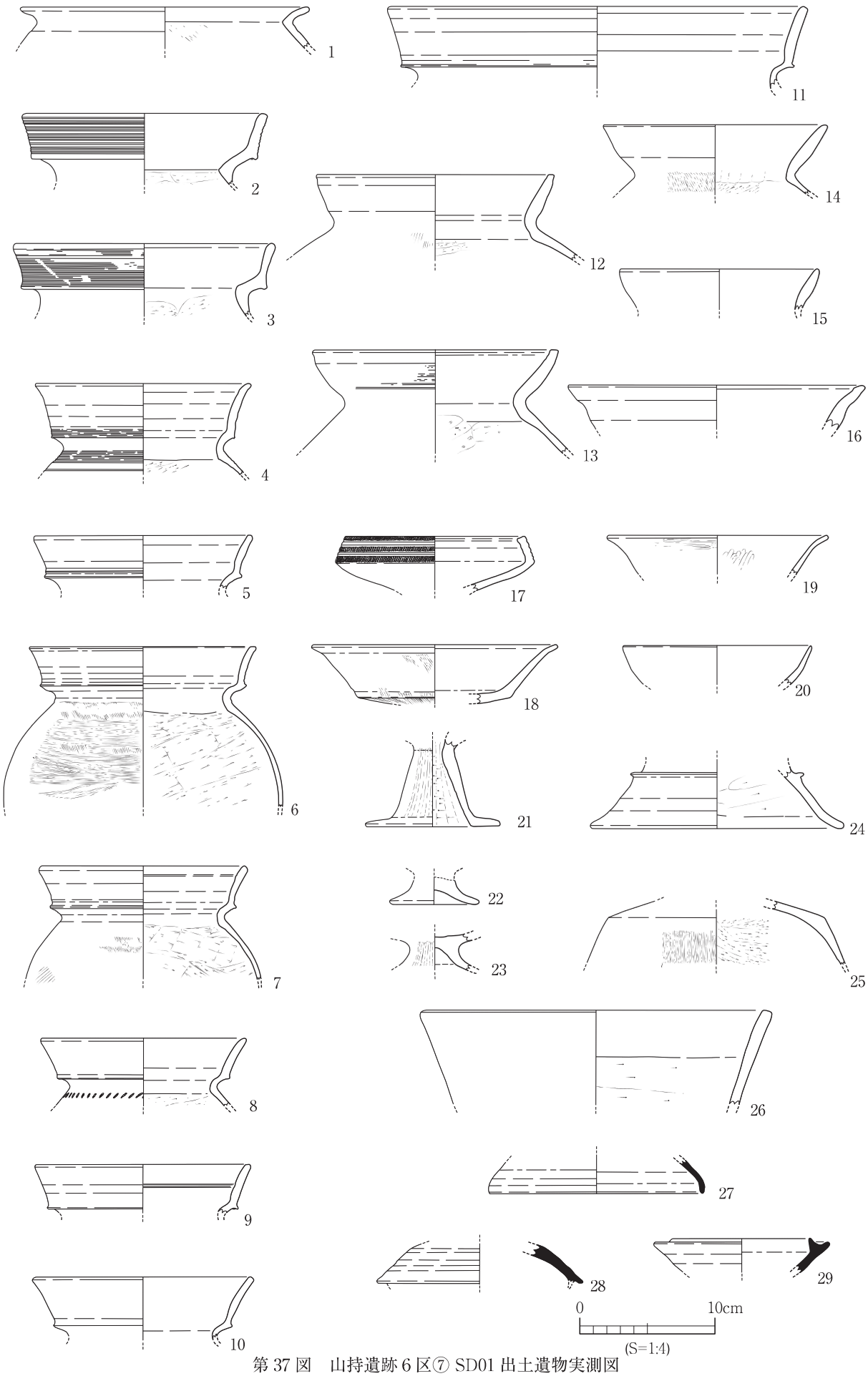
ＳＤ０２は西側の一部をＳＤ０１によって切られている。調査区を南北に横断する溝状遺構で、北側に向かって緩やかに下がっている。南北とも調査区外へ続いており、検出範囲での規模は、長さ 18 m、幅４～５m、深さ約 20 ～ 40cm を測る。溝の底面は緩く湾曲し、中央から北側の地点で土器群２・３が検出されている。覆土は暗灰色シルト層で弥生土器と須恵器が出土しており、時期



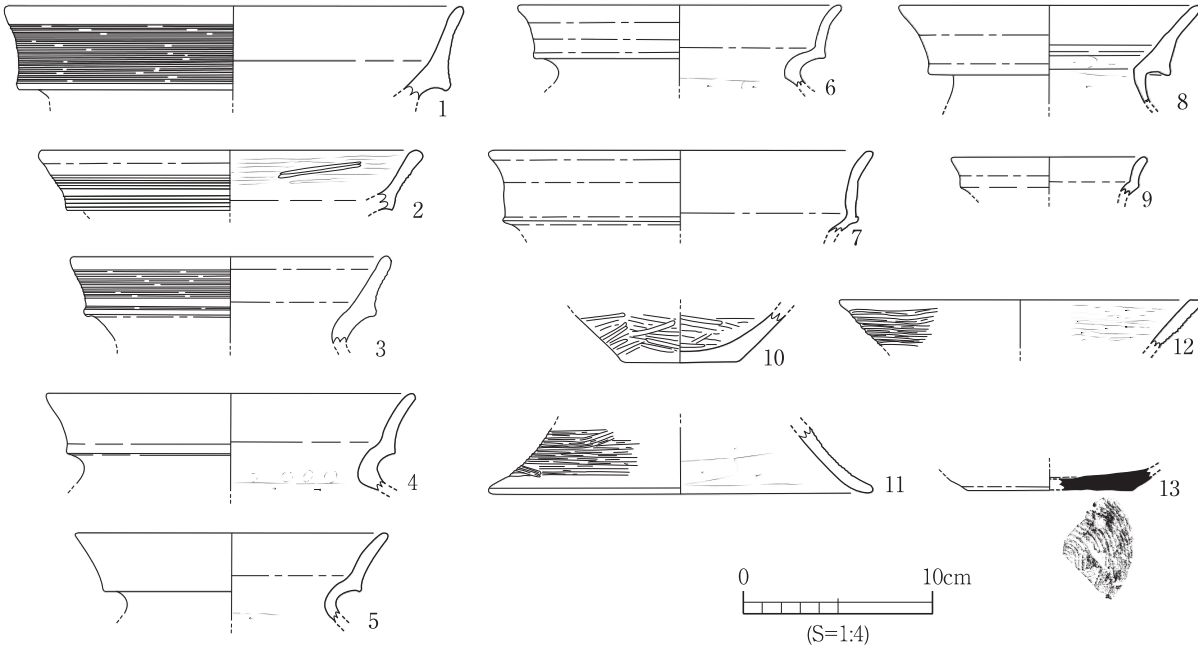
第 35 図　山持遺跡 6 区⑦ SK06 出土遺物実測図



第 36 図　山持遺跡 6 区⑦ SD01･02 実測図



第 37 図　山持遺跡 6 区⑦ SD01 出土遺物実測図



第 38 図　山持遺跡 6 区⑦ SD02 出土遺物実測図

幅が認められる。また、重複関係からＳＤ０１より先行するものである。

ＳＤ０１出土土器（第 37 図）

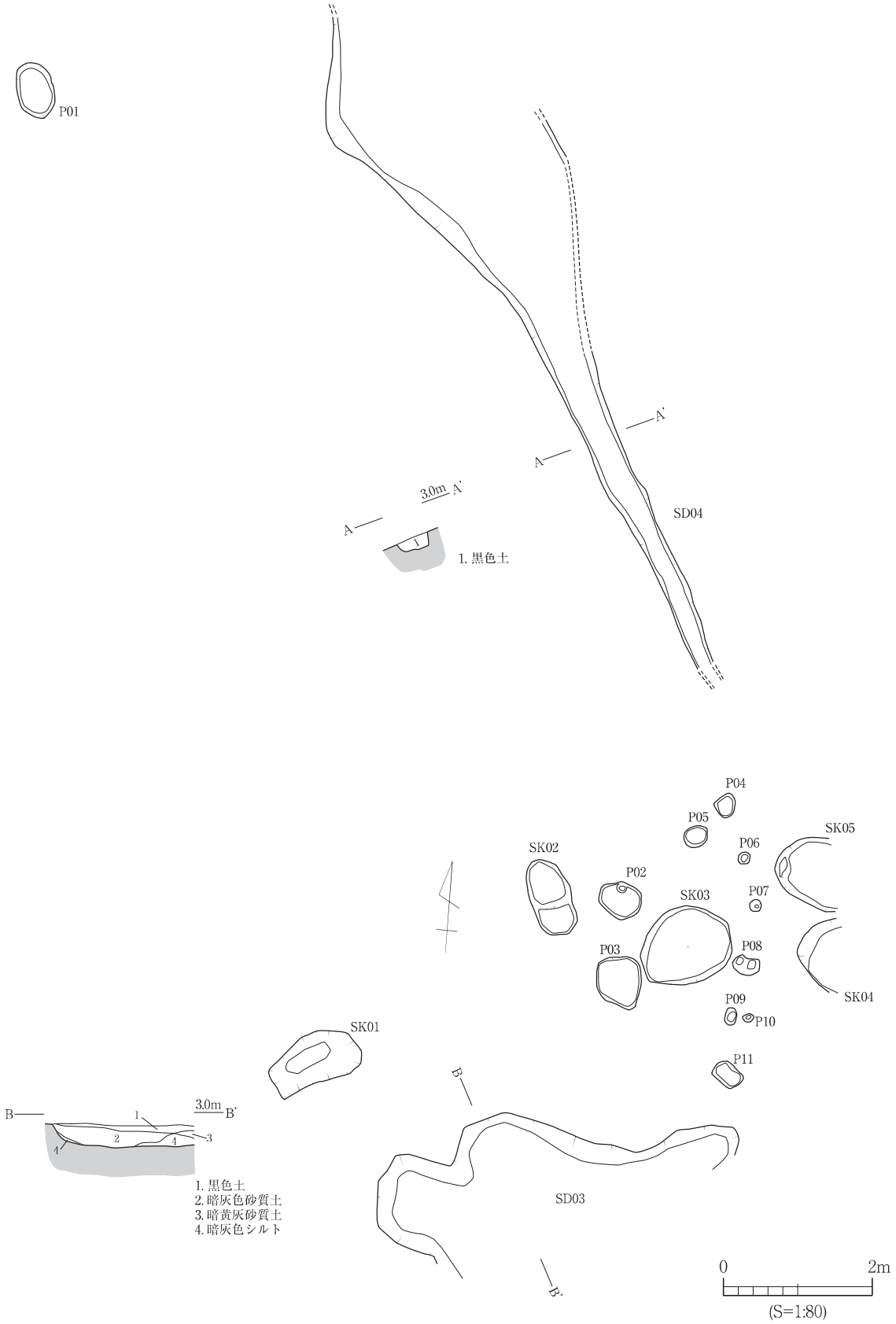
１はⅢ様式の甕で、口縁部が外方へ強く屈曲している。２～ 11 は複合口縁の甕である。２・３は口縁外面に擬凹線を施すことから草田３期に相当する。４～ 11 は外反する口縁部で端部は丸くおさめるものと平らに近いものがある。４は稜上方にうっすらと平行沈線が認められる。12 ～ 16 は単純口縁の甕で、やや厚いつくりとなっている。12・14・15 は外傾してのびる口縁部であるが、13 は内湾してのびるタイプである。16 は口縁端部付近で少し屈曲している。17 ～ 21 は高坏である。17 はⅣ様式に属するもので口縁部が屈曲して体部に丸みをもつものである。口縁外面に刺突文と凹線文を施している。18 は平らに近い体部から外傾してのびる口縁部をもつ。19 は外傾する口縁部で、20 は内湾する口縁部である。21 は脚端部が横方向に屈曲する脚部である。22・23 は低脚坏である。24 は鼓形器台で、25 も器台であろうか。26 は甑形土器の口縁部である。27 ～ 29 は須恵器である。27 はかえりのない蓋で、28 はかえりを有する蓋である。29 は立ち上がりの短い坏である。

ＳＤ０２出土土器（第 38 図）

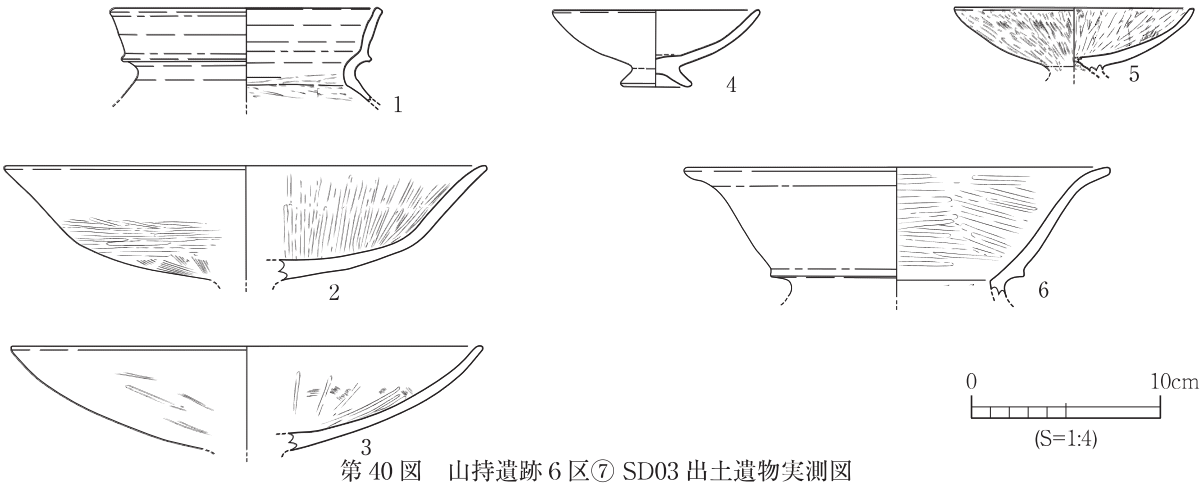
１～９は複合口縁を呈する甕の口縁部である。１～３は口縁外面に擬凹線を施すが、その他は無文のものである。いずれも口縁端部が丸くおさめられている。10 は壺か甕の底部である。11・12 は器台で外面に擬凹線を施している。13 は須恵器の坏底部で底部に回転糸切り痕が残る。

遺構の性格と年代

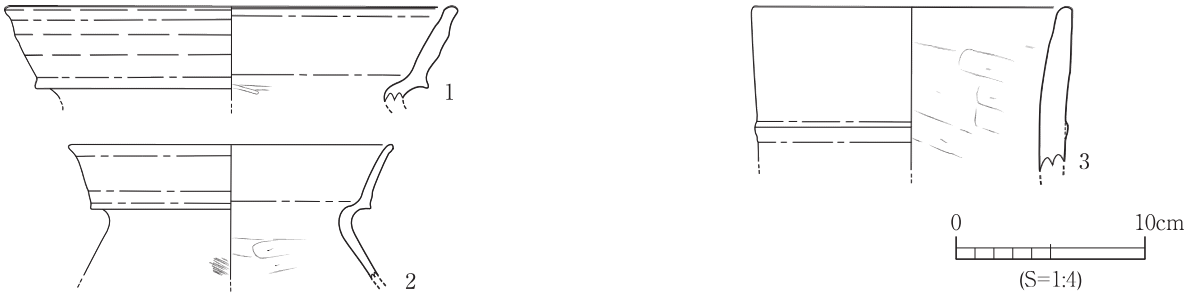
ＳＤ０２については溝状遺構として捉えていたが、報告書作成時に第４図の６区調査区地区割り図に今回の調査区を追加したところ、６区①、③で検出された南北に延びる古代の道路遺構と主軸がほぼ揃うことが判明した。６区③の道路遺構の下部には落ち込みや杭列が確認され、道路遺構築造時に落ち込みを整地している可能性も指摘されている。このことから推測すれば、ＳＤ０２は溝とするより道路遺構構築時に整地された状態として捉えることも可能である。ＳＤ０１は切り合い関係から０２より後出するものであることから道路遺構構築後に掘り込まれた可能性が高いが、杭列３の設置状況をみると０２に沿って設置されているようにも見え、道路遺構構築時もしくはさほ



第 39 図　山持遺跡 6 区⑦ SD03･04、SK 群実測図



第 40 図　山持遺跡 6 区⑦ SD03 出土遺物実測図



第 41 図　山持遺跡 6 区⑦ SD04 出土遺物実測図

ど間を空けずに、性格は不明であるが道路遺構に関連するものとして作られた可能性も考えられる。

以上の点から古代の道路遺構の路面を含む道路部分は中近世の旧河道によって削平を受けて消滅してしまったが、０１・０２は道路遺構の下部の痕跡を示しているものと理解したい。

ＳＤ０３・０４（第 39 図）

ＳＤ０３はＳＤ０２の東隣に位置する不整形な落ち込みである。現状での規模は長軸５ｍ、短軸２ｍ、深さ 30cm を測る。覆土は砂質土が主に堆積している。出土した土器から草田５期頃に属する遺構と考えられる。

ＳＤ０４はＳＤ０３の北側に位置する。北側が広く、南側に向かって狭くなる形状で、長さ 8.8 ｍ、幅 0.3 ～ 2.5 ｍ、深さ 20 ～ 30cm を測る。覆土は黒色土が堆積し、出土した土器から草田５期頃に属する遺構と考えられる。

ＳＤ０３出土土器（第 40 図）

１は複合口縁の甕で、口縁部は外傾してのび、端部に平坦面をもつタイプである。２・３は高坏の坏部である。２は体部から若干屈曲してのびる口縁部を有するが、３は緩やかにのびる口縁部を有する。４・５は低脚坏で、緩やかにのびる口縁部を有する。６は鼓形器台の器受部で口縁端部付近で外方に屈曲している。

ＳＤ０４出土土器（第 41 図）

１・２は複合口縁の甕で、口縁端部は丸みをもっている。３は外面に小さなタガ状突帯が付く壺の口縁部であろうか。

ＳＤ０５～１１（第 33 図）

ＳＤ０５～１１は調査区の西側で検出した小規模な溝状遺構である。溝の規模は、長さ 0.9 ～ 2.4 ｍ、幅 20 ～ 80cm を測り、深さは５～ 10cm 程度と浅い。０７・０８・１１は東西方向に一直

線上に延びるが、それ以外は南北方向に平行に配置され、その間隔は 1.7 ～ 1.8 ｍを測る。覆土は暗灰褐色土で遺物が出土していないため時期については不明であるが、その性格については畝間小溝などの用途が考えられる。

４．旧河道（第５図）

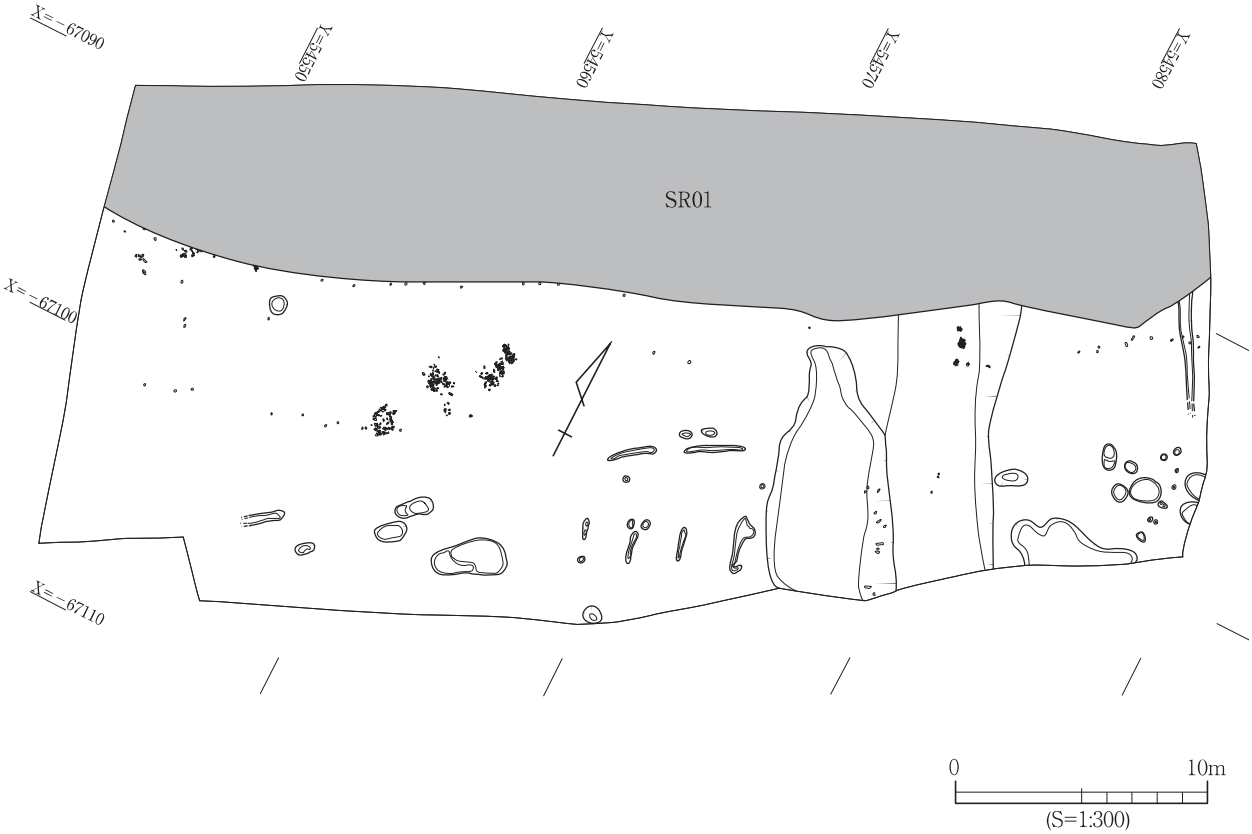
旧河道は大まかに３条確認できたが、平面的に検出できたのはＳＲ０１のみで、他２条は調査区の西壁セクションで確認した。層位的関係からすれば０３が最も先行するものであり、０１と０２の時期差については判断できなかった。

ＳＲ０１（第 42 図）

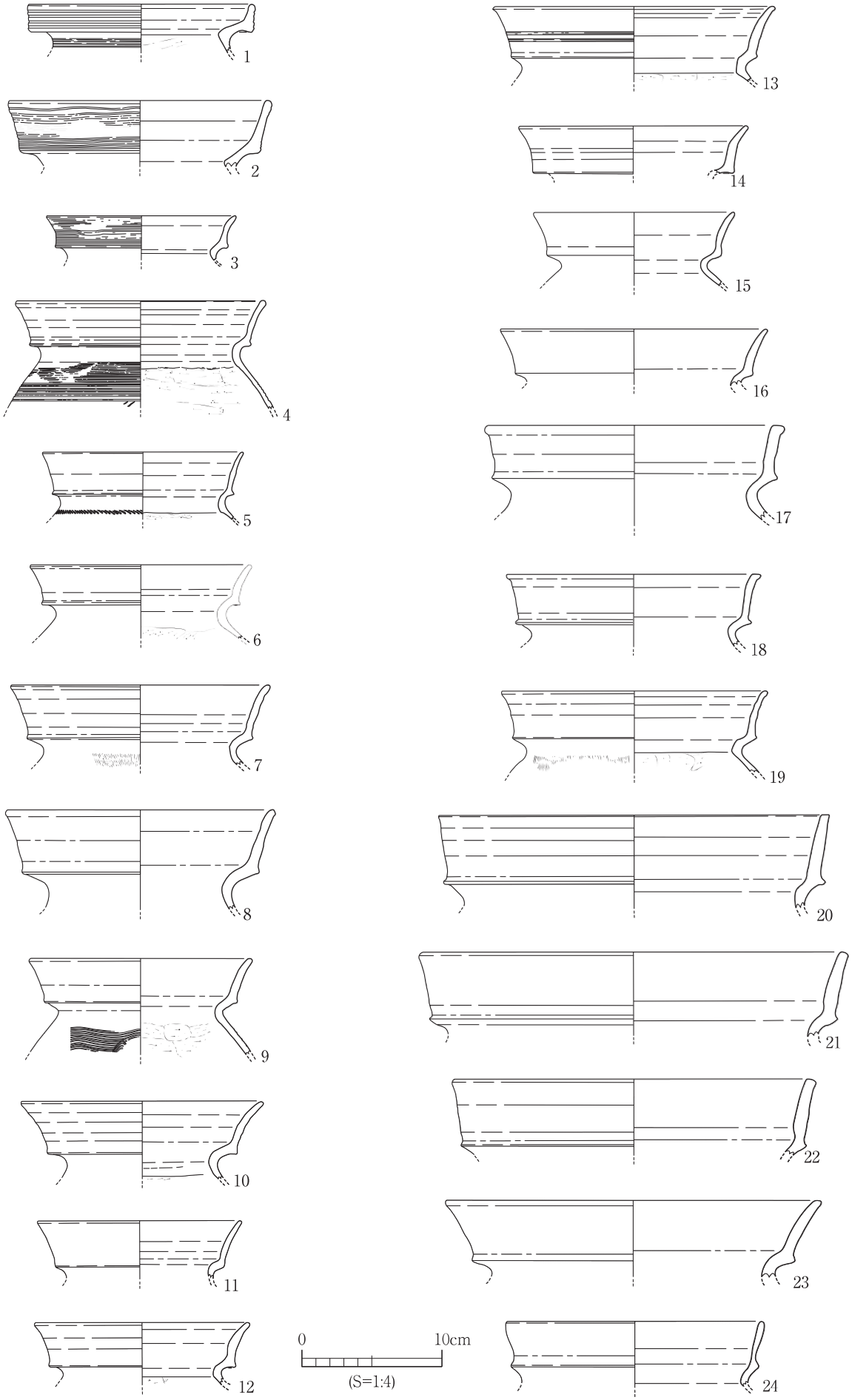
ＳＲ０１は調査区の北側を東西方向に縦断する旧河道で、調査区内で検出した規模は、長さ約４５ｍ、幅約８ｍ、深さは断面で確認すると約 1.8 ｍを測る。この河道の影響を受けて北側の遺物包含層はかなり攪乱されたとみられ、約 10cm 程度しか残存していない。覆土は明茶褐色や青灰茶色等の砂礫層が厚く堆積しており、このうち遺物は包含層上面に堆積している青灰茶色砂質土から弥生土器、須恵器、土師質土器、木製品が出土している。その大半は弥生土器が占めているが、これは下層に位置する包含層が著しく攪乱されたため、多量の弥生土器が混在したものと考えられる。

遺構の性格と年代

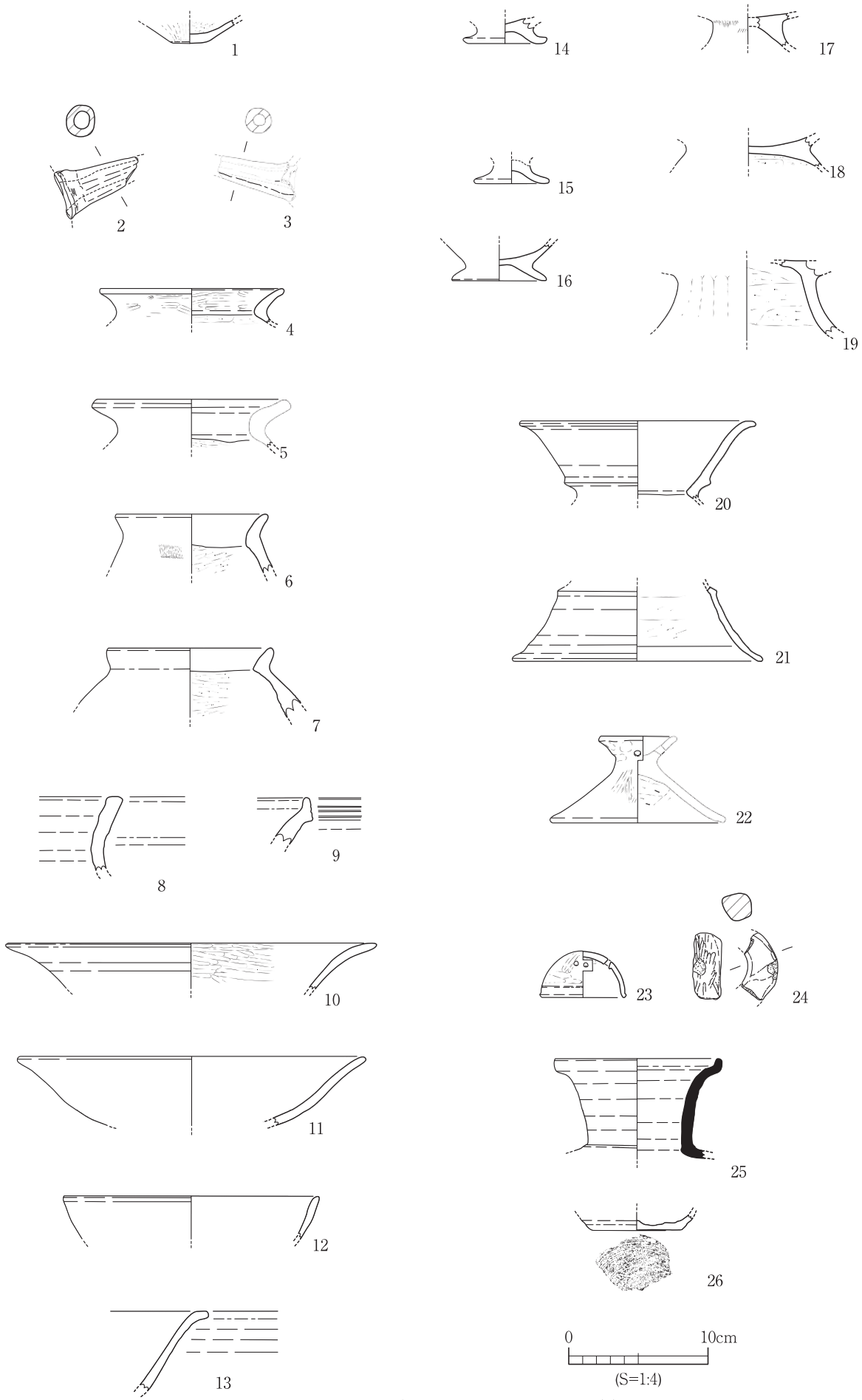
年代については土師質土器から中世という大まかな時期が推測できるが、出土した卒塔婆状木製品のＡＭＳ年代測定の結果では 15 世紀後半～ 17 世紀前葉という値が示されている。やや時期幅が広いがこの時期に機能もしくは埋没した河道であると推測される。また、河道の肩部沿いには杭列２と４が平行するように設置されていることから、この河道に関連する杭列の可能性が想定される。



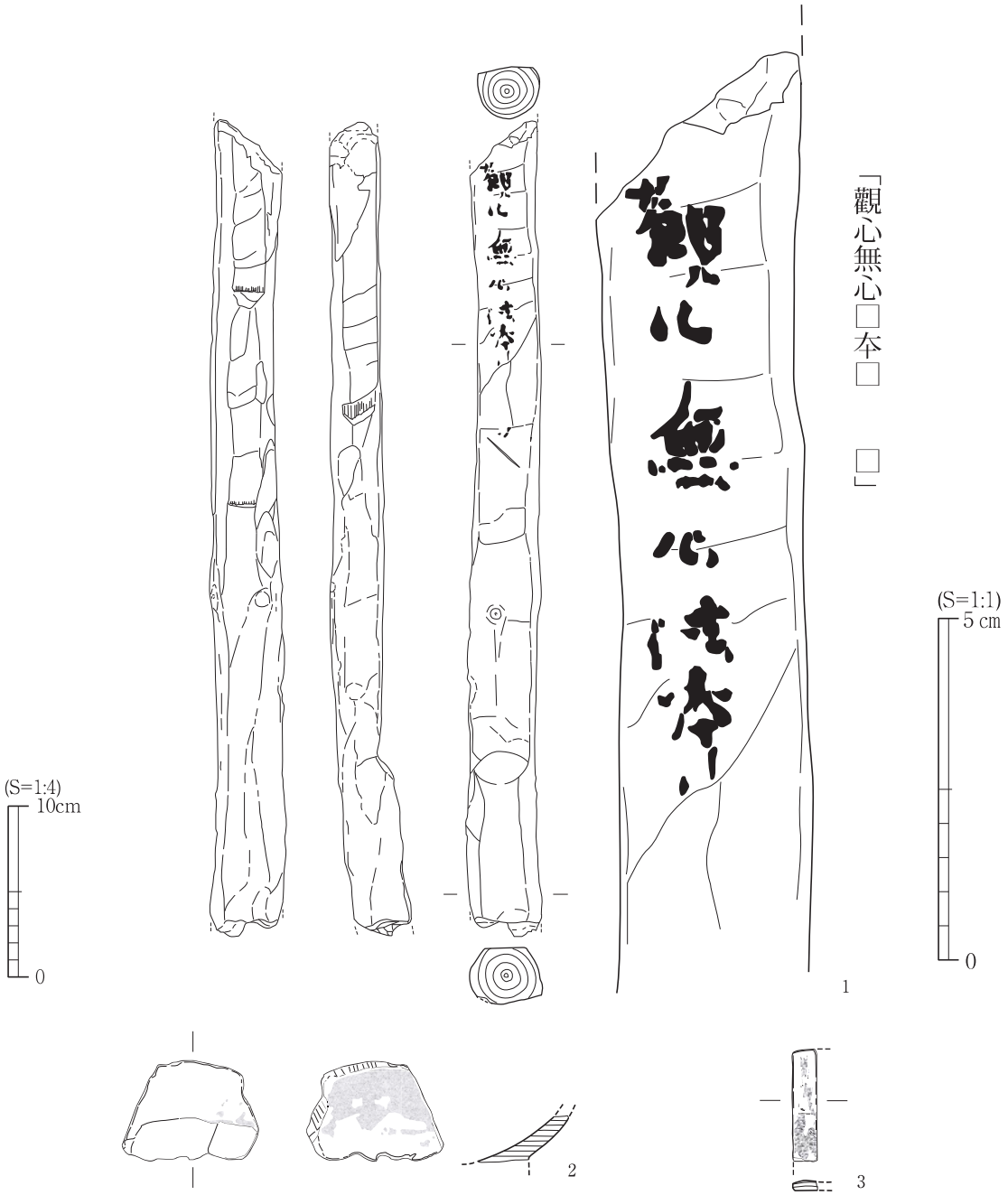
第 42 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 実測図



第 43 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（1）



第 44 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（2）



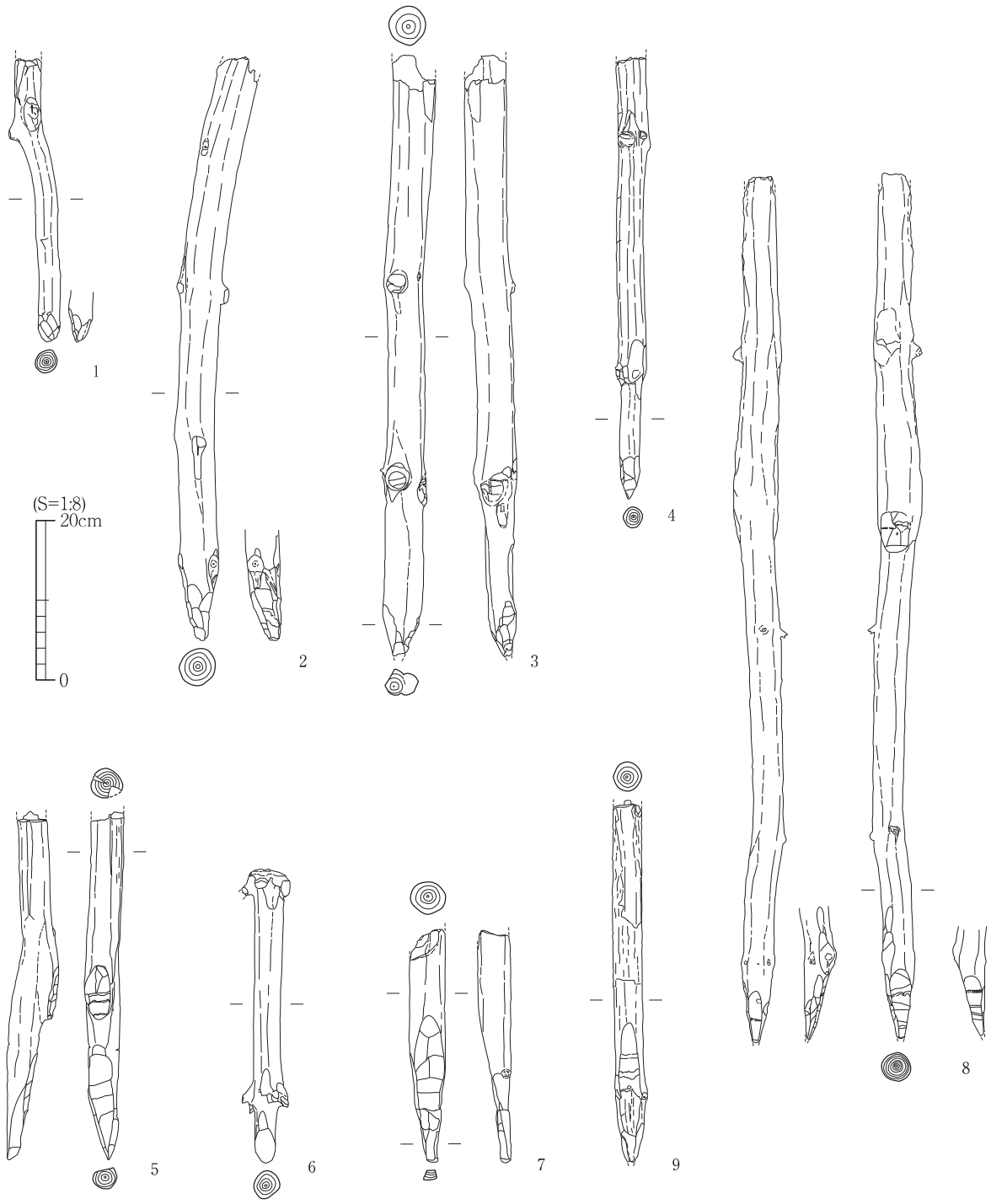
第 45 図　山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土遺物実測図（3）

杭のＡＭＳ年代測定によれば 15 世紀後半～ 17 世紀後半の年代が得られており、卒塔婆状木製品とほぼ同値を示している点からも、この河道に関連する施設と理解したい。

ＳＲ０１出土遺物（第 43 ～ 45 図）

第 43 図は複合口縁甕の口縁部である。１は口縁外面に４条の凹線文を施すもので、草田１期に相当する。２・３は口縁外面に擬凹線を施すもので、草田３期に相当するものと思われる。４～ 23 は外反もしくは直立気味にのびる口縁部で、端部は丸くおさめるものと平らに近いものがある。草田５期～７期に相当するものと思われる。24 は複合口縁部の稜がやや退化したものである。第 44 図１は壺甕類の底部で小さな平底を残す。２・３は注口土器の注口部分である。４～７は単純口縁の甕で４・５のように大きく外方に屈曲するものと６・７のように短く屈曲するものがある。８は壺の口縁部であろうか。９～ 13 は高坏の坏部である。９は複合口縁を有するもので外面に凹

第 46 図　山持遺跡 6 区⑦ 杭列実測図



第 47 図　山持遺跡 6 区⑦ 杭列出土の杭実測図

線文を施す。12 は内湾する坏部であるが、これ以外は外反する口縁部を有する。14 ～ 19 は低脚坏の脚部で 18・19 はやや大型のタイプである。20 は鼓形器台の器受部で、21 は脚部である。22・23 は蓋と考えられるものである。22 は低脚坏と形状が似ているが、内面がヘラ削り調整であることから蓋と考えた。つまみ部分に 2 方向の円孔が穿たれている。23 は半球形の形状をしており、上面に 2 箇所の円孔が 2 方向穿たれている。24 は把手と思われるものである。25 は須恵器の壺で頸部はやや外傾してのび、口縁部は端部付近で外方に屈曲した後上方に短く立ち上がる。26 は土師質土器の坏底部で回転糸切り痕が残る。第 45 図は木製品である。 1 は卒塔婆状木製品で上下端を欠損している。残存長 48.2cm、幅 4.3cm、厚さ 3.0 ～ 3.3cm を測り、板材の一面をＬ字状にカット

して文字を記す平坦な面を作り出している。墨書は平坦面の上半部に認められ、「觀心無心□本□　□」と判読できる。２は漆器椀の破片で内面に朱漆、外面に黒漆が認められる。３は板状製品で外面に焼痕が認められる。

５．杭列（第７図・第46図）

杭列は４列検出した。このうち杭列３のみ南北方向の列で、その他は東西方向の列を形成している。いずれの杭も中近世の旧河道によって上端部を削られており、打ち込み面を把握することはできなかった。

杭列１（第46図）

杭列１は調査区中央やや南寄りで、西壁側から東に向かって直線的に延びる杭列である。杭は11本検出し、約10ｍの長さに径３～８cm前後の丸太材を約0.5～1.2ｍの間隔で打ち込んでいる。杭の残存長は15～40cmと短く、先端は標高2.5ｍ前後の遺構検出面であるシルト層に少し突き刺さる状況であった。

杭列２（第46図）

杭列２は杭列１の北側５ｍの位置で検出した26本の杭で構成される杭列である。西壁側から東に向かって延び、約30ｍの長さに径５cm前後の丸太材を約0.6～１ｍの間隔で打ち込んでいる。西側はやや乱雑な状態であり、２列で構成されていた可能性も考えられる。杭の残存長は15～70cmで、先端は杭列１同様にシルト層上面に突き刺さる状況である。

杭列３（第46図）

杭列３はＳＤ０１内で検出したもので、南側から北側に向かって延びている。杭は13本検出し、約５ｍの長さに径４～８cm前後の丸太材を0.1～1.2ｍの間隔で打ち込んでいる。杭の残存長は0.1～1.2ｍと中には長いものも認められる。先端は他の杭列と様相が違い、標高1.7ｍ前後まで打ち込まれている。

杭列４（第46図）

杭列４は調査区の東側で検出した10本の杭で構成される杭列であるが、杭列２の続きの可能性が考えられる。東壁から西に向かって延び、約５ｍの長さに0.3～0.8ｍの間隔で径５cm前後の丸太材が打ち込まれている。杭の残存長は10～45cmと短く、先端はシルト層上面に突き刺さる状況であった。

遺構の性格と年代

いずれの杭も上端は旧河道等の影響を受けたものと考えられ、標高３ｍ前後の地点で欠損しているため、打ち込み面は把握できなかった。先端部は杭列３で標高1.7ｍ前後、それ以外は標高2.5ｍ前後と違いが認められることから、打ち込み面に違いがあるものと推測される。杭の打ち込み面が不明なため確実な年代は特定できないが、杭のＡＭＳ年代測定によれば杭列３は７世紀前葉～中葉、その他は16世紀前葉～17世紀後半という結果が得られている。この結果によれば杭列３と他の杭列とは時期差が認められ、また、列の方向も異なることから他の杭列とは用途についても違いがあるものと考えられる。前述したように杭列３は検出状況から古代の道路遺構に伴うものの可能性が高く、他の杭列は東西方向に延びることからも中近世の旧河道に関連するものの可能性が高く、杭列２・４はＳＲ０１、杭列１はＳＲ０３もしくは０２に伴うものと考えておきたい。

杭列出土の杭（第 47 図）

第 47 図は杭列に使用されていた杭の一部である。１は杭列１、２～７は杭列２、８は杭列３、９は杭列４の杭である。いずれも丸太材の先端を削って尖らせているが、他に加工痕は認められない。

第４節　第 10 層の調査

第 10 層は遺構検出面であるシルト層上面に堆積した黒色土の遺物包含層で、弥生土器が大半を占めるが、須恵器、木製品も少量含んでいる。厚さは場所によって異なるが 10 ～ 35cm である。

第 10 層出土遺物（第 48 ～ 57 図）

壺（第 48 ～ 49 図 13）

第 49 図 11 ～ 13 は単純口縁、それ以外は複合口縁の壺である。第 48 図 1 は内傾して短くのびる口縁部で外面に浅い凹線文、肩部に擬凹線を施している。草田１期に属すると考えられる。２・３は外傾する口縁部で外面に擬凹線を施すもので、２は肩部に竹管文を施している。草田２期～３期に属するものと考えられる。４は口縁外面に波状文を施す。５～ 10 は外反する口縁部で端部は丸くおさめるものと平坦面をもつものがある。頸部から肩部にかけて羽状文、刺突文、波状文を施すものも認められる。11 ～第 49 図３は内傾する口縁部であるが、端部が外反するタイプである。これらは草田４期～６期に相当するものと考えられる。４～ 10 は断面台形状の突帯や竹管文をもつ壺である。４・５は頸部に突帯を有する。６は口縁部と思われ外面に竹管文を施す。７・８は頸部を竹管文、羽状文で装飾している。９・10 は突帯に刻みを施すものである。調整・胎土は在地のものと共通するが、当地ではあまり例のないものである。11 は外反して長くのびる口縁部、12 はやや短めの口縁部である。13 は直立気味の頸部から強く外反する口縁部をもつ。

甕（第 49 図 14 ～第 54 図 12）

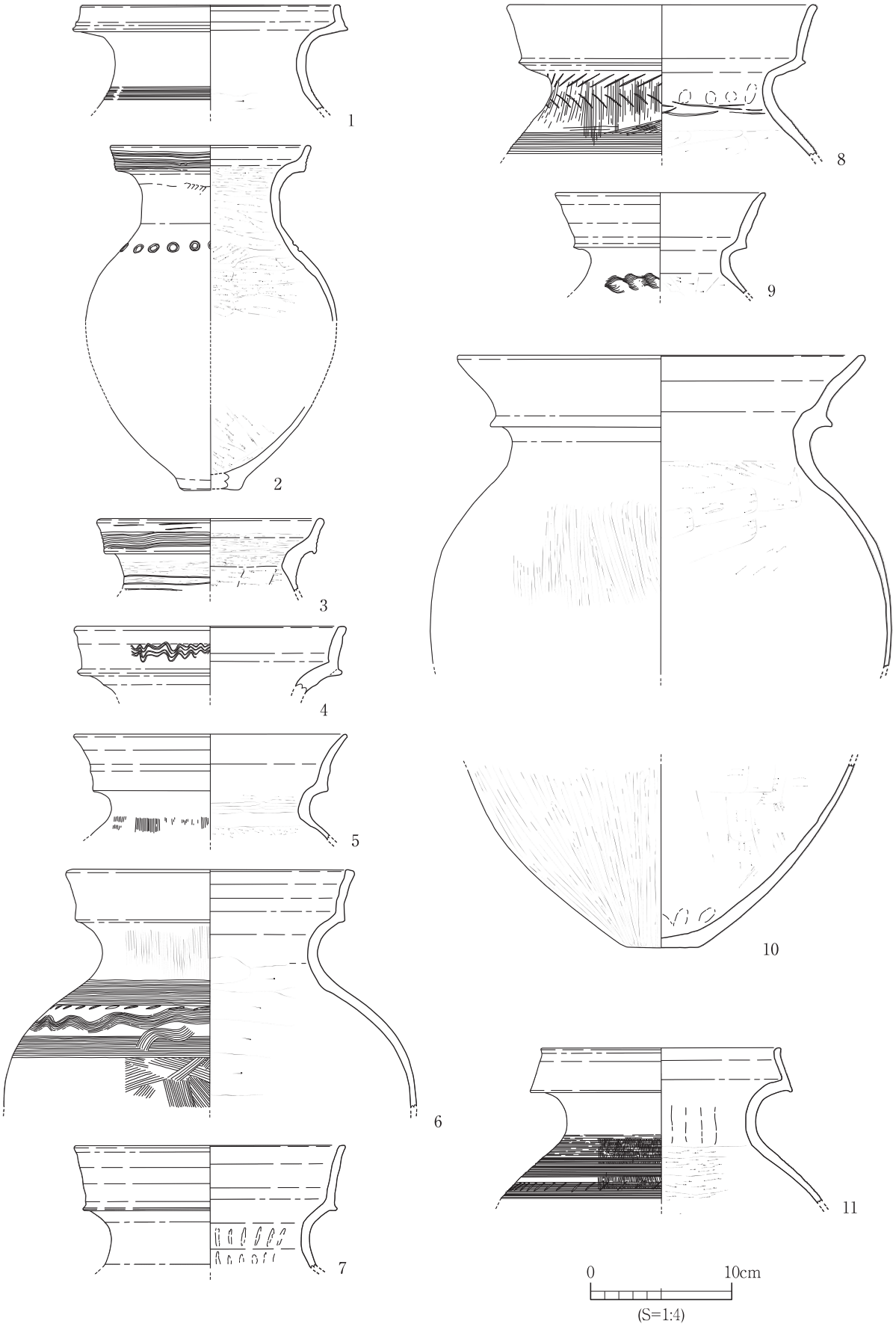
第 49 図 14 ～第 53 図７は複合口縁、第 53 図８～ 18 は注口土器、第 54 図 1 はⅠ様式の甕、２・３は単純口縁、４～ 12 は底部である。14 ～第 51 図３は口縁外面に擬凹線を施し、端部は丸くおさめる。肩部に刺突文や波状文を施すものも認められる。草田３期に属するものと考えられる。４～第 53 図７は口縁部をヨコナデで仕上げるものである。口縁端部は丸くおさめるものや平坦に作られたものが認められる。肩部に平行沈線、波状文、刺突文で飾るものもある。草田４期～７期に相当するものと思われる。８～ 18 は注口土器の注口部分である。第 54 図 1 はⅠ様式の甕で頸部付近に３条のヘラ描沈線文を施す。２・３はくの字状に屈曲する口縁部である。４～ 12 は底部で 12 は痕跡的な平底を残すが、その他は明瞭な平底を有する。

小型丸底壺（第 54 図 13 ～ 15）

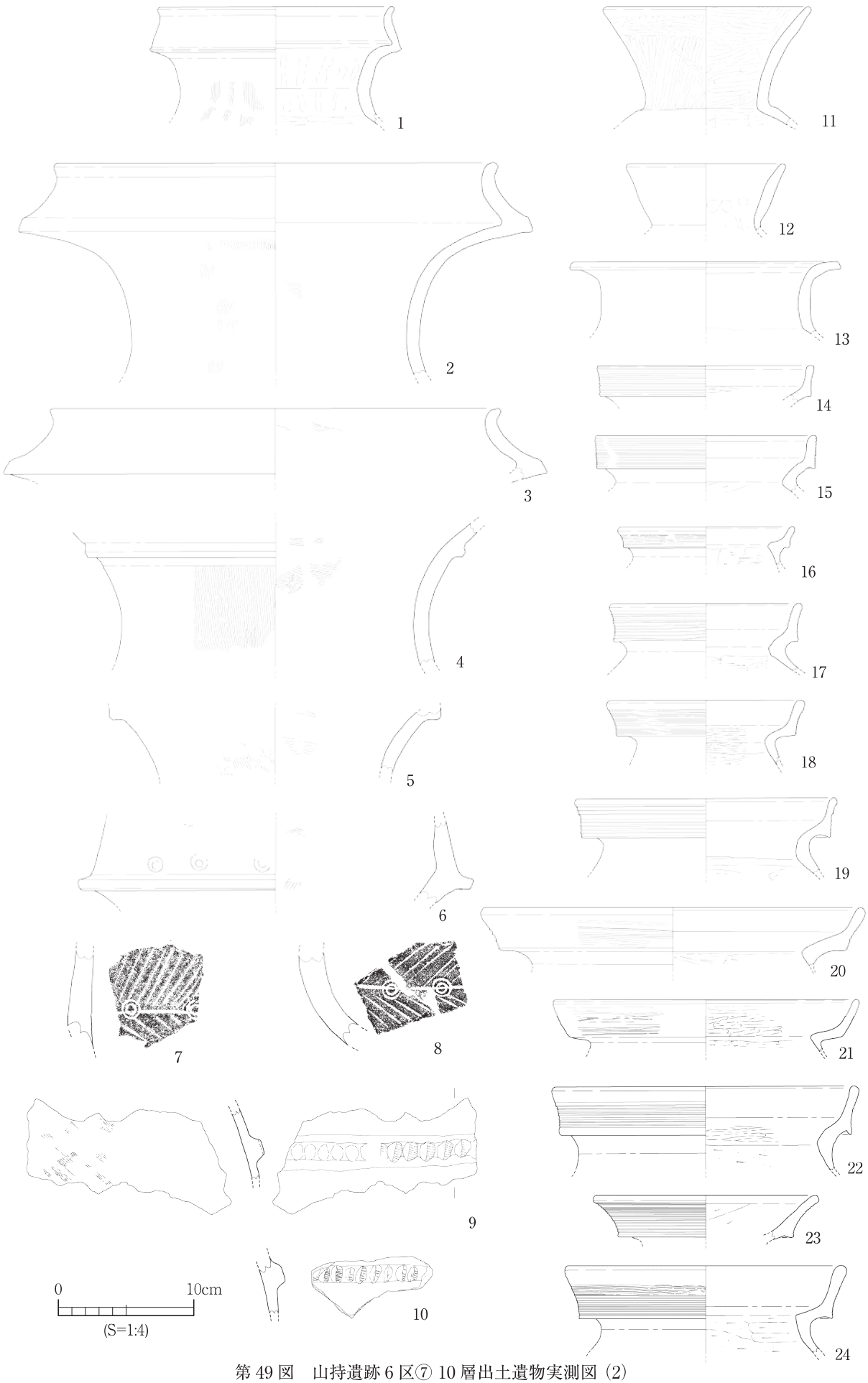
13・14 は複合口縁であるが、13 には若干退化傾向が認められ、肩部に刺突文を施している。15 は口縁部を欠損しているが、胴部が球形に近いものである。

高坏・低脚坏（第 54 図 16 ～第 55 図 22）

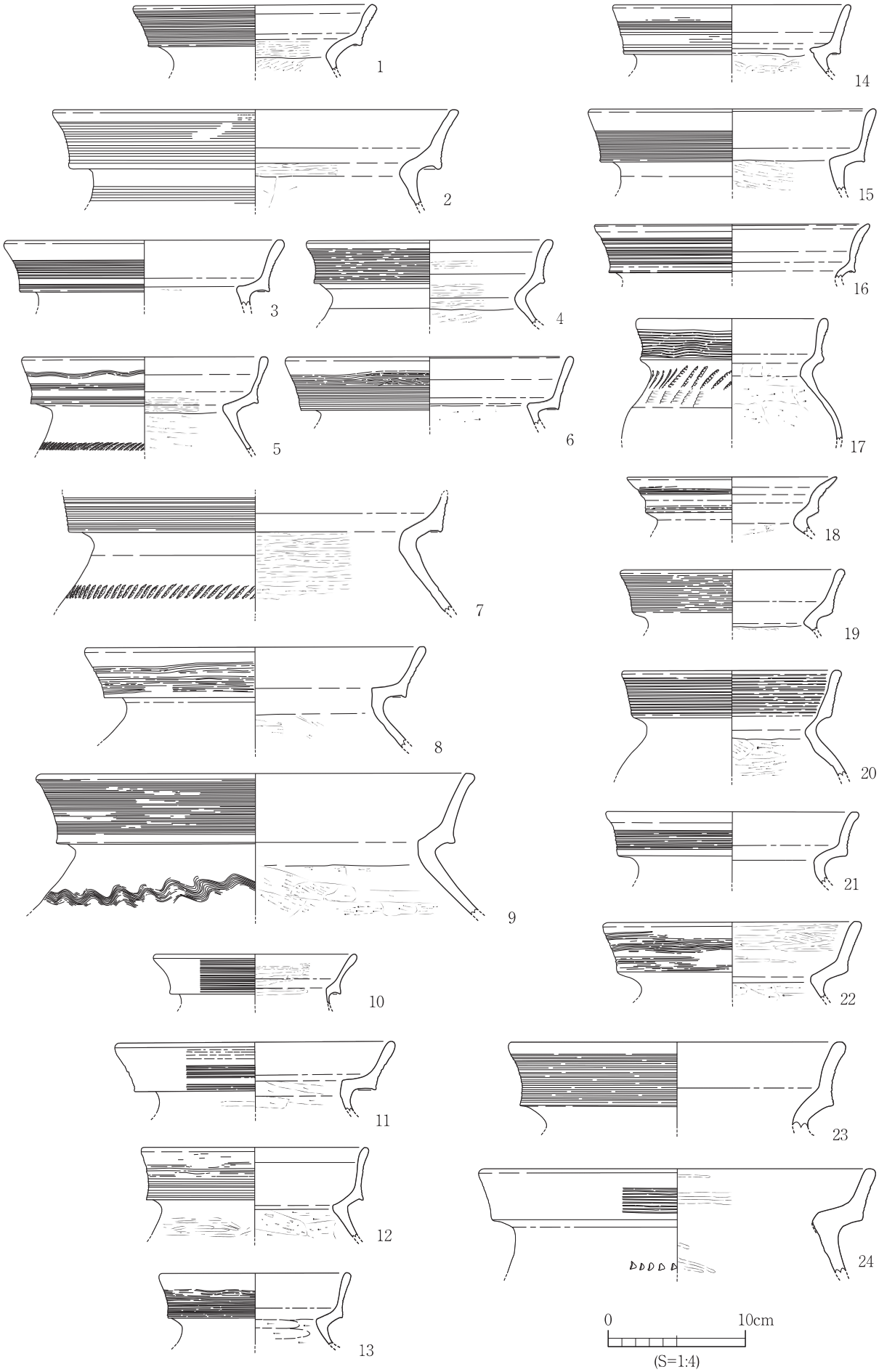
第 54 図 16 ～ 29 は高坏の坏部、第 55 図１～８は高坏の脚部である。第 54 図 16・17 は体部と口縁部の境に段を有し、口縁部が外反するものである。18・19 は段をもたないが口縁部が強く外反するタイプ、20 ～ 29 は口縁部が緩く外反するタイプである。第 55 図１～８は八の字状に大きく



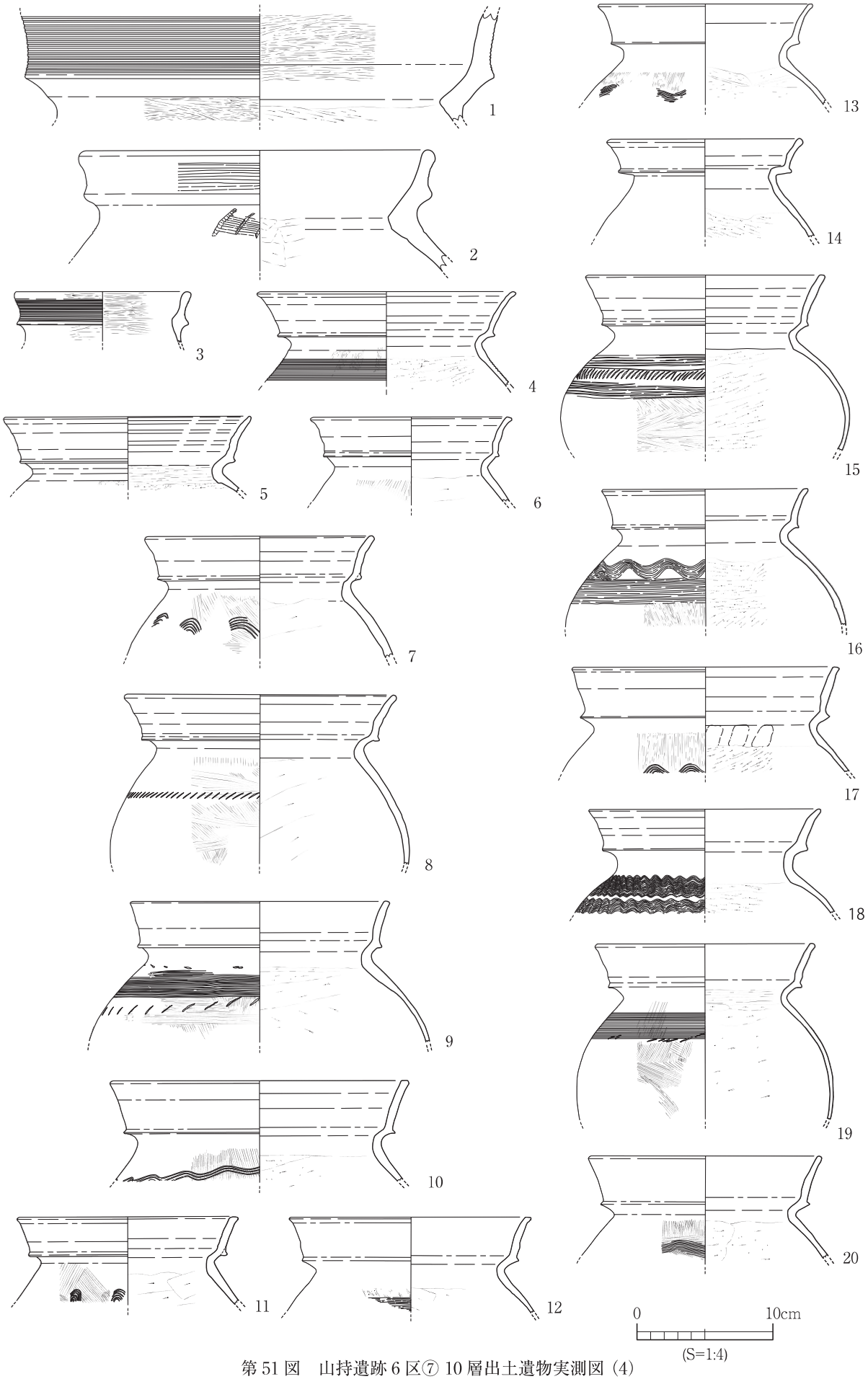
第 48 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（1）



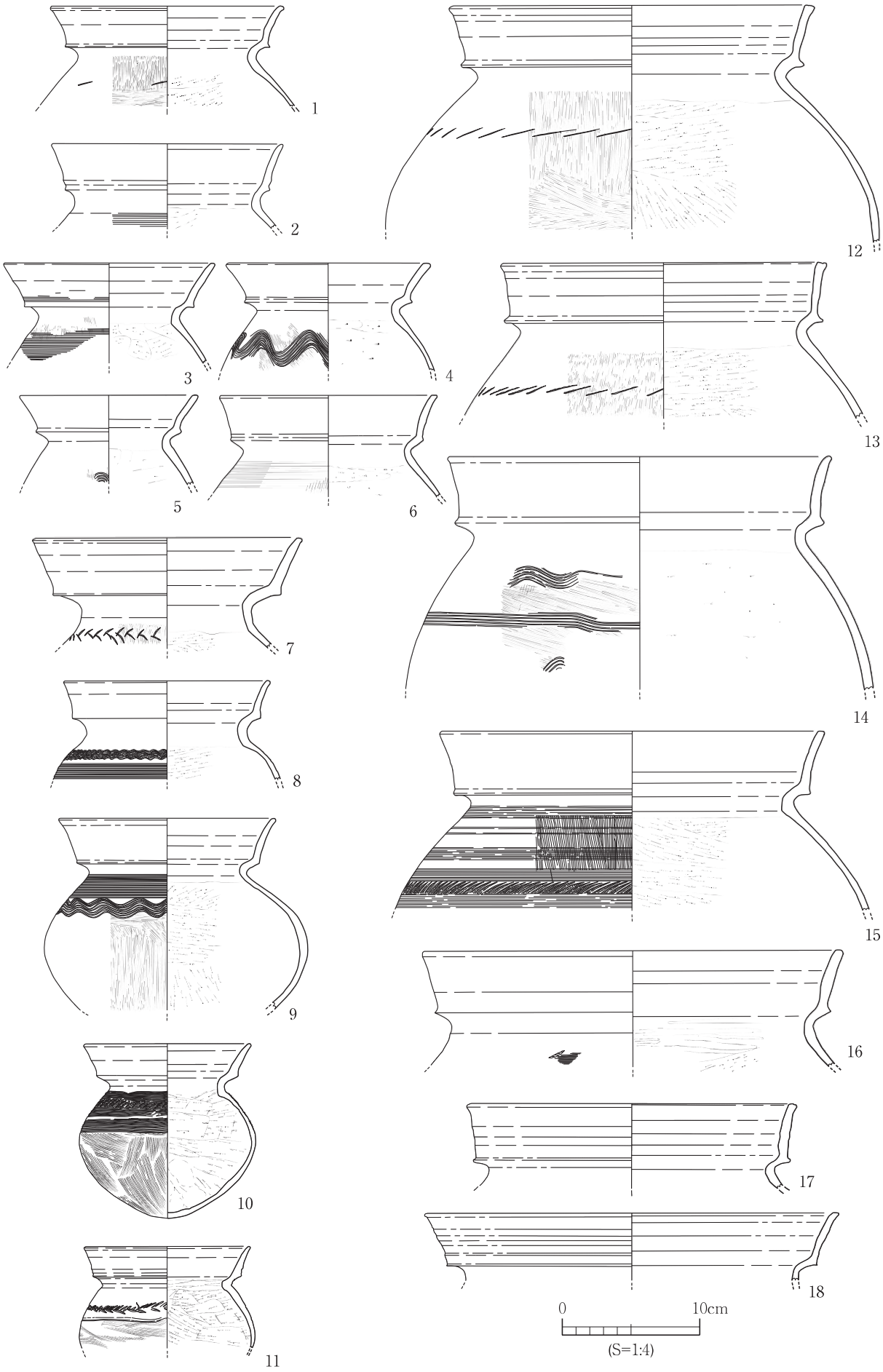
第 49 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（2）



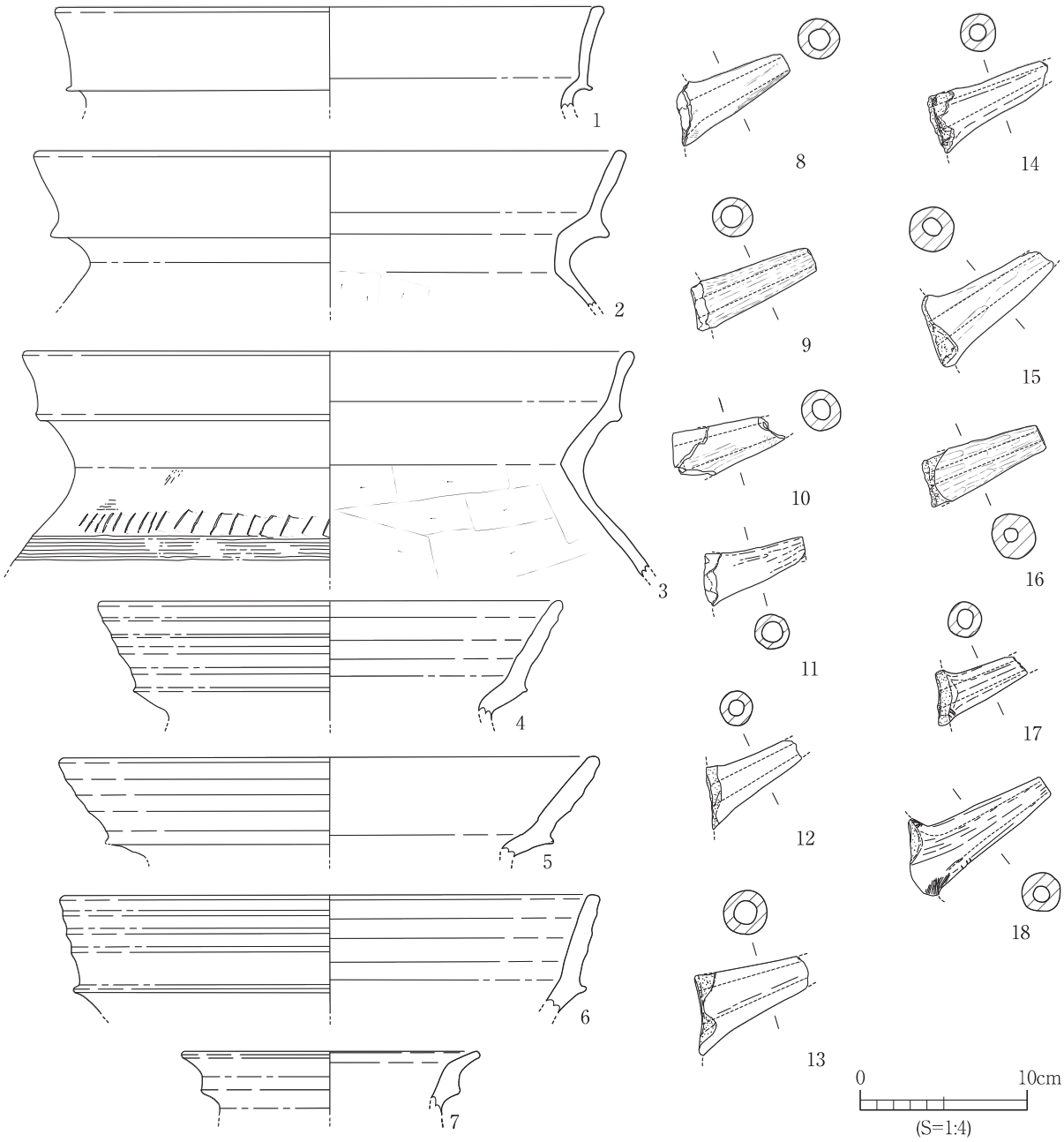
第 50 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（3）



第 51 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（4）



第 52 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（5）



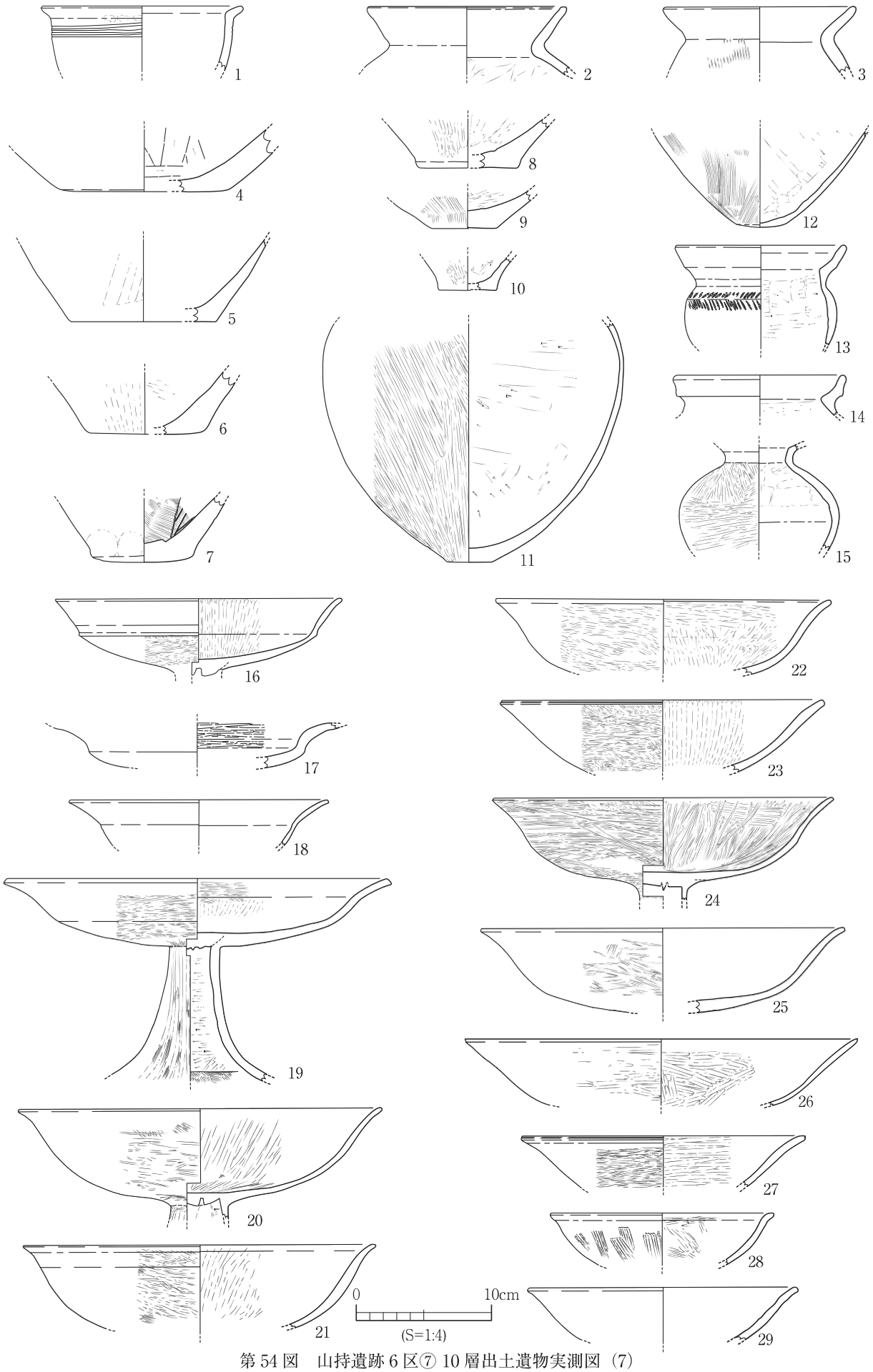
第 53 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（6）

開く脚部で、7 は透かしを施す。9 ～ 22 は低脚坏である。9 は坏部が外方に大きく開く大型のものである。10 は外方に直線的にのびる坏部をもつ。11 ～ 22 は脚部で円孔を穿つものも認められる。

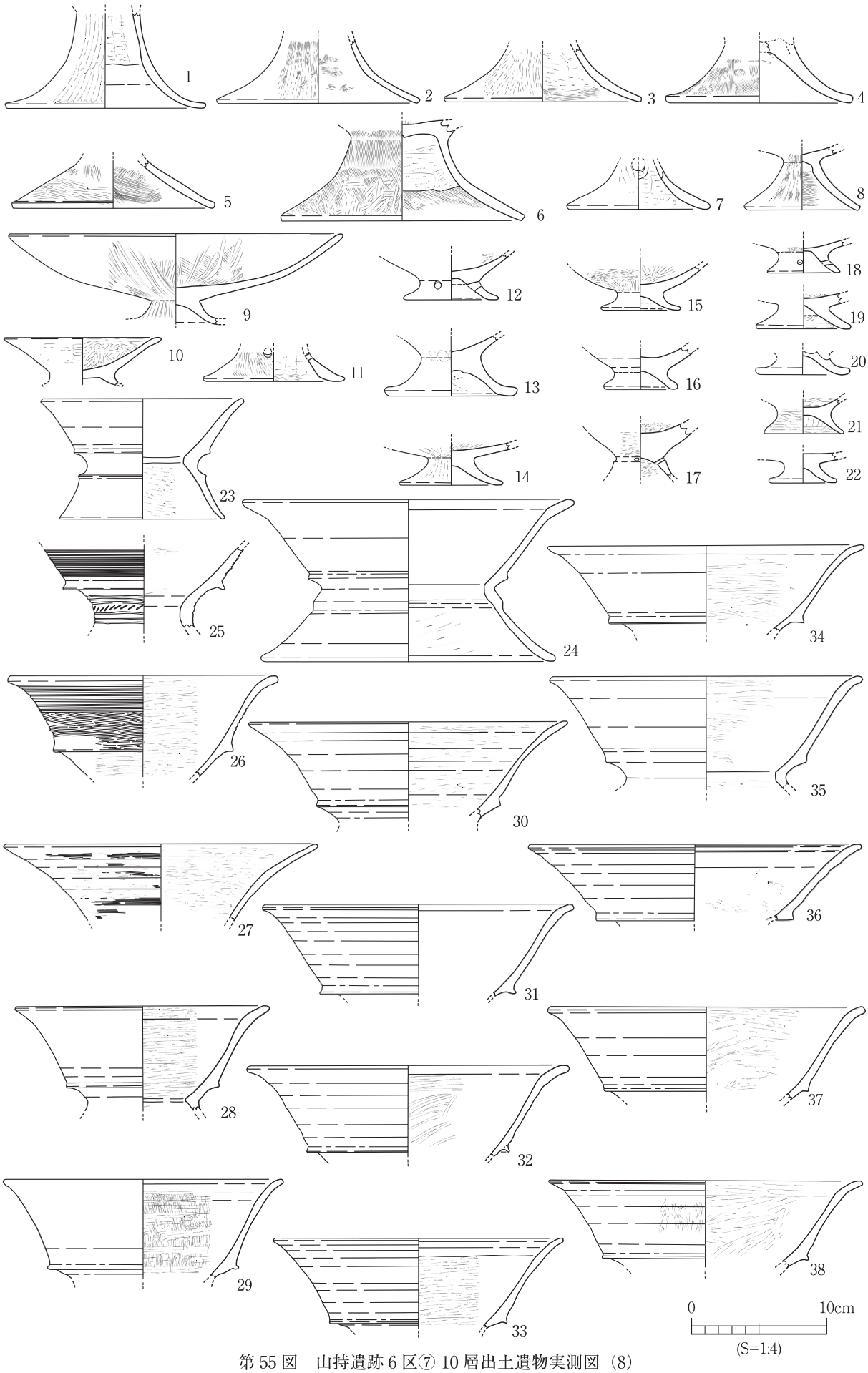
器台（第 55 図 23 ～第 56 図 11）

第 55 図 23・24 は全形のわかるもので、口縁部はヨコナデで仕上げられている。筒部は狭くなっているが、24 の筒部は特に狭く「く」の字状に屈曲している。25 ～ 27 は外面に多条の擬凹線を施すもので、25 は筒部にも平行沈線と刺突文を施している。草田 3 期～ 4 期に属すると思われる。28 ～ 38 は無文の器受部でヨコナデで仕上げられている。第 56 図 1 ～ 8 は脚台部で受部同様にヨコナデで仕上げられている。草田 5 期～ 6 期に属すると考えられる。9・10 は筒部付近のもので 9 は擬凹線が施されている。11 は浅めの坏部と直線的に開く脚部を有し、脚部に円形の透かしが三方向に施された畿内系の小型器台である。

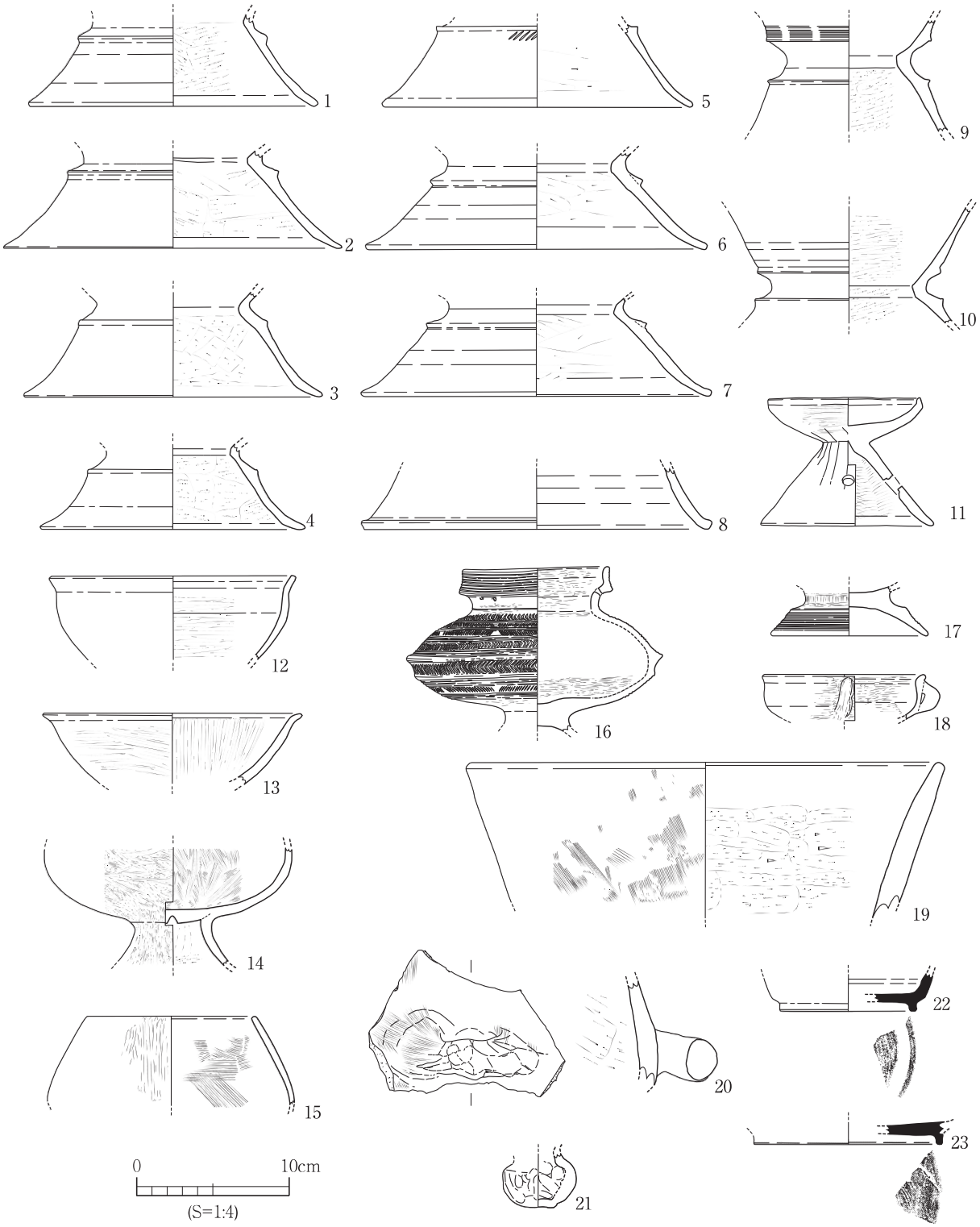
その他の土器（第 56 図 12 ～ 23）



第 54 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（7）

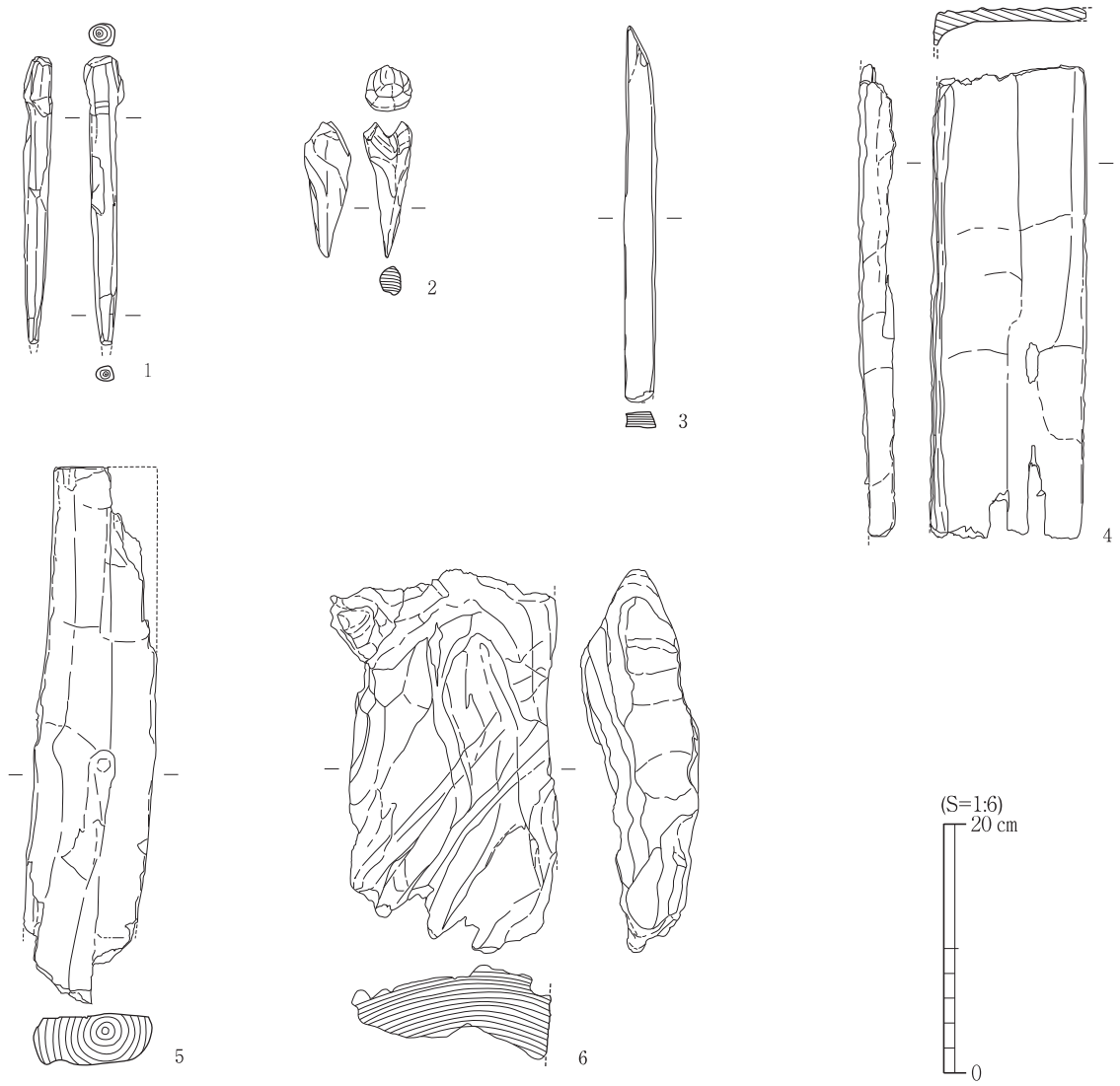


第 55 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（8）



第 56 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（9）

12 ～ 15 は鉢か碗と思われるものである。12・13 は深めの体部から外方に屈曲する口縁部を有する。14 は脚の付くもので体部は丸みをおびている。15 は口縁部が内傾してのびるものである。16・17 は装飾壺である。16 は複合口縁の口縁部を有し、外面に擬凹線を施す。頸部に 2 個一組の小孔が 2 対穿たれている。胴部中央に 2 条の突帯をもち、外面を平行沈線文と刺突文を交互に配している。内外面に赤彩が施されている。17 は脚部で外面に平行沈線文、体部との境にハケ目とヘラ磨き調整を施す。18 は把手付小型碗と思われ、坏部は浅めで外面に把手が 1 箇所付いている。



第 57 図　山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土遺物実測図（10）

内外ともにヘラ磨き調整される。19 は甑、20 は甑形土器の把手である。21 は手捏土器で指頭圧痕が残る。22 は須恵器の高台付坏の底部で、高台は低く、底部外面に回転糸切り痕が残る。23 は須恵器の高台付皿の底部で、外面に回転糸切り痕が残る。

木製品（第 57 図）

1 は杭もしくは棒状木製品で上端部をやや丸く作り、先端部は削って尖らせている。2 は杭の先端部であろうか。3 は板状木製品で一方を斜めに切っている。4 は箱もしくは容器状木製品と思われ、一辺に縁取りが残る。5 はやや分厚いが板状木製品であろうか。6 は表面の磨滅が著しく、用途は不明である。

第5章　総　括

第1節　山持遺跡の変遷

1．検出遺構と遺物の概要

今回の調査では、弥生時代後期中葉段階の河川氾濫による砂礫の堆積層（第12層）、弥生時代後期後半頃の土器群、土坑及びピット群、溝状遺構と同時期の遺物包含層（第10層）、古代の道路遺構の痕跡、中近世の旧河道を検出している。遺物は縄文時代晩期～中世までのものを確認しているが、大半は弥生時代後期後半のものであった。遺構を確認しているのはシルト系堆積層（第11層）の上面であり、遺物同様に弥生時代後期後半頃が中心を占めている。このことは当地の弥生時代後期後半頃には河川による氾濫がほとんどなくなり陸地化になった状態が推測され、この時期から居住域として利用され始めたものと理解される。その後、中世にかけて遺跡の一帯が湿地化する状況が６区①・⑤等の調査で判明しており、近世以降については水田として利用され今日に至っている状況である。

2．弥生時代後期中葉までの様相

第12層の砂礫系堆積層には縄文時代晩期～弥生時代後期中葉までの遺物が包含されている。これらの遺物は各時期のものが混在しており、縄文土器については数量は少ないものの器壁の磨耗が顕著なものが多く、河川氾濫の影響をかなり受けているものと考えられる。弥生土器については縄文土器と比べて遺存状況は良好で、出土数も多く認められ、中心は弥生時代中期後葉～後期中葉である。また、次節で述べる朝鮮半島系楽浪土器もこの砂礫層から出土している。砂礫層の堆積時期については包含層中の最も新しい遺物の時期から弥生時代後期中葉と推定され、今回の調査区を含む６区では、弥生時代後期中葉頃までは斐伊川の堆積作用を強く受ける区域で、砂礫層が厚く堆積する場所であったと考えられる。このような状況から当時の集落跡等は当遺跡から少し離れた地域で営まれていたと推測される。

3．弥生時代後期後半の様相

斐伊川の堆積作用の影響をあまり受けなくなった弥生時代後期後半頃には、砂礫層上面にシルト質細砂が堆積する。基本的にこのシルト層中からは遺物は出土せず、その上層に堆積した黒色土から遺物は出土している。遺構はシルト層上面で検出されており、この時期に安定した地盤が形成され、生活の場として利用可能な状況となったものと推測でき、当集落の成立期はここに求めることができるようである。検出した遺構は土器群、溝状遺構、土坑及びピット群であり、建物跡等の明確な居住域を示す遺構は検出されなかった。今回の調査区である６区⑦の南に隣接する1994年の第二次調査区と東側に隣接する６区⑥から当該期の建物跡が確認されており、特に６区⑥（2012年報告予定）では礎盤を有する布掘建物等の並びが確認されている。湿地という環境の中で竪穴住居は確認されていないが、６区⑥から南側にかけて掘立柱建物等の建築物が立ち並んでいる集落景観が想定される。

4．古墳時代～中世の様相

古墳時代～中世の遺物は少なく、それに伴う遺構も明瞭ではない。調査区内には中近世の旧河道が東西に流れていたことから遺構等も流失したものと推測される。古代の遺構としてはSD01・02

がある。これらは当初、弥生時代の溝と考えていたが、第４章第３節で述べたとおり６区①・③で確認された古代の道路遺構の下部痕跡を示しているものと考えた。また、道路遺構の周辺部は今までの調査で水田域として利用されていたと推測されており、集落の中心域は弥生時代同様に南側で継続していた可能性が高い。今回の調査区では確認していないが、この後この地は、湿地化してオモカス層に覆われるようになる。中近世になると旧河道が流れる地点となり、集落域の中心部は移動した可能性もある。なぜならば旧河道中からは卒塔婆状木製品が１点出土しており、３区や６区③からも大型の卒塔婆状木製品が出土していることからみれば、当地周辺に墓地の存在や、川縁における供養行為が行われていたことも想定され、居住域と言うより祭祀的な場になっていたことも考慮されよう。

第２節　朝鮮半島系楽浪土器の様相と山持遺跡の評価

１．朝鮮半島系楽浪土器の様相

第 12 層の砂礫層から朝鮮半島系楽浪土器と考えられる土器が１点出土した。ほぼ完形の壺で形態等の分かる良好な資料である。その特徴を再度述べると、①直立気味にのびる頸部から外方に屈曲する口縁部を有し、端部に小さい面をつくる。肩部に最大径をもつ。②胎土はきめ細かく、還元焔焼成で軟質の須恵器に近い。③外面はロクロ回転によるナデで仕上げ、胴部下半にヘラ削りの痕跡が認められる。④底部は平らで広く、静止糸切りの後周辺に軽いヘラ削りを施す、といった特徴があげられる。こういった特徴は朝鮮半島系の楽浪土器に認められることから、楽浪土器の可能性が高いと考えた。年代については楽浪郡の存続期間が BC108 年～ AD313 年であること、共伴する弥生土器の年代の下限が弥生時代後期前半であることから、弥生時代中期後半～後期前半と推測され、日本列島でも古い段階のものに位置づけられる。

山陰での楽浪土器の出土例は山持遺跡と当事業予定地内遺跡である青木遺跡、松江市鹿島町沖の日本海から引き揚げられたとされる完形品の壺１点の３例が知られている。山持遺跡では今回の発見例の他に８点確認されており、いずれも６区の砂礫層からの出土である。詳細な形状を窺い知ることはできないが、短頸壺の破片と考えられている。胎土は泥質の砂粒を含まない緻密なもので、焼成は瓦質であるが比較的良好である。外面は縄蓆文タタキの後沈線を施し、内面には同心円もしくは平行の当て具痕を残すが、ナデにより不明瞭となっている。年代については砂礫層出土であることから、弥生時代中期後半～後期前半と推測される。

青木遺跡では壺形土器の破片１点が出土している。胎土は極めて細かい粒子を基調としており、外面に縄蓆文タタキの後、横方向の沈線を引く。内面は丁寧なナデ調整を施している。古墳時代中期を中心とする包含層出土のものであることから詳細な年代については確定されていない。

鹿島町沖引き揚げ例のものは完形品の壺で、口縁部は短く外方にのび、端部は肥厚する。胴部中央に最大径をもつ。調整は風化により不明瞭であるが、外面に横方向のヘラ磨き状の痕跡が認められ、内面はナデ調整で仕上げている。底部は平底であるが、糸切り痕の有無は不明である。年代については寺井誠氏によって石巌里 99 号墳や養洞里３号墳などで出土した壺との類似性から後期後半以降の年代が想定されている（寺井 2007）。

楽浪土器は楽浪郡で製作・使用された土器で、灰色泥質系土器・滑石混入土器・白色土器などが知られており、日本列島で出土する楽浪土器の多くは灰色泥質系土器である。器種は壺形、鉢形、

高坏形、器台、皿などがあるが、日本出土例の大半は壺形、鉢形で占められており、高坏の出土例は確認されていない。楽浪土器の出土例のほとんどは壱岐・対馬を含めた北部九州が主要地域となり、特に長崎県壱岐市原の辻遺跡では約 150 点出土していることから、当時の大陸との交易拠点と考えられている。関門海峡以東の地域では、前述した出雲市山持遺跡・青木遺跡と松江市鹿島町沖の引き揚げ例のみが知られているだけであり、現状では北部九州と島根県東部地域の山持遺跡に集中するという特異な分布状況を示している。また、完形品は北部九州においても長崎県壱岐市カラカミ遺跡出土の壺など数例しか認められず、極めて稀な事例と言え注目される。

２．山持遺跡の評価

山持遺跡では上述した楽浪土器の他に３区から朝鮮系無文土器の勒島式土器７点も出土している。山陰での勒島式土器の出土例は当遺跡の他に出雲市矢野遺跡１点、鳥取市青谷上寺地遺跡２点が知られているだけである。いずれも山陰を代表する拠点集落であり、青谷上寺地遺跡の場合は他地域にはみられない朝鮮半島系鉄器の存在から大陸との直接的な交渉の可能性も想定され、環日本海地域交流における主要な港湾的機能を持った物流拠点集落として位置づけられている（鳥取県埋蔵文化財センター 2006）。山持遺跡には楽浪土器と勒島式土器が集中するという特異性が認められるものの、土器以外の朝鮮半島系遺物は現時点では認められない。しかし、北部九州や西部瀬戸内系の搬入系土器も多数出土していることからみれば、弥生時代後期段階には青谷上寺地遺跡同様に日本海沿岸地域有数の交易拠点的な集落であったと評価することも可能である。また、当遺跡における対朝鮮半島交渉は、直接的に行われたと見るよりも原の辻＝三雲貿易を統括する北部九州集団を介してか、またその強い影響下のもと行われたとする指摘もあり（池淵 2007）、現状ではそう理解するのが妥当であると思われる。

このように北部九州を除く地域で、朝鮮半島系の土器がこれだけ集中して出土する遺跡は他に例がないと思われ、広域な地域間交流については当遺跡の重要な要素の一つと考えられる。外来系土器等の詳細な検討や、山陰での交易的拠点集落の地域差や性格の相違について検討を進め、環日本海地域における山持遺跡の再評価や朝鮮半島交渉等におけるルートの解明が今後の検討課題と言える。

引用・参考文献等

武末純一 1991『土器からみた日韓交渉』学生社

寺井　誠 2007「日本列島出土楽浪系土器についての基礎的研究」『古文化談叢』56

池淵俊一 2007「弥生時代後期の遺構・遺物に関する諸問題」『山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区 Vol. ２』島根県教育委員会

島根県教育委員会 2009『山持遺跡 Vol. ５』

島根県教育委員会 2010『山持遺跡 Vol. ６』

島根県教育委員会 2006『青木遺跡Ⅱ』

出雲市教育委員会 1996『山持川川岸遺跡』

出雲市教育委員会 2010『矢野遺跡』

鳥取県埋蔵文化財センター 2006『青谷上寺地遺跡８』

伊都国歴史博物館 2004『海を越えたメッセージ　伊都国歴史博物館図録１』

島根県教育委員会 2011『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター講演会　掘った、わかった弥生時代の出雲－遺跡が語る文化交流－』

楽浪土器の評価等については武末純一、深澤芳樹、池淵俊一氏らから多くのご教示をいただいた。

第３表　山持遺跡６区⑦出土遺物観察表

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
8	1	12 層	C3	縄文土器	深鉢	破片				外；灰白色～黄灰色 内；黄灰色	2.5Y8/2 ～6/1 2.5Y6/1	2 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部突帯文 内；調整不明
8	2	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；褐灰色 内；褐灰色	7.5YR6/1 10YR6/1	0.5 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕　口縁端部・頸部に煤付着 内；条痕
8	3	12 層	D5	縄文土器	浅鉢	破片				灰色	10Y5/1	微砂粒を含む	良好	外；ナデ 内；ナデ
8	4	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；灰色 内；灰黄褐色	N4/ 10YR6/2	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	5	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；褐灰色 内；褐灰色	10YR6/1 10YR5/1	0.5 ～ 3mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	6	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；褐灰色 内；灰黄褐色	10YR4/1 10YR6/2	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	7	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；灰色 内；褐灰色	N4/ 10YR6/1	1 ～ 1.5mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	8	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；褐灰色 内；黄灰色	10YR6/1 2.5YR6/1	1 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	9	12 層	D3	縄文土器	深鉢	破片				外；黄灰色 内；褐灰色	2.5Y5/1 10YR6/1	1 ～ 6mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
8	10	12 層	不明	縄文土器	深鉢	破片				外；褐灰色 内；黄灰色	10YR5/1 2.5Y6/1	1 ～ 4mm　砂粒を少量含む	良好	外；条痕 内；条痕
9	1	12 層	廃土	弥生土器	壺	1/6 以下	(14.8)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	1.5mm　砂粒を少量含む	良好	外；頸部１条ヘラ描沈線文 Ⅰ様式
9	2	12 層	E4	弥生土器	壺	1/2 以下	(26.3)			灰黄色	2.5Y7/2	1 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部格子文　頸部 15 条クシ描沈線文・刺突文 Ⅱ様式
9	3	12 層	D4	弥生土器	広口壺	小片	(33.4)			灰黄褐色	10YR5/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部刻目文 Ⅲ様式
9	4	12 層	C2	弥生土器	壺	1/4 以下	(18.6)			外；灰黄色 内；黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部４条凹線文　頸部２条以上凹線文 Ⅳ様式
9	5	12 層	D5	弥生土器	壺	1/6 以上	(12.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部４条凹線文 Ⅳ様式
9	6	12 層	C2	弥生土器	壺	1/4 以下	(11.2)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR7/3	1mm　砂粒を　多く含む	良好	外；口縁部３条凹線文　頸部１条沈線文・刺突文 Ⅴ様式
9	7	12 層	E4	弥生土器	甕	1/6 以上	(15.2)			外；褐灰色 内；灰黄褐色	10YR5/1 10YR6/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；頸部４条ヘラ描沈線文 Ⅰ様式
9	8	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(27.0)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	外；口縁部刻目文のち２条凹線文・円形浮文　頸部指頭圧痕文帯 Ⅲ様式
9	9	12 層	D3	弥生土器	甕	小片	(23.6)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を少量含む	良好	Ⅲ様式
9	10	12 層	D4	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.6)			外；黄灰色 内；灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	Ⅲ様式
9	11	12 層	E5	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.4)			灰白色	10YR8/1	0.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	Ⅲ様式
9	12	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(17.9)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	Ⅲ様式
9	13	12 層	E5	弥生土器	甕	1/8 以下	(28.1)			外；暗灰黄色 内；黄灰色	2.5Y4/2 2.5Y5/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	Ⅲ様式
9	14	12 層	E4	弥生土器	甕	小片	(20.2)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/2	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁端部１条沈線文 Ⅲ様式
9	15	12 層	廃土	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.6)			外；明褐灰色 内；灰黄色	7.5YR7/2 2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を微量含む	良好	外；口縁端部１条沈線文 Ⅲ様式
9	16	12 層	D4	弥生土器	甕	1/8 以下	(33.0)			灰黄褐色	10YR5/2	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	Ⅲ様式
9	17	12 層	D4	弥生土器	甕	小片	(14.0)			外；橙色 内；にぶい橙色	7.5YR6/6 7.5YR7/4	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部１条凹線文のち刺突文　頸部煤付着 Ⅳ様式
9	18	12 層	D5	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.7)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	0.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	Ⅳ様式
9	19	12 層	E4	弥生土器	甕	小片	(16.0)			灰白色	10YR8/1	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	Ⅳ様式
9	20	12 層	D3	弥生土器	甕	1/8 以下	(15.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	Ⅳ様式
9	21	12 層	E4	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.6)			にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	Ⅳ様式
9	22	12 層	D4	弥生土器	甕	小片	(20.3)			橙色～褐灰色	2.5YR6/6 ～10YR4/1	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部２条凹線文 Ⅳ様式

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
9	23	12 層	廃土	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.0)			浅黄色	2.5Y7/3	0.5mm 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅳ様式
9	24	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(19.6)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 10YR8/2	1.5mm 以下 砂粒を 非常に多く含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅳ様式
9	25	12 層	D3	弥生土器	甕	小片	(24.5)			外；淡黄色 内；灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	1mm 以下 砂粒を 非常に多く含む	良好	Ⅳ様式
9	26	12 層	E5	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.0)			灰白色	10YR8/2	1mm 以下 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅳ様式
9	27	12 層	E5	弥生土器	甕	1/8 以下	17.0			淡赤橙色	2.5YR7/3	3mm 以下 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 Ⅳ様式
10	1	12 層	D4	弥生土器	甕	1/6 以下	(22.6)			外；灰黄褐色 内；灰褐色	10YR6/2 7.5YR5/2	1 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条浅い凹線文 Ⅳ様式
10	2	12 層	C3	弥生土器	甕	1/6 以下	(26.6)			灰白色	2.5Y8/2	1 ～ 3mm 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 煤付着 Ⅳ様式
10	3	12 層	D3	弥生土器	甕	1/8 以下	(19.6)			橙色	5YR7/6	1mm 砂粒を 多く 含む	良好	器面に鉄分が付着 Ⅳ様式
10	4	12 層	D3	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅳ様式
10	5	12 層	E4	弥生土器	甕	小片	(16.9)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1.5mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 煤付着 Ⅳ様式
10	6	12 層	D2	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.9)			外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	1mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 煤付着 Ⅳ様式
10	7	12 層	E4	弥生土器	甕	1/8 以下	(10.3)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	0.5mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅳ様式
10	8	12 層	D4	弥生土器	甕	小片	(16.8)			浅黄橙色	10YR8/3	1mm 以下 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅳ様式
10	9	12 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(23.8)			外；淡黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/3 10YR7/4	0.5mm 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅳ様式
10	10	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(19.8)			外；灰褐色 内；にぶい橙色	7.5YR6/2 7.5YR7/4	0.5mm 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文のち刺突文 Ⅳ様式
10	11	12 層	C4	弥生土器	甕	1/8 以下	(17.2)			にぶい黄橙色	10YR7/2	0.5mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 Ⅳ様式
10	12	12 層	F5	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.4)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	1mm 以下 砂粒を 含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 Ⅳ様式
10	13	12 層	D5	弥生土器	甕	小片	(15.8)			浅黄橙色	10YR8/3	1mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅳ様式
10	14	12 層	D1	弥生土器	甕	1/8 以下	18.8			黄灰色	2.5Y6/1	1mm 以下 砂粒を 含む	良好	外；口縁部 6 条凹線文 Ⅳ様式
10	15	12 層	D4	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.2)			外；淡黄色～灰白色 内；灰白色	5Y8/3 ～ 2.5Y8/1 2.5Y8/2	1mm 砂粒を 多く 含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 煤付着 Ⅳ様式
10	16	12 層	E5	弥生土器	甕	1/6 以下	(19.4)			外；灰黄褐色 内；にぶい黄橙色	10YR6/2 10YR7/2	0.5 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条浅い凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	17	12 層	E5	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.4)			灰白色	2.5Y8/2	0.5 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 頸部 刺突文 煤付着 Ⅴ様式
10	18	12 層	E5	弥生土器	甕	1/4 以下	(13.8)			外；にぶい橙色 内；にぶい黄橙色～ にぶい褐色	7.5YR7/4 10YR7/3 ～ 7.5YR6/3	2mm 以下 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 Ⅴ様式
10	19	12 層	E4	弥生土器	甕	1/6 以下	(22.8)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅴ様式
10	20	12 層	D5	弥生土器	甕	小片	(19.2)			灰黄色	2.5Y7/2	1 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 Ⅴ様式
10	21	12 層	D2	弥生土器	甕	小片	(15.5)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/4 10YR7/3	1 ～ 1.5mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	22	12 層	D2	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.2)			外；浅黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/4 10YR7/3	2mm 以下 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅴ様式
10	23	12 層	廃土	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.8)			灰白色	10YR8/2	0.5 ～ 3mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 2 条凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	24	12 層	C2	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.7)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/2 10YR7/2	1.5mm 以下 砂粒を 微量含む	良好	外；口縁部 4 条擬凹線文 内；煤付着 Ⅴ様式
10	25	12 層	D3	弥生土器	甕	小片	(14.8)			浅黄色	2.5Y7/3	1mm 以下 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 4 条凹線文 Ⅴ様式
10	26	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(16.4)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5 ～ 1mm 砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	27	12 層	E5	弥生土器	甕	1/8 以下	(14.0)			外；灰黄色 内；黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y5/1	0.5 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 4 条浅い凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	28	12 層	C4	弥生土器	甕	1/4 以下	(12.8)			外；にぶい橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR6/4 10YR7/3	1 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；頸部～肩部 2 条凹線文、羽状文 煤付着 Ⅴ様式
10	29	12 層	E2	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 2mm 砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文 煤付着 Ⅴ様式
10	30	12 層	D5	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5mm 砂粒を 少量含む	良好	外；煤付着 Ⅴ様式

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
11	1	12 層	廃土	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.5)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1mm　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 3 条凹線文 煤付着　　V 様式
11	2	12 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.0)			外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/4 10YR7/4	0.5mm　　砂粒を 少量含む	良好	外：煤付着 V 様式
11	3	12 層	D4	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.8)			外：にぶい橙色～黒色 内：にぶい橙色	7.5YR7/4～ 10YR2/1 7.5YR7/4	0.5 ～ 1mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 3 条凹線文　肩部 刺突文　煤付着 V 様式
11	4	12 層	D4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.6)			にぶい黄橙色	10YR8/3	1 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 6 条凹線文 煤付着　　V 様式
11	5	12 層	E4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.0)			外：黒色 内：にぶい黄橙色	10YR2/1 10YR6/3	1 ～ 2mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 9 ～ 10 条凹線文 煤付着 内：黒色の付着物　　V 様式
11	6	12 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.7)			外：にぶい褐色 内：にぶい黄橙色	7.5YR5/4 10YR6/3	1 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 2 条凹線文 煤付着　　V 様式
11	7	12 層	D4	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.6)			外：にぶい黄橙色 内：浅黄色	10YR7/3 2.5Y7/3	0.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 3 ～ 4 条凹線文 頸部刺突文　煤付着 V 様式
11	8	12 層	D3	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.0)			外：黒色 内：にぶい黄橙色	10YR2/1 10YR6/4	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 5 条以上擬凹線文 のち一部ナデ消し V 様式
11	9	12 層	E5	弥生土器	甕	小片	(22.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 2mm　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 3 条凹線文　頸部 刺突文　煤付着
11	10	12 層	D4	弥生土器	甕	1/8 以下	(17.0)			外：黒色 内：浅黄色	2.5Y2/1 2.5Y7/3	0.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 4 条凹線文 煤付着　　V 様式
11	11	12 層	E4	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.2)			外：黒褐色 内：灰白色	10YR3/1 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 7 条擬凹線文 煤付着　　V 様式
11	12	12 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.1)			にぶい橙色	7.5YR7/4	1 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 4 条凹線文 V 様式
11	13	12 層	E4	弥生土器	甕	1/4 以下	(13.8)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1.5mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部 4 条凹線文　頸部 刺突文　煤付着 V 様式
11	14	12 層	廃土	弥生土器	甕	小片	(14.9)			外：黒色 内：にぶい黄橙色	10YR2/1 10YR7/3	1 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部 3 条凹線文 煤付着　　V 様式
11	15	12 層	C2	弥生土器	高坏	1/8 以下	(21.8)			外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y8/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：口縁部刺突文・4 条凹線 文　　Ⅳ様式
11	16	12 層	E4	弥生土器	高坏	1/6 以下	(16.8)			外：灰黄色 内：黄灰色	2.5Y6/2 2.5Y5/1	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外：口縁部 1 条凹線文 Ⅳ様式
11	17	12 層	E5	弥生土器	高坏	1/8 以下	(20.0)			灰黄褐色	10YR6/2	0.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部凹線文 内外：赤彩（赤色 10R4/6） V 様式
11	18	12 層	E5	弥生土器	高坏	1/6 以下			(13.2)	にぶい黄橙色	10YR7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を 少量含む	良好	外：6 条凹線文　円形透孔 赤彩（赤色 10R5/8） Ⅳ様式
11	19	12 層	C2	弥生土器	高坏	小片				外：にぶい黄橙色 内：明黄褐色	10YR7/4 10YR6/6	1.5mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：断面三角形状突帯、4 条 平行沈線文 内：絞り痕　　Ⅳ様式
11	20	12 層	E5	弥生土器	鉢	小片	(19.6)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1 ～ 3mm　砂粒を 少量含む	良好	外：口縁部刻目文・12 条以 上クシ描沈線文 Ⅱ様式
11	21	12 層	E3	弥生土器	鉢	小片	(17.4)			灰白色	10YR8/2	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	Ⅲ様式
11	22	12 層	D4	楽浪土器	壺	ほぼ 完形	9.8	17.7	11.6	灰色	7.5Y6/1	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	外：肩部タタキのち回転ナデ 胴部～底部手持ちヘラケ ズリ　底部静止糸切りの ちヘラケズリ 朝鮮半島系
13	1		土器群 1	弥生土器	甕	完形	15.5	28.8	3.2	外：灰白色 内：浅黄橙色	2.5Y8/2 10YR8/3	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	外：肩部 4 条波状文
13	2		土器群 1	弥生土器	甕	3/4 以上	13.0			外：淡黄色 内：灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：肩部 6 ～ 7 条 3 段平行沈 線文　煤付着
13	3		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	14.8			外：灰白色 内：淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：肩部 6 ～ 7 条 3 段平行沈 線文　煤付着
13	4		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	14.6			浅黄橙色	7.5YR8/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	やや 不良	外：肩部 7 条平行沈線文・刺 突文
13	5		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	14.1			外：浅黄橙色 内：浅黄橙色	7.5YR8/4 10YR8/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	やや 不良	外：肩部 7 ～ 8 条平行沈線文・ 刺突文
13	6		土器群 1	弥生土器	甕	1/6 以上	(17.0)			外：灰白色 内：灰白色	5Y8/2 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外：肩部 9 条・8 条以上 2 段 平行沈線文・刺突文 煤付着
13	7		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	16.2			外：灰白色 内：灰白色	5Y8/1 2.5Y8/2	2mm　砂粒を 多く含む	良好	外：肩部 26 条以上平行沈線 文　煤付着

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
13	8		土器群 1	弥生土器	甕	完形	15.1	15.4	3.7	外；淡黄色～黒色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/3 ～ 2.5Y2/1 10YR7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 8 条 2 段平行沈線文の間に刺突文　煤付着
13	9		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	(15.6)			灰白色	2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 8 条波状文・6 条平行沈線文
13	10		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	14.8			外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 10 条 3 段平行沈線文の間に刺突文　煤付着
13	11		土器群 1	弥生土器	甕	1/3 以下	15.0			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 6 ～ 7 条 2 段平行沈線文の間に刺突文
14	1		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	(16.2)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 5 条波状文・6 条平行沈線文
14	2		土器群 1	弥生土器	甕	1/3 以下	(16.6)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部刺突文
14	3		土器群 1	弥生土器	甕	1/2 以下	(18.0)			灰白色	2.5Y8/2	5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
14	4		土器群 1	弥生土器	甕	1/3 以下	(15.8)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 17 条以上平行沈線文　煤付着
14	5		土器群 1	弥生土器	甕	1/8 以下	(21.8)			灰白色	10YR8/2	1mm　砂粒を　含む	良好	外：肩部 4 条平行沈線文 煤付着 内：煤付着
14	6		土器群 1	弥生土器	甕	1/3 以下	(21.5)			外；浅黄橙色 内；灰白色	7.5YR8/3 7.5YR8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
14	7		土器群 1	弥生土器	注口土器	1/2 以下	15.6			外；淡黄色 内；黄灰色	2.5Y8/3 2.5Y5/1	2mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	外：肩部 3 条以上 2 段平行沈線文の間に刺突文か
14	8		土器群 1	弥生土器	低脚坏	ほぼ完形	22.1	6.9	6.9	灰白色	10YR8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外：口縁端部凹線状にわずかにくぼむ
14	9		土器群 1	弥生土器	低脚坏	1/4 以下	(24.0)			外；淡黄橙色 内；淡黄色	10YR8/3 2.5Y8/3	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
14	10		土器群 1	弥生土器	低脚坏	1/2 以上				外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
14	11		土器群 1	弥生土器	低脚坏	ほぼ完形	14.3	5.1	5.8	浅黄色～黄灰色	2.5Y7/3 ～ 2.5Y4/1	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	
14	12		土器群 1	弥生土器	低脚坏	完形	12.1	4.8	5.3	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色 ～にぶい橙色	10YR7/2 2.5Y6/3 ～ 7.5YR7/4	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	
14	13		土器群 1	弥生土器	鼓形器台	ほぼ完形	24.1	13.5	19.5	灰白色～橙色	2.5Y8/2 ～ 5YR7/6	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	
14	14		土器群 1	弥生土器	鼓形器台	1/2 以上	(22.1)	12.8	(20.6)	外；灰白色 内；灰白色	5 Y 7 / 1 ～ 7/2 5Y7/1 ～ 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
14	15		土器群 1	弥生土器	鼓形器台	1/8 以下	(19.0)			外：灰白色 内：にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を大量含む	良好	
16	1		土器群 2	弥生土器	甕	2/3 以下	(17.4)			外：灰黄色 内：浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 6 ～ 7 条平行沈線文
16	2		土器群 2	弥生土器	甕	1/4 以下	(12.4)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	
16	3		土器群 2	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.0)			外：にぶい黄橙色 内：灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	外：煤付着
16	4		土器群 2	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.2)			外：灰白色 内：淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	
16	5		土器群 2	弥生土器	小型丸底壺	体部ほぼ完形				外：浅黄橙色 内：明褐灰色	7.5YR8/4 5YR7/2	1mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	
18	1		土器群 3	弥生土器	壺	1/4 以下	(21.4)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：頸部刺突文
18	2		土器群 3	弥生土器	甕	1/8 以下	(22.4)			外：黒色 内：にぶい黄橙色	N2/ 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	内外面煤付着
18	3		土器群 3	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.2)			外：灰白色 内：にぶい黄橙色	2.5Y8/2 10YR7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 11 条以上波状文
18	4		土器群 3	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.4)			外：黒色 内：灰白色	2.5Y8/2 2.5Y2/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：煤付着
18	5		土器群 3	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.1)			外：暗灰色 内：淡黄色	N3/ 2.5Y8/3	0.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：煤付着
18	6		土器群 3	弥生土器	甕	1/8 以下	(19.4)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：煤付着
18	7		土器群 3	弥生土器	甕	1/6 以下	(21.6)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
18	8		土器群 3	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.8)			外：黒色 内：灰白色	2.5Y2/1 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：煤付着
18	9		土器群 3	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.4)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
18	10		土器群 3	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.0)			外；浅黄橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR8/4 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
18	11		土器群 3	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.4)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR7/1 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	やや 不良	
18	12		土器群 3	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.4)			外；黄灰色 内；灰白色	2.5Y6/1 2.5Y8/2	0.5mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
18	13		土器群 3	弥生土器	高坏か 低脚坏	1/3 以下	(23.6)			外；灰黄色 内；浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
18	14		土器群 3	弥生土器	鼓形器台	1/8 以上	(22.0)			外；淡黄色 内；灰黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
18	15		土器群 3	弥生土器	鼓形器台	1/8 以上	(23.8)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y7/1	1.5 mm以下　砂粒を わずかに含む	良好	
18	16		土器群 3	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下			(26.0)	外；灰色～灰白色 内；灰白色	N4/ ～ 7.5Y8/1 2.5Y8/2 ～ 7.5Y7/1	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
20	1		土器群 4	弥生土器	壺	1/2 以下	(15.4)			浅黄橙色	10YR8/3	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部平行沈線文のち刺突文
20	2		土器群 4	弥生土器	壺	1/4 以下	(12.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；頸部竹管文・4 条以上平行沈線文
20	3		土器群 4	弥生土器	壺	1/4 以上	10.6			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 2 段 6 条平行沈線文の間に刺突文
20	4		土器群 4	弥生土器	甕	1/2 以上	18.0			灰白色～黄灰色	2.5Y8/2 ～ 2.5Y5/1	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 2 段 16・10 条平行沈線文　2 段ヘラ状工具による刺突文
20	5		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.8)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 29 条以上平行沈線文のちヘラ状工具による刺突文
20	6		土器群 4	弥生土器	甕	2/3 以下	(19.6)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 18 条以上平行沈線文のち 2 段ヘラ状工具による刺突文　煤付着
20	7		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.0)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 12 条以上平行沈線文のち 6 条波状文 煤付着
20	8		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(20.4)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 14 条平行沈線文のちクシ状工具による刺突文
20	9		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(18.0)			淡黄色	2.5Y8/3	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；口縁部擬凹線文　肩部平行沈線文・波状文の痕跡あり　煤付着
20	10		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.8)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/1	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 12 条平行沈線文 煤付着
20	11		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以上	(19.4)			外；灰白色 内；浅黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/3	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 20 条平行沈線文
20	12		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.6)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	やや 不良	外；肩部 9 条以上平行沈線文
20	13		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(19.7)			にぶい黄橙色	10YR7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 16 条以上平行沈線文
20	14		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以上	(17.0)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 11 条・4 条以上平行沈線文　煤付着
20	15		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部平行沈線文の痕跡あり
20	16		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以上	(15.0)			淡黄色	2.5Y8/3	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 11 条以上平行沈線文　煤付着
20	17		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.4)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 5 条平行沈線文のち 5 条波状文
21	1		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.4)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部平行沈線文か
21	2		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(17.0)			灰白色	2.5Y8/2	2.5 mm以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 14 条平行沈線文 胴部 7 条以上平行沈線文
21	3		土器群 4	弥生土器	甕	1/2 以下	14.2			外；灰白色 内；浅黄橙色	10YR8/2 10YR8/3	3mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；口縁部一部 7 条波状文 肩部 24 条平行沈線文のち 2 段ヘラ状工具による刺突文
21	4		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以上	(15.8)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 7.5YR8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 2 段 4 条・10 条平行沈線文のち 2 段ヘラ状工具による刺突文 煤付着
21	5		土器群 4	弥生土器	甕	1/2 以下	(15.8)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 12 条平行沈線文 クシ状工具による刺突文
21	6		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以上	(16.0)			外；灰黄色 内；浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 2 段 5 条平行沈線文のち 5 条波状文

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
21	7		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以上	(18.0)			外；淡黄色 内；浅黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 11 条平行沈線文
21	8		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.1)			外；にぶい橙色～灰色 内；灰黄色	7.5YR7/4 ～ 7.5Y4/1 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部刺突文
21	9		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以下	(15.0)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 4 条以上平行沈線文
21	10		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(20.2)			外；黄灰色 内；灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 5 条以上平行沈線文 煤付着
21	11		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(14.7)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	12		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.8)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部波状文
21	13		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(12.9)			外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部羽状文
21	14		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.3)			外；灰黄褐色 内；灰黄色	10YR6/2 2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 6 条平行沈線文・刺突文　煤付着
21	15		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以上	(13.4)			外；灰黄色 内；浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 8 条平行沈線文・刺突文　煤付着
21	16		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.2)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 7 条平行沈線文 煤付着
21	17		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(21.0)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	摩滅のため不明
21	18		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.0)			灰白色	2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 10 条平行沈線文 胴部クシ状工具による刺突文 内；頸部　ヘラ状工具による刺突文
21	19		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(18.4)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部　平行沈線文の痕跡あり
21	20		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(13.5)			外；灰黄色～黒褐色 内；にぶい黄灰色	2.5Y7/2 ～ 10YR3/1 10YR7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	21		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以下	(15.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 9 条平行沈線文のちヘラ状工具による刺突文
21	22		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以上	(15.0)			外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；肩部 10 条以上平行沈線文
21	23		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.3)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	24		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(18.0)			外；灰黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/2 10YR6/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	25		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.4)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	26		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	27		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以上	(14.2)			外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	28		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以上	(17.0)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
21	29		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.6)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	30		土器群 4	弥生土器	甕	1/3 以上	(18.1)			外；灰黄褐色 内；灰黄褐色	10YR6/2 10YR5/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
21	31		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.8)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 10YR8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	32		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
21	33		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.0)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
22	1		土器群 4	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.1)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
22	2		土器群 4	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
22	3		土器群 4	弥生土器	甕	1/8 以上	(31.0)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 含む	良好	
22	4		土器群 4	弥生土器	甕	小片	(30.2)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
22	5		土器群 4	弥生土器	甕	小片	(20.4)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/2 10YR7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
22	6		土器群 4	弥生土器	甕	小片	(21.0)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
22	7		土器群 4	弥生土器	高坏	2/3 以上	28.0			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
22	8		土器群 4	弥生土器	高坏	小片	(27.6)			外；黒褐色 内；灰黄色	2.5Y3/1 2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	9		土器群 4	弥生土器	高坏	1/6 以下	(20.6)			外；灰黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
22	10		土器群 4	弥生土器	高坏	1/8 以上	(23.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	11		土器群 4	弥生土器	高坏	ほぼ 完形			15.4	外；灰白色 内；灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/1	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	12		土器群 4	弥生土器	低脚坏	1/2 以下	(19.0)	11.0	(13.0)	灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	13		土器群 4	弥生土器	低脚坏	1/2 以上	19.5			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	14		土器群 4	弥生土器	低脚坏	3/4 以下	(16.0)	(11.0)	(11.2)	外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/2 ～ 2.5Y8/1	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	15		土器群 4	弥生土器	低脚坏	1/2 以下			(9.2)	外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 2.5Y8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	16		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(21.6)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；磨滅のため不明
22	17		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(25.0)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	18		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/6 以上	(22.8)			外；浅黄橙色 内；灰白色	10YR8/3 10YR8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	不良	
22	19		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	小片	(23.2)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	20		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下				外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	21		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下				灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	22		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下				灰白色	2.5Y8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	23		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	1/8 以下			(19.6)	外；にぶい黄橙色 内；灰黄褐色	10YR7/2 10YR6/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
22	24		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	小片			(21.6)	外；にぶい橙色 内；灰色	5YR7/4 5Y5/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
22	25		土器群 4	弥生土器	鼓形器台	小片			(28.4)	外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
24	1		土器群 5	弥生土器	甕	小片	(20.4)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
24	2		土器群 5	弥生土器	高坏	小片	(20.4)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
24	3		土器群 5	弥生土器	高坏	1/8 以下	(15.8)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
24	4		土器群 5	弥生土器	低脚坏	1/2 以下				灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
24	5		土器群 5	弥生土器	鼓形器台	1/8 以下	(17.8)			浅黄橙色～褐灰色	10YR8/3 ～ 10YR4/1	0.5 ～ 1mm 以下 砂粒を　少量含む	良好	外；煤付着
24	6		土器群 5	弥生土器	甑形土器	1/8 以下	(22.4)			外；灰白色 内；黄灰色	10YR8/2 2.5Y6/1	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
26	1		土器群 6	弥生土器	甕	3/4 以下	(20.8)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y6/2 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 18 条平行沈線文・刺突文　煤付着
26	2		土器群 6	弥生土器	甕	1/6 以下	(21.0)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 15 条平行沈線文・刺突文
26	3		土器群 6	弥生土器	甕	1/6 以下	(21.2)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5 ～ 1mm 以下　砂粒を　多く含む	良好	外；肩部刺突文
26	4		土器群 6	弥生土器	甕	1/6 以下	(27.2)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/1 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部刺突文
26	5		土器群 6	弥生土器	甕	1/2 以上	(15.9)			灰白色	2.5Y8/1	2mm 以下　砂粒を多く含む	やや 不良	外；肩部 10 条平行沈線文・刺突文　煤付着
26	6		土器群 6	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.0)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5 Y 7/2 2.5 Y 8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 9 条以上平行沈線文のち 8 条以上波状文
26	7		土器群 6	弥生土器	注口土器	1/4 以下	(14.4)			外；灰黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/2 10YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：頸部平行沈線文　肩部 2 段刺突文・9 条平行沈線文
26	8		土器群 6	弥生土器	高坏	1/2 以下	(26.3)			外；灰黄色 内；灰黄褐色	10YR7/2 10YR4/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	内；脚部との接合面にハケ目あり
26	9		土器群 6	弥生土器	高坏	小片	(22.0)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄褐色	10YR7/2 10YR5/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
26	10		土器群 6	弥生土器	高坏	小片	(25.2)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
26	11		土器群 6	弥生土器	低脚坏	1/2 以上	(4.3)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
26	12		土器群 6	弥生土器	鼓形器台	1/8 以下	(20.8)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
26	13		土器群 6	弥生土器	鼓形器台	小片			(19.4)	灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
28	1		土器群 7	弥生土器	壺	1/4 以下	(11.2)			灰白色 灰黄色	5Y8/1 2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部 15 条擬凹線文
28	2		土器群 7	弥生土器	甕	1/2 以下	(17.6)			灰白色	2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外；肩部 2 段クシ状工具による刺突文・6 条平行沈線文　煤付着
28	3		土器群 7	弥生土器	甕	1/3 以上	(16.4)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 7.5Y8/1	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部波状文　頸部平行沈線文
28	4		土器群 7	弥生土器	甕	1/4 以下	(20.4)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；肩部 6 条擬凹線文・5 条以上平行沈線文
28	5		土器群 7	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；肩部平行沈線文　煤付着
28	6		土器群 7	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.4)			外；にぶい褐色 内；灰褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	7		土器群 7	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.4)			外；黒色 内；灰白色	5Y2/1 10YR7/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；煤付着
28	8		土器群 7	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.2)			外；淡赤橙色 内；淡黄色	2.5YR7/4 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；煤付着
28	9		土器群 7	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.4)			褐灰色	7.5YR6/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	10		土器群 7	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.8)			外；灰色 内；灰白色	7.5Y4/1 10Y8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	11		土器群 7	弥生土器	甕	1/8 以下	(24.2)			灰赤色	2.5YR5/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	12		土器群 7	弥生土器	甕	1/2 以下	(29.6)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	13		土器群 7	弥生土器	壺か甕	底部のみ完形			5.6	灰白色	2.5Y7/1	2mm 以下　砂粒をやや多めに含む	良好	
28	14		土器群 7	弥生土器	壺か甕	底部のみ完形			2.4	外；灰色 内；灰白色	5Y4/1 2.5Y7/1	3mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	15		土器群 7	弥生土器	低脚坏	1/2 以上	(11.4)	3.5	4.4	外；淡橙色 内；淡赤橙色	5YR8/4 2.5YR7/4	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；坏部ヘラもしくはクシ状工具による刺突文
28	16		土器群 7	弥生土器	鼓形器台	1/8 以上	(22.2)			外；灰白色 内；浅黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
28	17		土器群 7	弥生土器	鼓形器台	1/6 以上			(20.6)	灰白色	2.5Y8/1	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
28	18		土器群 7	弥生土器	鼓形器台	1/6 以上			(20.6)	外；淡黄色 内；灰白色	2.5Y8/3 5YR8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
30	1		土器群 8	弥生土器	壺	1/6 以上	(9.5)			外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
30	2		土器群 8	弥生土器	甕	1/4 以上	(14.4)			外；黒褐色 内；灰黄色	2.5Y3/1 2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 9 条平行沈線文・6 条波状文　煤付着
30	3		土器群 8	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.0)			灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	外；肩部 7 条平行沈線文・7 条波状文
30	4		土器群 8	弥生土器	甕	1/6 以下				外；淡黄色 内；灰白色	2.5Y8/3 10YR8/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を少量含む	良好	外；肩部 4 条波状文・14 条平行沈線文　煤付着
30	5		土器群 8	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.8)			灰白色	2.5Y8/1	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	外；煤付着
30	6		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(20.2)			外；灰白色～灰黄褐色 内；灰白色	2.5Y8/2 ～ 10YR5/2 2.5Y8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外；肩部 8 条平行沈線文　煤付着
30	7		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(21.5)			外；褐灰色 内；灰白色	10YR6/1 2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	外；肩部平行沈線文
30	8		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.0)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部平行沈線文　煤付着
30	9		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.8)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部平行沈線文
30	10		土器群 8	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.2)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
30	11		土器群 8	弥生土器	甕	1/4 以上	(16.7)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	外；煤付着
30	12		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(14.2)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	やや不良	
30	13		土器群 8	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.6)			外；黄褐色 内；浅黄色	2.5Y5/3 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
30	14		土器群 8	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.6)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部平行沈線文
30	15		土器群 8	弥生土器	甕	1/3 以下	(14.5)			外；にぶい橙色 内；にぶい橙色	7.5Y7/3 7.5Y7/4	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部クシ描波状文　煤付着

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
30	16		土器群 8	弥生土器	甕	1/6 以下	(26.4)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 5 条擬凹線文　肩 部クシ描波状文 内；刺突文
30	17		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(19.1)			灰白色	2.5Y8/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	
30	18		土器群 8	弥生土器	甕	1/8 以下	(20.4)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/1 2.5Y7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	
30	19		土器群 8	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.8)			外；浅黄橙色 内；灰黄褐色	10YR8/3 10YR6/2	0.5mm　砂粒を　少量 含む	良好	
30	20		土器群 8	弥生土器	甕	2/3 以下	(23.4)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
30	21		土器群 8	弥生土器	甕	1/3 以下				外；灰白色～褐灰色 内；にぶい黄橙色	10YR8/1 ～ 10YR4/1 10YR7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 3 段 8 ～ 10 条平行 沈線文のちヘラ状工具に よる刺突文　煤付着
30	22		土器群 8	弥生土器	高坏	1/2 以上	(22.7)			外；灰黄色 内；淡黄色	2.5Y7/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
30	23		土器群 8	弥生土器	高坏	小片	(26.2)			灰白色	10YR8/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
30	24		土器群 8	弥生土器	高坏	1/2 以下				外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR7/3	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
30	25		土器群 8	弥生土器	低脚坏	1/2 以下			(6.8)	灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	1		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.6)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/1 10YR7/2	1mm　砂粒を　多く 含む	良好	外；口縁部 14 条擬凹線文・ クシ状工具による刺突文
32	2		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(20.3)			灰白色	2.5Y8/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 20 条擬凹線文 煤付着
32	3		土器群 9	弥生土器	甕	1/2 以下	(14.0)			外；灰黄褐色 内；にぶい黄橙色	10YR6/2 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 9 条平行沈線文・刺 突文・6 条波状文 煤付着 内；底部黒色の付着物
32	4		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.0)			外；にぶい橙色 内；灰黄色	7.5YR7/3 2.5Y7/2	1 ～ 2mm　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部平行沈線文・波状文・ 刺突文
32	5		土器群 9	弥生土器	甕	1/2 以下				灰白色	2.5Y8/2	1mm　砂粒を　多く 含む	良好	外；肩部 9 条波状文・9 条平 行沈線文
32	6		土器群 9	弥生土器	甕	1/2 以上	(19.4)			灰白色	2.5Y8/2	1.5mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 2 段 14 条平行沈線文・ 9 条波状文
32	7		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.4)			外；灰黄褐色 内；灰白色	10YR5/2 10YR8/2	1 ～ 2.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 22 条以上平行沈線 文　煤付着
32	8		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以上	(17.0)			灰白色	2.5Y8/2	1.5mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	9		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	1 ～ 2mm　砂粒を 少量含む	良好	外；肩部 9 条平行沈線文
32	10		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以下	(12.8)			灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量 含む	良好	外；口縁部平行沈線文のち波 状文　煤付着
32	11		土器群 9	弥生土器	甕	小片	(20.4)			外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
32	12		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.0)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	13		土器群 9	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.0)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	14		土器群 9	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.0)			外；黄灰色 内；灰白色	2.5Y6/1 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	15		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以下	(18.0)			外；灰黄色 内；黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y4/1	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着 内；黒色の付着物
32	16		土器群 9	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.7)			外；灰黄褐色 内；灰黄色	10YR6/2 2.5Y7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	外；煤付着
32	17		土器群 9	弥生土器	甕	小片	(22.6)			灰白色	10YR8/2	0.5mm　砂粒を　少量 含む	良好	
32	18		土器群 9	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.6)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	19		土器群 9	弥生土器	甕	1/8 以上	(16.4)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	20		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.0)			外；にぶい橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR7/3 10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	21		土器群 9	弥生土器	甕	1/4 以下	(31.4)			外；褐灰色 内；にぶい黄橙色	10YR5/1 10YR7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
32	22		土器群 9	弥生土器	高坏	小片	(20.2)			灰白色	10YR8/2	0.5mm　砂粒を　少量 含む	良好	
32	23		土器群 9	弥生土器	高坏	2/3 以下	(25.4)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	24		土器群 9	弥生土器	高坏	小片	(27.0)			外；黄灰色～暗緑灰 色 内；浅黄橙色	2.5Y5/1 ～ 10GY3/1 10YR8/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
32	25		土器群 9	弥生土器	高坏	1/2 以下	(17.2)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
32	26		土器群 9	弥生土器	低脚坏	小片				灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
32	27		土器群 9	弥生土器	低脚坏	1/2 以下			(6.0)	外：にぶい黄褐色 内：灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	0.5 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	脚部内面：赤彩（にぶい橙色 5YR6/4）
32	28		土器群 9	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(24.6)			外：にぶい褐色～灰黄褐色 内：灰黄褐色	7.5YR6/3 ～ 10YR6/2 10YR6/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
35	1		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.0)			にぶい橙色	5YR7/3	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外：口縁部 5 条擬凹線文
35	2		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.3)			外：灰白色 内：浅黄橙色	10YR8/2 7.5YR8/3	0.5 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 28 条平行沈線文のちヘラ状工具による刺突文・11 条波状文 煤付着
35	3		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.2)			外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 2.5Y8/2	0.5 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 12 条平行沈線文・14 条以上波状文
35	4		SK06	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.4)			外：黒褐色 内：暗灰黄色	2.5Y3/1 2.5Y5/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 8 条平行沈線文・2 段刺突文　煤付着
35	5		SK06	弥生土器	甕	2/3 以下	15.3			灰白色	10YR8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外：肩部平行沈線文のち 2 段刺突文（一部羽状文か） 煤付着
35	6		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(20.9)			外：灰白色 内：淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 10 条以上平行沈線文・2 段刺突文 煤付着
35	7		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(20.4)			外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 10YR8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外：2 段 5 条平行沈線文・2 段刺突文
35	8		SK06	弥生土器	甕	1/4 以上	(31.2)			浅黄橙色	10YR8/3	1 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 2 段 6 条波状文・6 条平行沈線文
35	9		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(18.4)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：風化が著しく不明
35	10		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.9)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部平行沈線文のち波状文
35	11		SK06	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.4)			淡黄色	2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：肩部波状文か
35	12		SK06	弥生土器	甕	1/3 以下	(15.2)			外：灰白色 内：にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/4	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部平行沈線文か 煤付着
35	13		SK06	弥生土器	甕	1/8 以下	(15.0)			外：灰白色 内：灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
35	14		SK06	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.2)			灰白色	10YR8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 3 条以上平行沈線文のち刺突文（貝）
35	15		SK06	弥生土器	甕	1/8 以下	(17.1)			灰白色	2.5Y8/1	1.5mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	外：煤付着
35	16		SK06	弥生土器	甕	小片	(26.4)			灰白色	2.5Y8/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	内外面ともに磨滅している
37	1	3 層	SD01	弥生土器	甕	小片	(21.4)			外：にぶい褐色 内：褐灰色	7.5YR5/4 10YR4/1	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	Ⅲ様式
37	2	3 層	SD01	弥生土器	甕	1/8 以下	(18.2)			外：灰黄褐色～にぶい黄褐色 内：灰白色	10YR5/2 ～ 10YR5/3 2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	外：口縁部 12 条擬凹線文
37	3	3 層	SD01	弥生土器	甕	小片	(19.0)			外：灰黄色 内：暗灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y5/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 15 ～ 16 条擬凹線文
37	4	3 層	SD01	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.0)			外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：口縁部 3 条平行沈線文 肩部 9 条平行沈線文 煤付着
37	5	1 層	SD01	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.0)			外：黒色 内：灰白色	10Y2/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 2 条平行沈線文 煤付着
37	6	3 層	SD01	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.6)			外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR6/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	7	3 層	SD01	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.0)			外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	8	3 層	SD01	弥生土器	甕	1/8 以下	(15.1)			にぶい黄橙色	10YR7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部刺突文（クシ）
37	9	下層	SD01	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.8)			灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：煤付着
37	10	1 層	SD01	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.4)			外：灰黄褐色 内：褐灰色	10YR6/2 10YR4/1	0.5mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	
37	11	1 層	SD01	弥生土器	甕	小片	(31.2)			外：灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	10YR6/2 10YR6/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	12	3 層	SD01	土師器	甕	1/8 以上	(17.4)			外：灰黄色 内：黄灰色～暗灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y5/1 ～ 2.5Y5/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	13	3 層	SD01	土師器	甕	1/6 以下	(18.2)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 10 ～ 12 条平行沈線文

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
37	14	1層	SD01	土師器	甕	1/6 以上	(16.6)			浅黄色	2.5Y7/3	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	
37	15	3層	SD01	土師器	甕	1/6 以下	(14.6)			外；黄灰色 内；灰黄色	2.5Y6/1 2.5Y6/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	磨滅著しい
37	16	3層	SD01	土師器	甕	1/6 以上	(22.0)			外；淡黄色 内；浅黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	17	3層	SD01	弥生土器	高坏	1/4 以下	(13.0)			灰黄色	2.5Y6/2	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；口縁部4条凹線文・3段刺突文　Ⅳ様式
37	18	3層	SD01	弥生土器	高坏	1/6 以上	(18.0)			外；にぶい橙色 内；淡橙色	5YR7/3 5YR8/3	1mm　砂粒を　少量含む	良好	
37	19	3層	SD01	弥生土器	高坏	1/6 以下	(16.2)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
37	20	3層	SD01	弥生土器	高坏	1/4 以下	(13.8)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR7/3 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	磨滅著しい
37	21	3層	SD01	弥生土器	高坏	1/2 以下			(10.0)	外；灰白色 内；浅黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/3	1.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
37	22	3層	SD01	弥生土器	低脚坏	1/2 以下			(6.6)	外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
37	23	3層	SD01	弥生土器	低脚坏	小片				灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
37	24	3層	SD01	弥生土器	鼓形器台	1/8 以上			(18.8)	灰白色	2.5Y8/2	0.5～1mm　砂粒を少量含む	良好	
37	25	3層	SD01	弥生土器	器台	小片				外；灰黄色 内；淡黄色	2.5Y6/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
37	26	3層	SD01	弥生土器	甑形土器	1/8 以下	(26.0)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 10YR7/1	0.5～1.5mm　砂粒を多く含む	良好	
37	27	3層	SD01	須恵器	坏蓋	小片	(15.8)			外；灰色 内；黄灰色	7.5Y6/1 2.5Y5/1	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；回転ナデ 内；回転ナデ
37	28	下層	SD01	須恵器	坏蓋	小片	(15.2)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/1	0.5mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	外；回転ナデ 内；回転ナデ
37	29	下層	SD01	須恵器	坏	1/4 以下	(10.2)			オリーブ灰色	2.5GY5/1	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	外；回転ナデ 内；回転ナデ
38	1		SD02	弥生土器	甕	小片	(24.4)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色～褐灰色	10YR7/2 10YR8/2～5YR6/1	2mm 以下　砂粒をやや多めに含む	良好	外；口縁部14条擬凹線文
38	2	1層	SD02	弥生土器	甕	1/6 以下	(20.4)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部8条擬凹線文
38	3		SD02	弥生土器	甕	小片	(17.0)			灰白色～黄灰色	2.5Y8/2～2.5Y5/1	2mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部8条擬凹線文
38	4		SD02	弥生土器	甕	1/8 以下	(19.6)			外；灰白色～淡橙色 内；灰白色	2.5Y8/2～5YR8/3 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
38	5		SD02	弥生土器	甕	1/8 以下	(16.6)			外；にぶい黄橙色 内；褐灰色	10YR7/2 10YR6/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
38	6		SD02	弥生土器	甕	1/6 以下	(17.2)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；煤付着
38	7		SD02	弥生土器	甕	1/8 以上	(20.4)			外；灰白色 内；黄灰色	2.5Y7/1 2.5Y6/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	内；煤付着
38	8		SD02	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.0)			外；灰黄褐色 内；灰白色	10YR6/2 2.5Y8/2	4mm 以下　砂粒を含む	良好	外；煤付着
38	9		SD02	弥生土器	甕	1/6 以上	(10.4)			外；灰白色 内；灰白色	7.5Y8/1 10YR8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	内外；赤色顔料（淡橙色5YR8/4）の痕跡あり。磨滅のため調整不明。
38	10		SD02	弥生土器	壺か甕	1/3 以下			(6.0)	外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
38	11		SD02	弥生土器	器台	小片			(20.4)	外；灰白色 内；灰白色～にぶい橙色	10YR8/1 10YR8/1～7.5YR7/3	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；脚部16条以上擬凹線文 赤色顔料の痕跡あり
38	12		SD02	弥生土器	器台	1/8 以下	(19.2)			外；灰白色 内；灰白色	7.5YR8/2 10YR7/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部7条以上擬凹線文
38	13	1層	SD02	須恵器	坏	1/4 以下			(8.8)	灰色	7.5Y6/1	0.5mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	外；回転ナデ　回転糸切り 内；回転ナデ
40	1	1層	SD03	弥生土器	甕	1/3 以下	(13.8)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
40	2		SD03	弥生土器	高坏	3/4 以上	(25.6)			外；灰白色 内；灰白色～褐灰色	2.5Y8/2 2.5Y8/2～10YR5/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
40	3		SD03	弥生土器	高坏	1/2 以下	(25.0)			外；灰白色 内；灰白色～褐灰色	2.5Y8/1 7.5YR8/2～10YR5/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	内；黒色の付着物
40	4		SD03	弥生土器	低脚坏	1/2 以下	(11.0)	4.1	(3.8)	外；灰白色 内；黄灰色	10YR8/1～7/1 2.5Y5/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	内；黒色の付着物

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
40	5	1層	SD03	弥生土器	低脚坏	ほぼ完形	12.6			外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
40	6		SD03	弥生土器	鼓形器台	1/8以上	(22.6)			灰白色	10YR8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
41	1		SD04	弥生土器	甕	小片	(24.0)			外；褐灰色 内；灰黄褐色	10YR6/1 10YR6/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
41	2		SD04	弥生土器	甕	1/8以下	(17.2)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
41	3		SD04	弥生土器	壺か	1/8以下	(17.0)			灰白色	2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を含む	良好	外；口縁部タガ状突帯を貼り付け
43	1		SR01	弥生土器	甕	1/6以上	(16.2)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部4条凹線文　頸部4条平行沈線文
43	2		SR01	弥生土器	甕	小片	(18.6)			外；にぶい黄橙色 内；浅黄橙色	10YR7/2 7.5YR8/4	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部1条沈線文・10条擬凹線文をナデ消し　煤付着
43	3		SR01	弥生土器	甕	1/8以上	(13.6)			灰黄色	2.5Y7/2	微砂粒を　多く含む	良好	外；口縁部11条以上擬凹線文
43	4		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	17.6			外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部17条平行沈線文・刺突文
43	5		SR02	弥生土器	甕	小片	(14.4)			外；淡黄色 内；灰白色	2.5Y8/3 10YR8/2	0.5～1mm　砂粒を多く含む	良好	外；肩部刺突文
43	6		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(15.8)			にぶい黄橙色	10YR7/2	0.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
43	7		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(18.6)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR8/3 10YR7/3	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
43	8		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(19.0)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	9		SR01	弥生土器	甕	1/8以上	(15.9)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y7/1	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；肩部12条以上平行沈線文のち4条以上波状文
43	10		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(17.4)			灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
43	11		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(14.6)			外；淡黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y8/3 10YR7/3	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
43	12		SR01	弥生土器	甕	1/8以下	(15.4)			外；黒色 内；灰黄色	7.5Y2/1 2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
43	13		SR01	弥生土器	甕	1/8以上	(20.2)			外；灰白色～灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/1 ～7/2 2.5Y8/2 ～7/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	14		SR01	弥生土器	甕	1/8以上	(16.3)			外；にぶい黄橙色～にぶい橙色 内；にぶい橙色	10YR7/2～5YR7/4 7.5YR7/4	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	15		SR01	弥生土器	甕	1/6以下	(14.3)			褐灰色	10YR5/1	0.5～1mm　砂粒を多く含む	良好	内外；煤付着
43	16		SR01	弥生土器	甕	小片	(19.0)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR7/3 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；煤付着
43	17		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(21.5)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	0.5～2mm　砂粒を多く含む	良好	
43	18		SR01	弥生土器	甕	1/4以下	(18.2)			外；灰黄色 内；灰黄褐色	2.5Y7/2 10YR6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	19		SR01	弥生土器	甕	1/6以下	(19.0)			外；灰黄色 内；暗灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y5/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	20		SR01	弥生土器	甕	小片	(27.8)			外；暗灰黄色 内；淡黄色	2.5Y5/2 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	21		SR01	弥生土器	甕	小片	(30.0)			外；灰黄褐色 内；浅黄橙色	10YR5/2 10YR8/3	0.5～2mm　砂粒を多く含む	良好	
43	22		SR01	弥生土器	甕	小片	(25.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
43	23		SR01	弥生土器	甕	小片	(26.9)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
43	24		SR01	土師器	甕	1/6以下	(18.4)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	0.5～2mm　砂粒を少量含む	良好	外；煤付着
44	1		SR01	弥生土器	壺か甕	底部完形			2.8	外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
44	2		SR01	弥生土器	注口土器	小片				灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
44	3		SR01	弥生土器	注口土器	小片				灰白色	10YR8/2	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；煤付着
44	4		SR01	土師器	甕	1/6以下	(13.2)			外；灰黄色 内；にぶい橙色	2.5Y7/2 7.5YR6/4	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	内外；口縁部赤彩（橙色2.5YR7/6）
44	5		SR01	土師器	甕	1/4以下	(13.4)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
44	6		SR01	土師器	甕	1/4以下	(10.8)			外；にぶい橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR7/3 10YR7/3	1mm　砂粒を　多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
44	7		SR01	土師器	甕	1/4 以下	(11.7)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	8		SR01	土師器	壺か	小片				外；褐灰色 内；にぶい黄橙色	10YR5/1 10YR7/3	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	9		SR01	弥生土器	高坏	小片				黄褐色	10YR5/6	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 3 条凹線文
44	10		SR01	弥生土器	高坏	小片	(26.6)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	11		SR01	弥生土器	高坏	1/6 以下	(25.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	内外；ミガキか
44	12		SR01	弥生土器	高坏	1/8 以下	(18.2)			外；灰白色～灰黄色 内；灰黄色	2.5Y7/1 ～ 7/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	磨滅のため調整不明
44	13		SR01	弥生土器	高坏	小片				外；灰白色 内；灰白色	10YR8/1 2.5Y8/2	1 ～ 1.5mm　砂粒を 少量含む	良好	
44	14		SR01	弥生土器	低脚坏	1/4 以上			(6.0)	外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	15		SR01	弥生土器	低脚坏	1/2 以上			(5.4)	灰黄色	2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	磨滅のため調整不明
44	16		SR01	弥生土器	低脚坏	1/4 以上			(6.8)	外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	磨滅のため調整不明
44	17		SR01	弥生土器	低脚坏	1/2 以下				灰黄色	2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	18		SR01	弥生土器	低脚坏	1/2 以下				灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	19		SR01	弥生土器	低脚坏	1/8 以下				灰白色	2.5Y8/1	0.5 ～ 1mm　砂粒を 少量含む	良好	
44	20		SR01	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(17.0)			外；灰白色 内；浅黄橙色	7.5YR8/2 10YR8/3	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	
44	21		SR01	弥生土器	鼓形器台	小片			(18.0)	外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
44	22		SR01	弥生土器	蓋	1/4 以上	(12.2)	6.2		外；にぶい黄橙色 内；にぶい橙色	10YR7/3 7.5YR7/4	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を 多く含む	良好	2 孔（孔径 0.45cm）
44	23		SR01	弥生土器	蓋	ほぼ 完形	(5.8)	5.3		外；灰黄色 内；淡黄色	2.5Y7/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	4 孔（孔径 0.3cm）
44	24		SR01	弥生土器	把手	小片				灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	
44	25		SR01	須恵器	壺	1/4 以上	(12.0)			外；暗青灰色 内；青灰色	5PB4/1 5B6/1	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；回転ナデ 内；回転ナデ
44	26		SR01	土師質 土器	坏	1/2 以下		6.4		外；橙色 内；にぶい橙色	5YR6/6 7.5YR6/4	1mm　砂粒を　少量 含む	良好	外；回転ナデ・回転糸切り 内；回転ナデ
48	1	10 層	E1	弥生土器	壺	1/6 以下	(18.2)			外；灰黄褐色 内；灰黄褐色	10YR6/2 10YR5/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を 多く含む	不良	外；口縁部浅い凹線文　頸部 6 条擬凹線文
48	2	10 層	E3	弥生土器	壺	1/2 以下	(14.0)		(3.8)	外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄色	10YR6/4 2.5Y6/3	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；口縁部 7 条擬凹線文　肩 部竹管文　煤付着
48	3	10 層	D3	弥生土器	壺	1/3 以上	(15.6)			外；黄灰色 内；暗灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y4/2	1mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	外；口縁部 5 条以上擬凹線文 の上半部をナデ消し
48	4	10 層	E3	弥生土器	壺	1/8 以下	(19.3)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい橙色	10YR7/2 7.5YR7/4	0.5mm　砂粒を　少量 含む	良好	外；口縁部 4 条波状文
48	5	10 層	F5	弥生土器	壺	1/6 以下	(19.2)			外；灰白色 内；灰白色	10YR8/2 2.5Y8/1 ～ 8/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；煤付着
48	6	10 層	E3	弥生土器	壺	1/2 以下	(18.8)			浅黄橙色	10YR8/4	0.5 ～ 1mm　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 2 段 16 条・14 条平 行沈線文・刺突文
48	7	10 層	D2	土師器	壺	1/8 以下	(19.0)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
48	8	10 層	E3	土師器	壺	1/4 以下	(22.0)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を 含む	良好	外；頸部羽状文　肩部 11 条 平行沈線文 内；頸部ヘラ状工具によるス ジ
48	9	10 層	F4	土師器	壺	1/8 以上	(14.8)			外；にぶい橙色 内；灰黄色	7.5YR7/4 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	外；肩部 6 ～ 7 条波状文
48	10	10 層	F5	弥生土器	壺	3/4 以下	(28.6)		5.2	外；灰黄褐色 内；灰白色	10YR5/2 2.5Y8/2	5mm 以下　砂粒を 多く含む	良好	
48	11	10 層	E3	弥生土器	壺	1/4 以下	(16.7)			外；浅黄橙色 内；灰白色	7.5YR8/3 2.5Y8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を 多く含む	良好	外；頸部～肩部 3 段平行沈線 文のち上段ナデ消し・下 段刺突文
49	1	10 層	D2	弥生土器	壺	1/4 以下	(17.0)			外；灰黄色 内；浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を わずかに含む	良好	
49	2	10 層	C2	弥生土器	壺	1/4 以下	(32.2)			外；淡黄色 内；浅黄橙色	2.5Y8/3 10YR8/3	0.5 ～ 5mm　砂粒を 多く含む	良好	
49	3	10 層	C1	弥生土器	壺	1/8 以下	(33.2)			外；浅黄橙色 内；灰白色	10YR8/3 10YR8/2	2mm 以下　砂粒を 少量含む	良好	
49	4	10 層	C1	弥生土器	壺	小片				外；灰黄褐色 内；灰白色	10YR6/2 2.5Y8/1	1 ～ 3mm　砂粒を 多く含む	良好	外；頸部断面台形状突帯

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
49	5	10 層	D4	弥生土器	壺	1/8 以下				外；灰白色 内；淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/4	2mm　砂粒を　少量含む	良好	外；頸部断面台形状突帯
49	6	10 層	D2	弥生土器	壺	1/6 以下				灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 2 段竹管文
49	7	10 層	D3	弥生土器	壺	小片				外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；頸部 1 条沈線文のち竹管文・羽状文
49	8	10 層	D2	弥生土器	壺	小片				外；淡黄色 内；浅黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；頸部 1 条沈線文のち竹管文・羽状文
49	9	10 層	D1	弥生土器	壺	小片				灰白色	10YR8/2	2mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；刻目突帯
49	10	10 層	D1	弥生土器	壺	小片				外；灰色 内；灰白色	N4/ 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；刻目突帯
49	11	10 層	F5	弥生土器	壺	ほぼ完形	(14.9)			浅黄色	2.5Y7/3	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
49	12	10 層	E4	弥生土器	壺	1/4 以下	(11.5)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
49	13	10 層	D3	土師器	壺	小片	(19.4)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
49	14	10 層	C3	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.7)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　微量含む	良好	外；口縁部 8 条擬凹線文
49	15	10 層	C2	弥生土器	甕	1/6 以上	(16.2)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 11 条擬凹線文　煤付着
49	16	10 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(12.7)			外；灰黄色 内；灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部浅い擬凹線文　煤付着
49	17	10 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(13.8)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR6/3 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 9 条擬凹線文
49	18	10 層	D2	弥生土器	甕	小片	(14.3)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 10 条擬凹線文
49	19	10 層	E4	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.9)			褐灰色	10YR5/1	1mm　砂粒を　含む	良好	外；口縁部 9 条擬凹線文
49	20	10 層	D2	弥生土器	甕	小片	(27.8)			外；灰黄色 内；淡黄色	2.5Y6/2 2.5Y8/3	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 5 条以上擬凹線文をナデ消しか　煤付着
49	21	10 層	D3	弥生土器	甕	小片	(22.2)			外；黄灰色 内；灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部擬凹線文か　煤付着
49	22	10 層	D2	弥生土器	甕	小片	(22.2)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	1 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 8 条擬凹線文
49	23	10 層	C3	弥生土器	甕	小片	(16.6)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR7/3 2.5Y7/3	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 14 条擬凹線文 内外；煤付着
49	24	10 層	F5	弥生土器	甕	1/6	(20.4)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y7/1	1 ～ 3mm　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 15 条擬凹線文
50	1	10 層	D3	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.4)			外；灰褐色 内；にぶい黄橙色	7.5YR5/2 10YR7/3	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；口縁部 11 条擬凹線文　厚く煤付着
50	2	10 層	E4	弥生土器	甕	小片	(29.6)			外；にぶい黄橙色 内；灰白色	10YR7/3 10YR8/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 15 条以上擬凹線文のち一部ナデ消し 内外；煤付着
50	3	10 層	D3	弥生土器	甕	小片	(20.2)			外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 9 条擬凹線文
50	4	10 層	D3	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.0)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm　砂粒を　少量含む	良好	外；口縁部 12 条擬凹線文　煤付着
50	5	10 層	C2	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.7)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/2 10YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 3 段 2 ～ 3 条擬凹線文　肩部刺突文 煤付着
50	6	10 層	C1	弥生土器	甕	1/3 以上	(20.6)			外；黄灰色 内；灰黄褐色	2.5Y6/1 10YR6/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 20 条擬凹線文　煤付着
50	7	10 層	D1	弥生土器	甕	小片				にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 8 条以上擬凹線文　肩部刺突文
50	8	10 層	F5	弥生土器	甕	1/6 以下	(24.6)			灰黄色	2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 8 条以上擬凹線文
50	9	10 層		弥生土器	甕	1/6 以下	(31.6)			外；浅黄色 内；灰黄色	2.5Y7/3 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	外；口縁部 21 条擬凹線文　肩部 11 条以上波状文
50	10	10 層	D3	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.8)			外；黄灰色 内；灰白色	2.5Y6/1 2.5Y8/2	4mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 16 条擬凹線文　煤付着
50	11	10 層	F5	弥生土器	甕	1/4 以下	(20.4)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	1.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 14 条以上擬凹線文
50	12	10 層		弥生土器	甕	1/8 以上	(16.2)			外；黒色 内；黄灰色～灰黄色	2.5Y2/1 2.5Y6/1 ～ 6/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 15 条以上擬凹線文　煤付着
50	13	10 層	E4	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.7)			外；にぶい橙色～にぶい黄橙色 内；灰黄色	5YR7/4 ～ 10YR7/2 2.5Y6/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 12 条擬凹線文
50	14	10 層	E4	弥生土器	甕	1/8 以上	(17.1)			外；黒色 内；灰黄色	2.5Y2/1 2.5Y7/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；口縁部 15 ～ 16 条擬凹線文　煤付着

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
50	15	10 層	D2	弥生土器	甕	1/6 以下	(20.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：口縁部 11 条擬凹線文
50	16	10 層	D1	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.8)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 10 条擬凹線文
50	17	10 層	D5	弥生土器	甕	1/6 以上	(13.5)			褐灰色	10YR6/1	0.5 ～ 2.5mm　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 11 条擬凹線文　頸部 2 段貝殻による刺突文　煤付着
50	18	10 層	F5	弥生土器	甕	1/8 以下	(15.2)			外：灰黄色 内：にぶい黄色	2.5Y6/2 2.5Y6/3	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 5 条以上擬凹線文
50	19	10 層	C1	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.0)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 11 条擬凹線文
50	20	10 層	D3	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.7)			外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	7.5YR7/3 10YR7/2	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 13 条擬凹線文　煤付着 内：口縁部擬凹線文風の浅い沈線文
50	21	10 層	D2	弥生土器	甕	1/6 以上	(18.4)			灰白色	2.5Y8/2	3mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 6 条擬凹線文 内外面磨滅が著しい
50	22	10 層		弥生土器	甕	1/6 以上	(18.8)			外：灰黄色 内：灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2 ～ 6/2	1mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	外：口縁部 10 数条擬凹線文　煤付着
50	23	10 層	D1	弥生土器	甕	小片	(24.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外：口縁部 15 条擬凹線文
50	24	10 層	D4	弥生土器	甕	1/8 以下	(28.2)			灰黄色	2.5Y7/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 9 条擬凹線文　頸部刺突文
51	1	10 層	F5	弥生土器	甕	1/6 以下				外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR6/3 10YR7/3	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 16 条擬凹線文
51	2	10 層		弥生土器	甕	1/8 以下	(24.6)			外：灰黄色 内：灰白色	2.5Y6/2 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：口縁部 9 条擬凹線文　頸部平行沈線文のち刺突文　煤付着
51	3	10 層	D4	弥生土器	甕	1/8 以下	(13.0)			灰白色	2.5Y7/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外：口縁部 13 条擬凹線文
51	4	10 層	D1	弥生土器	甕	1/6 以下	(18.6)			灰黄色	2.5Y6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 10 条平行沈線文
51	5	10 層	D3	弥生土器	甕	1/3 以上	(18.0)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
51	6	10 層	E2	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.8)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	
51	7	10 層	E2	弥生土器	甕	1/3 以上	(16.9)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 5 条波状文　一部に煤付着
51	8	10 層	D3	弥生土器	甕	1/8 以下	(20.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	外：肩部刺突文　煤付着
51	9	10 層	D3	弥生土器	甕	1/2 以下	(19.1)			灰白色	2.5Y8/2	1 ～ 3mm　砂粒を多く含む	良好	外：頸部刺突文か　肩部 17 条以上平行沈線文・刺突文
51	10	10 層	E2	弥生土器	甕	1/4 以上	(21.6)			外：灰白色 内：灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/3	1mm　砂粒を　多く含む	良好	外：肩部 3 条波状文
51	11	10 層	E2	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.2)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm　砂粒を　多く含む	良好	外：肩部 6 条波状文
51	12	10 層	E1	弥生土器	甕	1/6 以上	(17.6)			外：淡黄色 内：灰白色	2.5Y8/3 2.5Y7/1	4mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外：肩部平行沈線文か
51	13	10 層	E1	弥生土器	甕	1/4 以下	(15.6)			外：灰黄褐色 内：黄灰色～灰黄褐色	10YR6/2 2.5Y4/1 ～ 10YR5/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 6 条波状文
51	14	10 層	F5	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.0)			外：にぶい黄橙色 内：灰黄色	5YR7/3 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
51	15	10 層	E1	弥生土器	甕	1/2 以下	(17.3)			浅黄橙色	10YR8/3	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	外：肩部 2 段 5 ～ 7 条平行沈線文・刺突文　煤付着
51	16	10 層	E1	弥生土器	甕	1/2 以上	(15.2)			外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	5YR7/4 5YR6/4	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	外：肩部 16 条平行沈線文のち 9 条波状文　煤付着
51	17	10 層	E2	弥生土器	甕	1/4 以上	(19.4)			にぶい黄橙色	10YR7/3	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 4 条波状文　煤付着
51	18	10 層		弥生土器	甕	1/4 以下	(17.0)			外：浅黄色 内：灰白色	2.5Y7/3 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 2 段 12 条・6 条波状文　煤付着
51	19	10 層	E4	弥生土器	甕	1/4 以下	(16.0)			外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 2.5Y8/1	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 20 条平行沈線文のち刺突文
51	20	10 層	D1	弥生土器	甕	1/4 以下	(17.0)			外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 2.5Y7/1	0.5 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	外：肩部 7 条波状文
52	1	10 層	E3	弥生土器	甕	1/2 以下	(16.8)			外：灰黄色 内：灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部刺突文　煤付着
52	2	10 層	D2	弥生土器	甕	1/4 以上	(16.8)			外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm　砂粒を　含む	良好	外：肩部 7 条以上平行沈線文
52	3	10 層	D2	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.2)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部 10 数条平行沈線文

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
52	4	10 層	E3	弥生土器	甕	1/4 以下	(14.9)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 8 ～ 9 条波状文　煤付着
52	5	10 層	E3	弥生土器	甕	1/6 以下	(13.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 5Y8/1	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；肩部 4 条以上波状文
52	6	10 層	E3	弥生土器	甕	3/4 以上	15.8			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 17 条平行沈線文
52	7	10 層	F5	弥生土器	甕	1/4 以下	(19.6)			外；灰白色 内；浅黄橙色	10YR8/2 7.5YR8/4	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；頸部刺突文
52	8	10 層	C2	弥生土器	甕	1/4 以上	(15.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；肩部 7 条波状文・9 条以上平行沈線文　煤付着
52	9	10 層	E3	弥生土器	甕	1/6 以上	(15.8)			外；灰白色 内；淡黄色	10YR8/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 25 条平行沈線文・8 条波状文　煤付着
52	10	10 層	C3	弥生土器	甕	1/4 以上	(12.0)	12.7	2.5	にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 2 段 16 条・8 条平行沈線文のち刺突文
52	11	10 層	E3	弥生土器	甕	1/3 以上	(12.0)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	外；肩部刺突文・4 条波状文のち 1 条の浅い沈線文　煤付着
52	12	10 層	E1	弥生土器	甕	1/6 以下	(26.6)			外；にぶい黄橙色 内；にぶい黄橙色	10YR7/3 10YR7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	外；肩部刺突文
52	13	10 層	E1	弥生土器	甕	1/8 以上	(22.7)			外；にぶい黄橙色 内；浅黄色	10YR7/3 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；ハケ目のちナデ消し・刺突文　煤付着
52	14	10 層	F5	弥生土器	甕	1/6 以上	(27.8)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y7/1 10YR8/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	外；肩部 6 条波状文　胴部 6 条平行沈線文・4 条以上波状文
52	15	10 層	E1	弥生土器	甕	1/6 以下	(27.8)			外；灰白色 内；灰黄色	10YR8/2 2.5Y7/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；頸部～胴部 5 段 2 ～ 5 条平行沈線文・刺突文
52	16	10 層	E1	弥生土器	甕	1/8 以下	(30.4)			外；暗灰黄色～灰白色 内；淡黄色	2.5Y5/2 ～ 8/2 2.5Y8/3	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；肩部 8 条平行沈線文のち刺突文　煤付着
52	17	10 層	D1	弥生土器	甕	1/8 以上	(23.4)			灰黄色	2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	内外；煤付着
52	18	10 層	E2	弥生土器	甕	小片	(30.2)			灰白色	10YR8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	1	10 層	D1	弥生土器	甕	1/8 以下	(32.7)			灰黄褐色	10YR6/2	2mm 以下　砂粒をわずかに含む	良好	
53	2	10 層	E1	弥生土器	甕	1/6 以下	(35.0)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	3	10 層	C2	弥生土器	甕	1/4 以上	(36.0)			外；灰黄色 内；淡黄色	2.5Y7/2 2.5Y8/3	2mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	外；肩部 2 段平行沈線文（上段は磨滅）・連続刺突文
53	4	10 層	E2	弥生土器	甕	小片	(27.6)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	5	10 層	D3	弥生土器	甕	小片	(32.0)			灰白色	10YR8/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	6	10 層	E3	弥生土器	甕	小片	(32.0)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
53	7	10 層	D2	弥生土器	甕	小片	(17.9)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	8	10 層	D2	弥生土器	注口土器	ほぼ完形				外；灰白色 内；灰黄色	10YR8/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；煤付着
53	9	10 層	D3	弥生土器	注口土器	完形				にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
53	10	10 層	E2	弥生土器	注口土器	小片				外；淡黄色 内；灰黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；磨滅により調整不明
53	11	10 層	D3	弥生土器	注口土器	ほぼ完形				外；淡黄色 内；淡黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/4	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	12	10 層	D2	弥生土器	注口土器	小片				にぶい橙色	7.5YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	13	10 層	D2	弥生土器	注口土器	小片				浅黄橙色	10YR8/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
53	14	10 層	D2	弥生土器	注口土器	小片				灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
53	15	10 層	E4	弥生土器	注口土器	ほぼ完形				にぶい黄橙色	10YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	16	10 層	E3	弥生土器	注口土器	完形				褐灰色～灰黄褐色	10YR4/1 ～ 6/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
53	17	10 層	D2	弥生土器	注口土器	小片				淡黄色	2.5Y8/3	0.5mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；注口と体部との接合部にヘラ状工具による沈線
53	18	10 層	D3	弥生土器	注口土器	完形				灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；注口と体部との接合部にヘラ状工具による沈線
54	1	廃土		弥生土器	甕	小片	(12.0)			外；橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR6/6 10YR7/2	1 ～ 2mm　砂粒を少量含む	良好	外；肩部ヘラ描沈線文
54	2	10 層	E4	土師器	甕	1/4 以下	(14.4)			外；にぶい黄橙色 内；浅黄色	10YR7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
54	3	10層	D4	土師器	甕	1/8以上	(14.0)			外：灰黄色 内：灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1～2mm　砂粒を多く含む	やや不良	
54	4	10層	D2	弥生土器	甕	1/3以下			(12.4)	外：にぶい黄橙色 内：灰黄色	10YR6/3 2.5Y7/2	1～3mm　砂粒を多く含む	良好	
54	5	10層	E2	弥生土器	甕	1/6以下			10..8	灰黄色	2.5Y7/2	1mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	6	10層	D2	弥生土器	甕	1/6以下			(8.4)	外：浅黄橙色 内：黄灰色	10YR8/3 2.5Y4/1	1.5mm以下　砂粒を少量含む	良好	
54	7	10層	F4	弥生土器	甕	底部完形			7.4	外：橙色～にぶい黄橙色 内：灰色	7.5YR7/6～10YR7/2 5Y5/1～4/1	3mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	8	10層	D2	弥生土器	甕	1/4以下			(7.2)	外：灰白色 内：灰色	5Y7/2 5Y5/1	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	9	10層	D3	弥生土器	甕	3/4以上			(4.7)	外：灰黄色 内：灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/1	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	外：底部接地面ヘラケズリ
54	10	10層	E5	弥生土器	甕	1/3以上			(4.2)	外：黄灰色 内：灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y6/2	1mm以下　砂粒を含む	良好	
54	11	10層	E4	弥生土器	甕	1/3以上			(3.2)	灰白色	2.5Y8/2	1～2mm　砂粒を含む	良好	外：煤付着
54	12	10層	E3	弥生土器	甕	1/3以下			(3.4)	外：黒色 内：灰黄色	2.5Y2/1 2.5Y7/2	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	13	10層	D3	弥生土器	小型丸底壺	1/6以下	(12.4)			外：黄灰色 内：灰黄色	2.5Y6/1 2.5Y6/2	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	外：肩部刺突文
54	14	10層	D3	弥生土器	小型丸底壺	1/8以下	(12.2)			外：黄灰色 内：灰白色	2.5Y5/1 2.5Y7/1	1mm　砂粒を　少量含む	良好	
54	15	10層	D2	弥生土器	小型丸底壺	1/4以上				外：にぶい黄橙色 内：灰黄色	10YR7/3 2.5Y6/2	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	16	10層	E5	弥生土器	高坏	1/3以下	(21.2)			外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	10YR8/3 10YR7/4	0.5mm　砂粒を　多く含む	良好	円盤充填法
54	17	10層	D2	弥生土器	高坏	1/8以下				浅黄橙色	10YR8/3	1mm以下　砂粒を少量含む	良好	内外：煤付着
54	18	10層	F5	弥生土器	高坏	1/8以下	(19.2)			外：浅黄橙色 内：灰白色	7.5YR8/3 7.5YR8/2	1mm以下　砂粒を少量含む	良好	
54	19	10層	E1	弥生土器	高坏	1/4以上	(28.2)			灰黄色	2.5Y7/2	1mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	20	10層	E1	弥生土器	高坏	1/2以上	(26.9)			外：灰白色 内：灰白色	2.5Y8/2 2.5Y7/1	2mm以下　砂粒を多く含む	良好	円盤充填法
54	21	10層	D1	弥生土器	高坏	1/6以下	(26.0)			灰白色	2.5Y7/1	微砂粒を　多く含む	良好	内外：凹みに赤彩（にぶい橙色2.5YR6/4）が残る
54	22	10層	C2	弥生土器	高坏	1/3以下	(24.8)			外：褐灰色 内：灰白色	10YR6/1 10YR7/1	微砂粒を　多く含む	良好	
54	23	10層	D3	弥生土器	高坏	1/6以下	(24.0)			灰白色	2.5Y8/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
54	24	10層	E1	弥生土器	高坏	1/3以上	(25.2)			外：浅黄色 内：にぶい黄色	2.5Y7/3 2.5Y6/3	3mm以下　砂粒を少量含む	良好	
54	25	10層	C2	弥生土器	高坏	1/3以上	(26.9)			外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 2.5Y8/2	1～1.5mm　砂粒を含む	良好	外：煤付着
54	26	10層	D2	弥生土器	高坏	小片	(29.0)			外：灰黄色 内：灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	1mm以下　砂粒を含む	良好	
54	27	10層	D3	弥生土器	高坏	1/8以上	(21.0)			灰黄色	2.5Y7/2	微砂粒を　わずかに含む	良好	
54	28	10層	D2	弥生土器	高坏	1/3以下	(16.6)			外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm以下　砂粒を多く含む	良好	
54	29	10層	D4	弥生土器	高坏	1/6以下	(20.0)			灰白色	10YR8/2	2mm以下　砂粒を少量含む	良好	
55	1	10層	E1	弥生土器	高坏	3/4以上	(14.8)			外：灰黄色 内：灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	0.5～1mm　砂粒を多く含む	良好	
55	2	10層	E3	弥生土器	高杯	1/6以上			(15.0)	灰黄色	2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
55	3	10層	E1・D1	弥生土器	高坏	1/2以下			(14.5)	外：灰白色 内：にぶい黄橙色	2.5Y7/1 10YR7/2	微砂粒を　多く含む	良好	
55	4	10層	E3	弥生土器	高坏	1/3以上			(13.8)	外：灰黄色 内：黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
55	5	10層	D3	弥生土器	高坏	1/8以上			(15.0)	外：灰白色 内：灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm以下　砂粒を含む	良好	
55	6	10層	E1	弥生土器	高坏	ほぼ完形			18.0	灰黄色	2.5Y7/2	1mm以下　砂粒を多く含む	良好	
55	7	10層	F4	弥生土器	高坏	1/3以下			(10.6)	外：灰白色 内：灰黄色	10YR8/2 2.5Y7/2	3mm以下　砂粒を多く含む	良好	円形透孔1
55	8	10層	D2	弥生土器	高坏	1/4以上			(8.6)	灰白色	10YR8/2	1mm以下　砂粒を多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
55	9	10 層	O3	弥生土器	低脚坏	1/2 以下	(24.6)			外；灰黄色 内；黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	
55	10	10 層	D4	弥生土器	低脚坏	1/4 以上	(11.6)			外；黄灰色 内；灰黄色	2.5Y6/1 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
55	11	10 層	D4	弥生土器	低脚坏	1/6 以上			(10.6)	灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	円形透孔 1
55	12	10 層	E3	弥生土器	低脚坏	脚部ほぼ完形			(7.0)	外；にぶい橙色 内；にぶい黄橙色	7.5YR7/3 10YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	円形透孔 1
55	13	10 層		弥生土器	低脚坏	1/4 以上			(9.8)	灰黄色	2.5Y7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	
55	14	10 層	F5	弥生土器	低脚坏	3/4 以上			(7.6)	灰黄色	2.5Y7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
55	15	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	2/3 以下			(5.9)	灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
55	16	10 層	E5	弥生土器	低脚坏	1/2 以上			(5.5)	にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 1 ㎜　砂粒を少量含む	良好	
55	17	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	1/2 以下				灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を微量含む	良好	円形透孔 2
55	18	10 層	D1	弥生土器	低脚坏	ほぼ完形			(5.4)	浅黄橙色	10YR8/3	密	良好	円形透孔 1
55	19	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	脚部ほぼ完形			7.0	外；灰黄褐色 内；灰白色	10YR6/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
55	20	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	脚部完形			(7.0)	灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
55	21	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	3/4 以上			(6.0)	外；にぶい橙色 内；灰黄色	7.5Y7/3 2.5Y6/2	微砂粒子を　多く含む	良好	
55	22	10 層	D2	弥生土器	低脚坏	脚部完形			5.0	にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
55	23	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	1/3 以上	(15.0)	8.9	(12.2)	灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
55	24	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	3/4 以上	(24.5)	(12.0)	(21.8)	にぶい黄橙色	10YR7/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	やや不良	
55	25	10 層	E3	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下				外；にぶい黄橙色 内；にぶい橙色	10YR7/3 7.5YR7/3	1 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	良好	外；器受部 16 条擬凹線文 筒部 2 段 3 条平行沈線文の間に刺突文
55	26	10 層	F5	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(20.0)			灰白色	2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を微量含む	良好	外；器受部 23 条以上擬凹線文
55	27	10 層		弥生土器	鼓形器台	1/8 以上	(23.2)			外；灰黄褐色 内；灰黄褐色	10YR5/2 10YR4/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	外；器受部 5 条単位の擬凹線文のちミガキ 内；煤付着
55	28	10 層	C3	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(18.8)			外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	1mm　砂粒を　少量含む	良好	
55	29	10 層	E3	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(20.7)			外；灰黄褐色 内；灰黄色	10YR6/2 2.5Y7/2	0.5 ～ 1.5mm　砂粒を少量含む	良好	
55	30	10 層	D2	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(23.4)			外；にぶい黄橙色 内；灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
55	31	10 層	D1・E1	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(23.0)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	1mm　砂粒を　多く含む	良好	
55	32	10 層	D2	弥生土器	鼓形器台	1/4 以上	(23.8)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	0.5 ～ 1mm　砂粒を少量含む	良好	
55	33	10 層	E2	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(21.4)			外；浅黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/3 10YR7/3	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
55	34	10 層	D3	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(23.4)			灰白色	2.5Y8/2	2mm 以下　砂粒を含む	良好	
55	35	10 層	E2	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下	(23.1)			外；灰白色 内；にぶい橙色	10YR8/2 7.5YR7/3	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	不良	
55	36	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(24.6)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	微砂粒　多く含む	良好	
55	37	10 層	E2	弥生土器	鼓形器台	1/8 以上	(22.8)			外；黄灰色 内；灰白色	2.5Y6/1 10YR8/2	微砂粒　多く含む	良好	
55	38	10 層	E2	弥生土器	鼓形器台	1/6 以下	(23.2)			外；灰黄色 内；灰黄色～にぶい橙色	2.5Y7/2 2.5Y7/2 ～ 5YR7/4	微砂粒　多く含む	良好	
56	1	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	1/3 以上			(19.0)	灰黄色	2.5Y7/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	内外；煤付着
56	2	10 層	D2	弥生土器	鼓形器台	1/3 以下			(22.2)	灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
56	3	10 層	E4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以上			(19.6)	外；灰白色 内；灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	0.5 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	
56	4	10 層	D4	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下			(17.4)	外；灰白色 内；浅黄橙色	2.5Y8/2 10YR8/3	1mm 以下　砂粒を非常に多く含む	良好	

Fig	番号	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径	器高	底径	色調		胎土	焼成	備考
56	5	10 層	E3	弥生土器	鼓形器台	1/8 以下			(20.4)	灰黄色	2.5Y7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
56	6	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	1/3 以上			(22.4)	外；灰黄色 内；にぶい黄橙色	2.5Y7/2 10YR7/3	1 ～ 2mm　砂粒を多く含む	良好	
56	7	10 層	E1	弥生土器	鼓形器台	1/3 以下			(23.0)	浅黄橙色	10YR8/3	0.5 ～ 1mm　砂粒を多く含む	良好	
56	8	10 層	E1	弥生土器	鼓形器形	1/8 以下			(22.6)	外；灰黄色 内；黒色	2.5Y6/2 2.5Y2/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
56	9	10 層	D2	弥生土器	鼓形器台	1/4 以下				にぶい黄橙色	10YR7/2	1.5mm 以下　砂粒を多く含む	良好	外；器受部 4 条擬凹線文
56	10	10 層	E6	弥生土器	鼓形器台	1/3 以下				にぶい黄橙色	10YR7/2	0.5 ～ 1mm 以下 砂粒を　多く含む	良好	外；煤付着
56	11	10 層	D3	弥生土器	小型器台	ほぼ完形	10.1	8.4	11.3	にぶい黄橙色～灰黄褐色	10YR7/3 ～ 10YR5/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	円形透孔 3　畿内系
56	12	10 層	D3	弥生土器	碗か鉢	1/8 以下	(16.2)			外；灰白色 内；にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	0.5mm　砂粒を　少量含む	良好	
56	13	10 層	E3	弥生土器	碗か鉢	1/6 以下	(17.0)			にぶい黄橙色	10YR7/2	1mm 以下　砂粒を含む	良好	
56	14	10 層	D3	弥生土器	脚付碗	1/6 以上				外；灰黄色 内；灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
56	15	10 層	D2	弥生土器	碗か鉢	1/8 以下	(11.0)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/1 2.5Y7/1	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	
56	16	10 層	D3	弥生土器	装飾壺	ほぼ完形	9.2			浅黄橙色	10YR8/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；口縁部 8 条擬凹線文 頸部穿孔 2 × 2　胴部 2 条突帯・6 段 2 ～ 4 条平行沈線文・6 段刺突文 内外；赤彩（赤色 7.5R4/8）
56	17	10 層	F5	弥生土器	脚付壺	3/4 以下			(10.3)	灰白色	2.5Y8/1	1 ～ 1.5mm　砂粒を多く含む	やや不良	外；脚部 9 条平行沈線文
56	18	10 層	D2	弥生土器	把手付小型碗	1/8 以上	(10.4)			外；浅黄色 内；灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	把手 1
56	19	10 層	D2	弥生土器	甑	1/8 以下	(31.4)			外；灰白色 内；灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
56	20	10 層	E1	弥生土器	甑形土器	小片				外；にぶい黄褐色 内；灰黄褐色	10YR7/2 10YR5/2	2mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
56	21	10 層	E3	土師器	手捏土器	底部完形				外；灰黄色 内；灰色	2.5Y6/2 5Y6/1	1mm 以下　砂粒を多く含む	良好	
56	22	10 層	E5	須恵器	高台付坏	1/4 以下			(8.8)	灰色	N6/	1mm 以下　砂粒を少量含む	良好	外；底部回転糸切り
56	23	10 層	D4	須恵器	高台付皿	1/8 以下			(12.4)	灰白色	5Y7/1	0.5mm 以下　砂粒を微量含む	良好	外；底部回転糸切り

第 4 表　山持遺跡 6 区⑦出土木製品観察表

Fig	番号	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅／径 (cm)	厚さ (cm)	木取り	備考
45	1		SR01	卒塔婆状木製品	(48.2)	4.3	3.3	丸太材	墨書「觀心無心□本□　□」
45	2		SR01	漆器椀					外：黒漆 内：朱漆
45	3		SR01	板状木製品	(8.7)	(2.0)	0.8	柾目	孔 1、漆付着
47	1		杭列 1	杭	(35.7)	2.7	2.9	丸太材	先端加工あり
47	2		杭列 2	杭	(73.1)	5.1	4.5	丸太材	先端加工あり
47	3		杭列 2	杭	(75.2)	5.1	5.1	丸太材	先端加工あり
47	4		杭列 2	杭	(55.3)	3.8	4.9	丸太材	先端加工あり
47	5		杭列 2	杭	(43.6)	4.0	5.5	丸太材	先端加工あり
47	6		杭列 2	杭	(37.0)	3.3	3.5	丸太材	先端加工あり
47	7		杭列 2	杭	(29.3)	4.4	4.1	丸太材	先端加工あり
47	8		杭列 3	杭	(117.3)	5.6	8.4	丸太材	先端加工あり
47	9		杭列 4	杭	(45.3)	3.5	3.7	丸太材	先端加工あり
57	1	10 層	E5	杭か棒状木製品	(23.4)	3.0	2.2	丸太材	先端加工あり
57	2	10 層	E4	杭の先端部か	11.0	3.9	3.7	柾目	
57	3	10 層	E5	板状木製品	(30.7)	2.5	1.3	柾目	一方を斜めに切る
57	4	10 層	E5	箱か容器状木製品か	(38.3)	12.7	2.4	柾目	一辺に縁取りあり
57	5	10 層	F5	板状木製品	(43.6)	9.5	4.1	芯持ち	
57	6	10 層	F5	不明	(31.3)	18.2	5.5	板目	表面の磨滅が著しい

第6章　自然科学的分析

山持遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

山持遺跡は、島根県出雲市西林木町、日下町に所在する。測定対象試料は、6区④の杭4（No.1：IAAA-92946）、7区⑤のSD01出土流木（No.2：IAAA-92947）、杭列1（No.3：IAAA-92948）、杭列4（No.4：IAAA-92949）、6区⑦のSR01出土卒塔婆（No.5：IAAA-92950）、杭列1（No.6：IAAA-92951）、杭列2（No.7：IAAA-92952、No.8：IAAA-92953）、杭列3（No.9：IAAA-92954）、杭列4（No.10：IAAA-92955）、合計10点である。

2　測定の意義

遺構、遺物の時期を明らかにし、それらの年代関係を確認する。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

（2）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

（3）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。

（4）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

（5）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

（6）グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4　測定方法

測定機器は、加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ^{13}C によって補正された値である。^{14}C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（3）δ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ^{13}C/^{12}C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

（4）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。

（5）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4％）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース（Reimer et al. 2004）を用い、OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 1995; Bronk Ramsey 2001; Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

6　測定結果

6 区④杭 No.1 の ^{14}C 年代は 350 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は 15 世紀後葉から 17 世紀前葉頃の間に複数の範囲で示される。

7 区⑤出土試料の ^{14}C 年代は、SD01 出土流木 No.2 が 1520 ± 30yrBP、杭列 1 の No.3 が 1430 ± 30yrBP、杭列 4 の No.4 が 1470 ± 20yrBP である。No.2 の暦年較正年代は、1 σ で見ると 6 世紀頃となるが、2 σ では 5 世紀頃も範囲となる。No.3 の暦年較正年代（1 σ）は 7 世紀前半頃、No.3 は 6 世紀後半から 7 世紀前葉頃の範囲で示される。

6 区⑦出土試料の ^{14}C 年代は、SR01 出土卒塔婆 No.5 が 390 ± 20yrBP、杭列 1 の No.6 が 290 ± 20yrBP、杭列 2 の No.7 が 390 ± 20yrBP、No.8 が 200 ± 30yrBP、杭列 3 の No.9 が 1400 ± 30yrBP、杭列 4 の No.10 が 200 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、No.5 と No.7 が 15 世紀後半頃と 17 世紀前葉頃の 2 つの範囲、No.6 が 16 世紀前葉から 17 世紀前半頃の間に 3 つの範囲、No.8 と No,10 が 17 世紀後半以降、No.9 は 7 世紀前葉から中葉頃の範囲となっている。同じ杭列 2 に認定された No.7 と No.8 については、^{14}C 年代の誤差範囲、1 σ、2 σ 暦年代範囲とも重なる部分がなく、年代差があるとも考えられるが、暦年較正年代グラフに示される確率分布で No.7 の下限と No.8 の上限が近い位置にある点は注意を要する。

炭素含有率はすべて 50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-92946	No.1	6 区④ 遺構：杭 4	木片	AAA	**-23.87 ± 0.35**	**350 ± 20**	**95.77 ± 0.28**
IAAA-92947	No.2	7 区⑤ 遺構：SD01	木片	AAA	**-27.57 ± 0.35**	**1,520 ± 30**	**82.79 ± 0.26**
IAAA-92948	No.3	7 区⑤ 遺構：杭列 1	木片	AAA	**-24.88 ± 0.42**	**1,430 ± 30**	**83.65 ± 0.27**
IAAA-92949	No.4	7 区⑤ 遺構：杭列 4	木片	AAA	**-24.88 ± 0.33**	**1,470 ± 20**	**83.24 ± 0.25**
IAAA-92950	No.5	6 区⑦ 遺構：SR01	木片	AAA	**-26.16 ± 0.36**	**390 ± 20**	**95.27 ± 0.29**
IAAA-92951	No.6	6 区⑦ 遺構：杭列 1	木片	AAA	**-23.51 ± 0.36**	**290 ± 20**	**96.42 ± 0.28**
IAAA-92952	No.7	6 区⑦ 遺構：杭列 2	木片	AAA	**-26.62 ± 0.36**	**390 ± 20**	**95.28 ± 0.28**
IAAA-92953	No.8	6 区⑦ 遺構：杭列 2	木片	AAA	**-30.02 ± 0.41**	**200 ± 30**	**97.51 ± 0.31**

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-92954	No.9	6 区⑦ 遺構：杭列 3	木片	AAA	**-25.76 ± 0.40**	**1,400 ± 30**	**84.00 ± 0.26**
IAAA-92955	No.10	6 区⑦ 遺構：杭列 4	木片	AAA	**-30.90 ± 0.38**	**200 ± 20**	**97.52 ± 0.29**

[#3480]

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-92946	330 ± 20	95.99 ± 0.27	347 ± 23	1486AD - 1523AD (27.1%) 1560AD - 1562AD (1.5%) 1572AD - 1630AD (39.6%)	1464AD - 1530AD (39.2%) 1538AD - 1635AD (56.2%)
IAAA-92947	1,560 ± 30	82.35 ± 0.25	1,517 ± 25	538AD - 594AD (68.2%)	435AD - 490AD (16.7%) 510AD - 517AD (1.0%) 529AD - 609AD (77.7%)
IAAA-92948	1,430 ± 30	83.67 ± 0.26	1,434 ± 25	607AD - 645AD (68.2%)	577AD - 654AD (95.4%)
IAAA-92949	1,470 ± 20	83.26 ± 0.25	1,474 ± 24	565AD - 615AD (68.2%)	550AD - 640AD (95.4%)
IAAA-92950	410 ± 20	95.05 ± 0.28	389 ± 24	1449AD - 1492AD (59.0%) 1603AD - 1612AD (9.2%)	1442AD - 1522AD (75.6%) 1575AD - 1584AD (1.4%) 1590AD - 1623AD (18.4%)
IAAA-92951	270 ± 20	96.71 ± 0.27	292 ± 23	1524AD - 1559AD (42.2%) 1564AD - 1569AD (3.4%) 1631AD - 1649AD (22.6%)	1514AD - 1600AD (64.4%) 1617AD - 1656AD (31.0%)
IAAA-92952	410 ± 20	94.97 ± 0.27	388 ± 23	1450AD - 1491AD (59.8%) 1603AD - 1610AD (8.4%)	1442AD - 1522AD (76.1%) 1576AD - 1583AD (1.0%) 1591AD - 1622AD (18.2%)
IAAA-92953	280 ± 20	96.50 ± 0.29	202 ± 25	1659AD - 1679AD (19.3%) 1764AD - 1800AD (34.2%) 1939AD - 1953AD (14.7%)	1650AD - 1684AD (25.8%) 1735AD - 1805AD (51.2%) 1932AD - 1954AD (18.4%)
IAAA-92954	1,410 ± 20	83.87 ± 0.25	1,400 ± 25	622AD - 659AD (68.2%)	604AD - 665AD (95.4%)
IAAA-92955	300 ± 20	96.34 ± 0.27	202 ± 23	1660AD - 1678AD (18.6%) 1765AD - 1800AD (34.3%) 1940AD - 1953AD (15.3%)	1650AD - 1684AD (25.7%) 1735AD - 1805AD (50.9%) 1933AD - 1955AD (18.8%)

[参考値]

参考文献

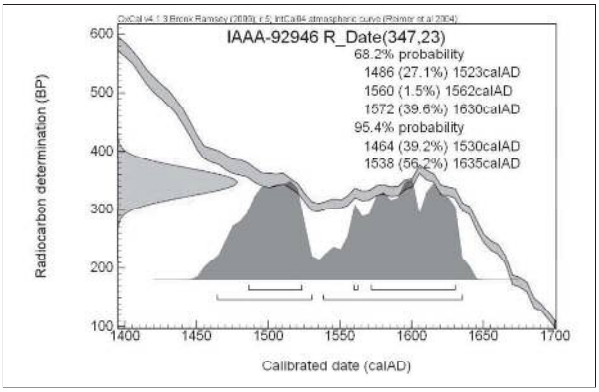
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

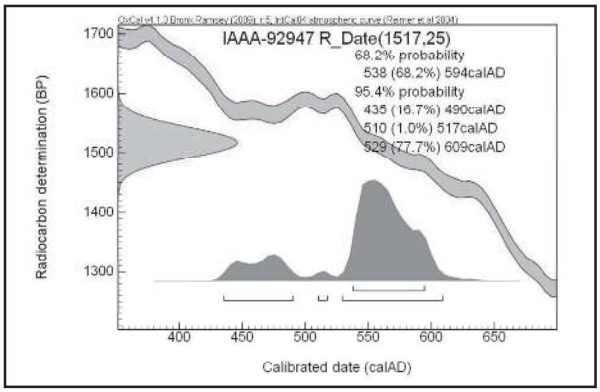
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

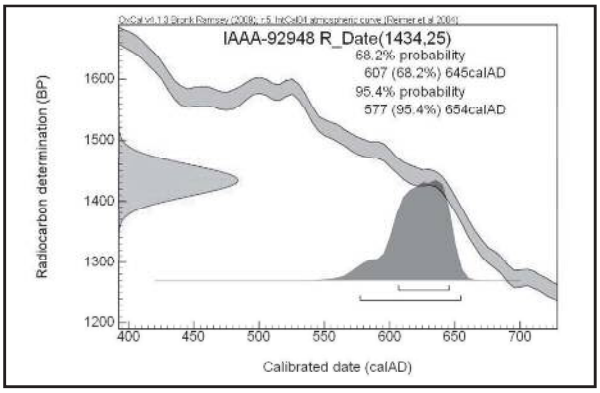
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program, Radiocarbon 43(2A), 355-363

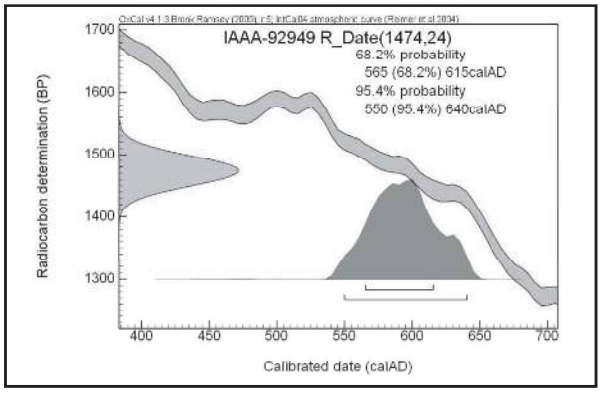
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

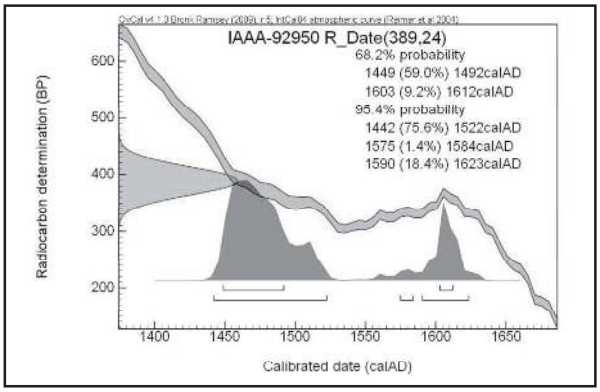
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46(3), 1029-1058

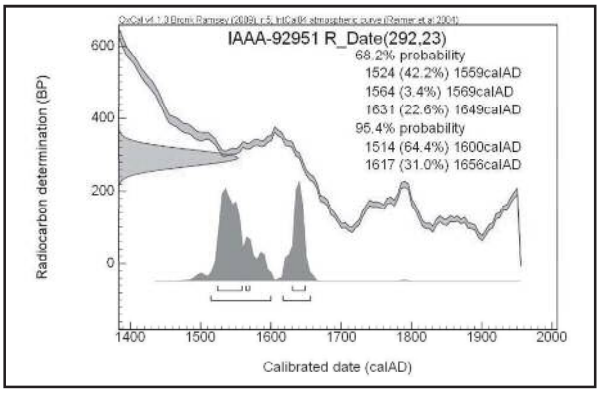


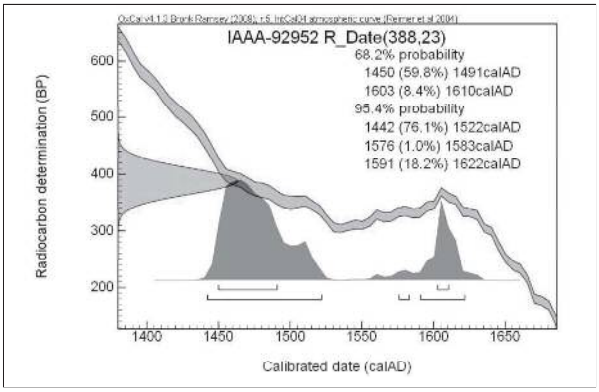


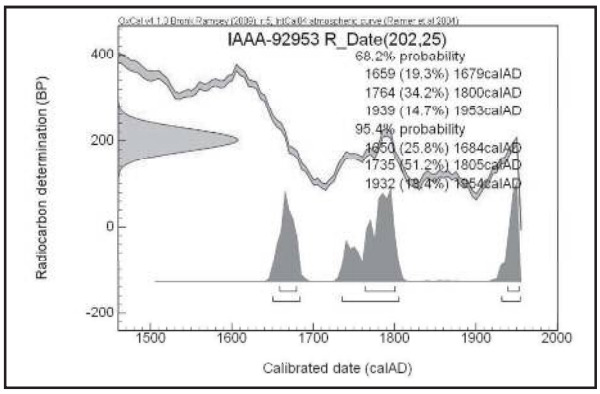


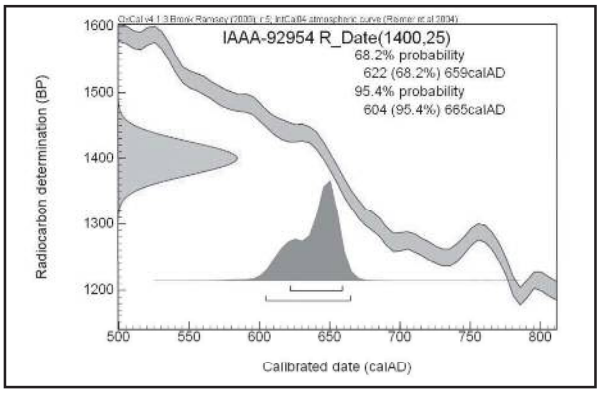


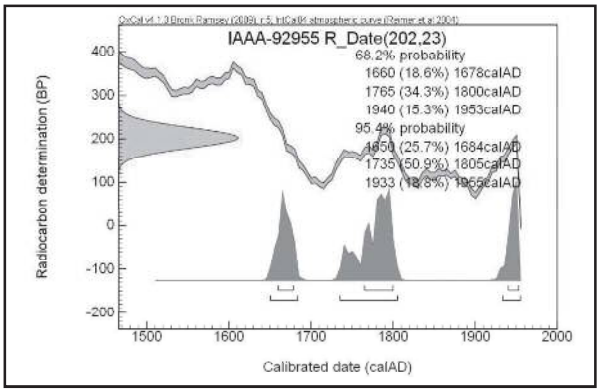












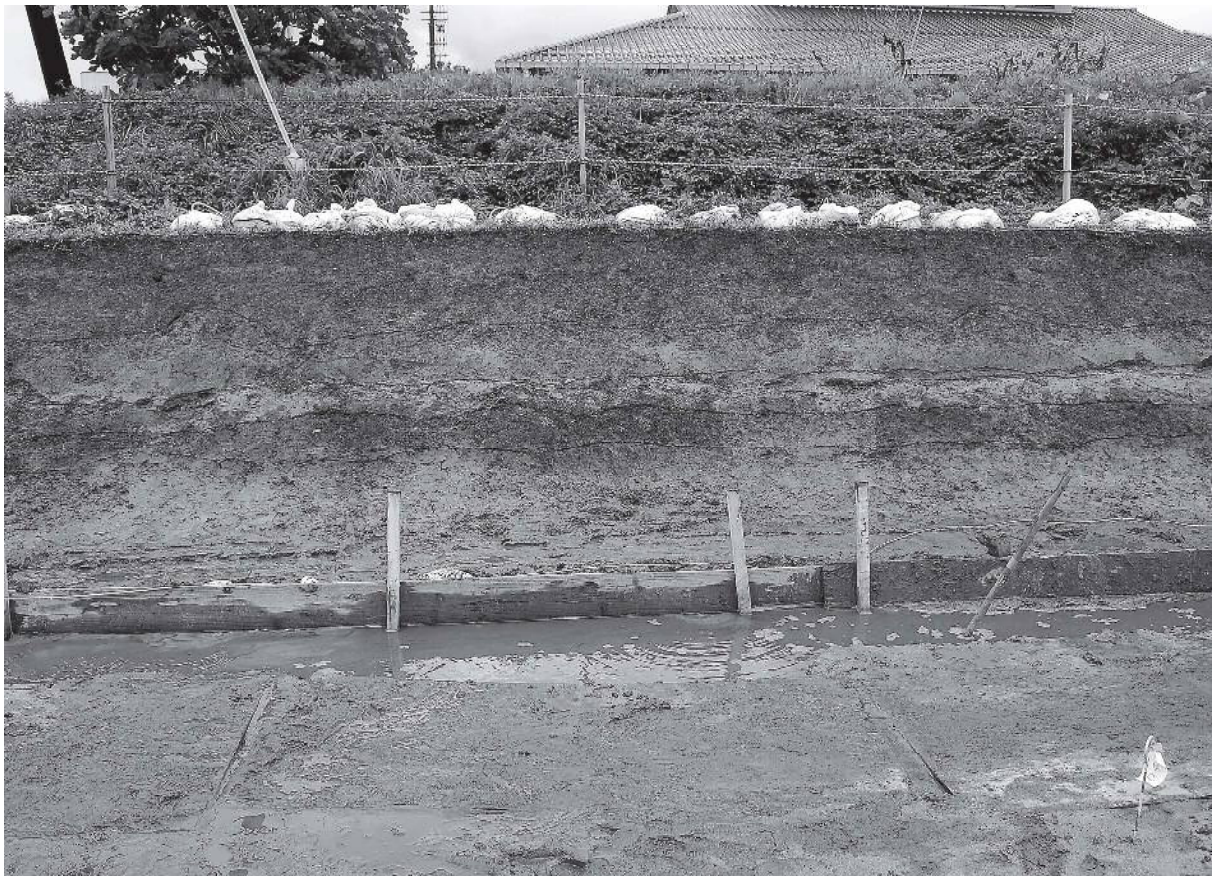
[参考] 暦年較正年代グラフ

写 真 図 版

１．山持遺跡６区⑦調査区西壁（南端、東から）

２．山持遺跡６区⑦調査区西壁（北端、東から）

図版２



１．山持遺跡６区⑦調査区南壁（北から）

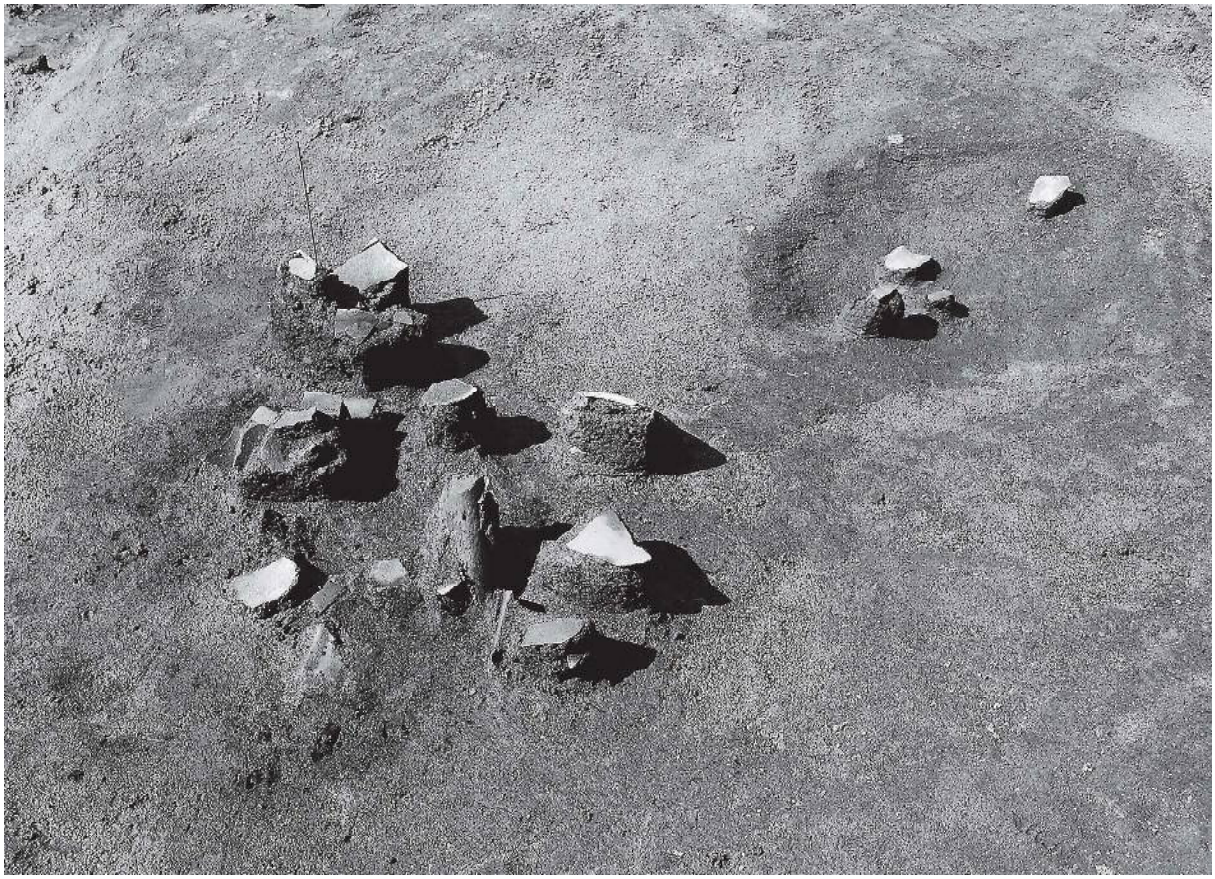
２．山持遺跡６区⑦土器群１検出状況（南東から）

1．山持遺跡 6 区⑦土器群 2 検出状況（東から）

2．山持遺跡 6 区⑦土器群 3 検出状況（南東から）

図版４

１．山持遺跡６区⑦土器群４検出状況（北から）



２．山持遺跡６区⑦土器群５検出状況（南から）

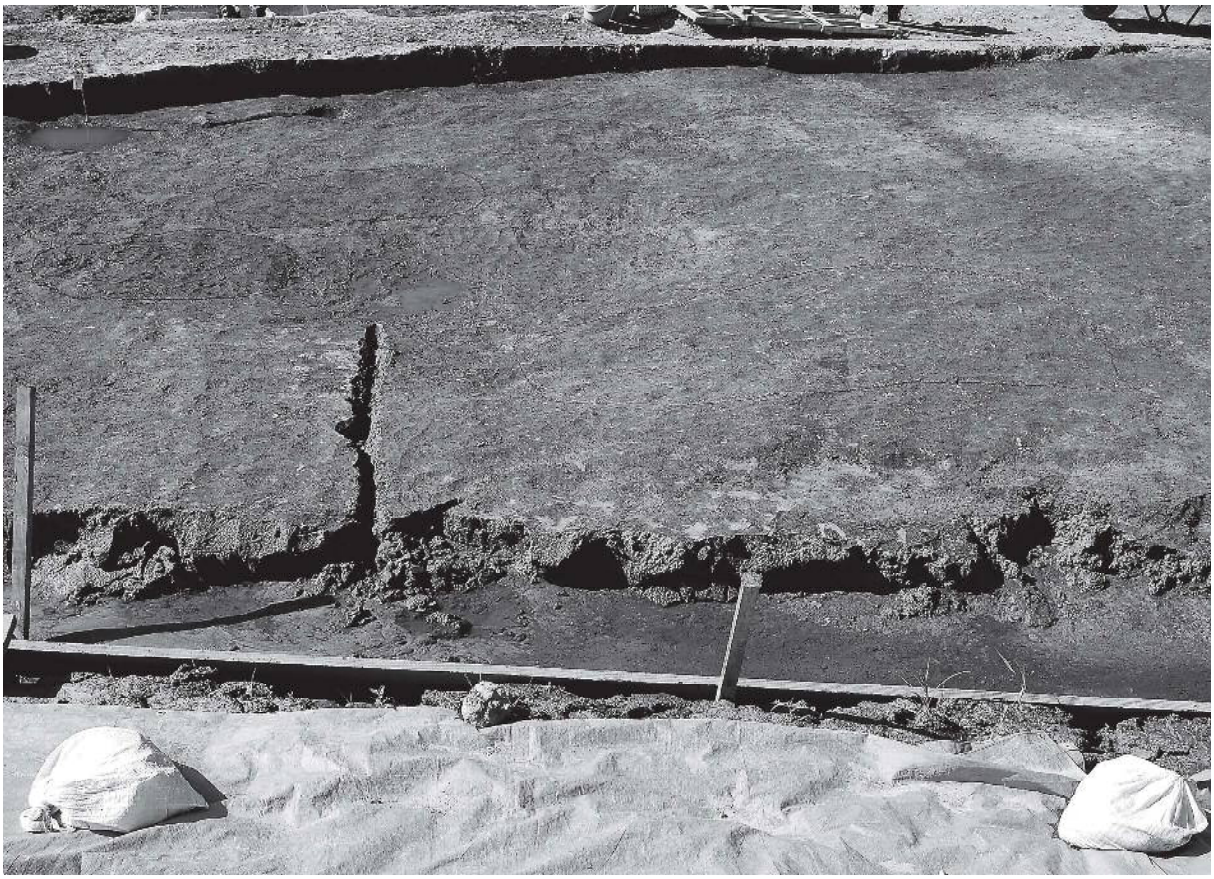
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 6 検出状況（北から）

2．山持遺跡 6 区⑦土器群 7 検出状況（西から）

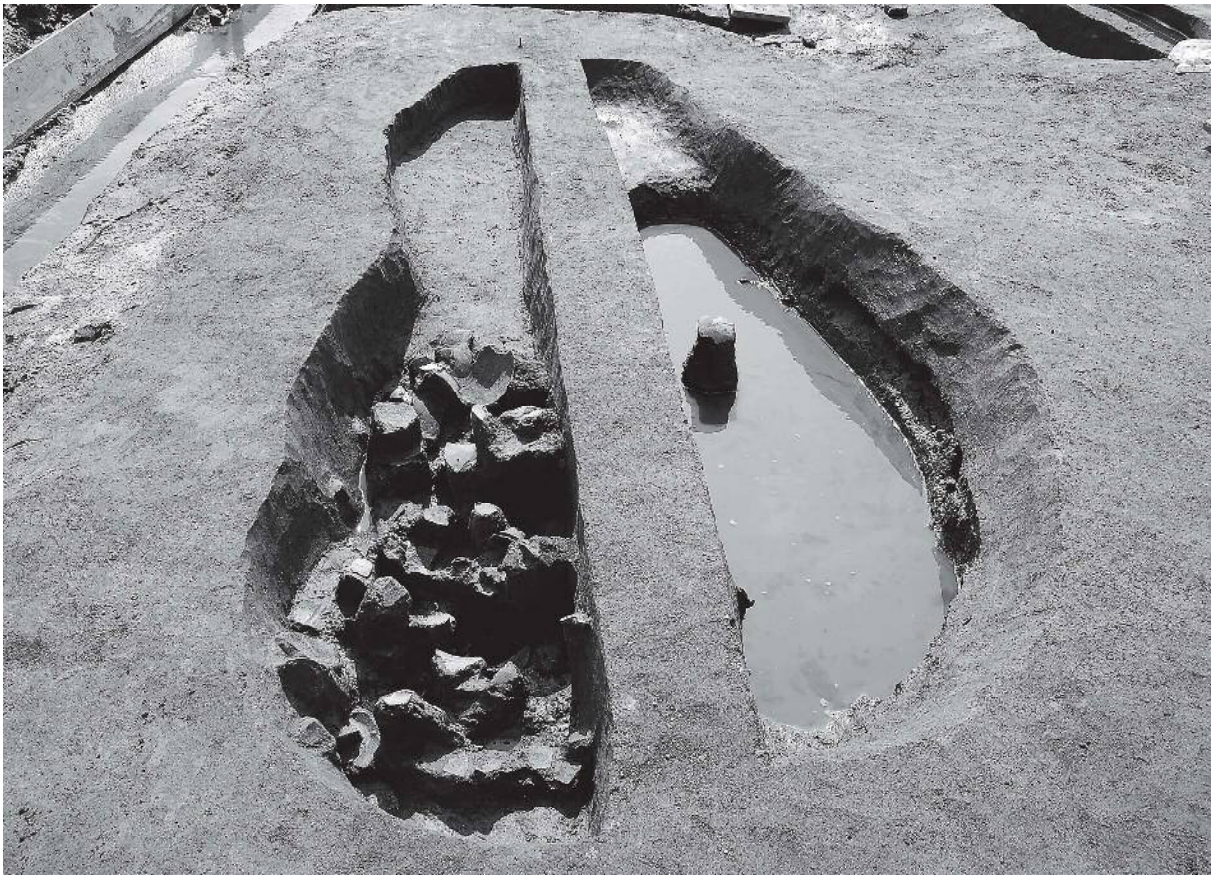
図版６

１．山持遺跡６区⑦土器群８検出状況（南から）

２．山持遺跡６区⑦土器群９検出状況（南から）



１．山持遺跡６区⑦ SK06 検出状況（南から）

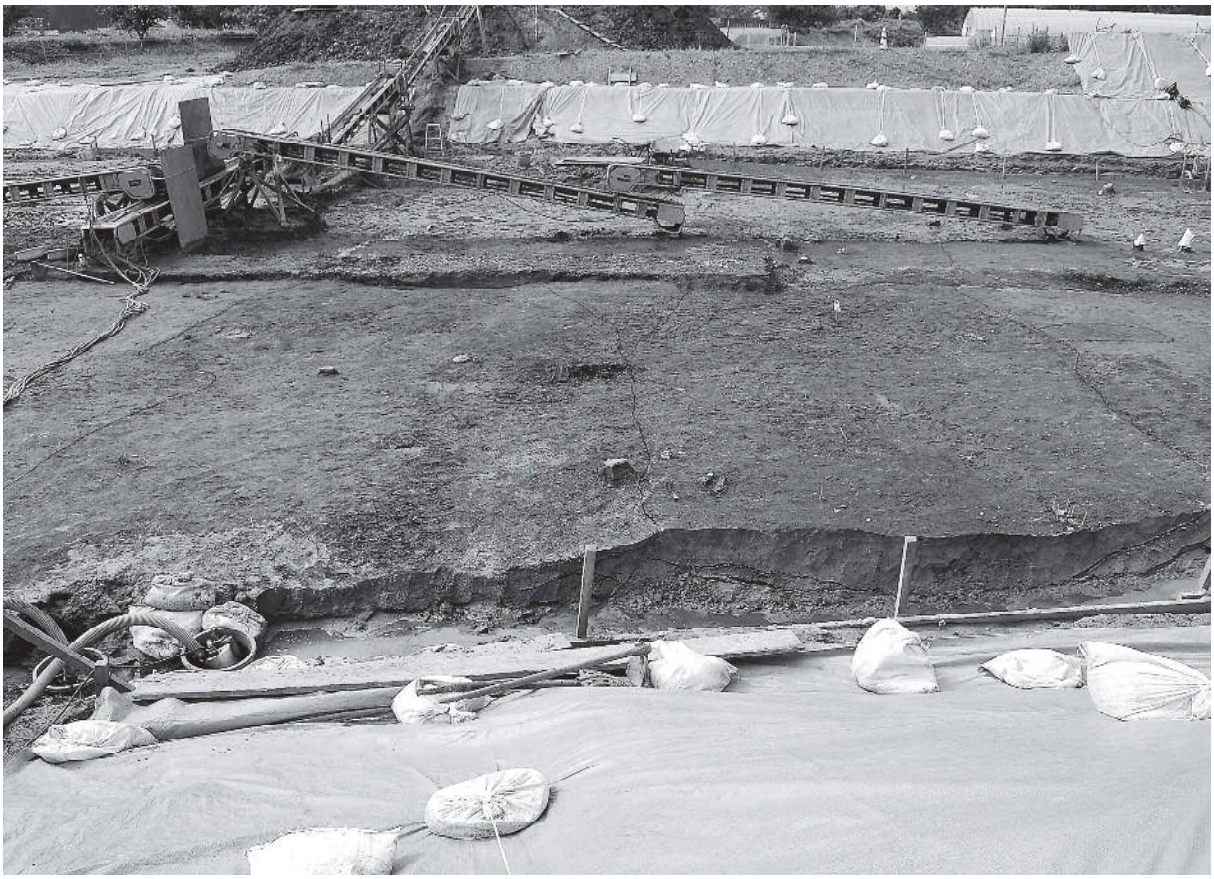


２．山持遺跡６区⑦ SK06 半裁状況（東から）

図版 8

1．山持遺跡 6 区⑦ SK06 土器出土状況（東から）

2．山持遺跡 6 区⑦ SK06 完掘状況（南から）



1．山持遺跡 6 区⑦ SD01・02 検出状況（南から）

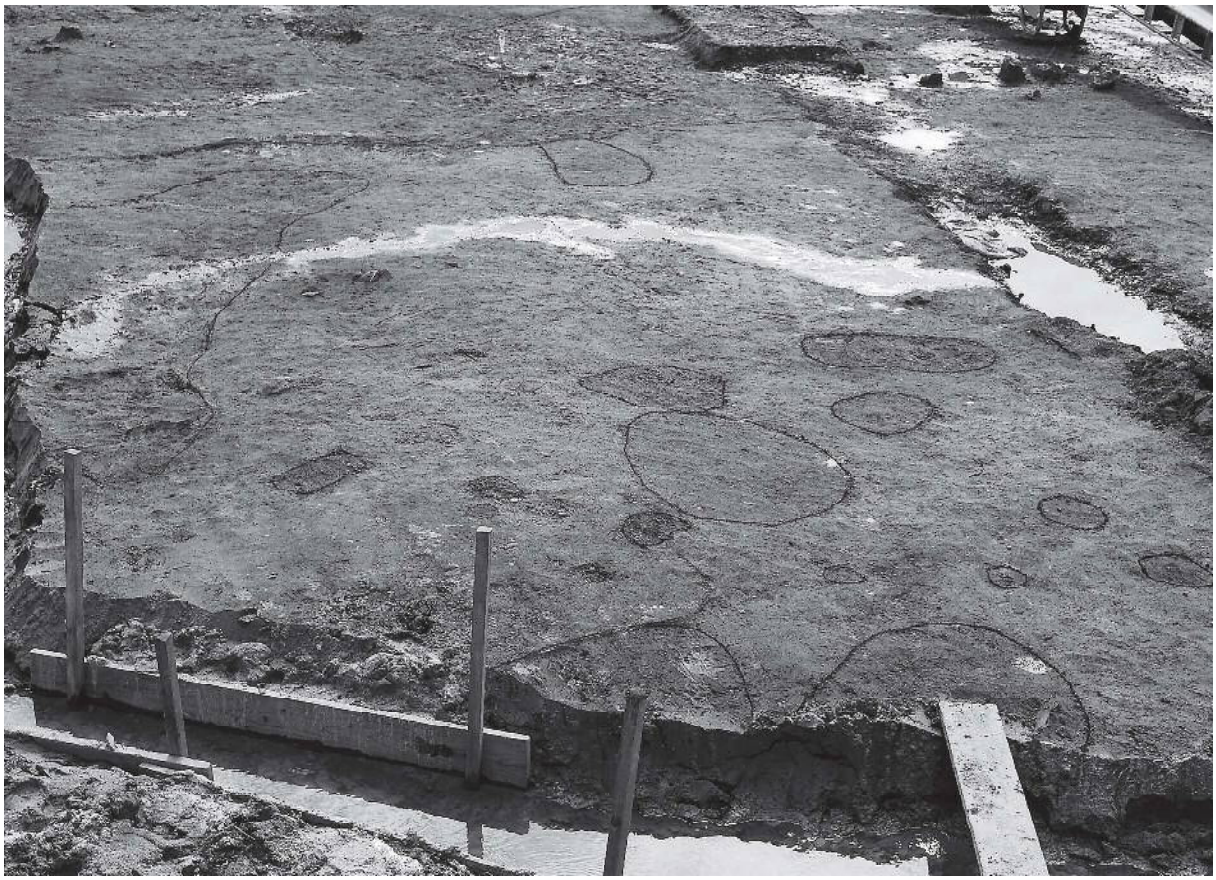
2．山持遺跡 6 区⑦ SD01・02 完掘状況（南から）

図版 10

1．山持遺跡 6 区⑦ SD03 検出状況（南から）

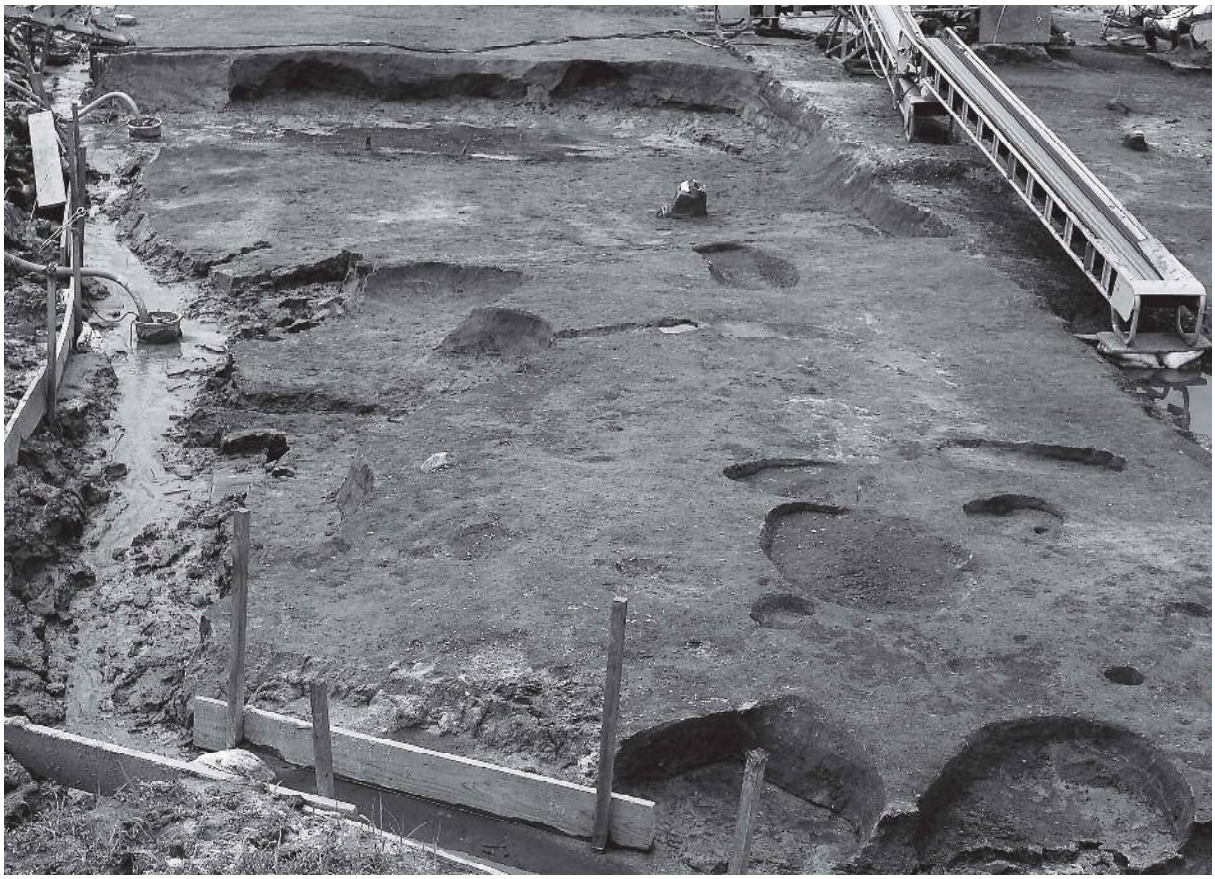
2．山持遺跡 6 区⑦ SD03 遺物出土状況（北から）

1．山持遺跡 6 区⑦ SD05 他検出状況（南から）



2．山持遺跡 6 区⑦ピット検出状況（東から）

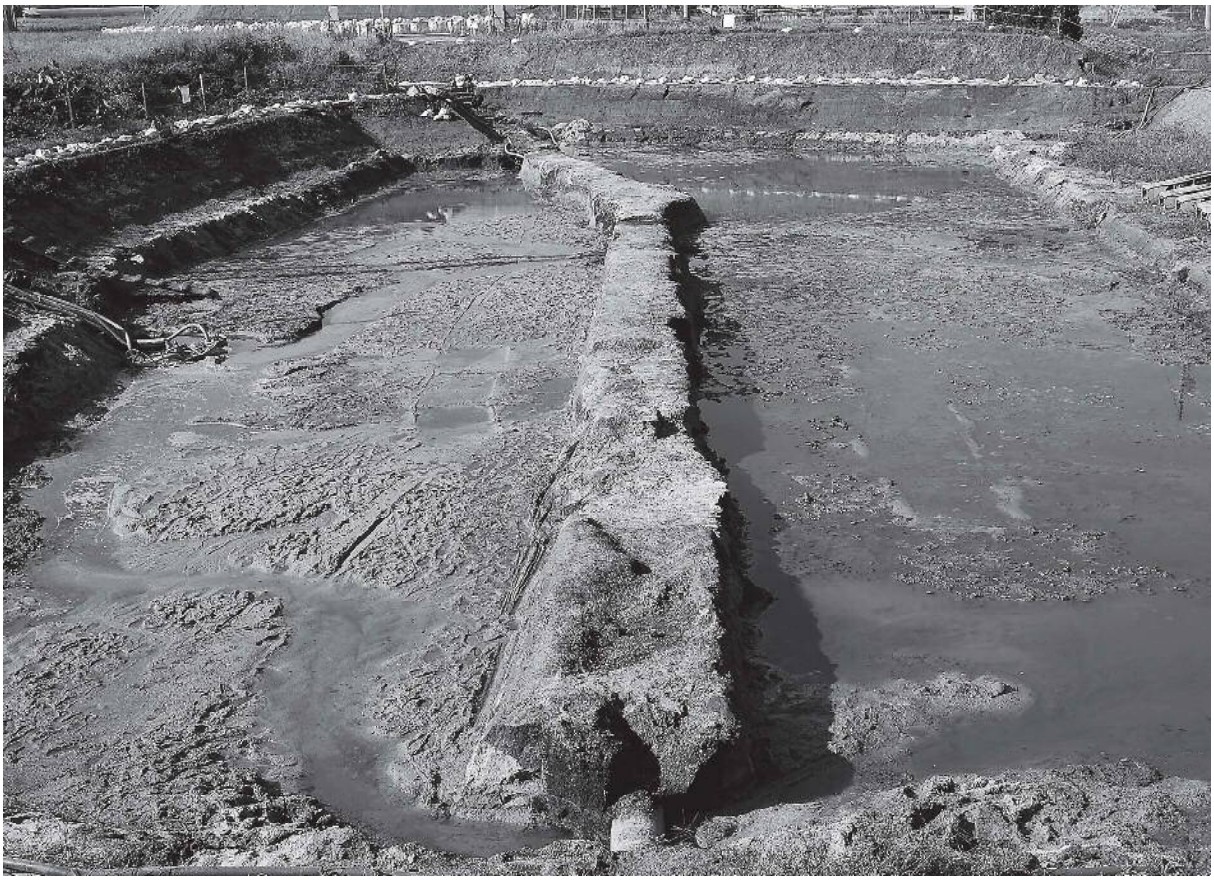
図版 12



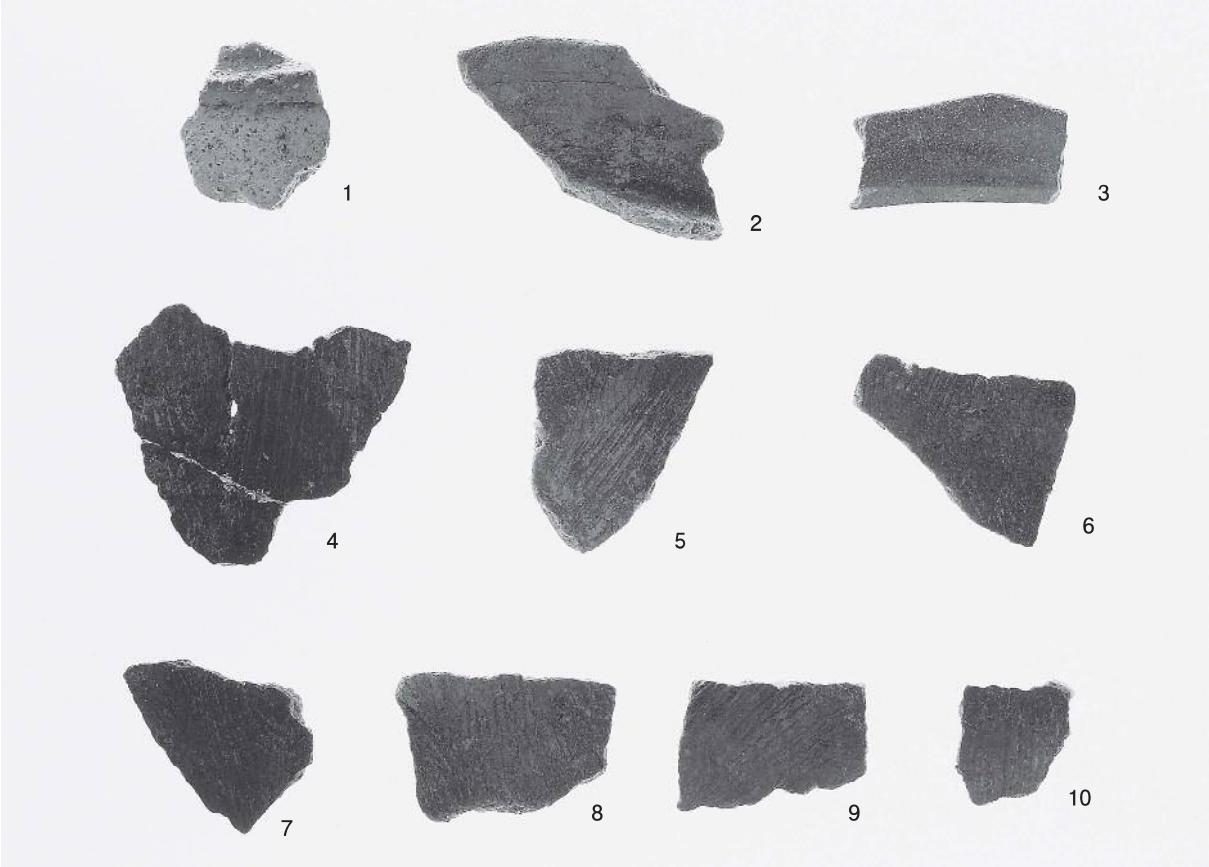
1．山持遺跡 6 区⑦ピット完掘状況（東から）

2．山持遺跡 6 区⑦杭列検出状況（西から）

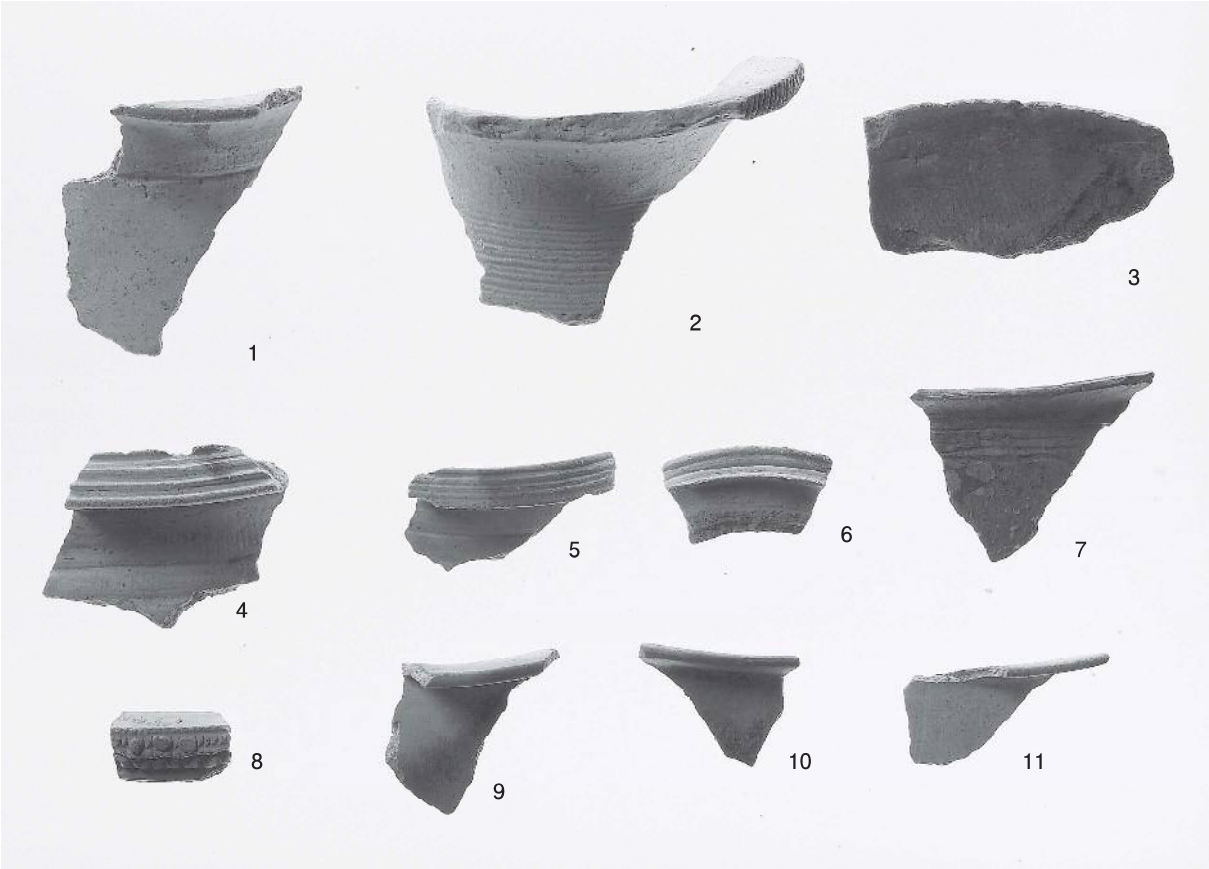
1．山持遺跡 6 区⑦杭列 1 検出状況（北から）



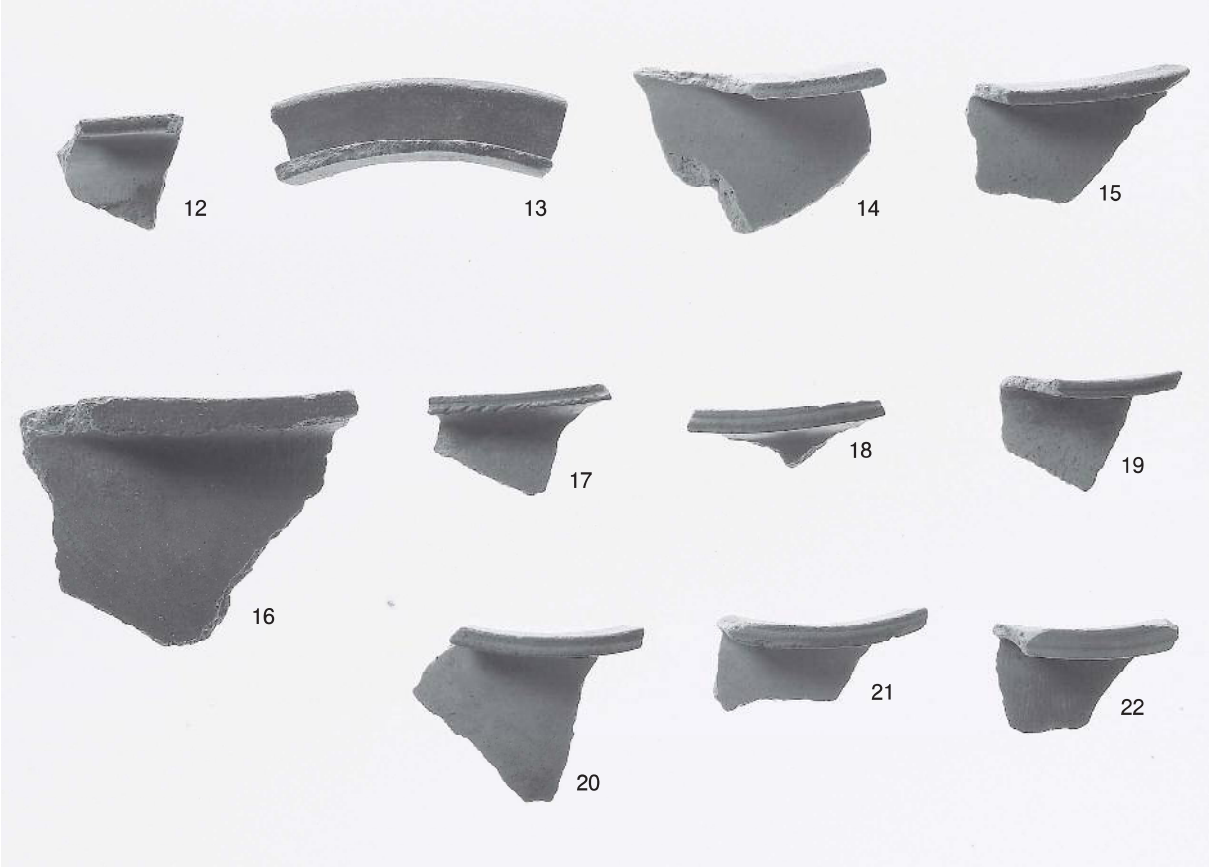
2．山持遺跡 6 区⑦調査区完掘状況（東から）



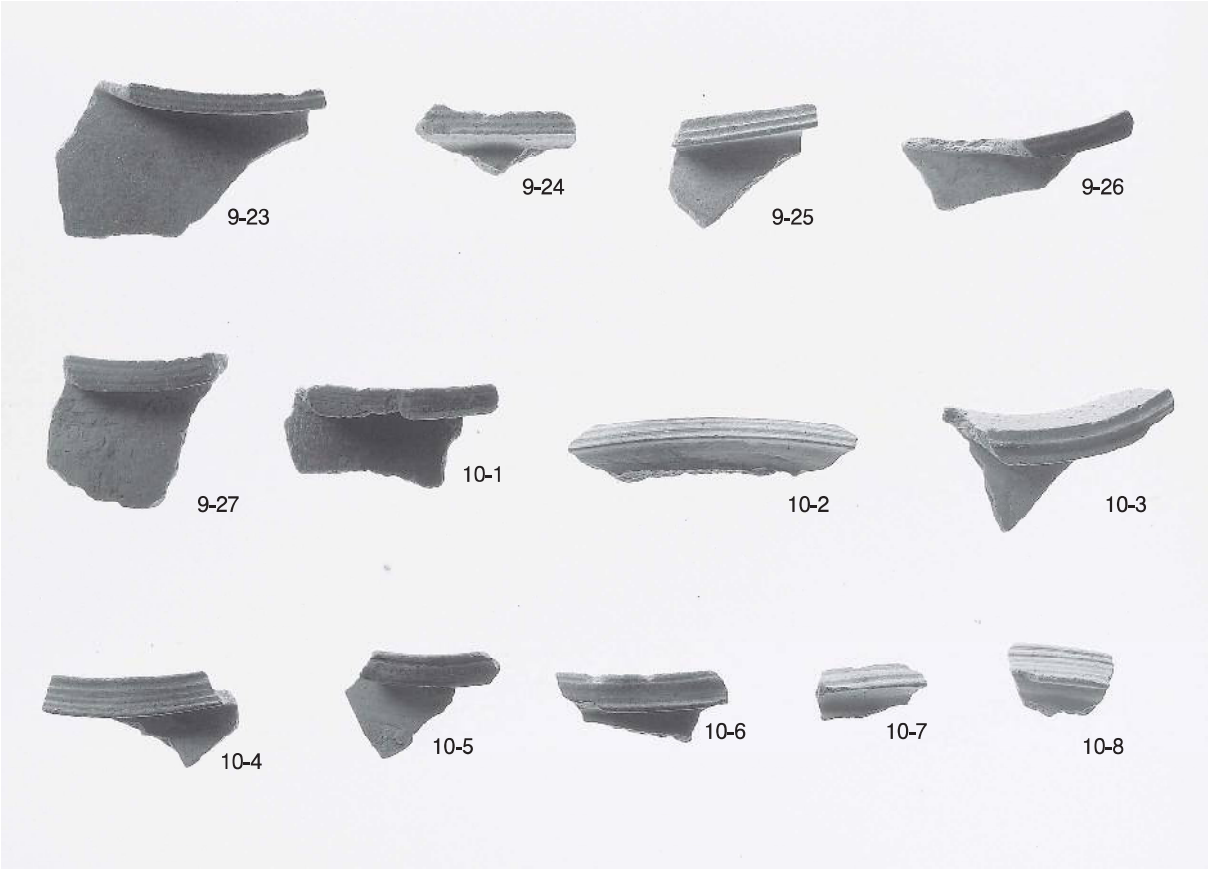
1．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（1）（第 8 図）



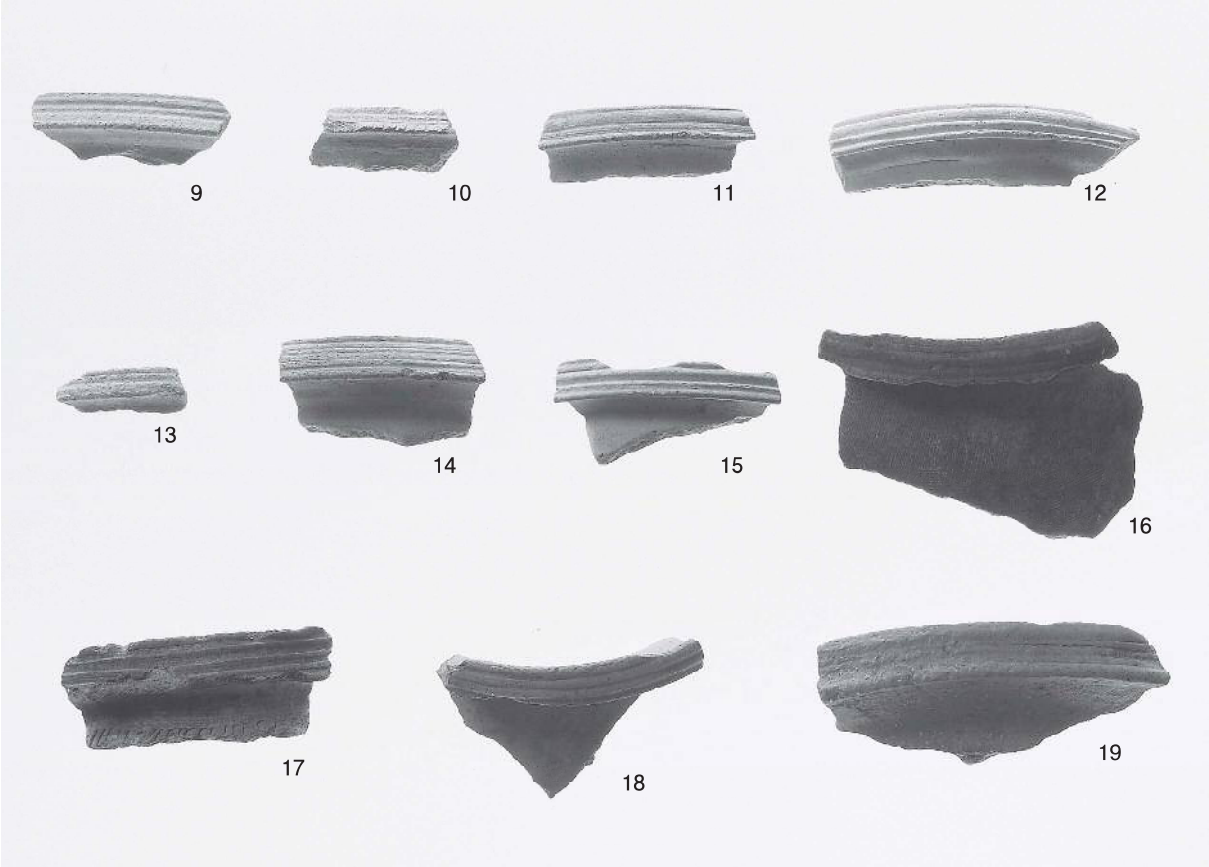
2．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（2）（第 9 図）



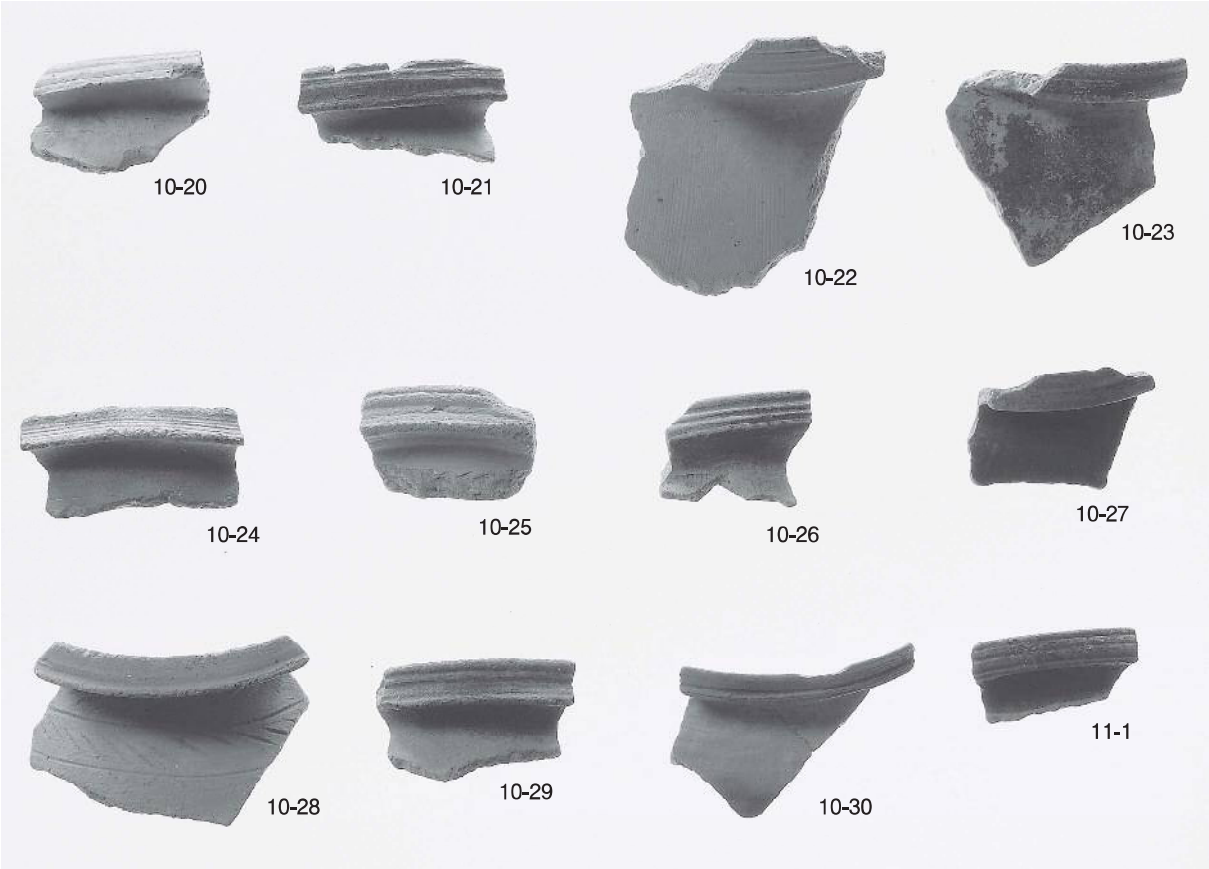
1．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（3）（第 9 図）



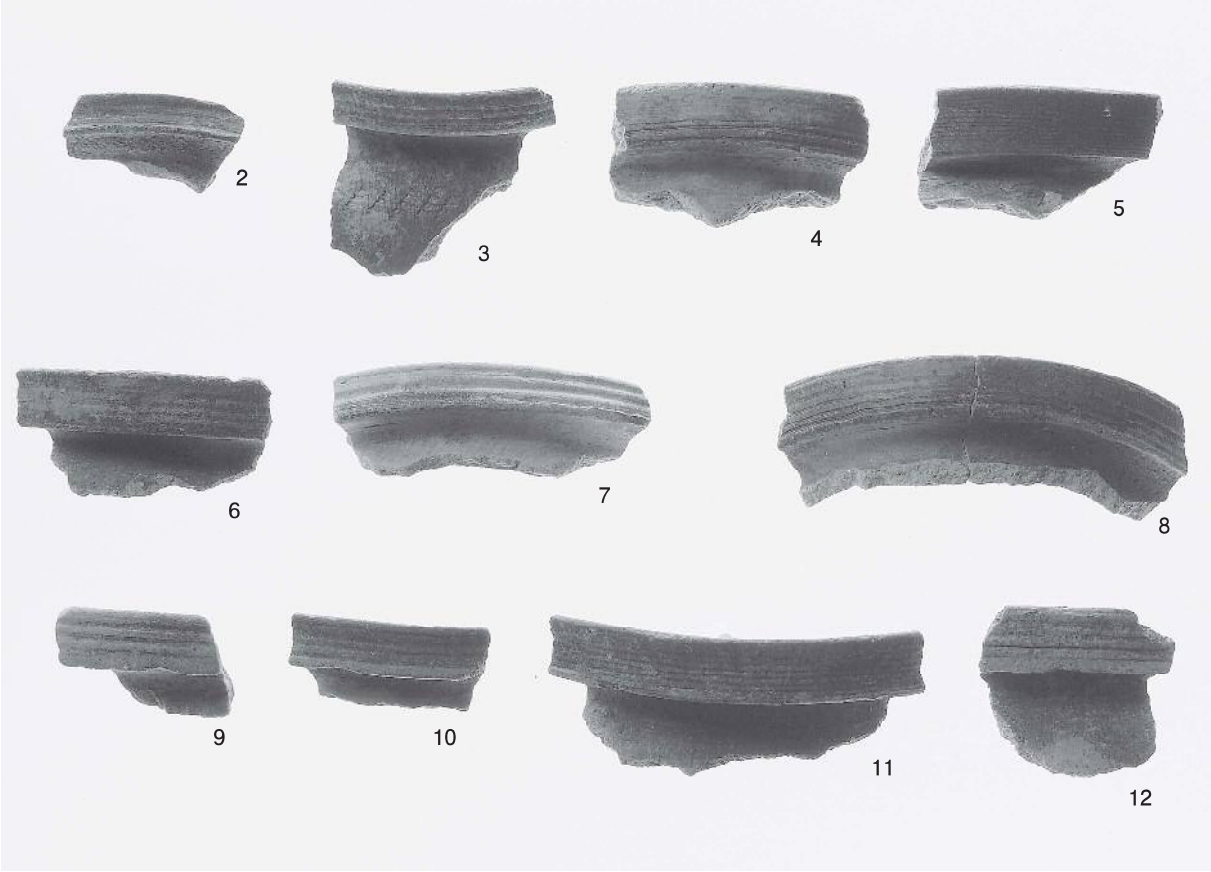
2．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（4）（第 9・10 図）



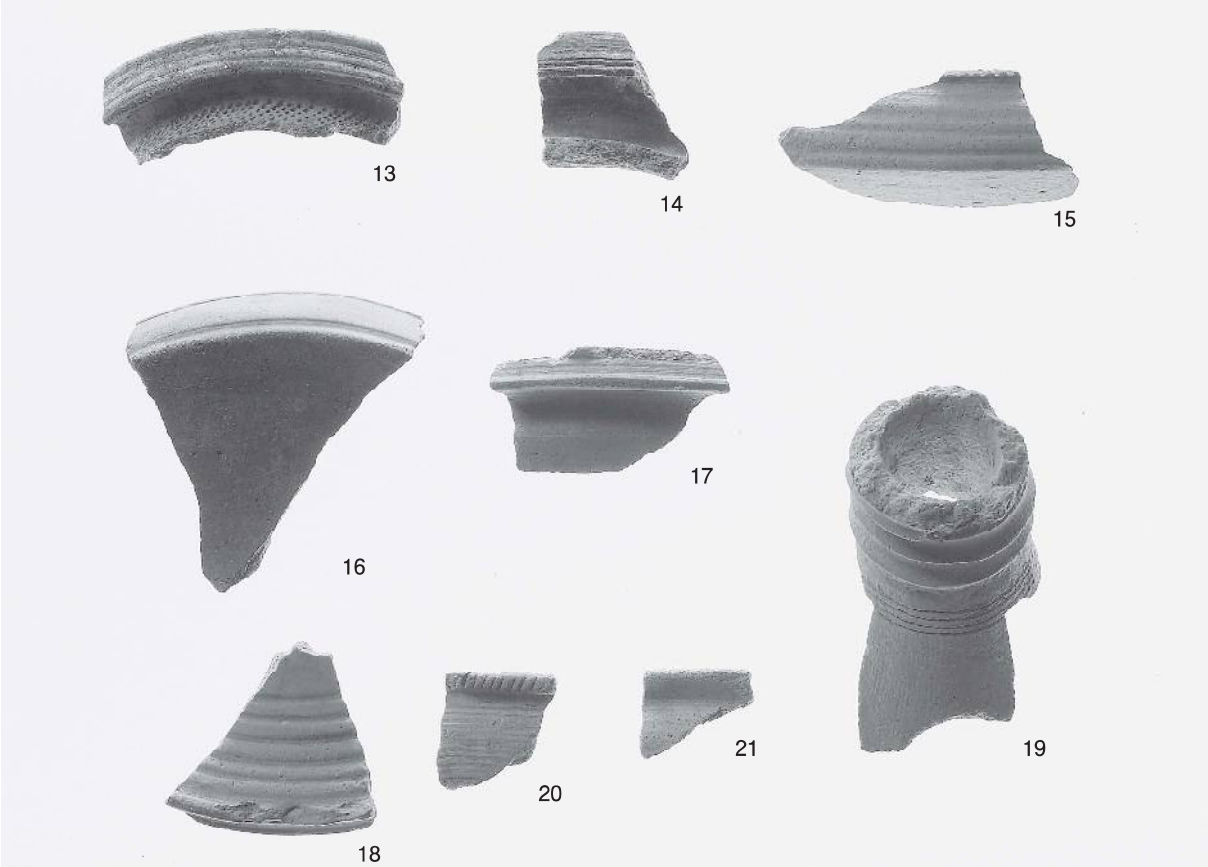
1．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（5）（第 10 図）



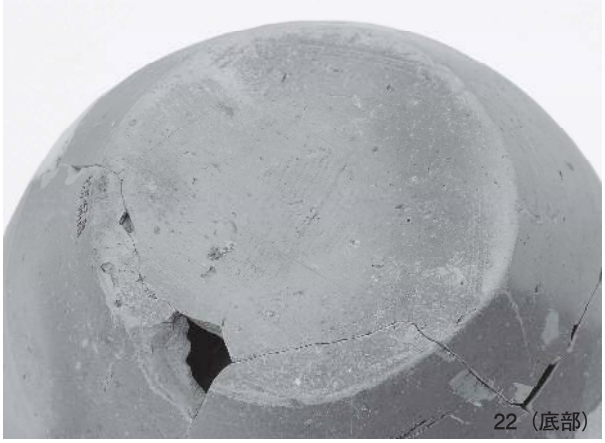
2．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（6）（第 10・11 図）



1．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（7）（第 11 図）



2．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（8）（第 11 図）



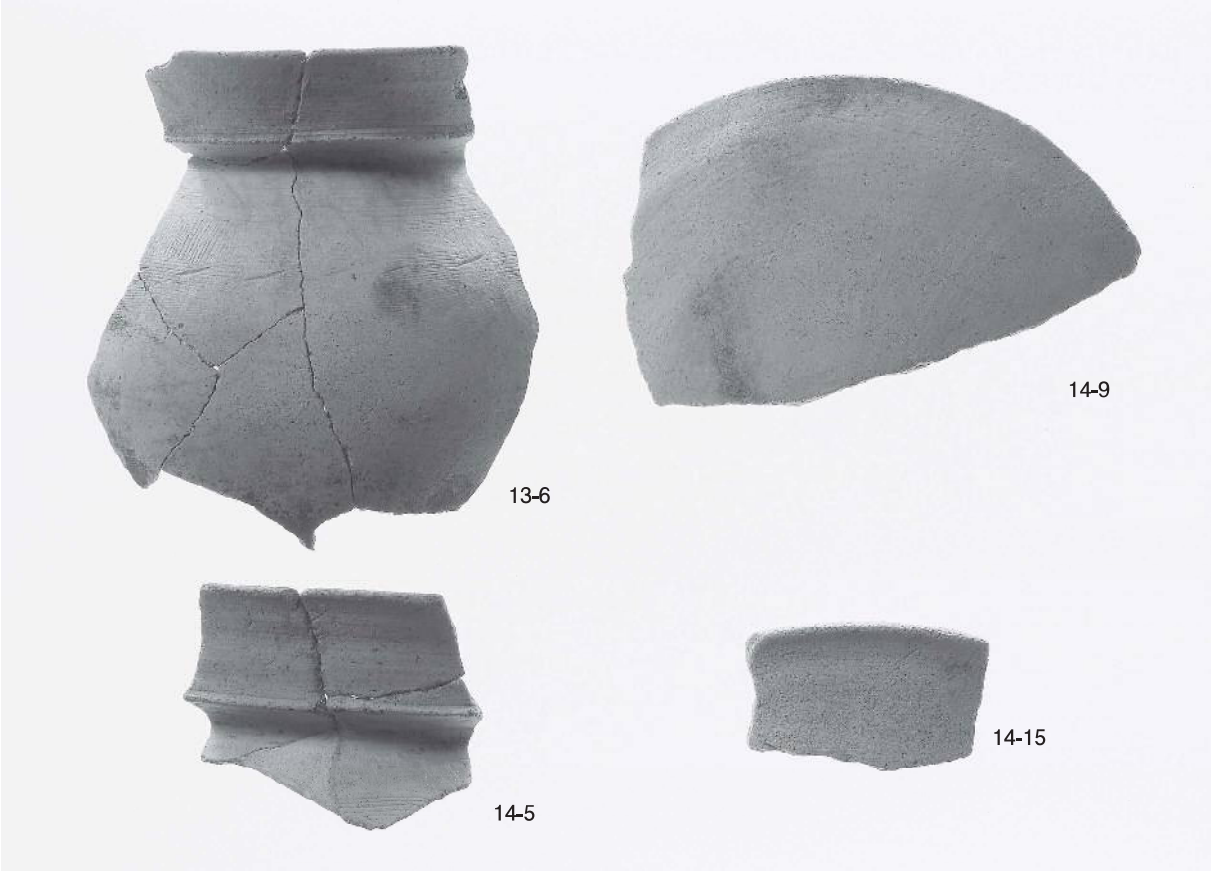
1．山持遺跡 6 区⑦砂礫層出土土器（9）（第 11 図）

2．山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土土器（1）（第 13 図）

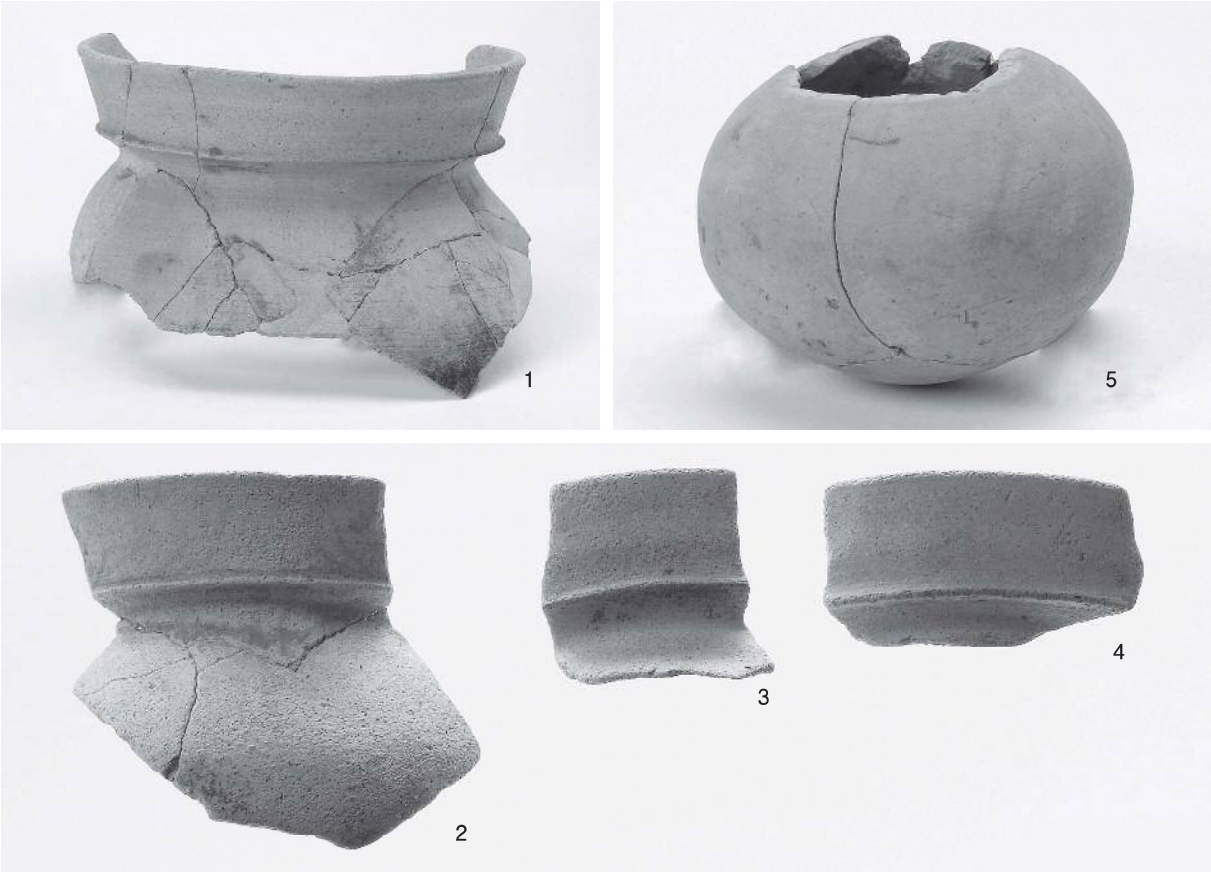
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土土器（2）（第 13 図）

1．山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土土器（3）（第 14 図）

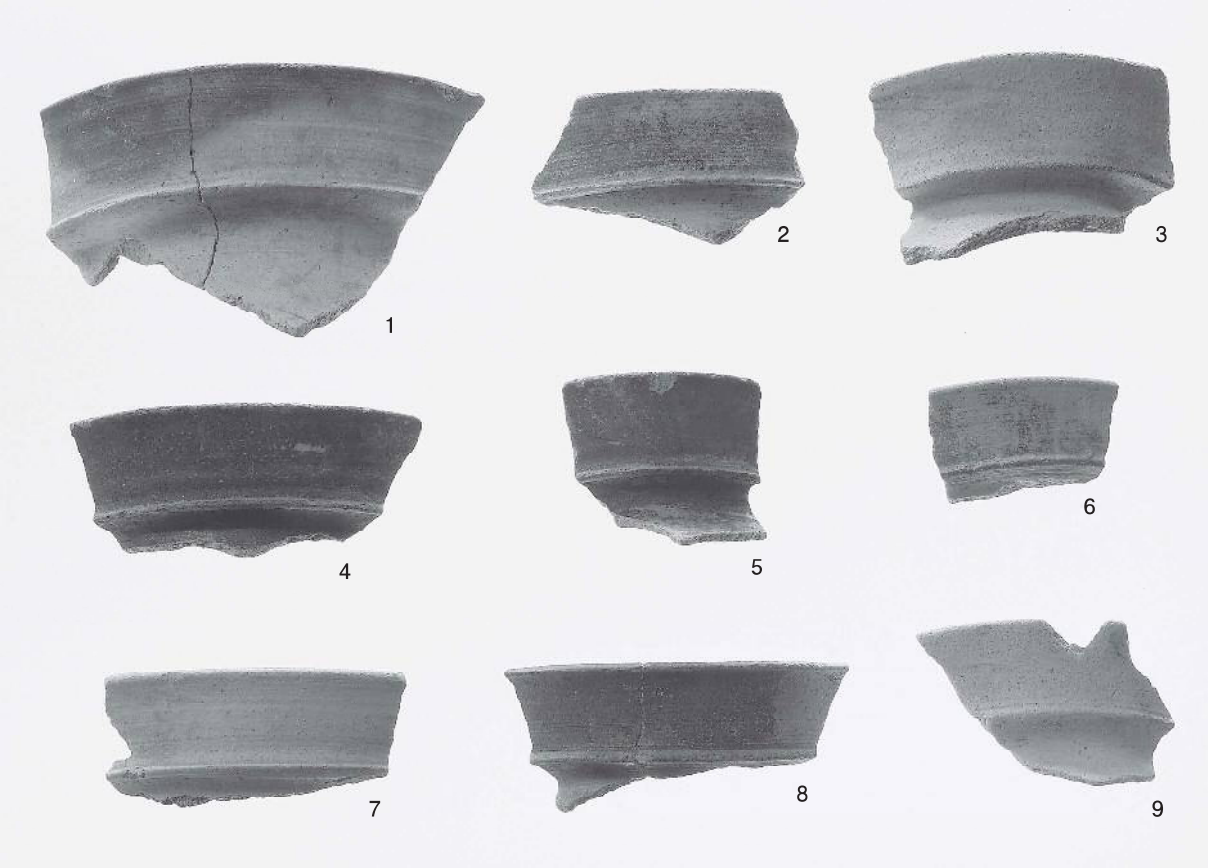
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土土器（4）（第 14 図）



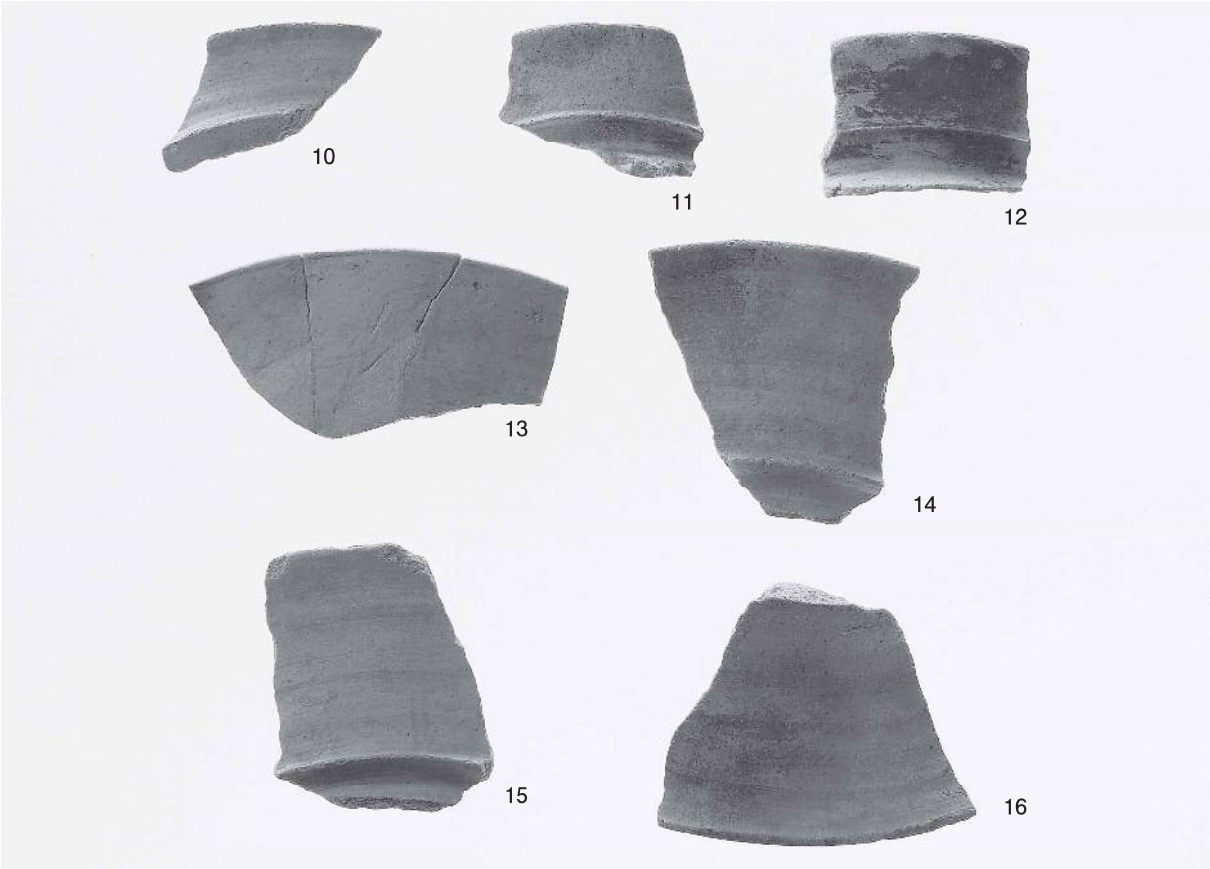
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 1 出土土器（5）（第 13・14 図）



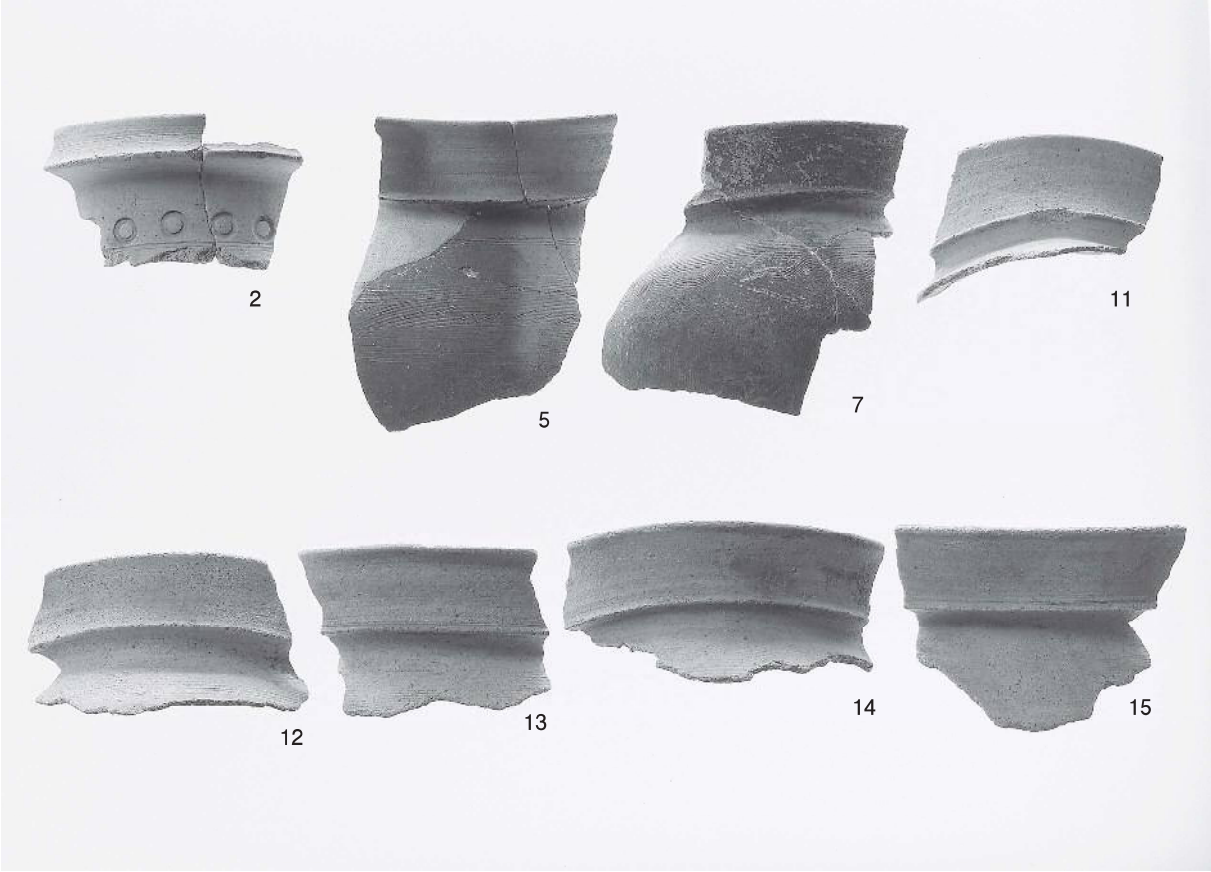
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 2 出土土器（第 16 図）



1．山持遺跡 6 区⑦土器群 3 出土土器（1）（第 18 図）

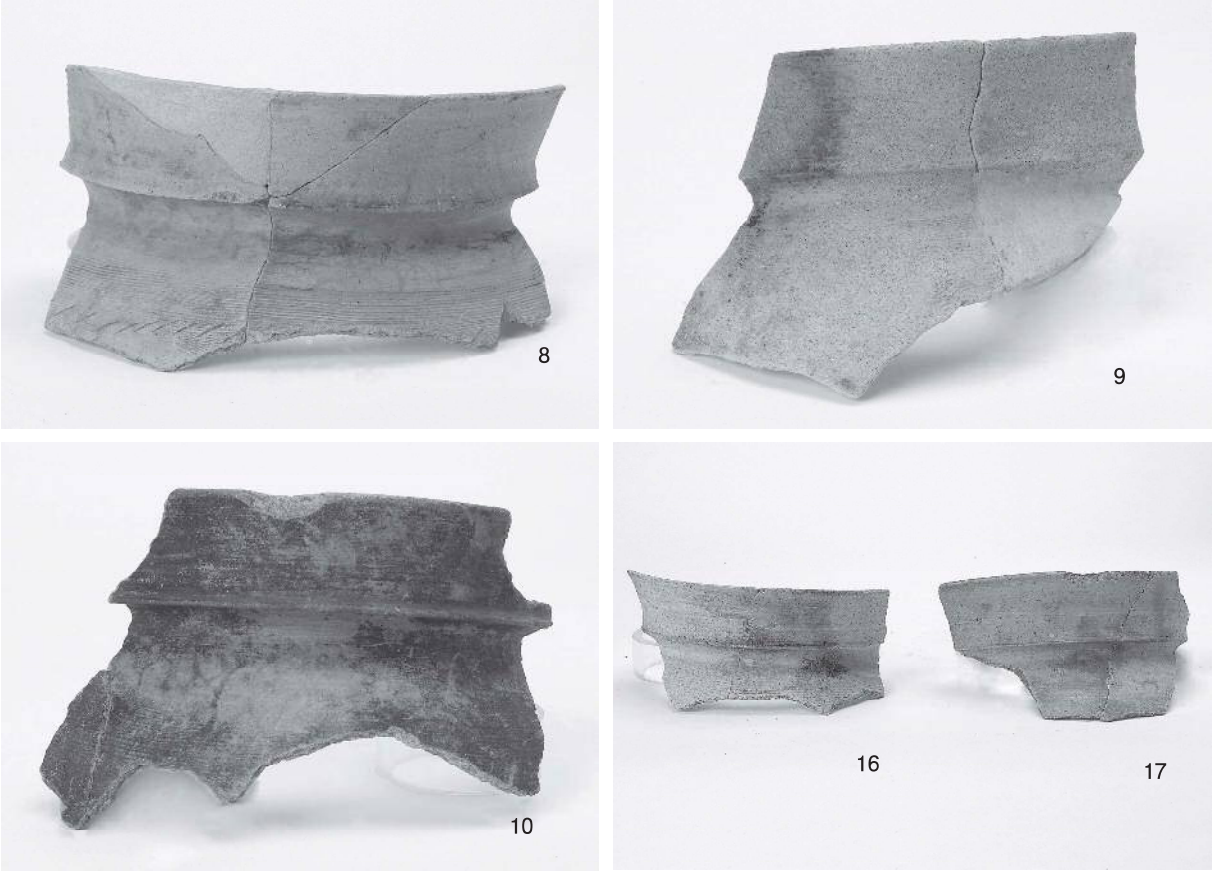


2．山持遺跡 6 区⑦土器群 3 出土土器（2）（第 18 図）

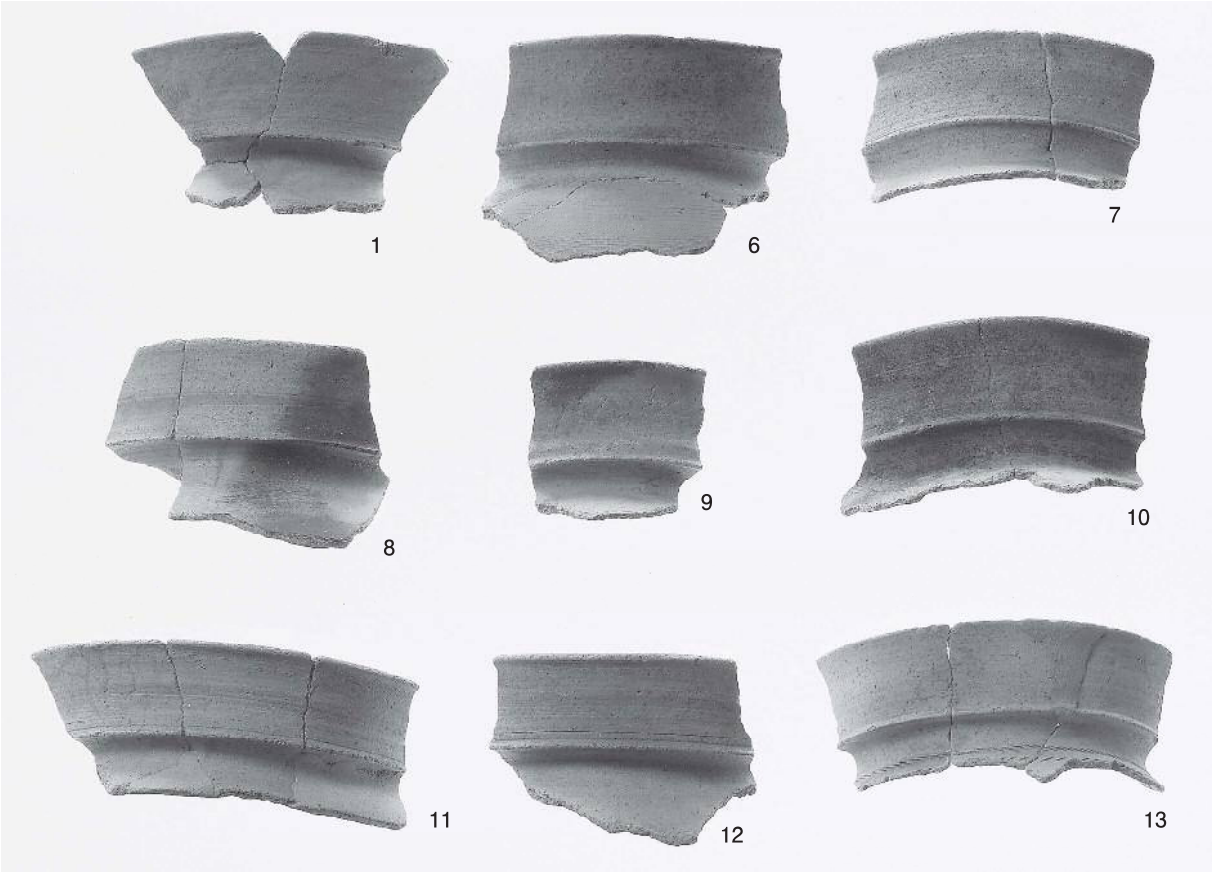


1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（1）（第 20 図）

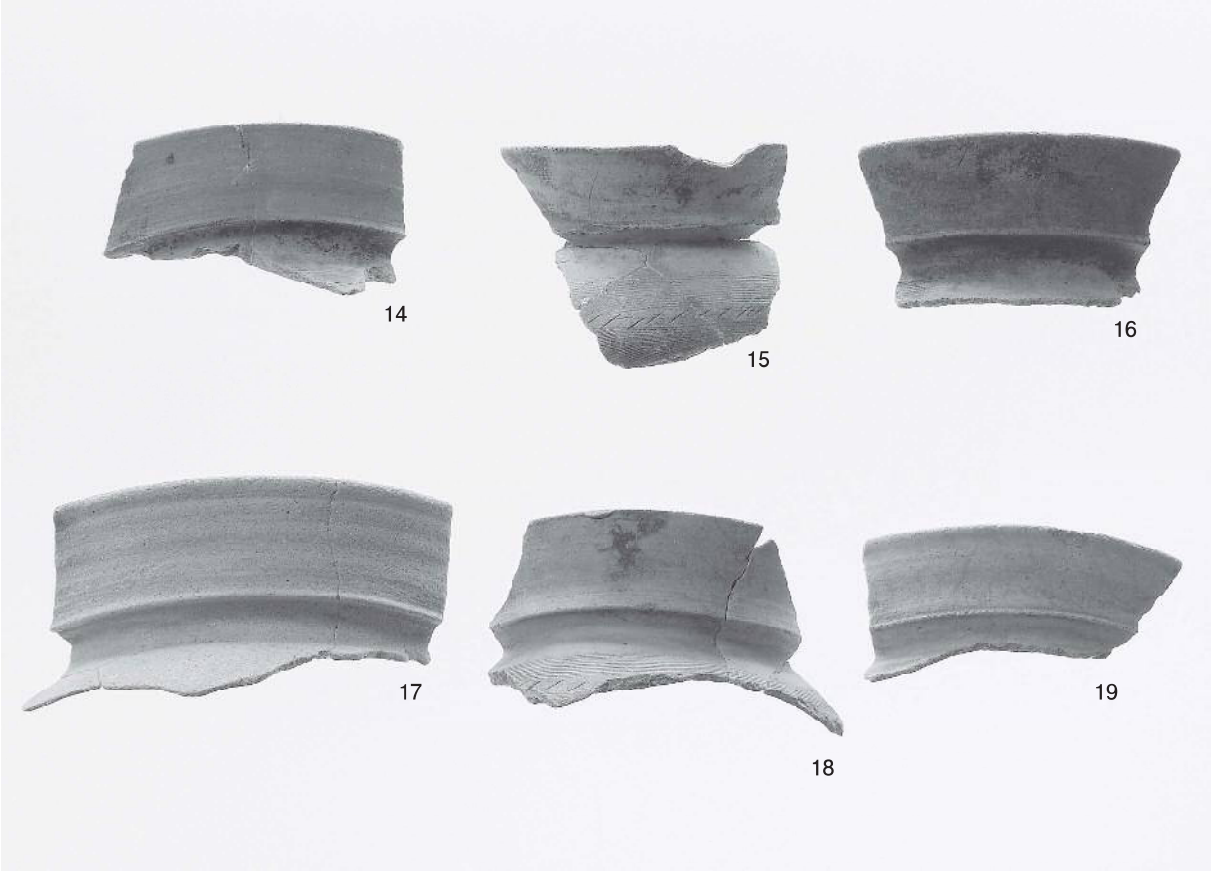
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（2）（第 20 図）



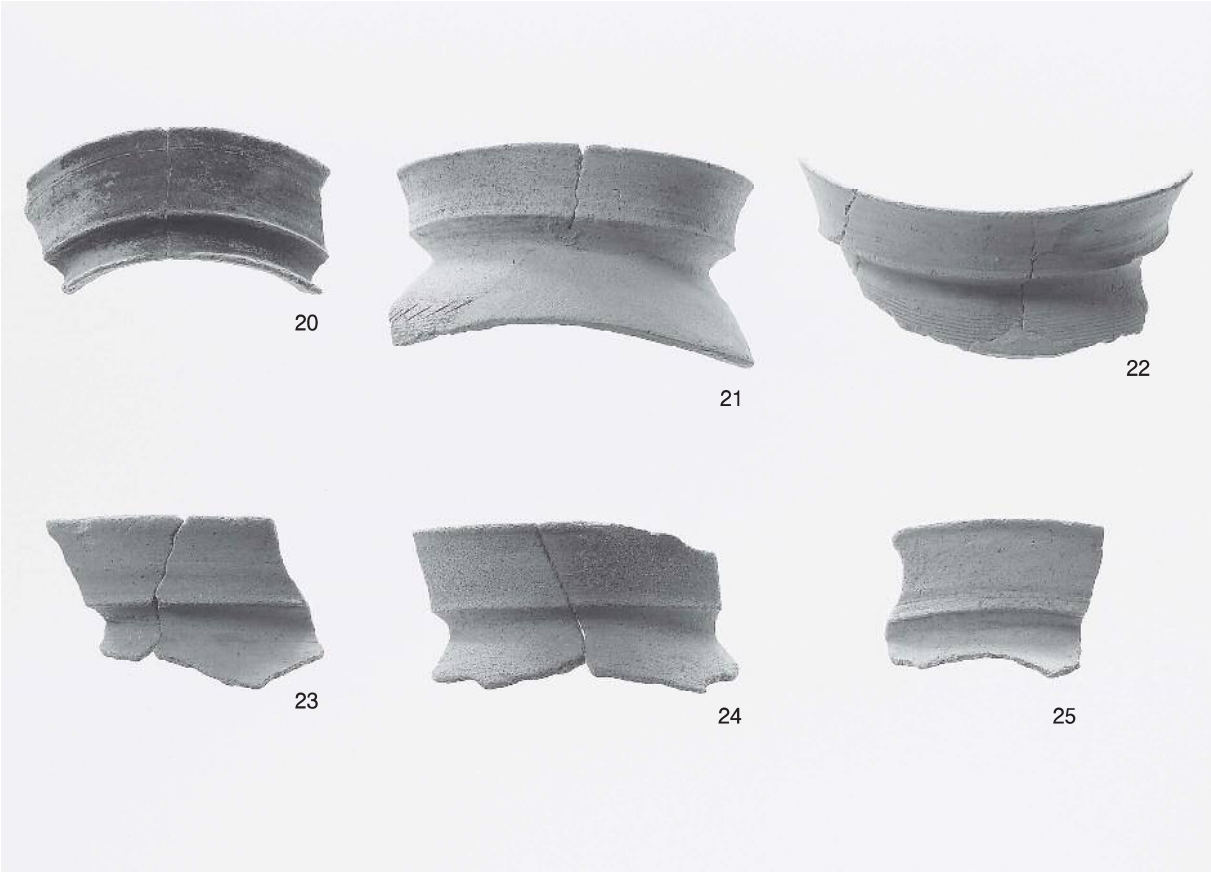
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（3）（第 20 図）



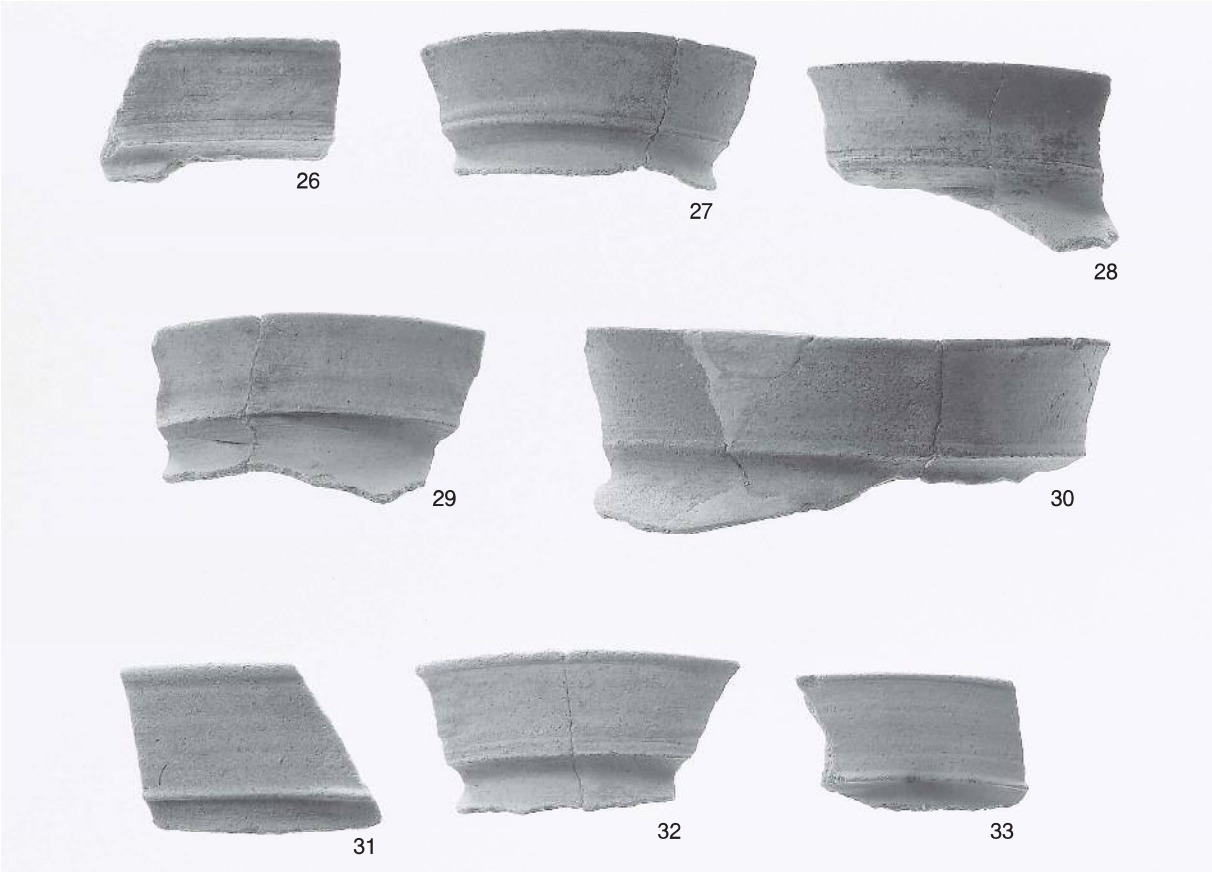
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（4）（第 21 図）



1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（5）（第 21 図）



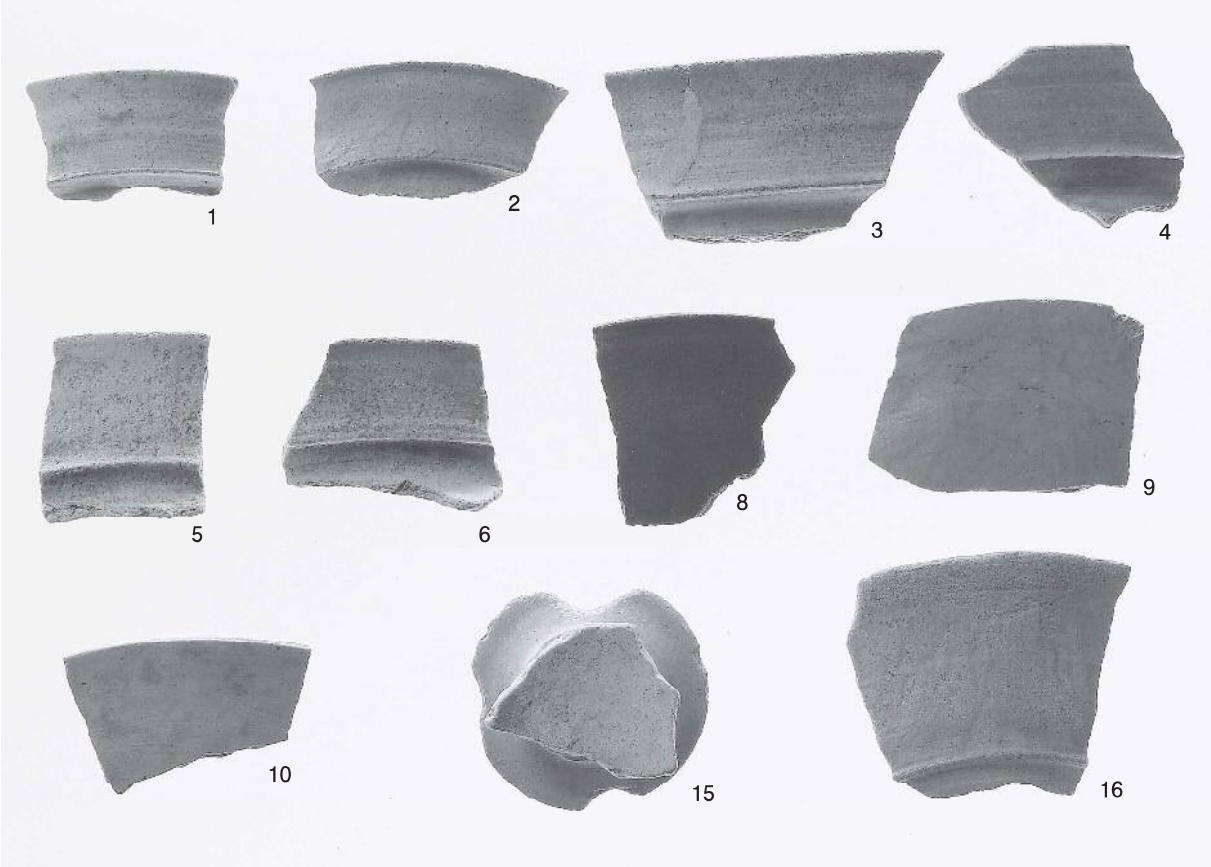
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（6）（第 21 図）



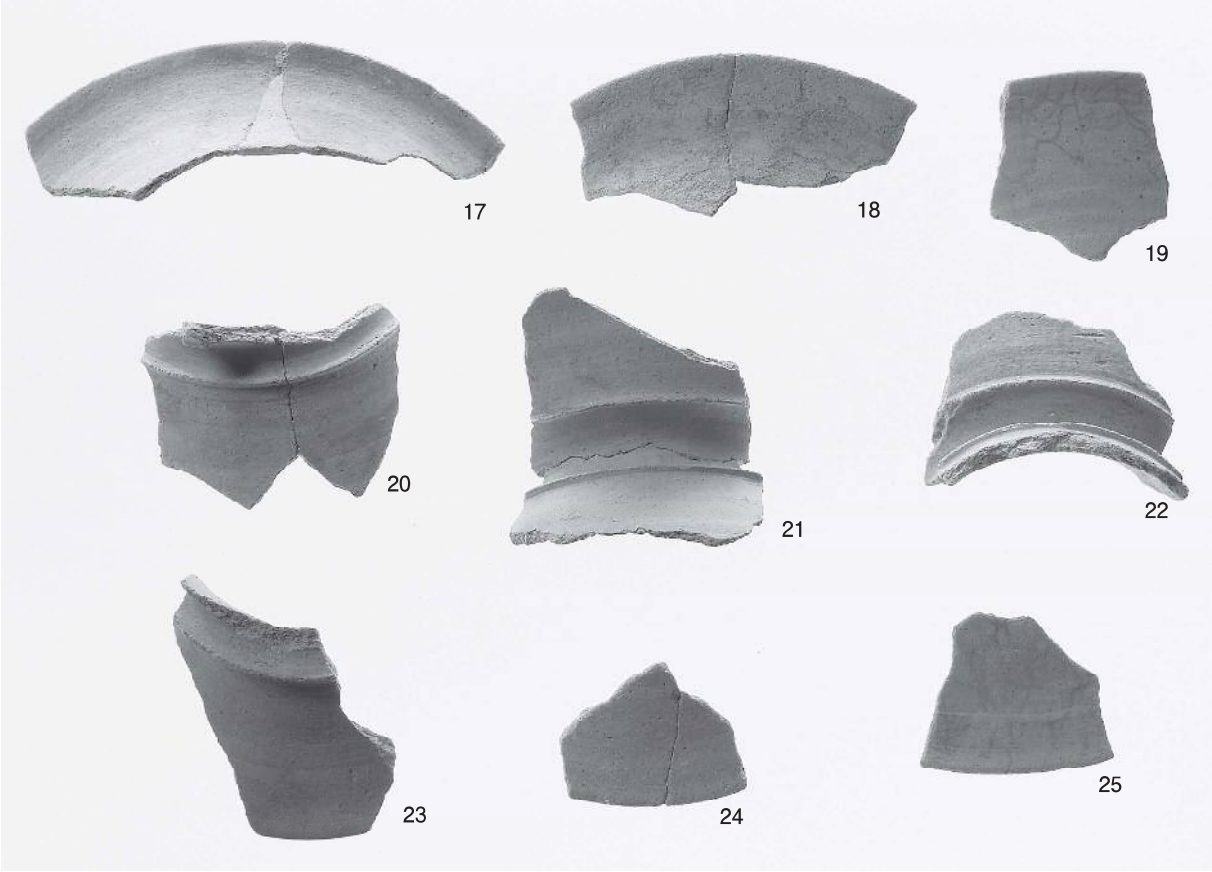
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（7）（第 21 図）

2．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（8）（第 21・22 図）

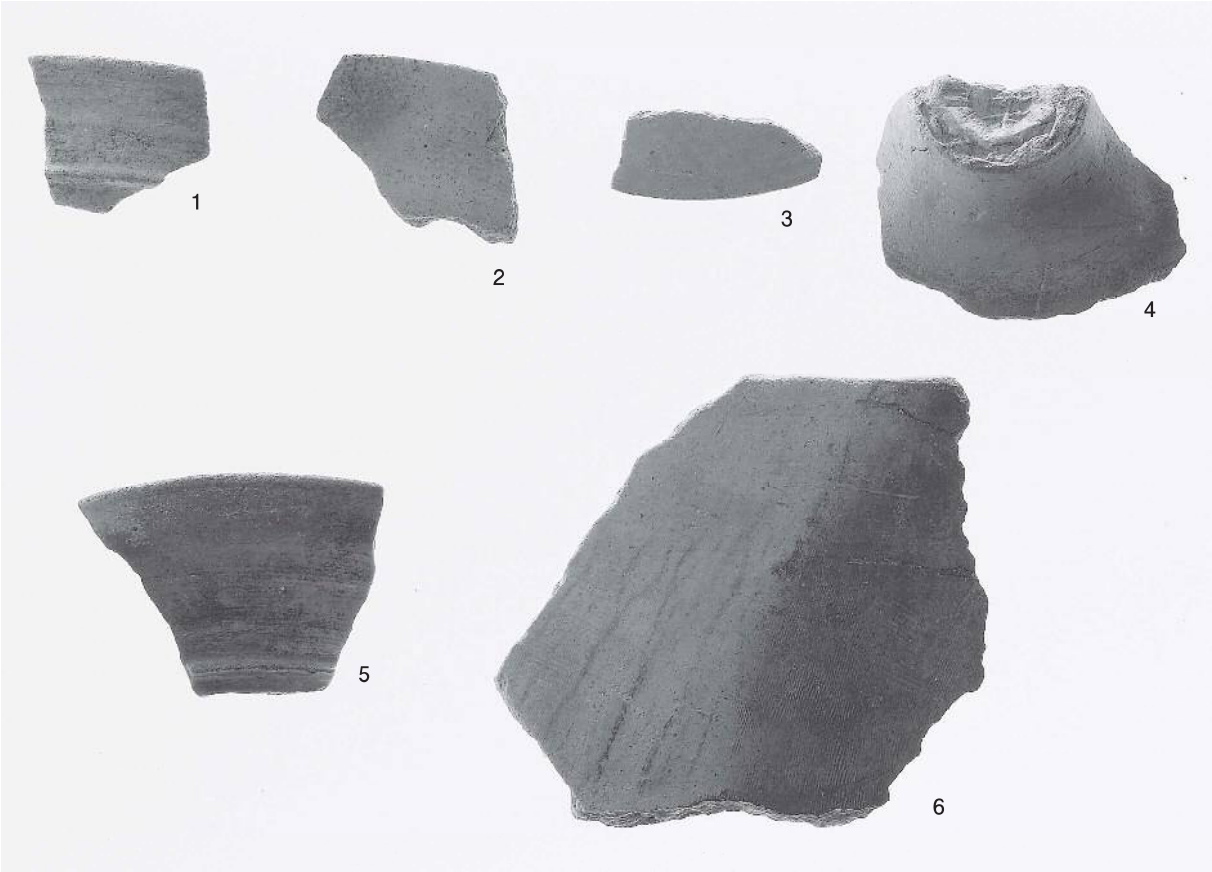
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（9）（第 22 図）



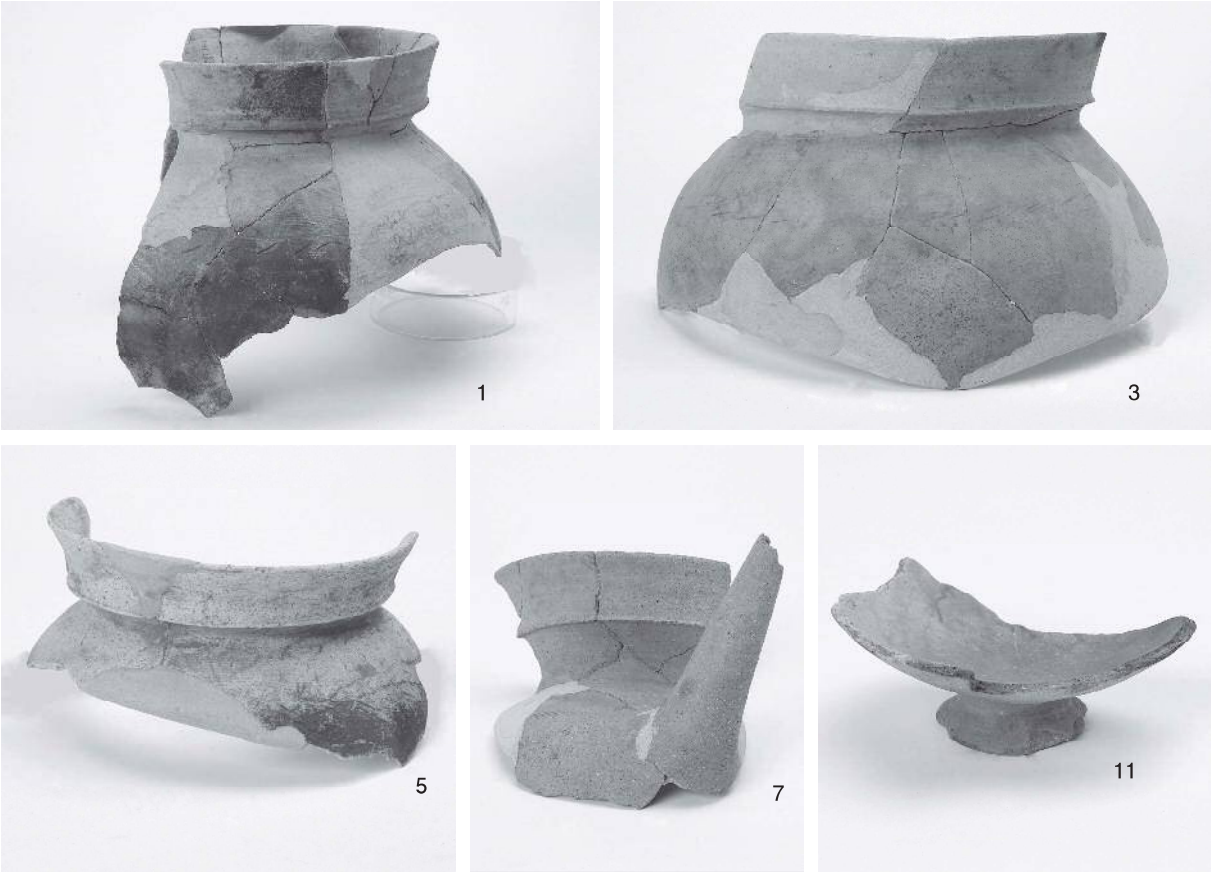
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（10）（第 22 図）



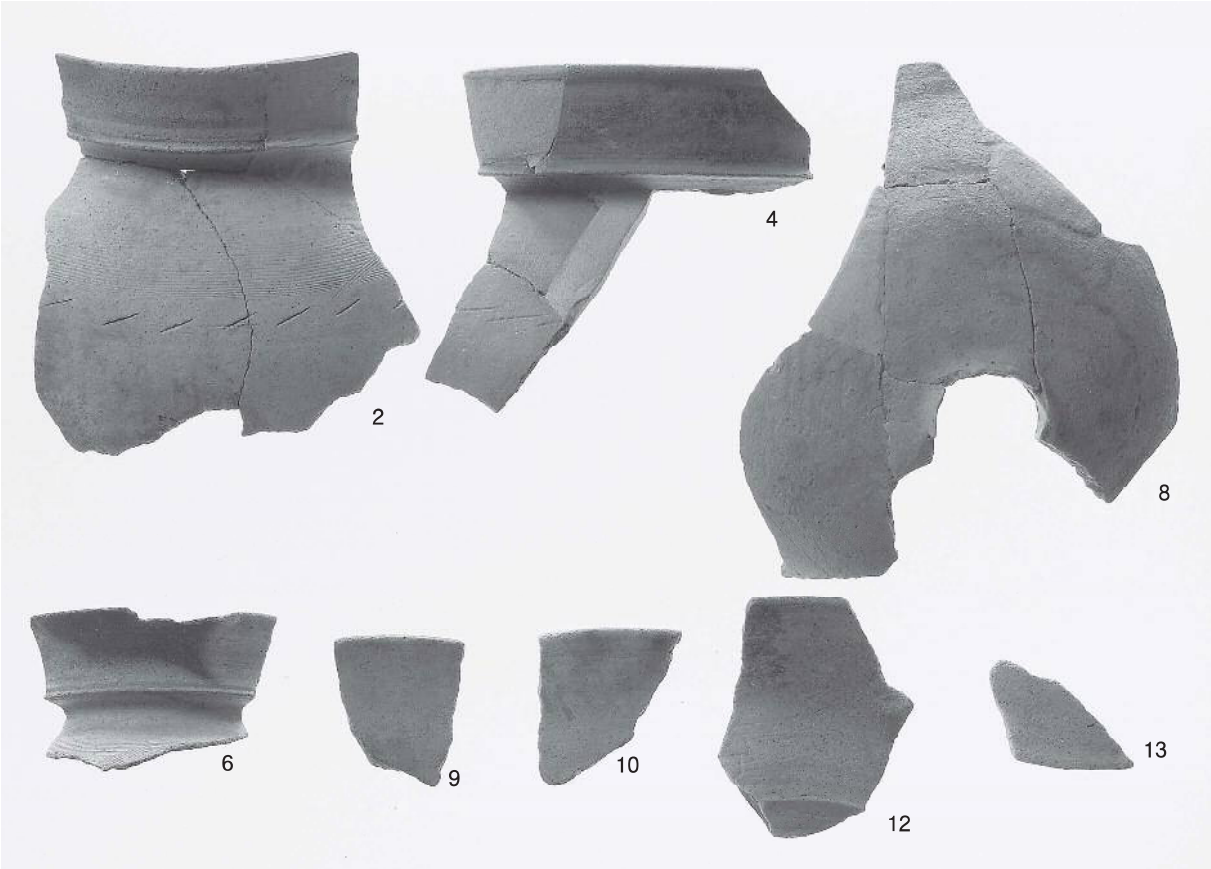
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 4 出土土器（11）（第 22 図）



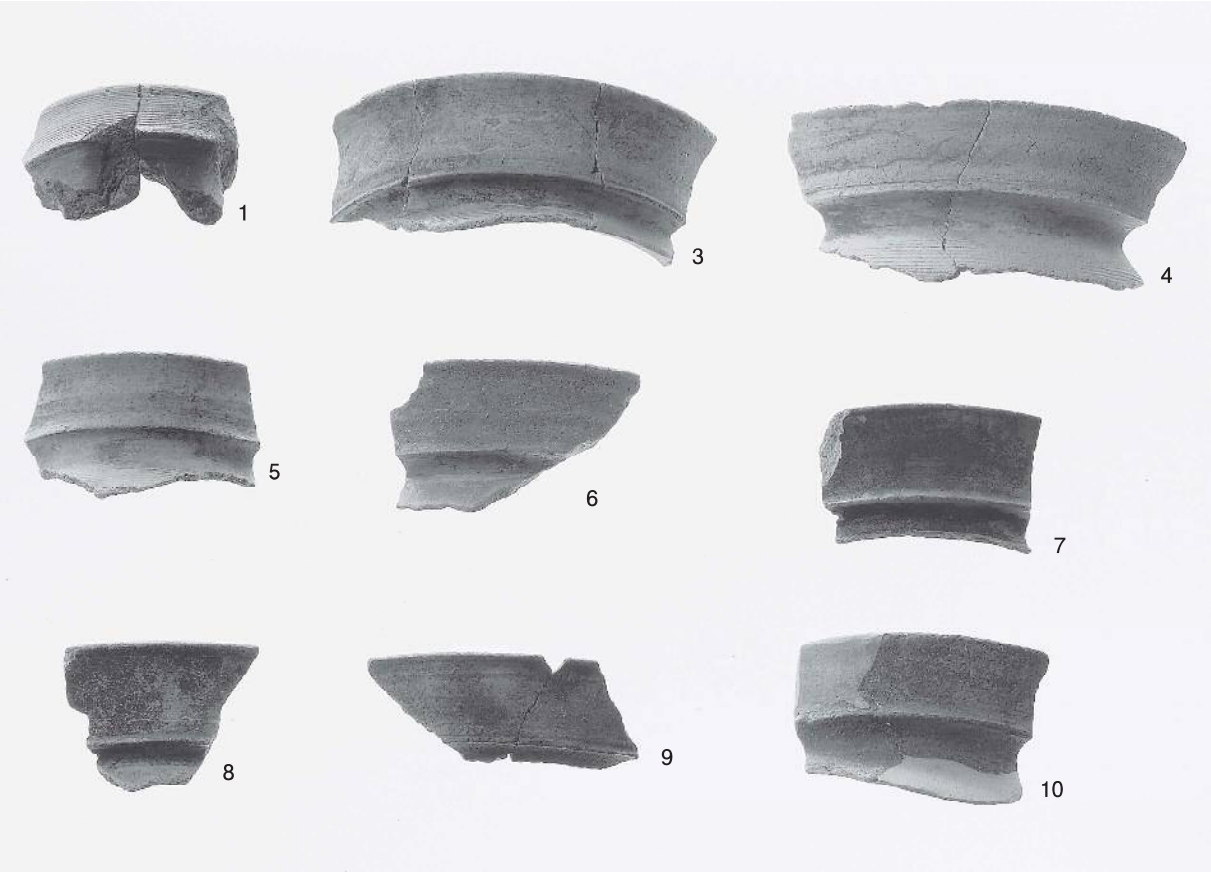
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 5 出土土器（第 24 図）



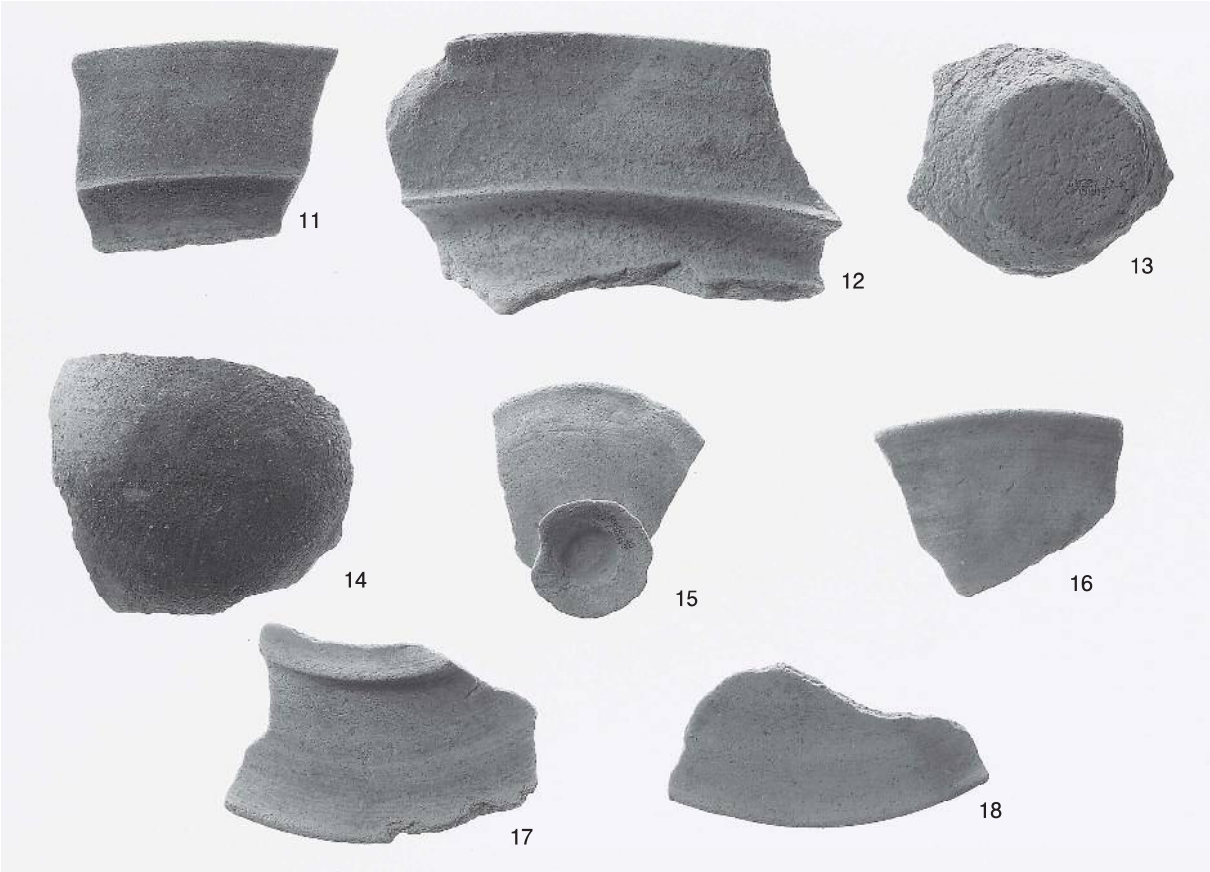
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 6 出土土器（1）（第 26 図）



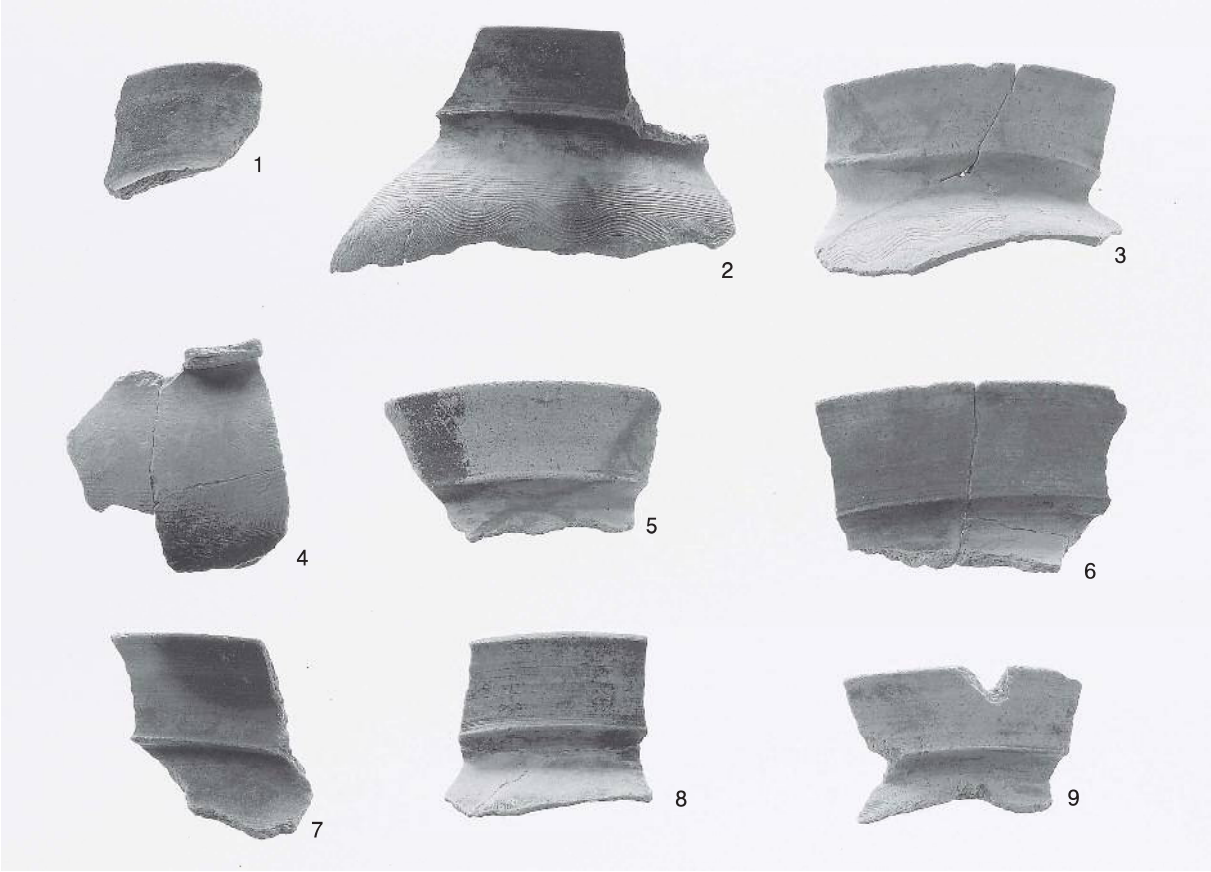
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 6 出土土器（2）（第 26 図）



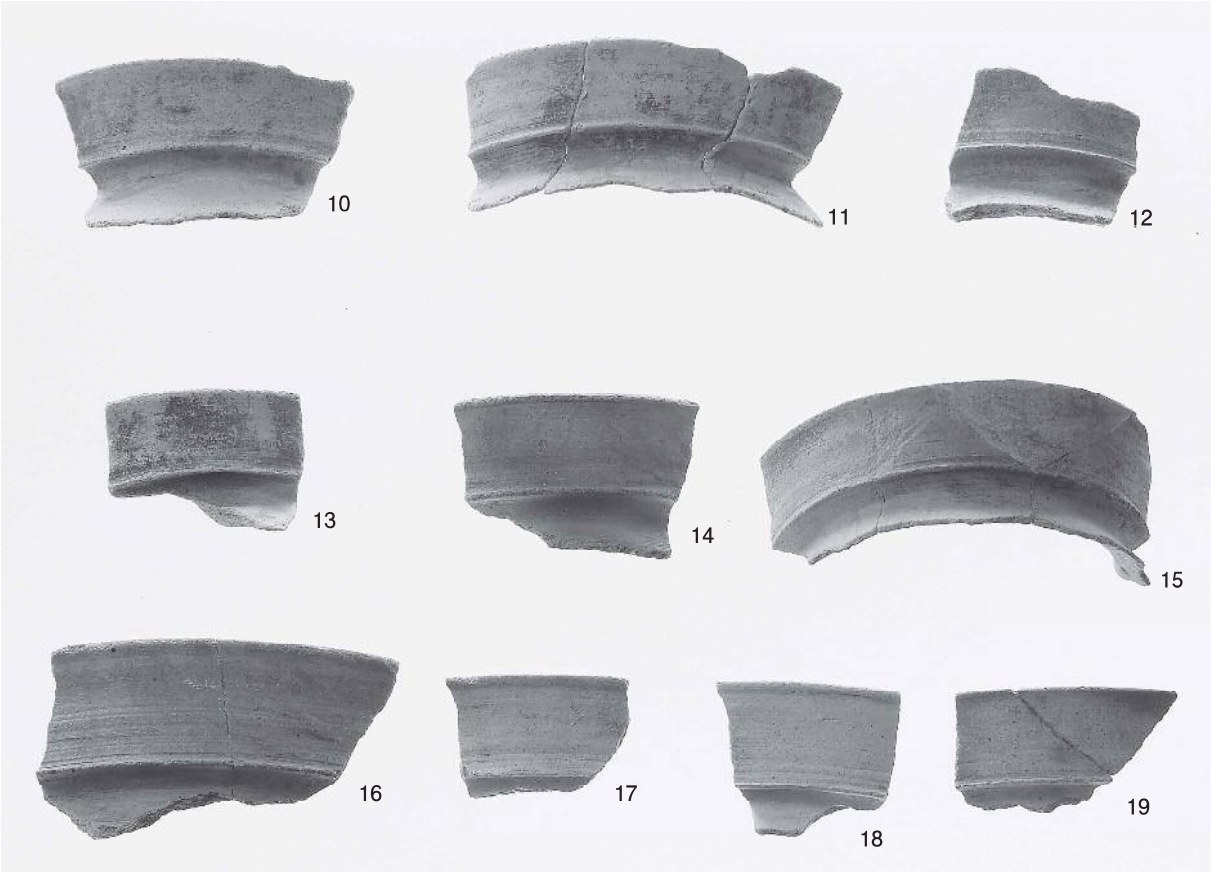
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 7 出土土器（1）（第 28 図）



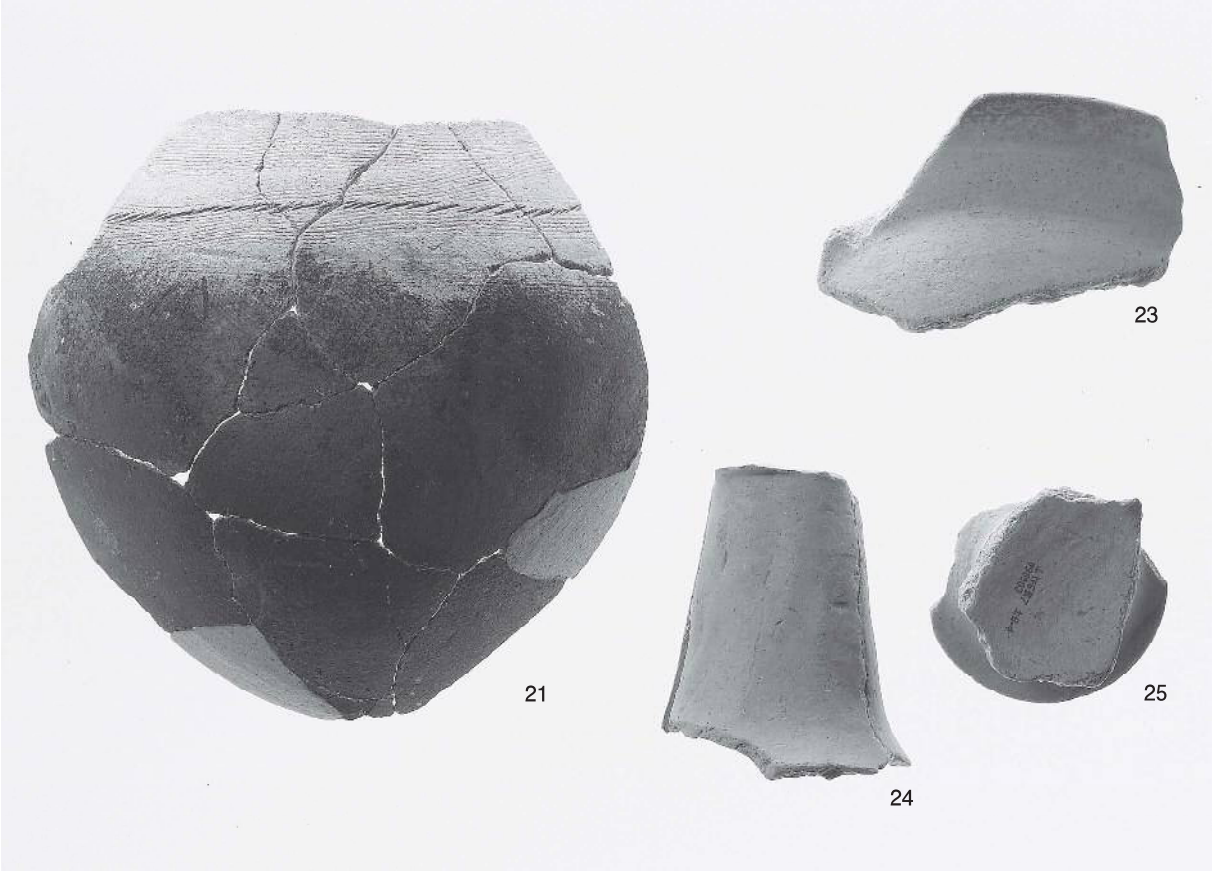
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 7 出土土器（2）（第 28 図）



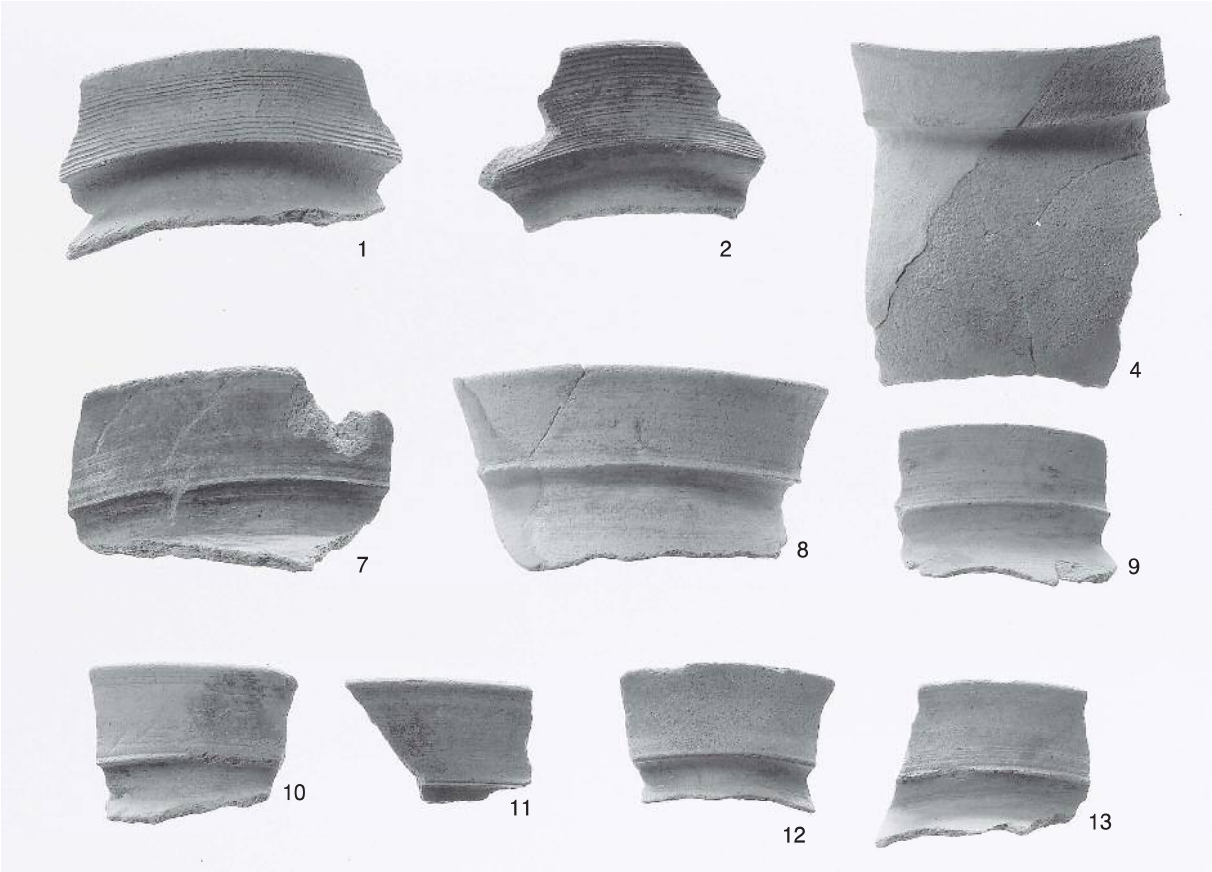
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 8 出土土器（1）（第 30 図）



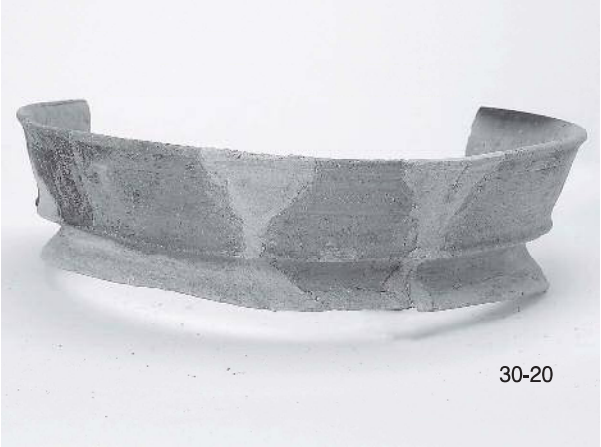
2．山持遺跡 6 区⑦土器群 8 出土土器（2）（第 30 図）



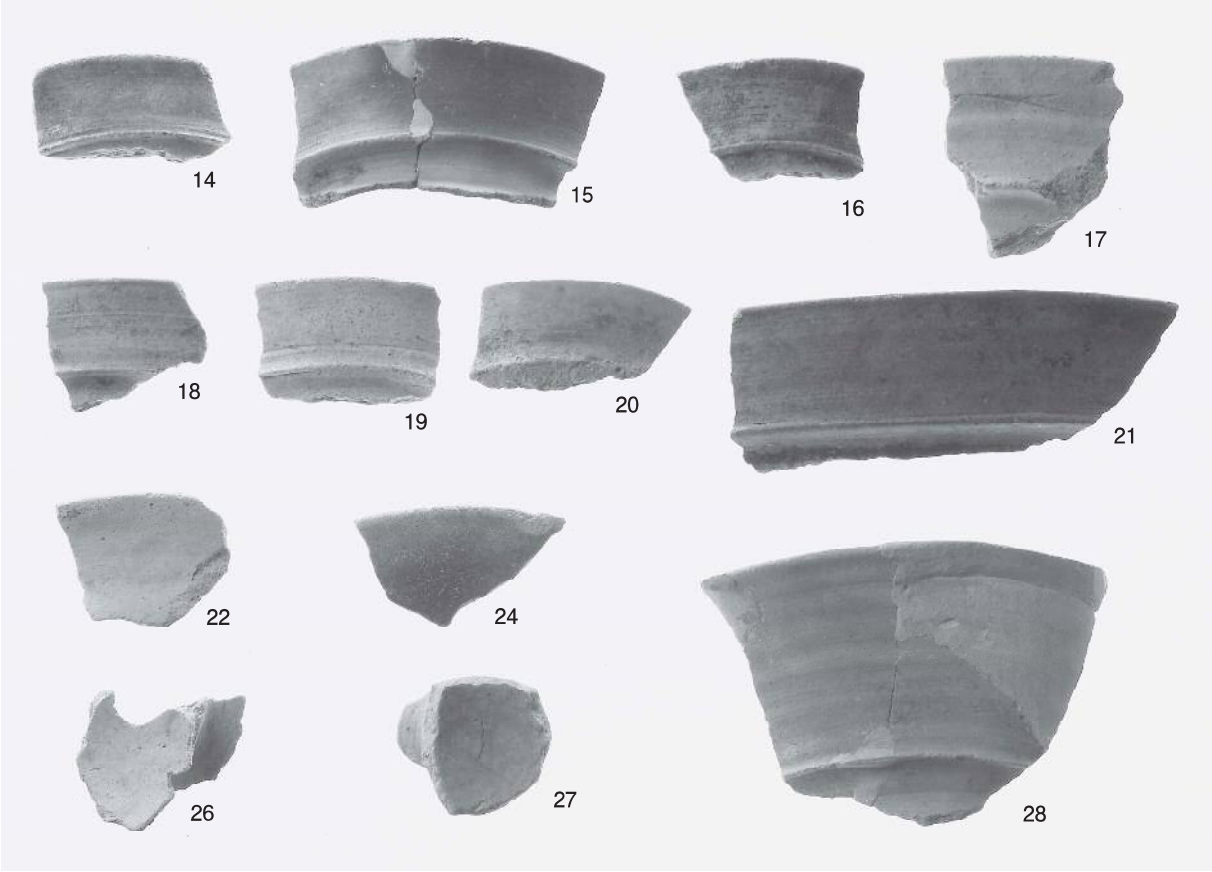
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 8 出土土器（3）（第 30 図）



2．山持遺跡 6 区⑦土器群 9 出土土器（1）（第 32 図）

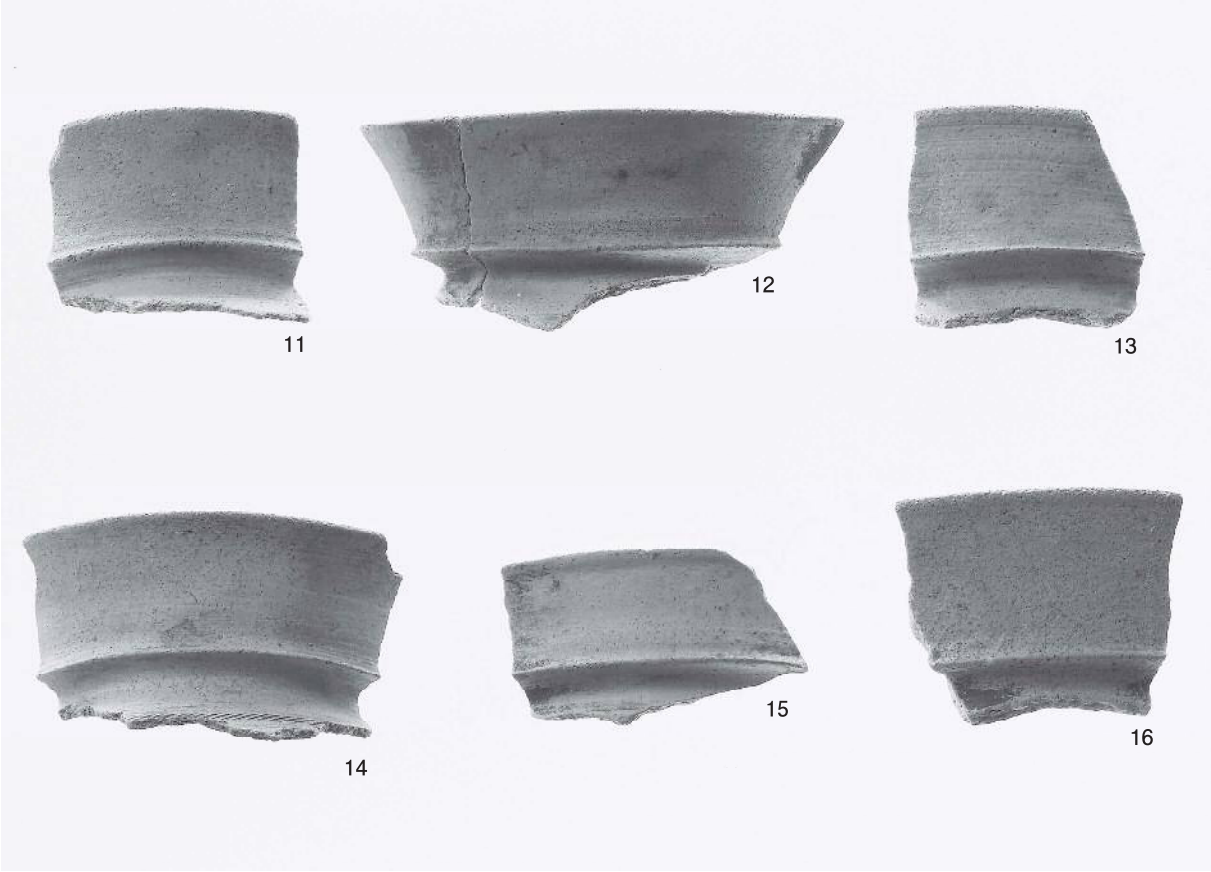


1．山持遺跡 6 区⑦土器群 7・8・9 出土土器（第 28・30・32 図）



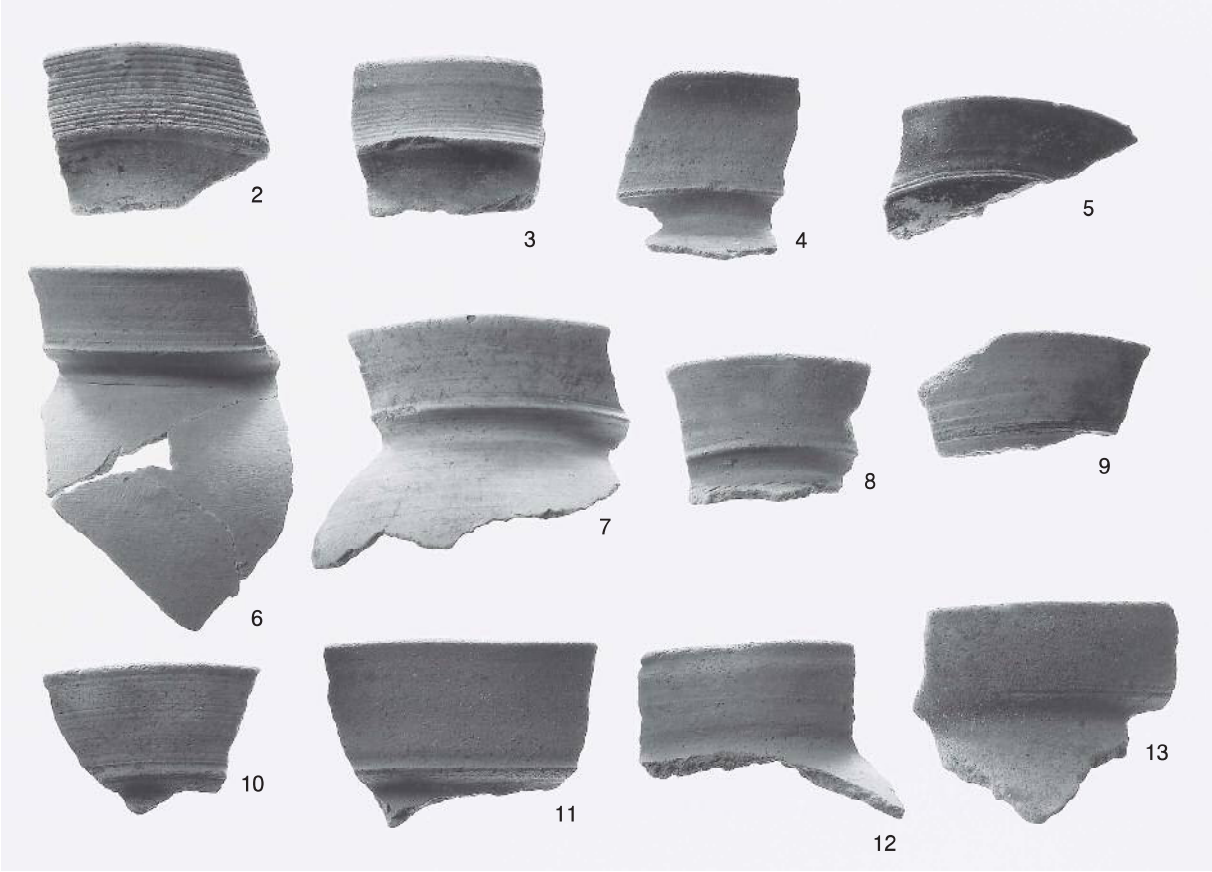
1．山持遺跡 6 区⑦土器群 9 出土土器（2）（第 32 図）

2．山持遺跡 6 区⑦ SK06 出土土器（1）（第 35 図）

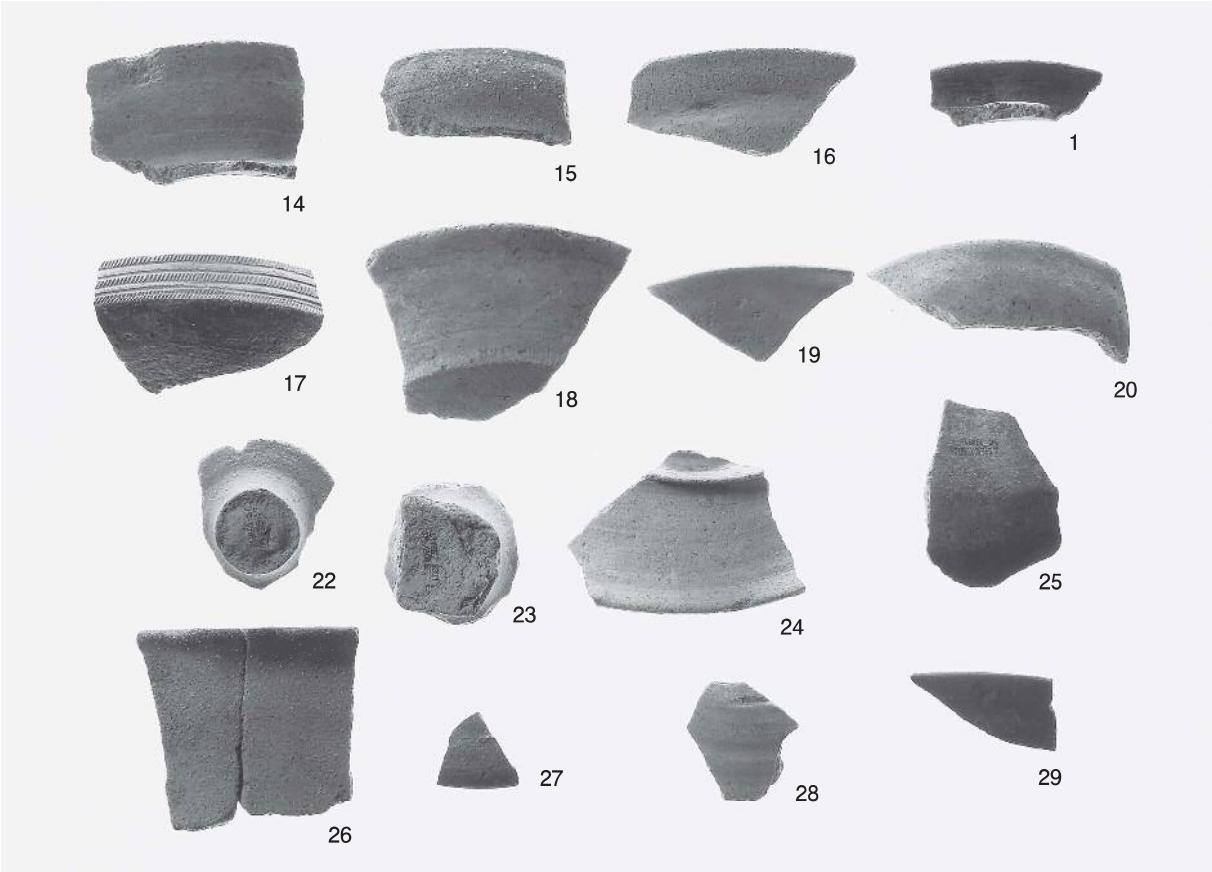


1．山持遺跡 6 区⑦ SK06 出土土器（2）（第 35 図）

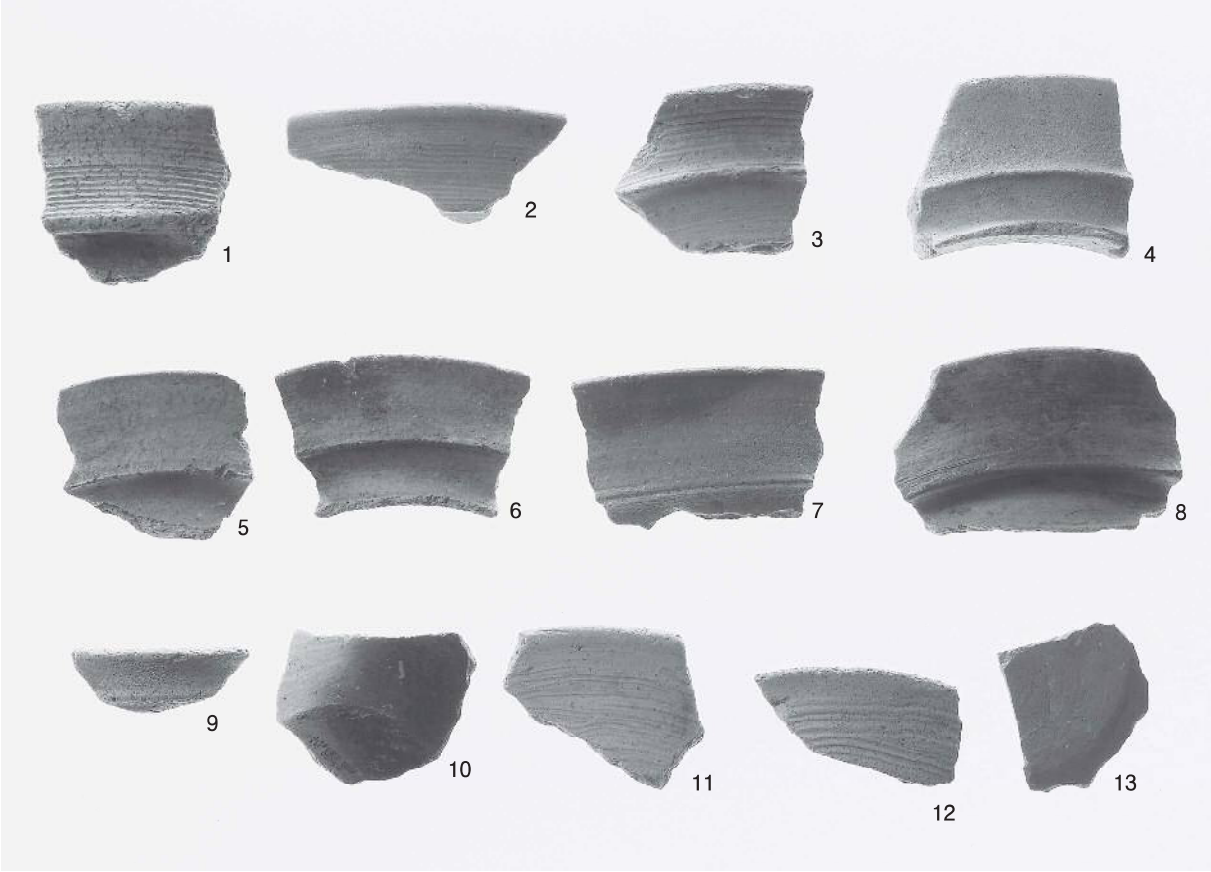
2．山持遺跡 6 区⑦ SK06・SD01 出土土器（第 35・37 図）



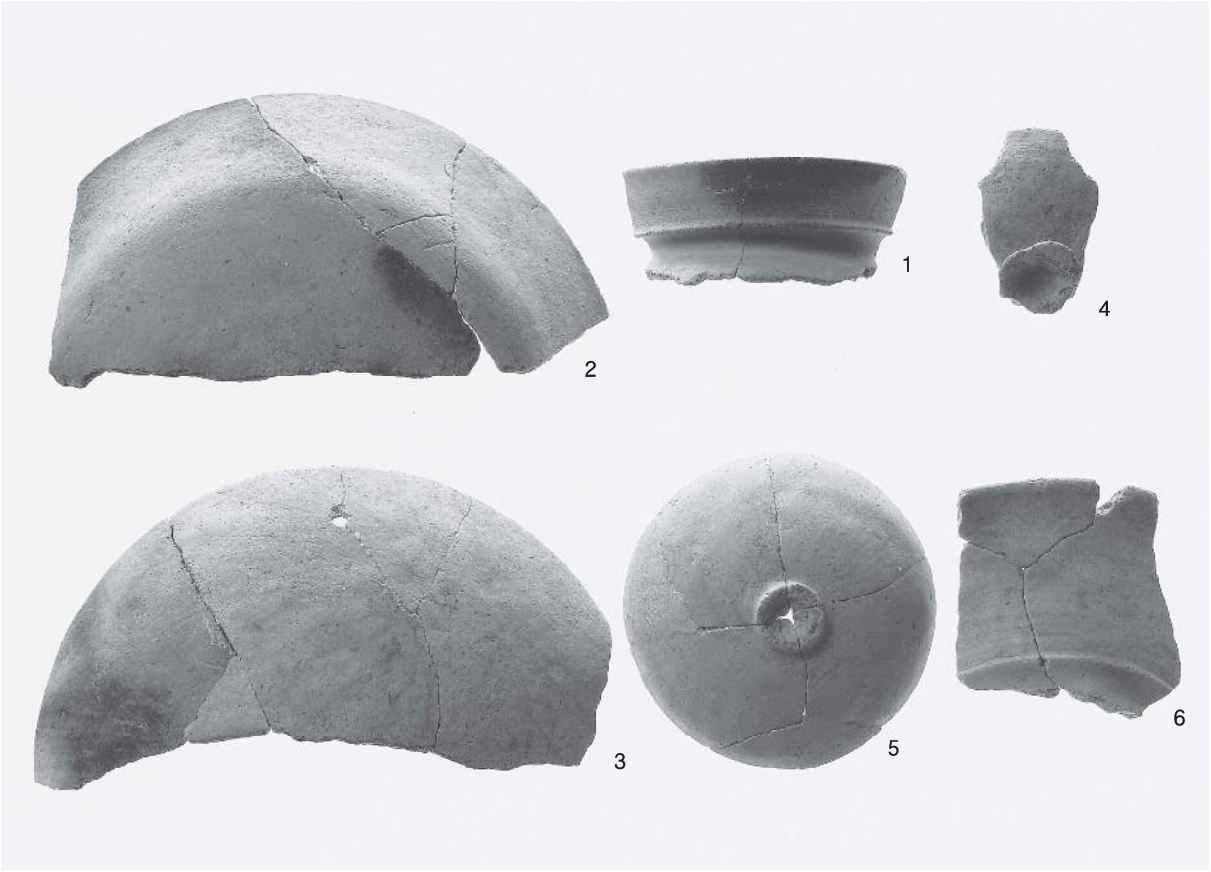
1．山持遺跡 6 区⑦ SD01 出土土器（1）（第 37 図）



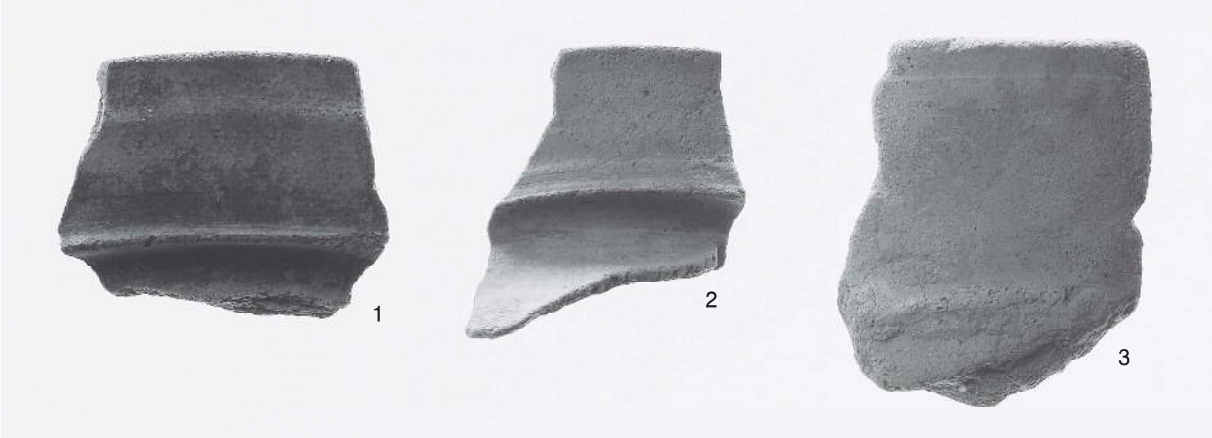
2．山持遺跡 6 区⑦ SD01 出土土器（2）（第 37 図）



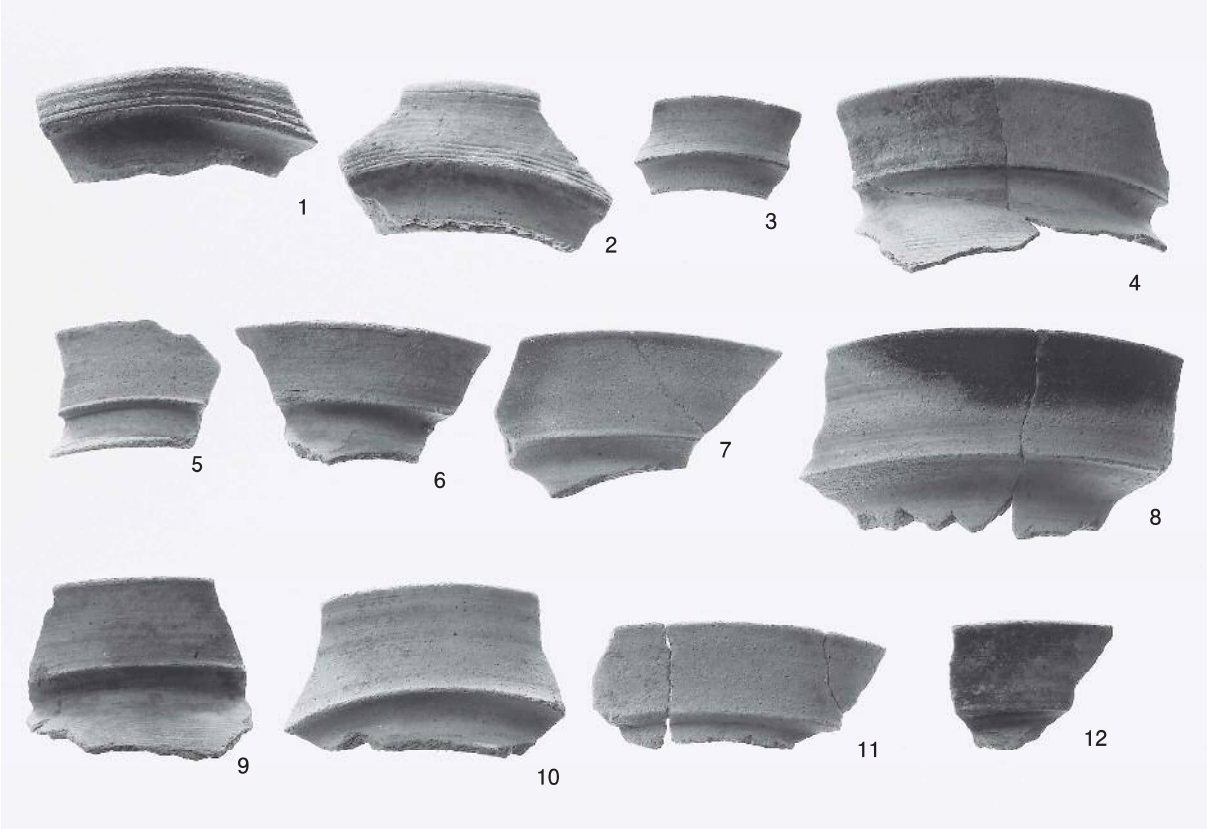
1．山持遺跡 6 区⑦ SD02 出土土器（第 38 図）



2．山持遺跡 6 区⑦ SD03 出土土器（第 40 図）

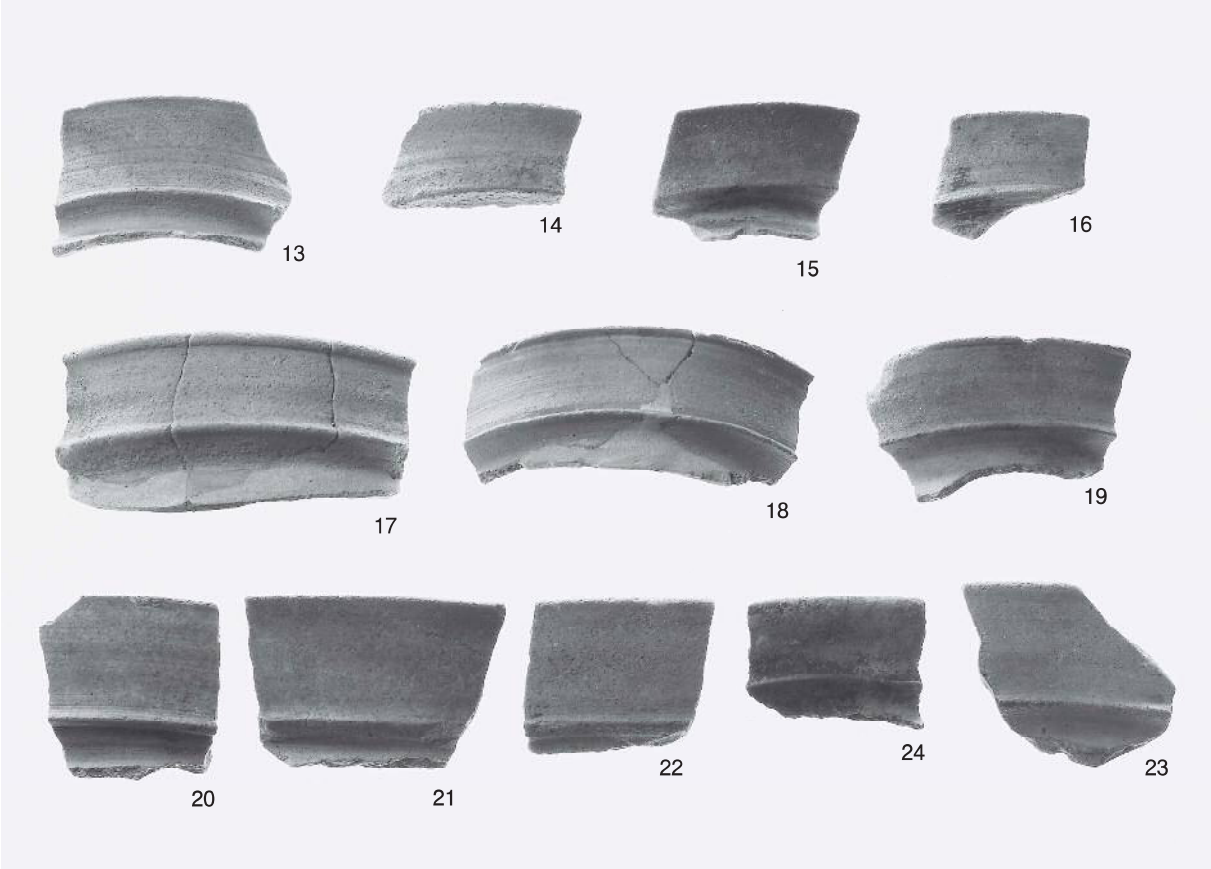


1．山持遺跡 6 区⑦ SD04 出土土器（第 41 図）

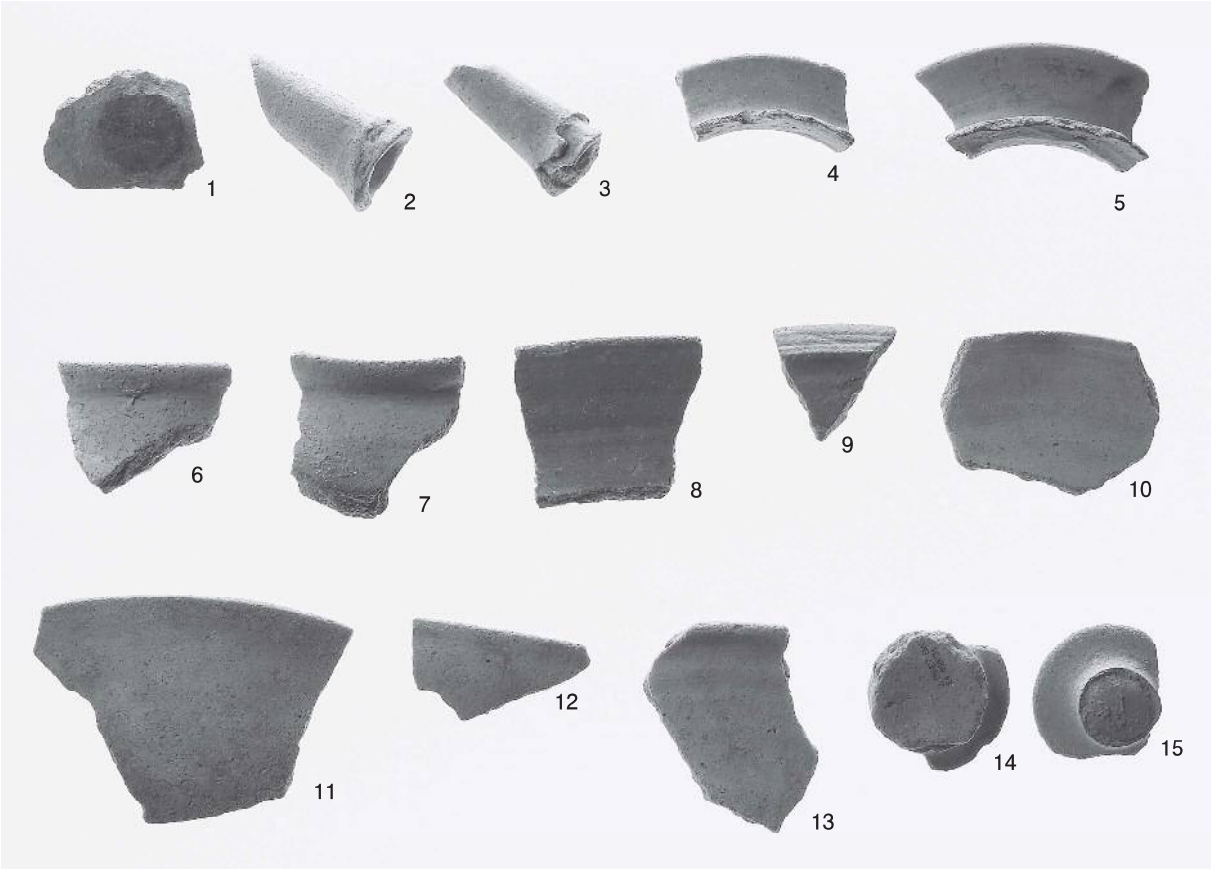


2．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土土器（1）（第 43 図）

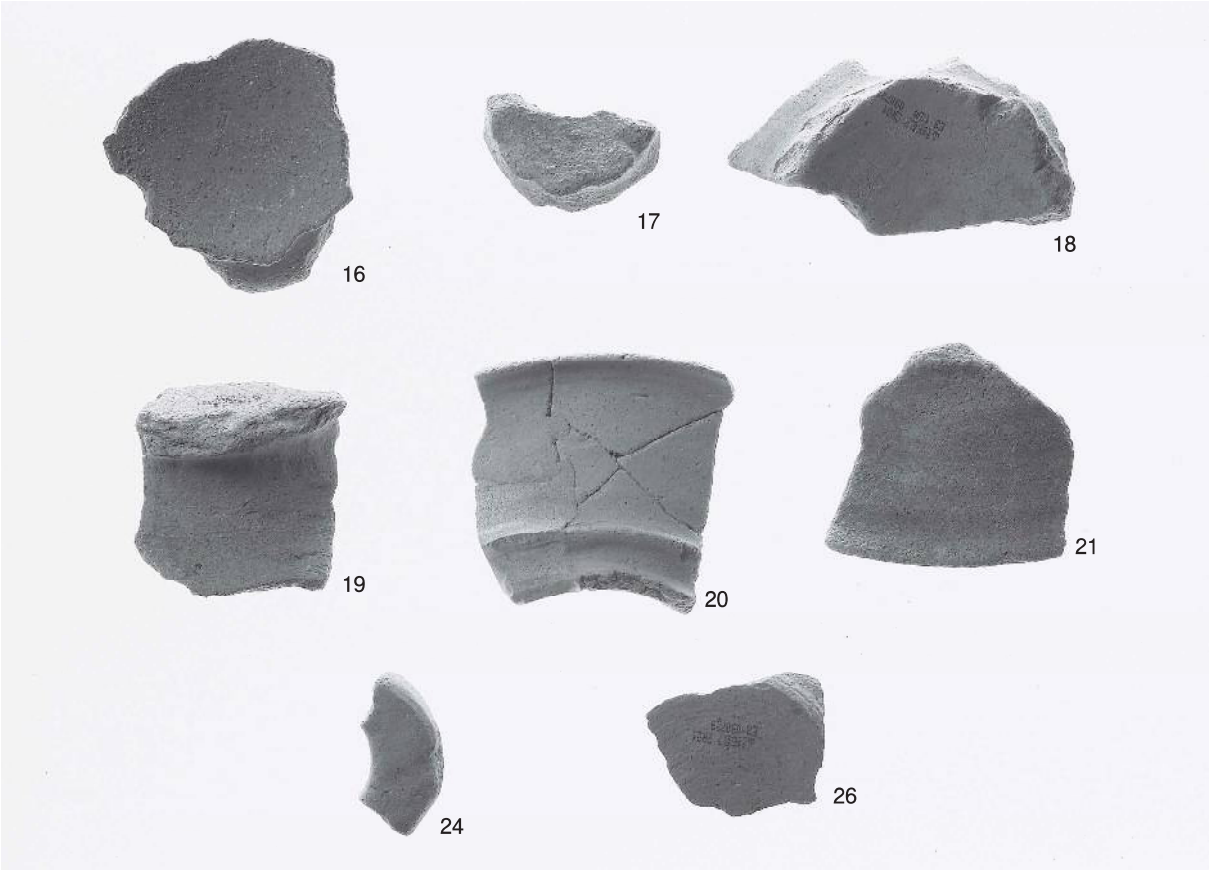
3．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土土器（2）（第 44 図）



1．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土土器（3）（第 43 図）



1．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土土器（4）（第 44 図）

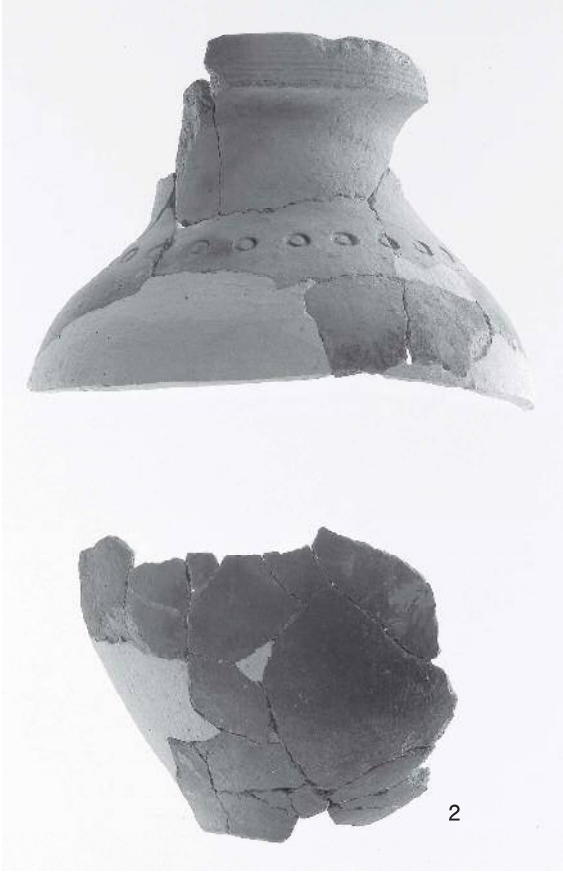


1．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土土器（5）（第 44 図）

2．山持遺跡 6 区⑦ SR01 出土木製品
（第 45 図）

3．山持遺跡 6 区⑦杭列 1 ～ 4
出土の杭（第 47 図）

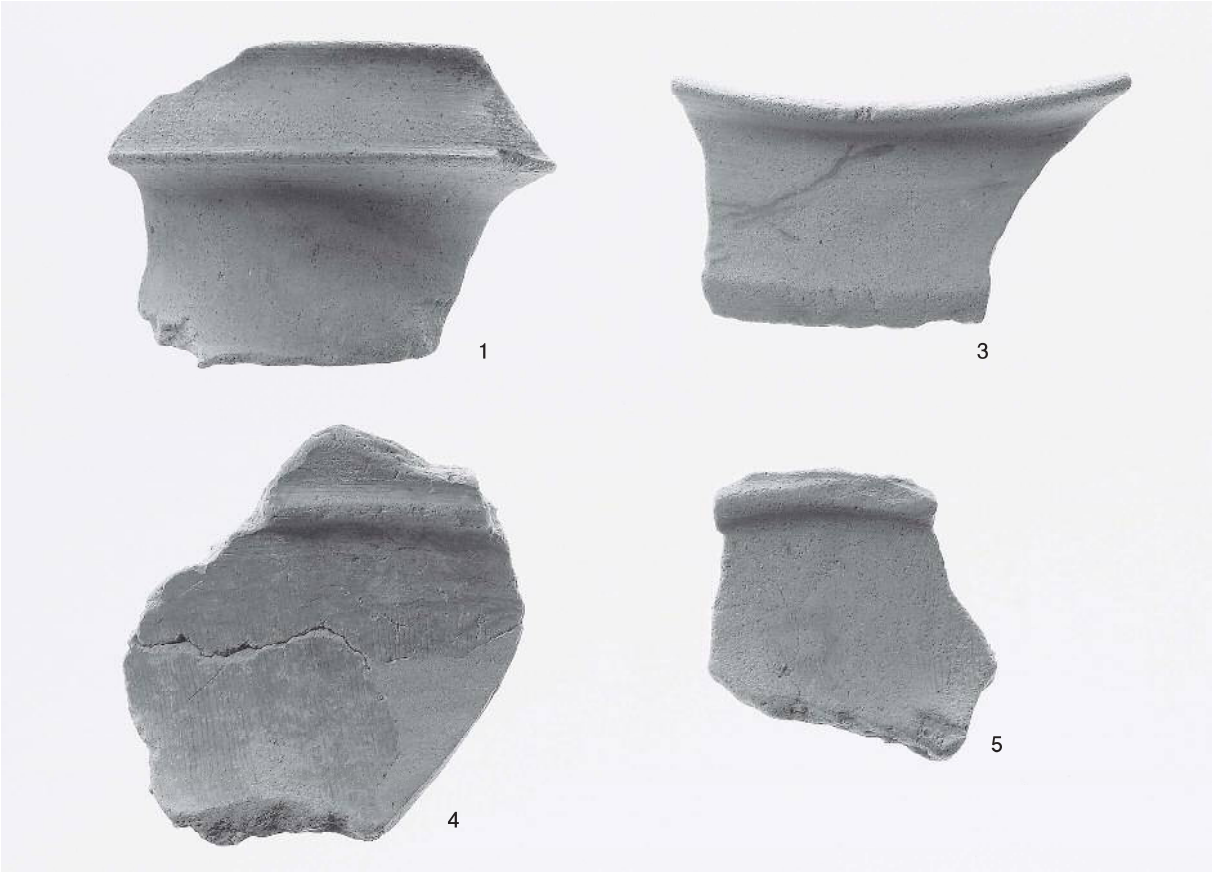
1．山持遺跡 6 区⑦杭列 2 出土の杭（第 47 図）



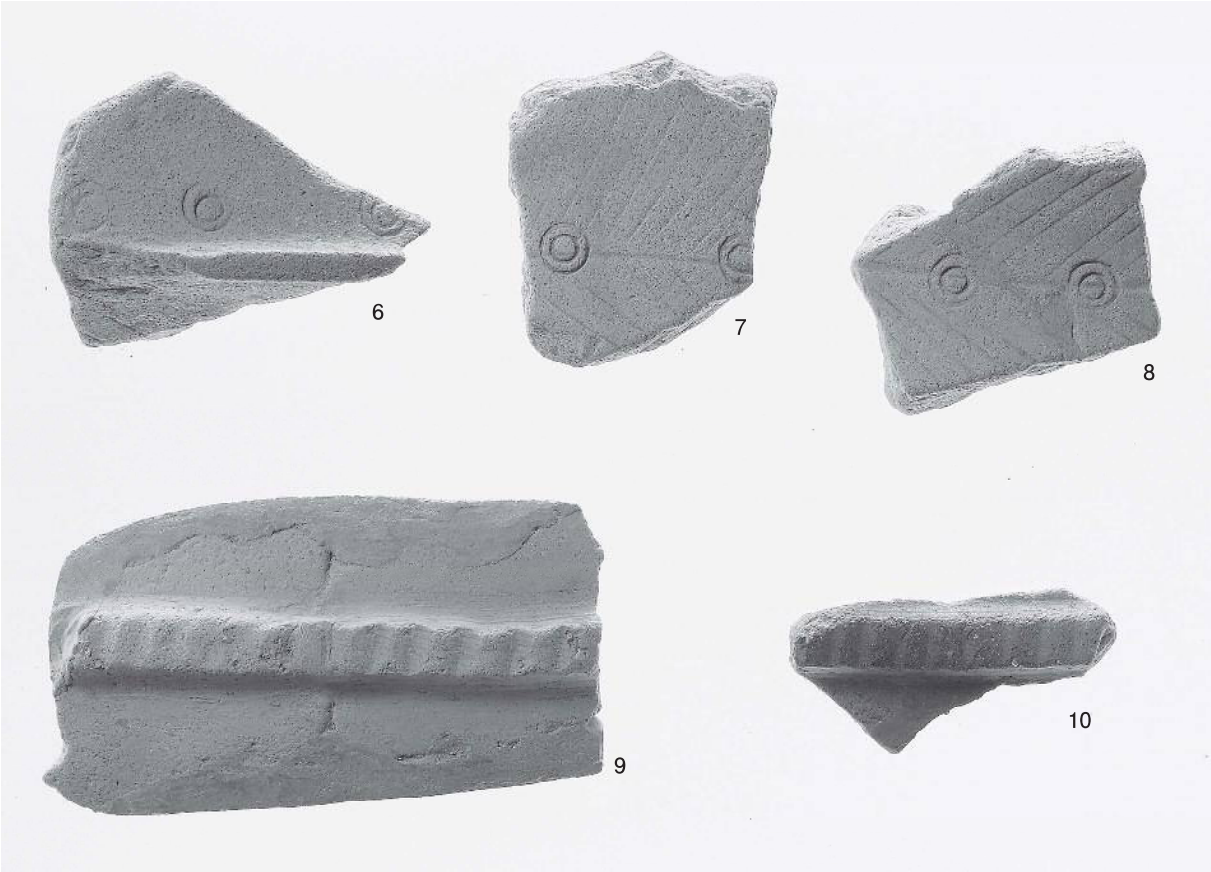
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（1）（第 48 図）

2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（2）（第 48 図）

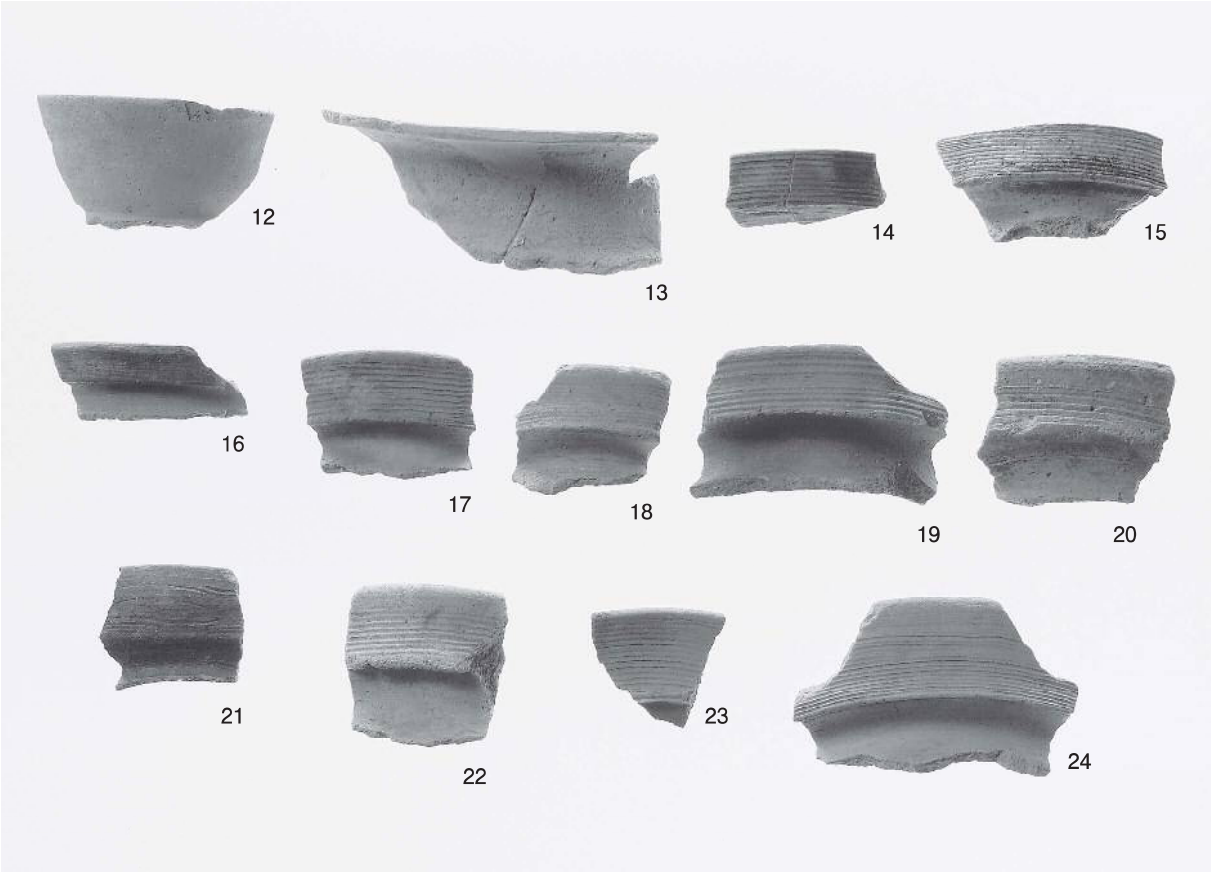
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（3）（第 48・49 図）



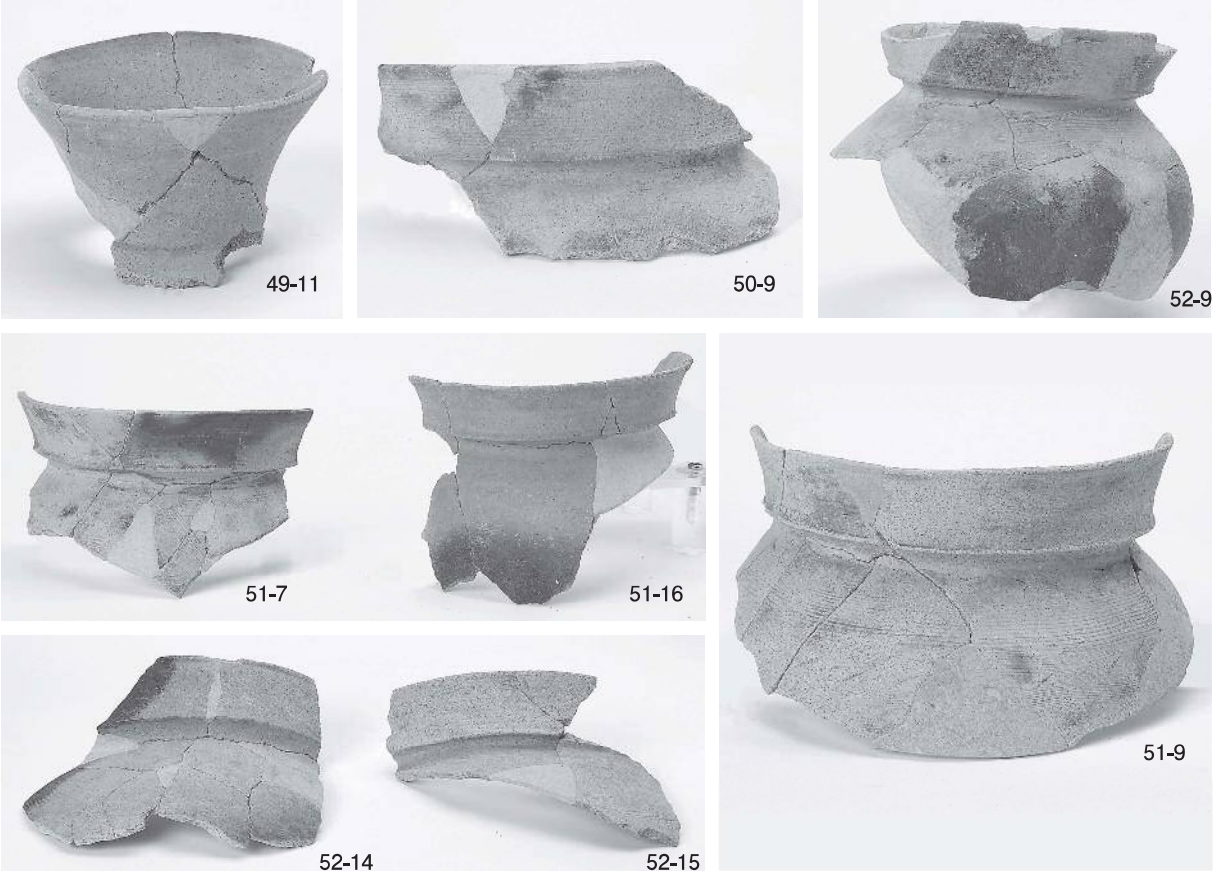
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（4）（第 49 図）



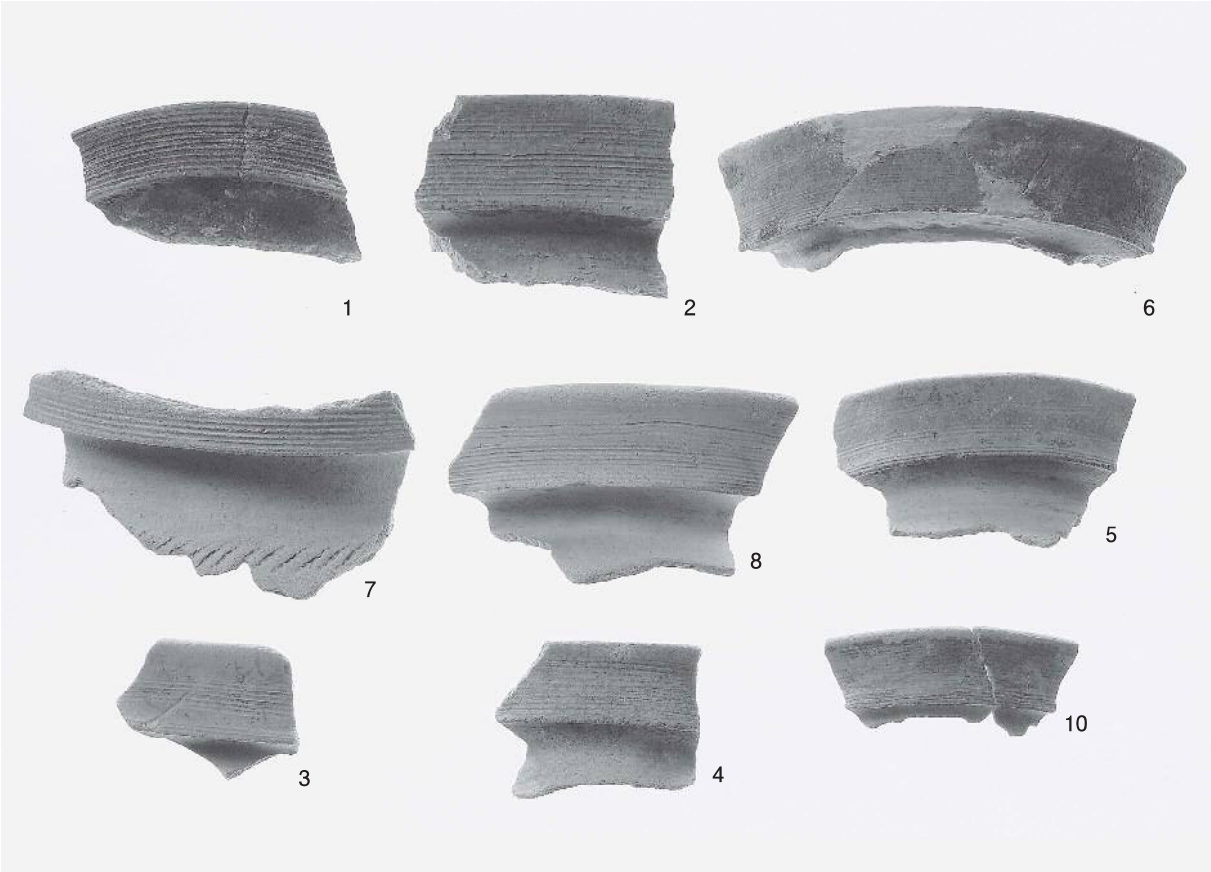
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（5）（第 49 図）



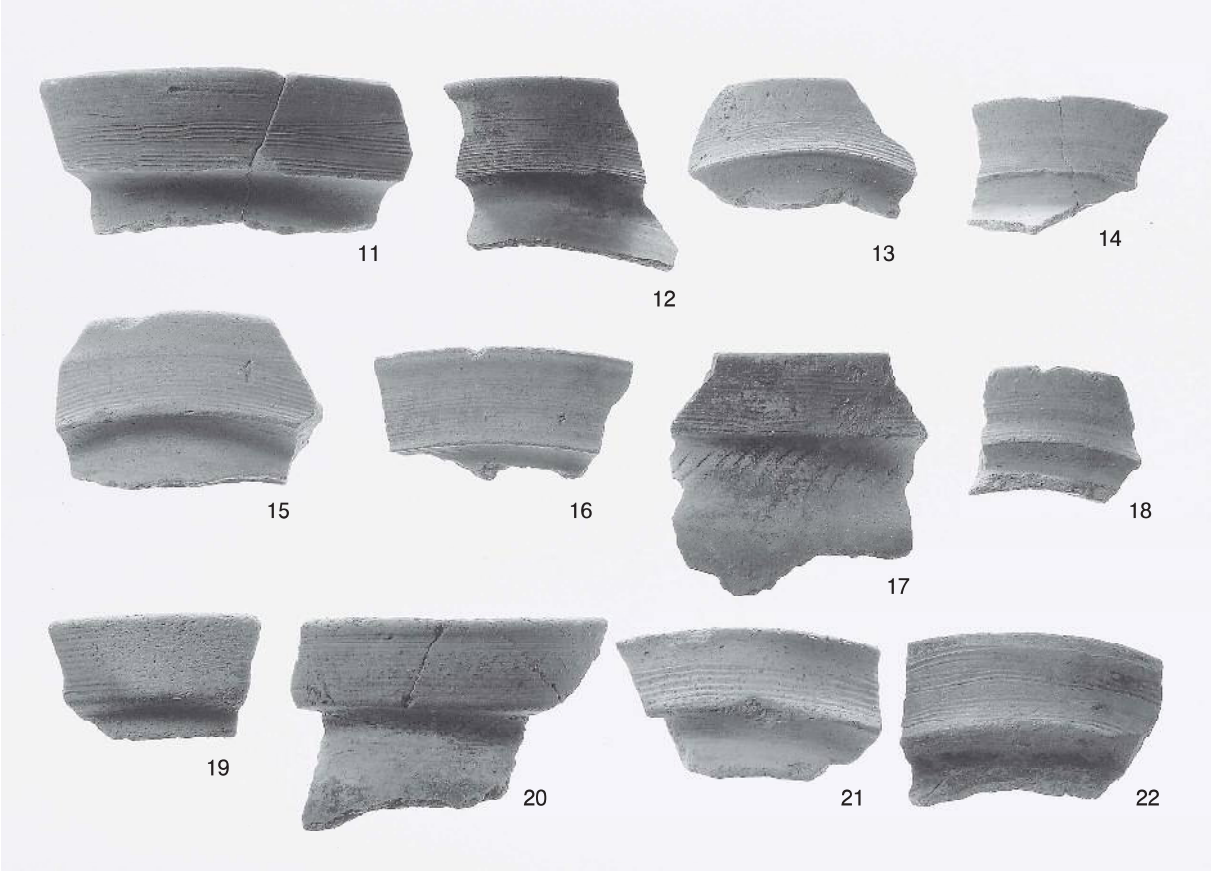
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（6）（第 49 図）



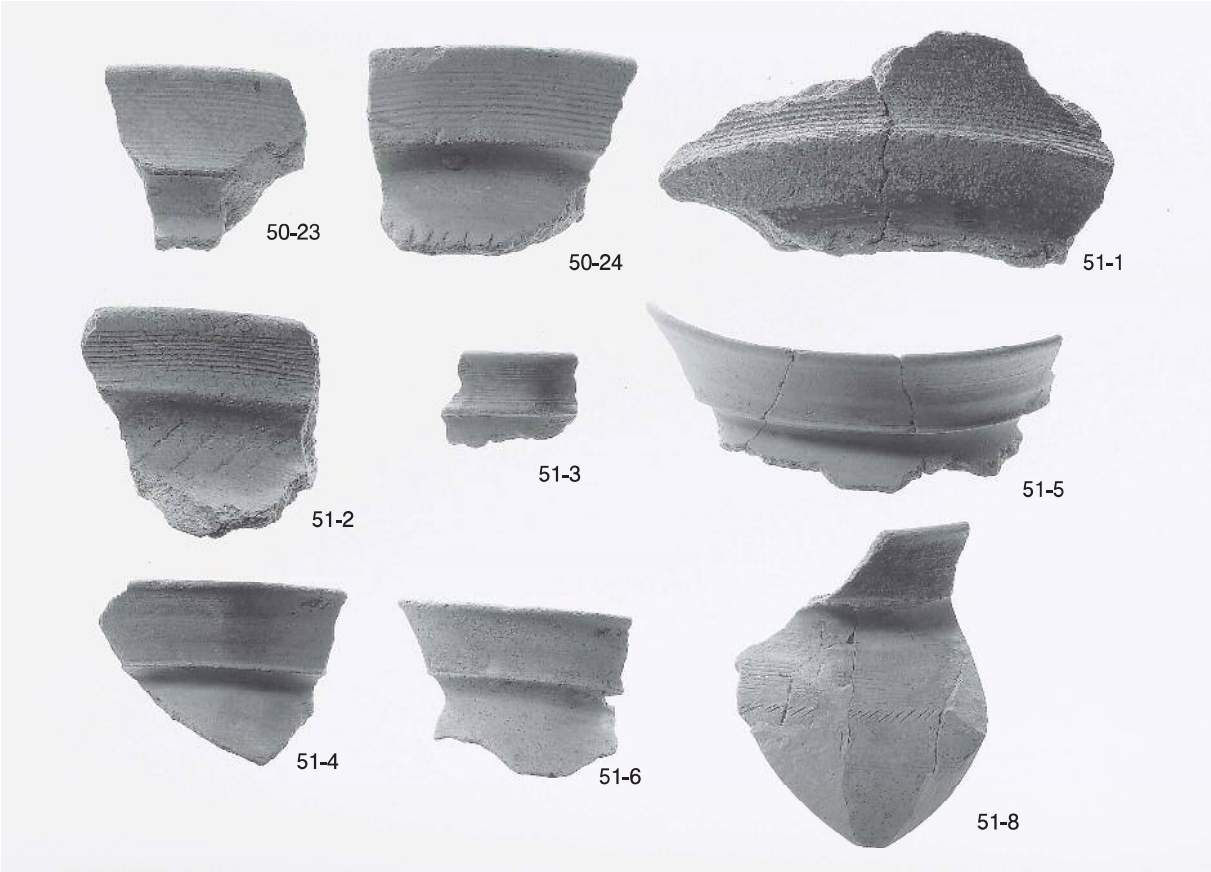
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（7）（第 49 ～ 52 図）



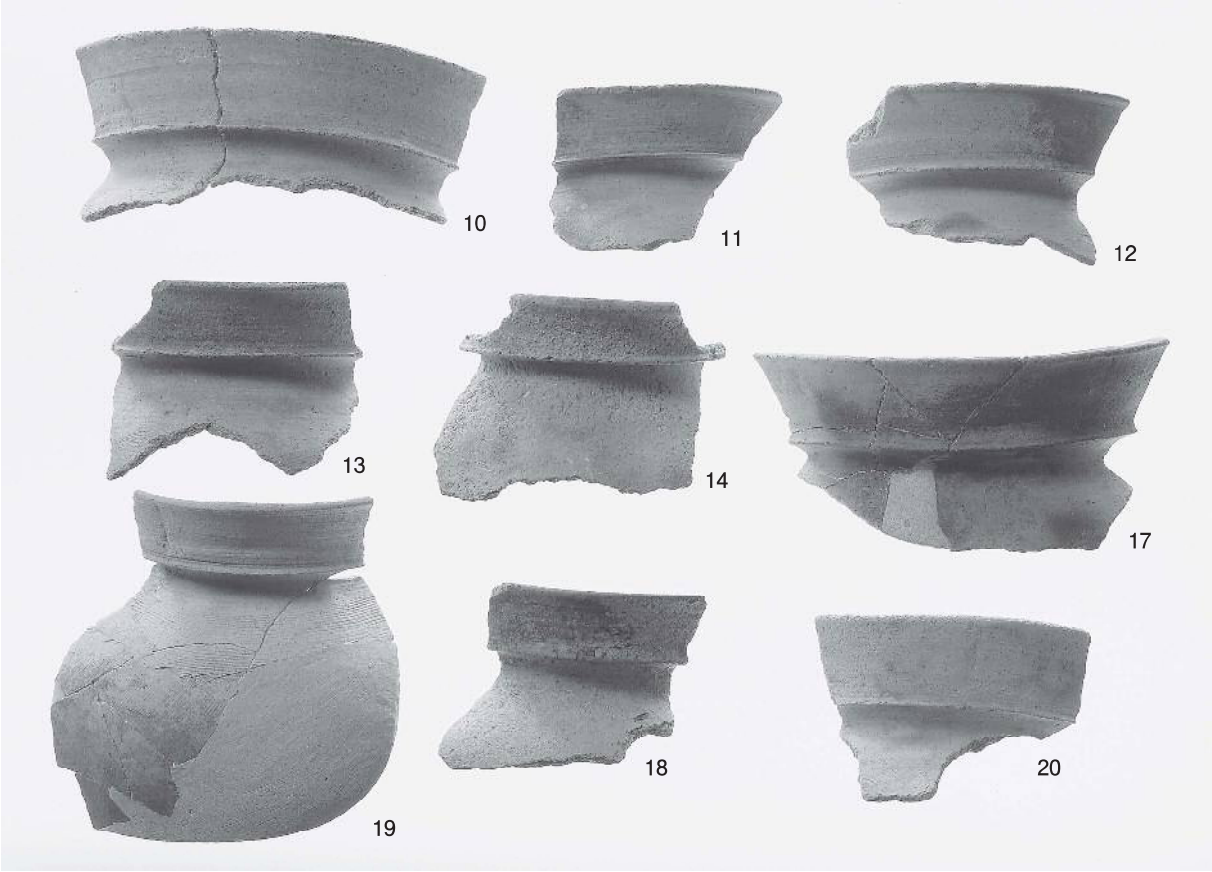
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（8）（第 50 図）



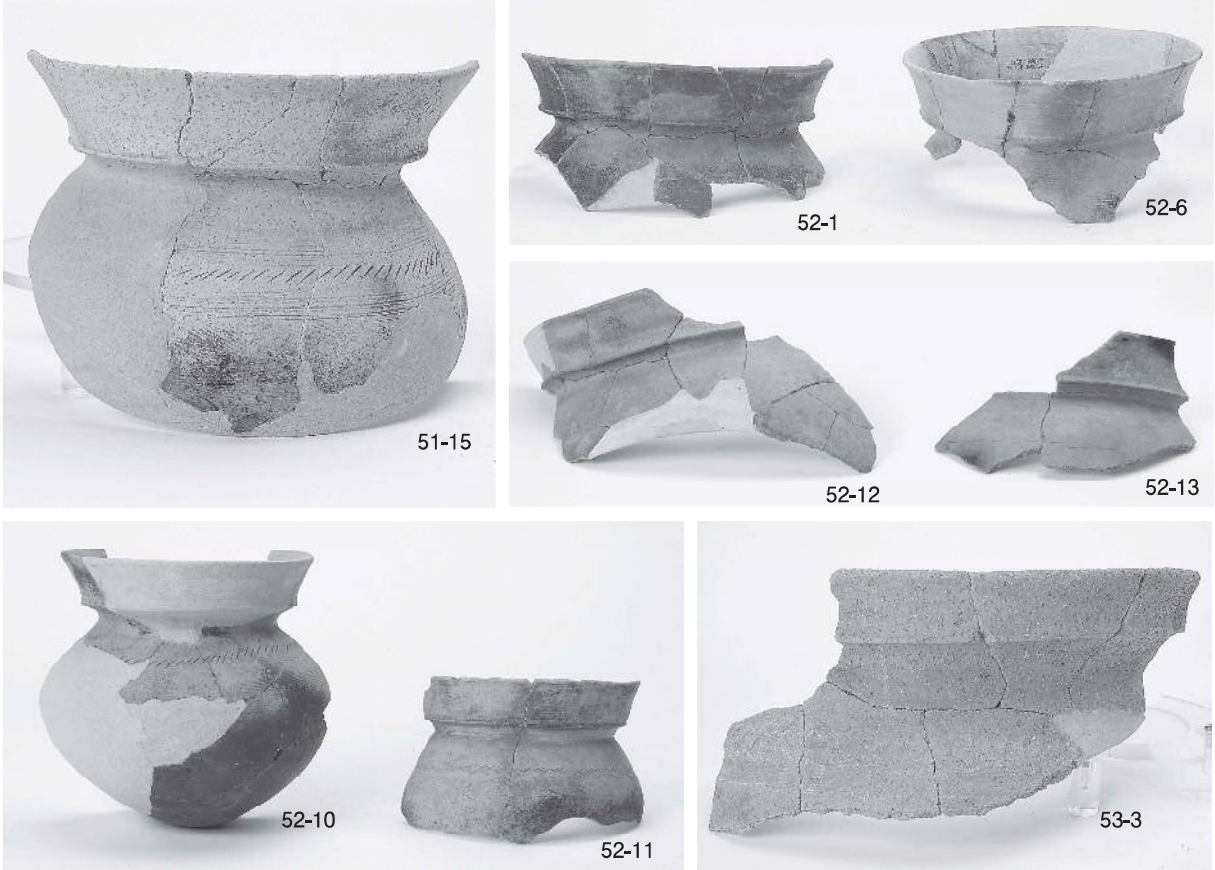
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（9）（第 50 図）



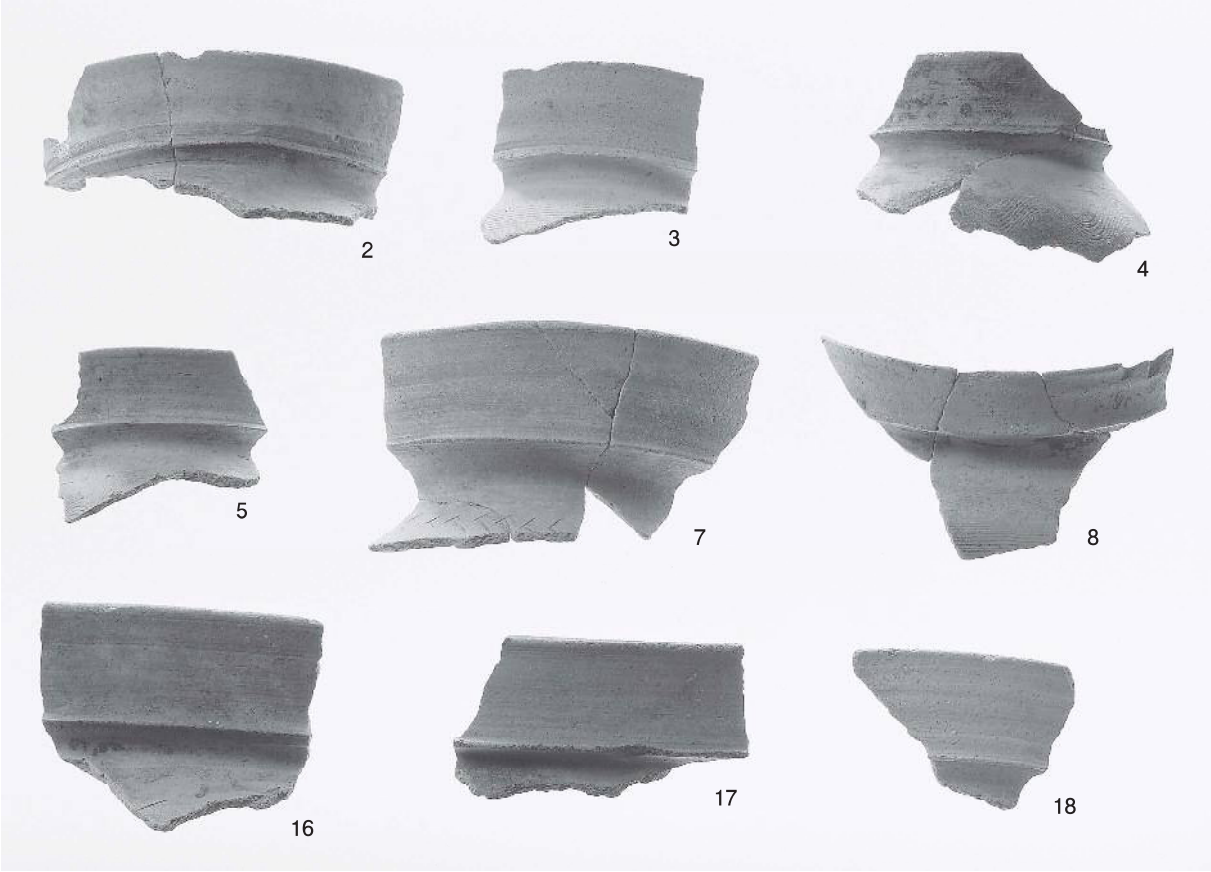
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（10）（第 50・51 図）



1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（11）（第 51 図）

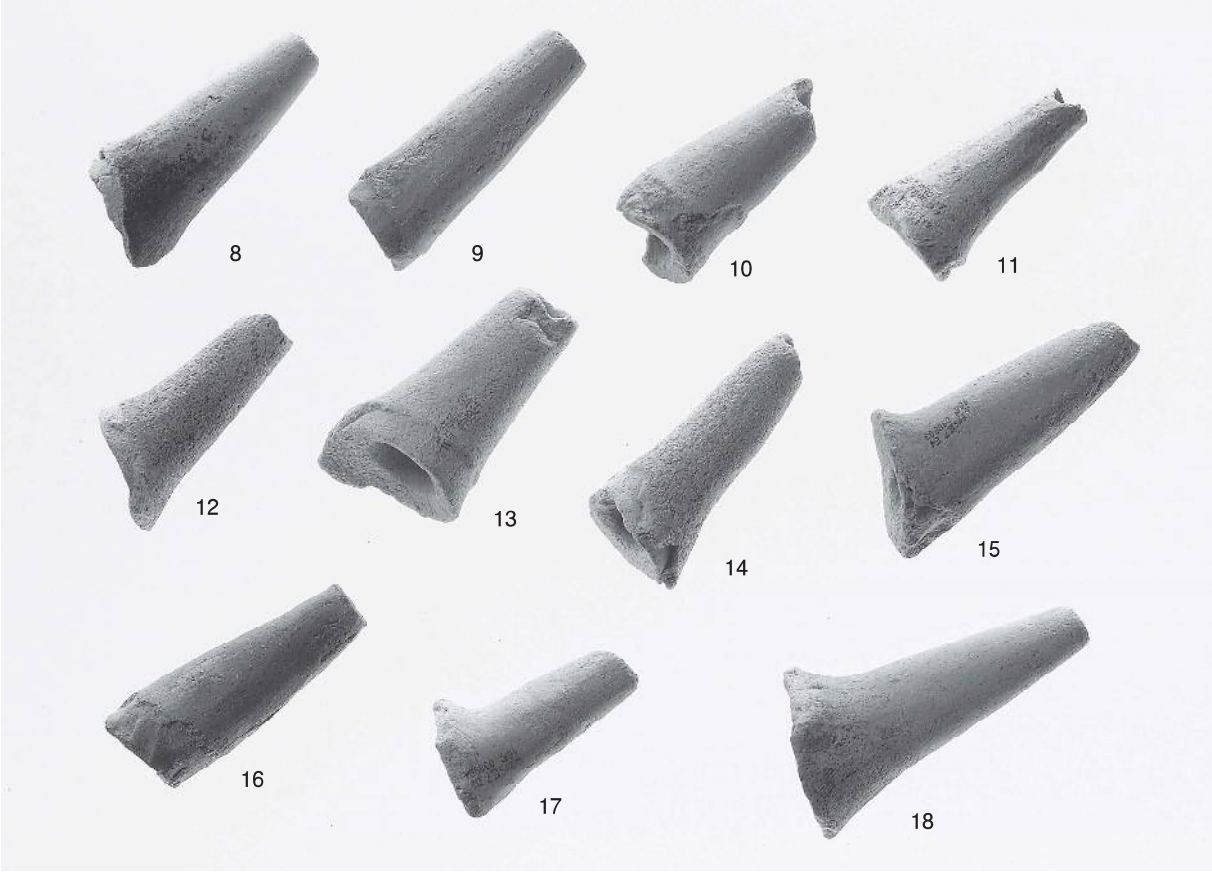


2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（12）（第 51 ～ 53 図）

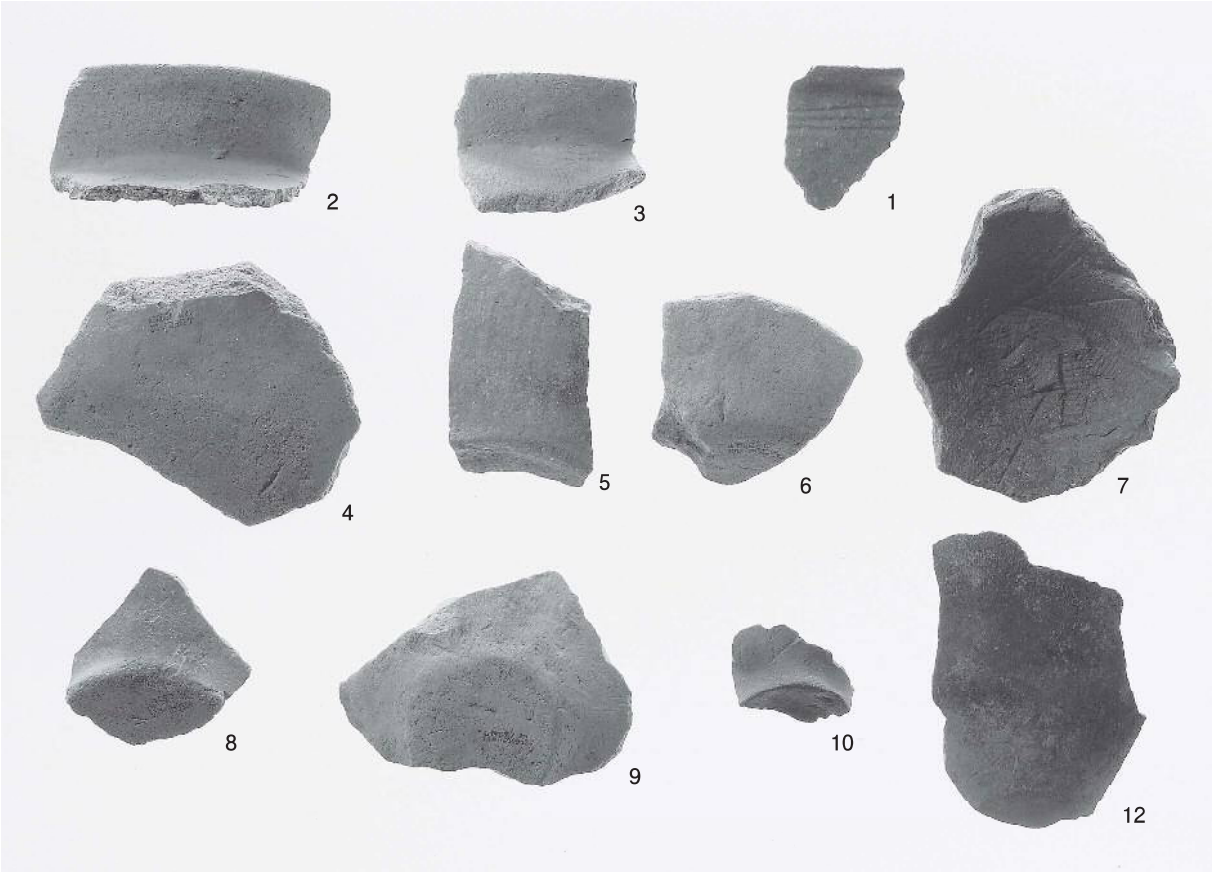


1. 山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（13）（第 52 図）

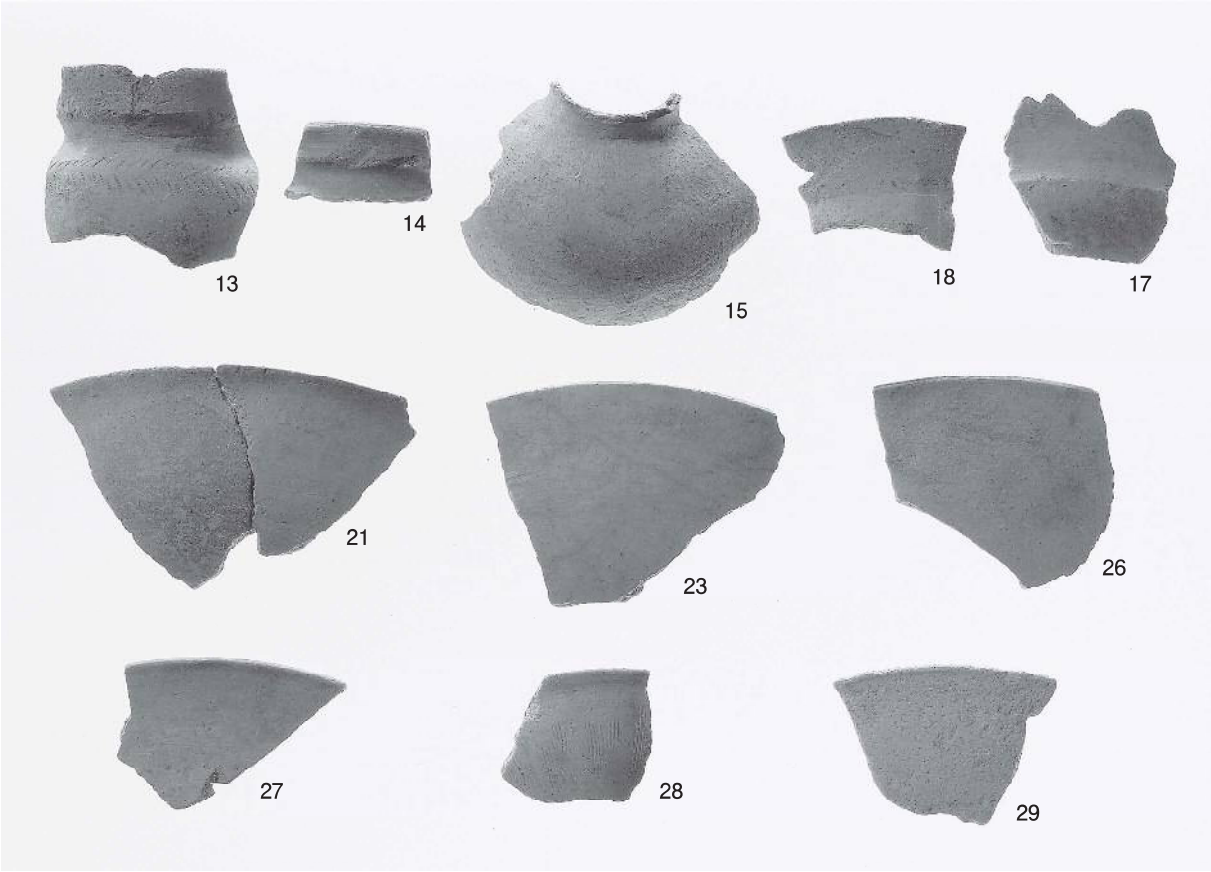
1. 山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（14）（第 53 図）



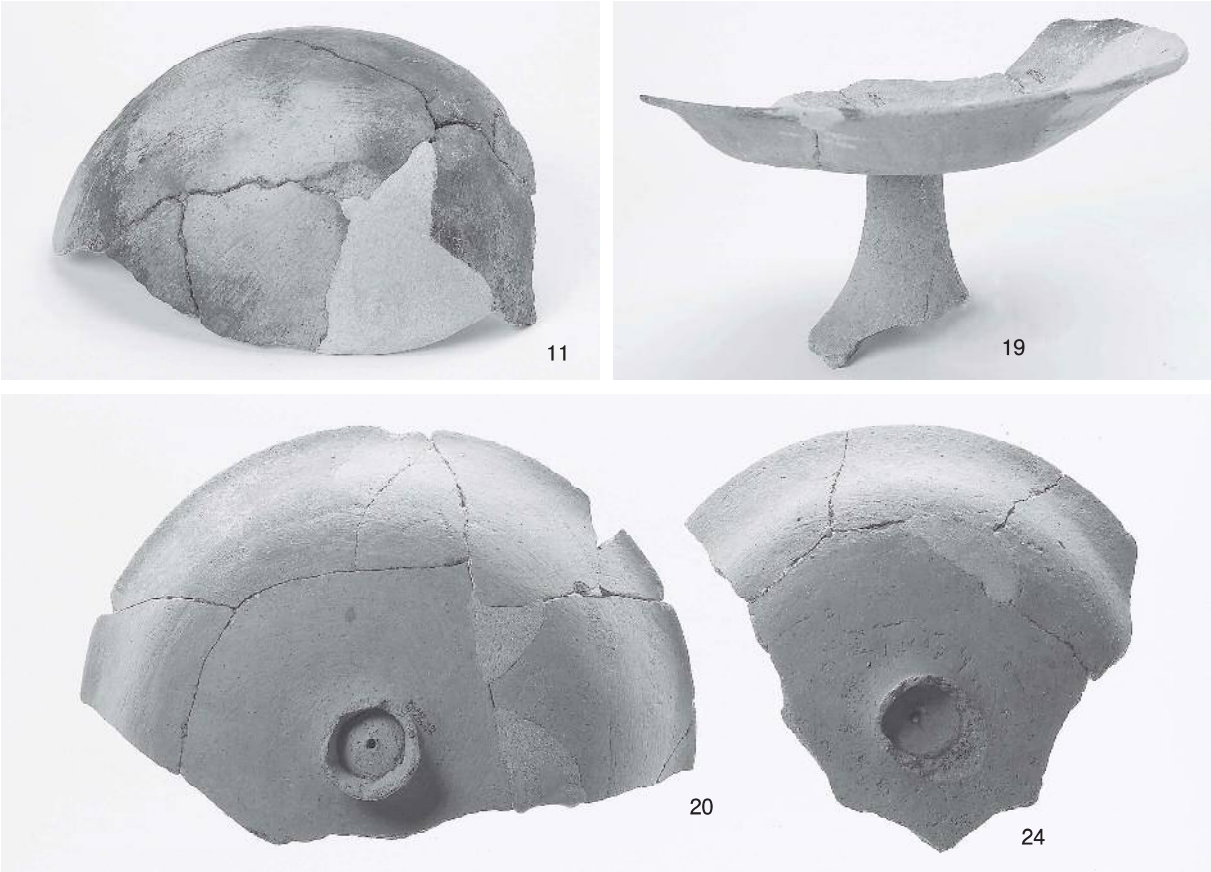
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（15）（第 53 図）



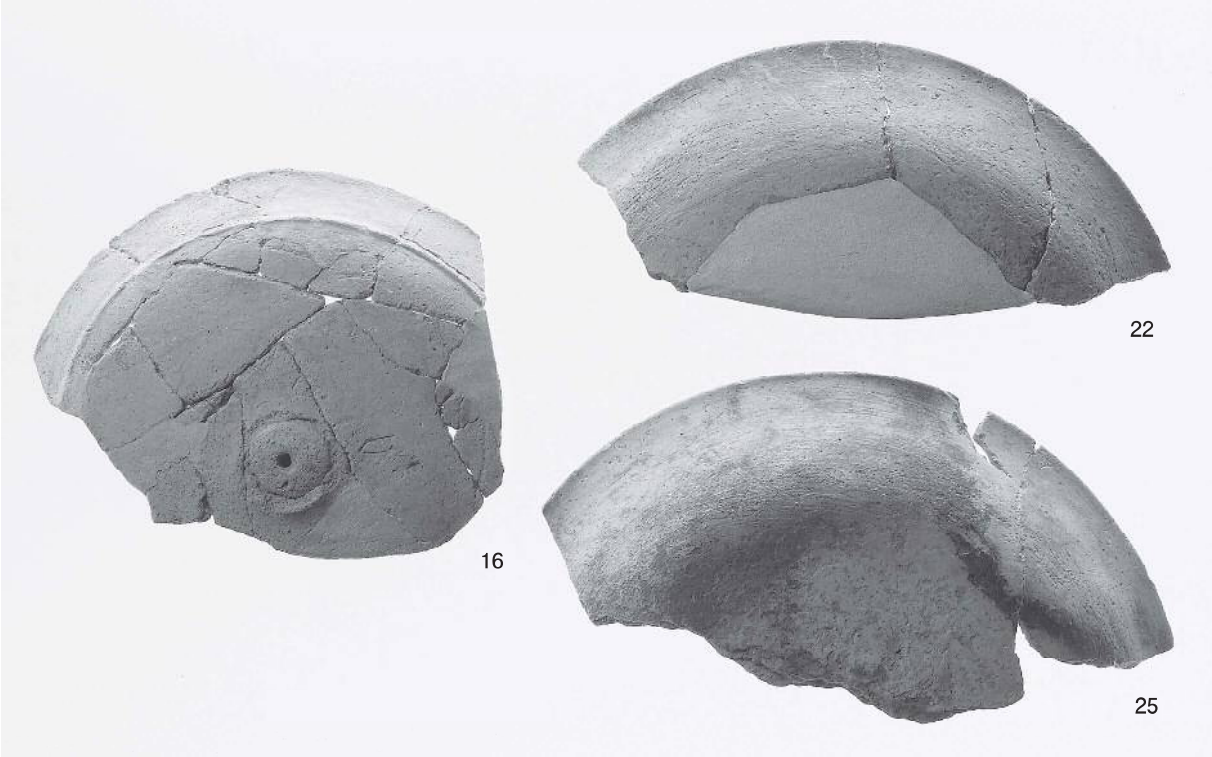
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（16）（第 54 図）



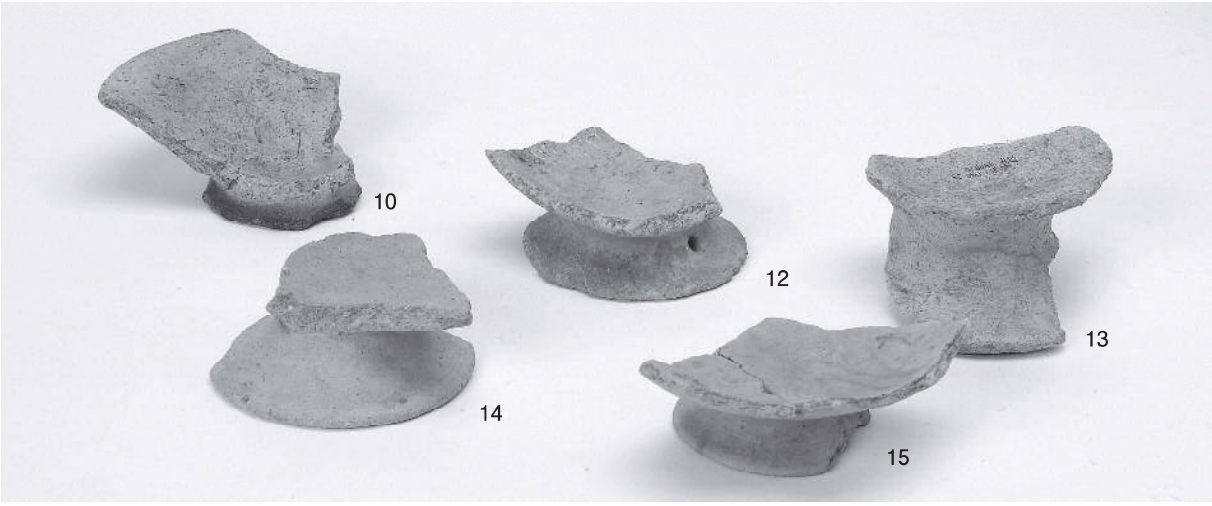
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（17）（第 54 図）



2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（18）（第 54 図）

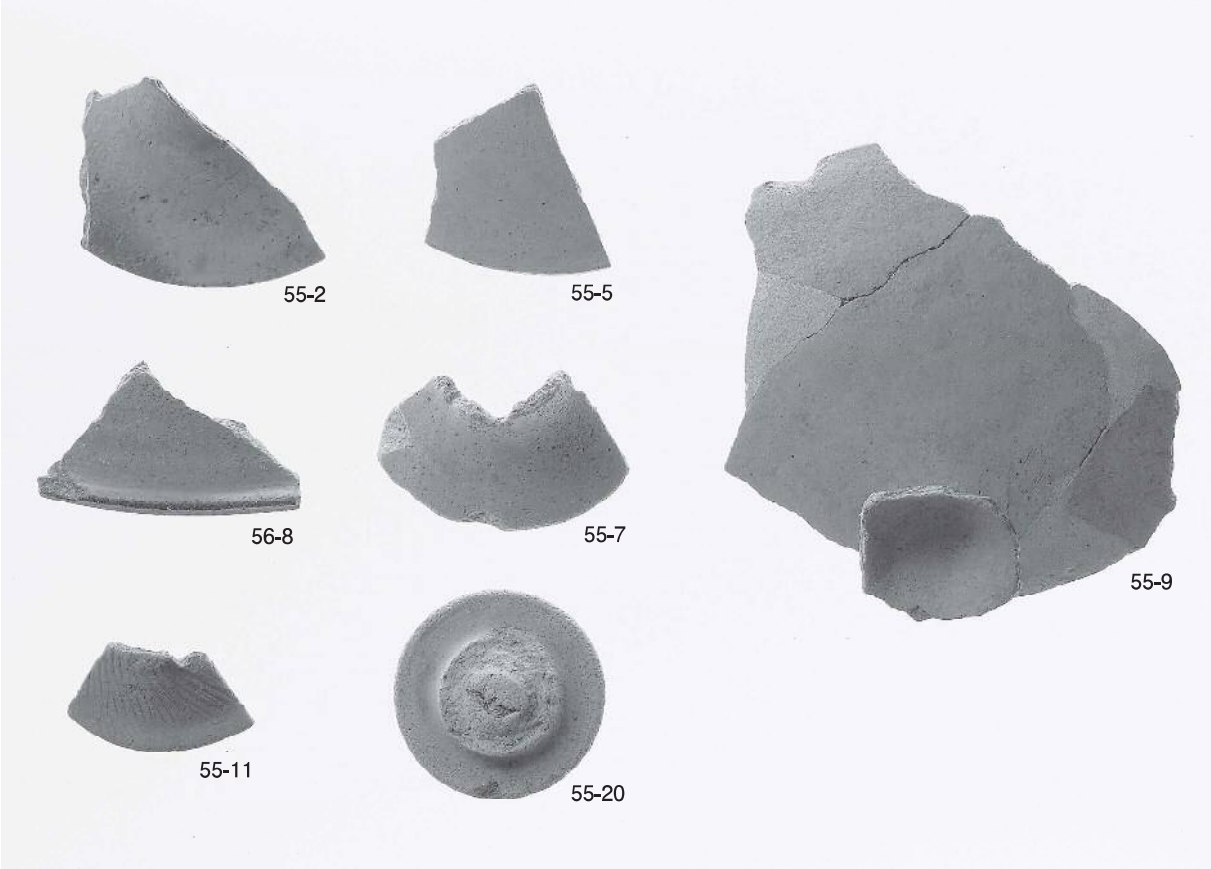


1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（19）（第 54 図）

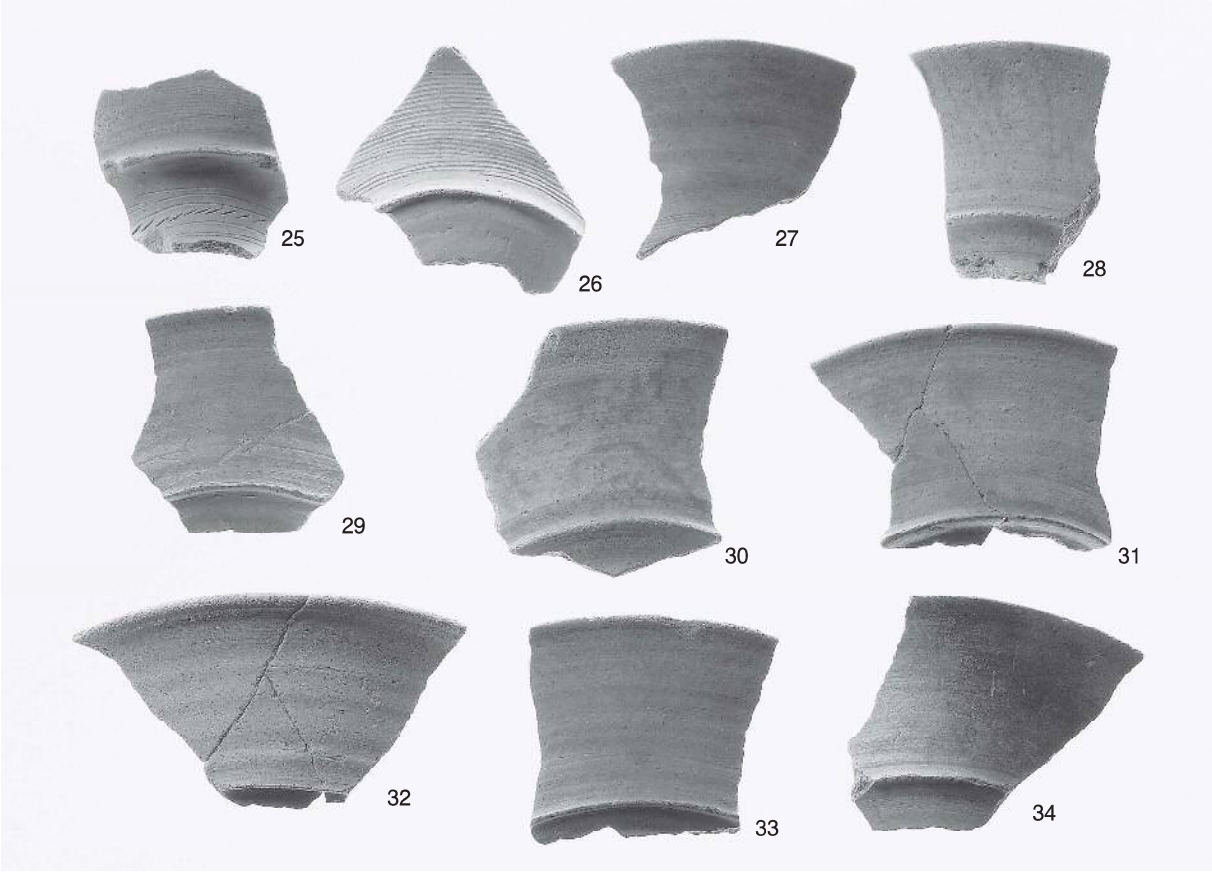


2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（20）（第 55 図）

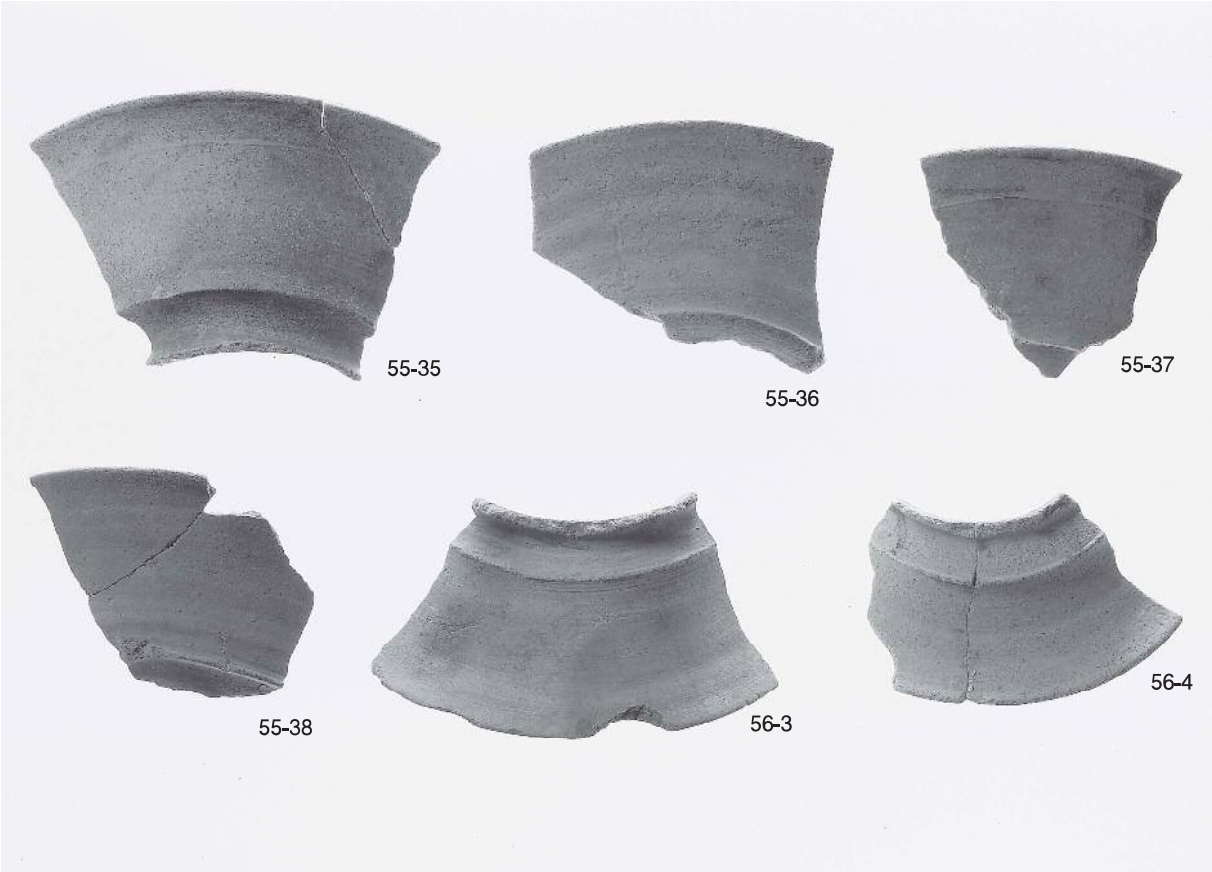
1. 山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（21）（第 55 図）



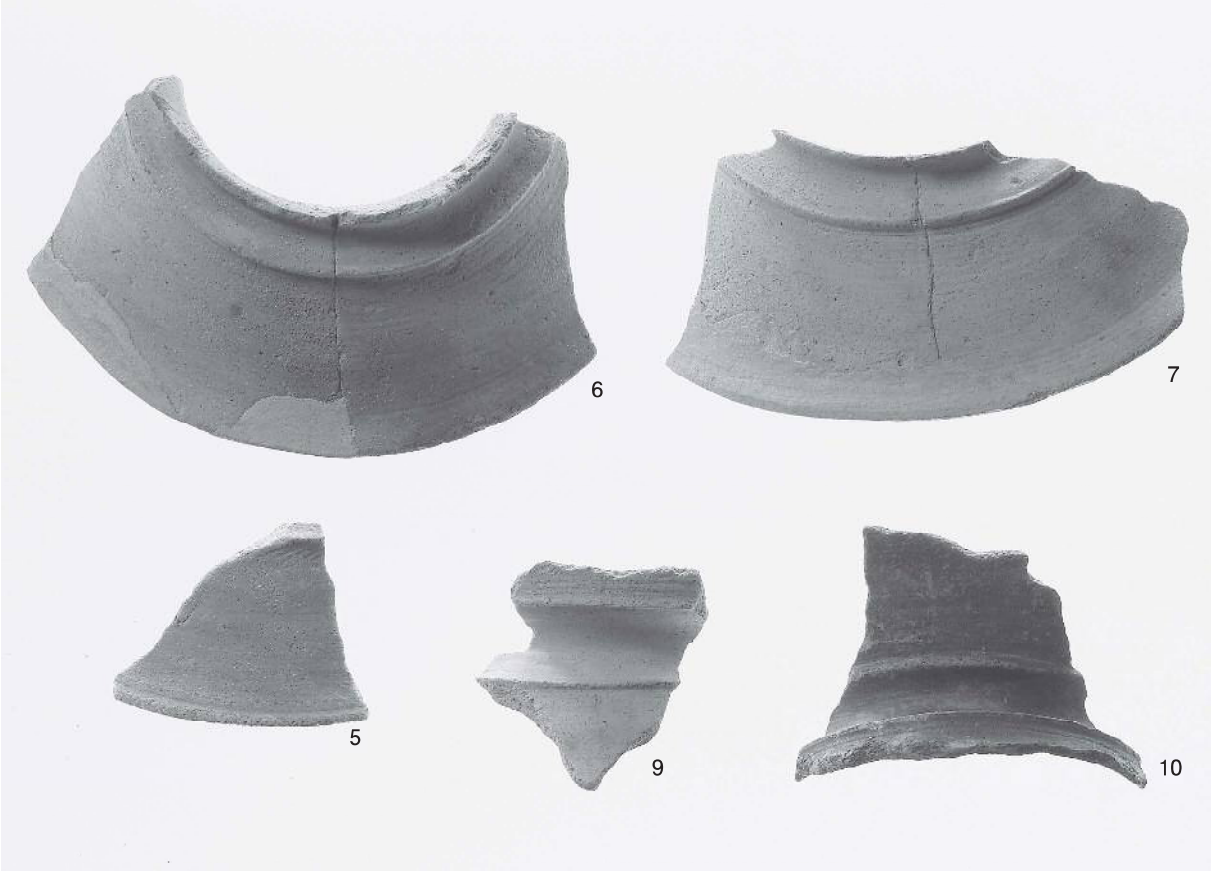
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（22）（第 55・56 図）



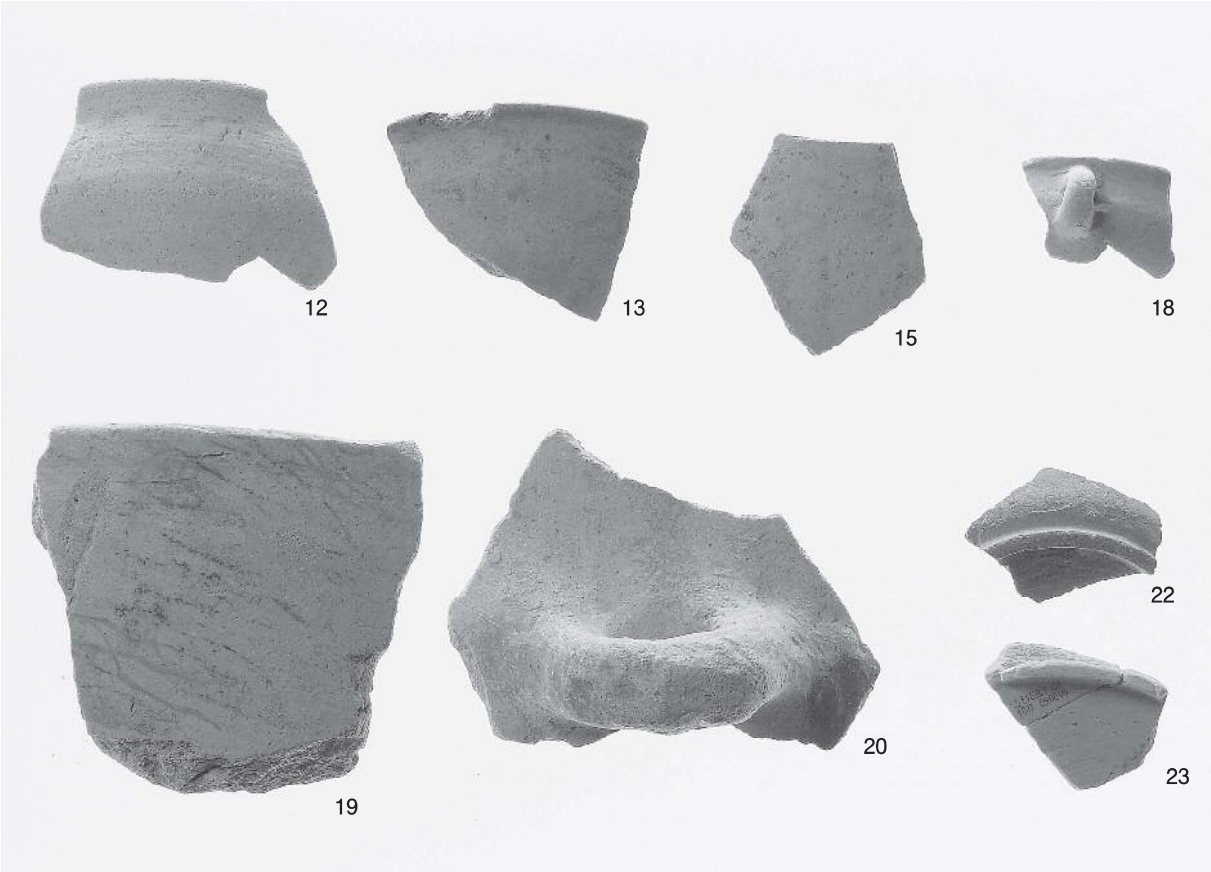
1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（23）（第 55 図）



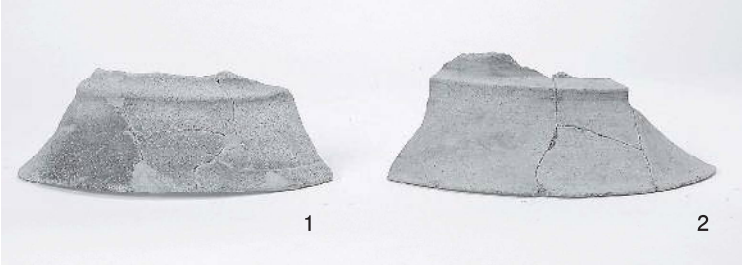
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（24）（第 55・56 図）

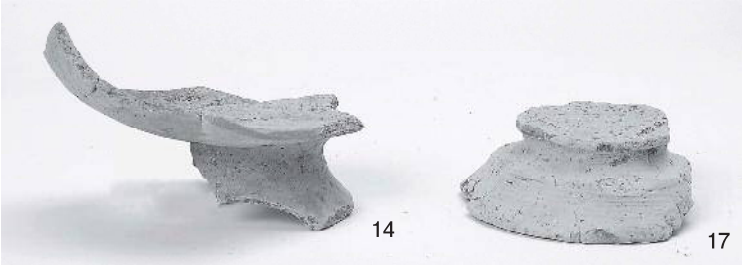


1．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（25）（第 56 図）

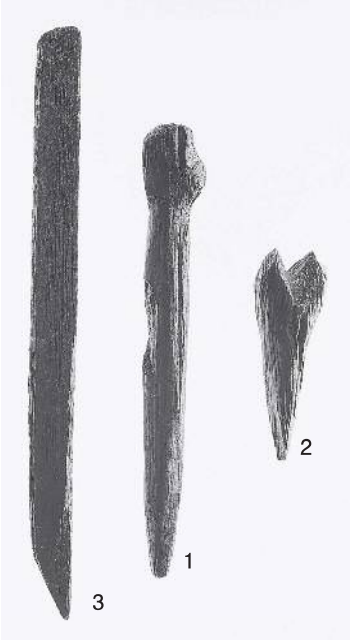


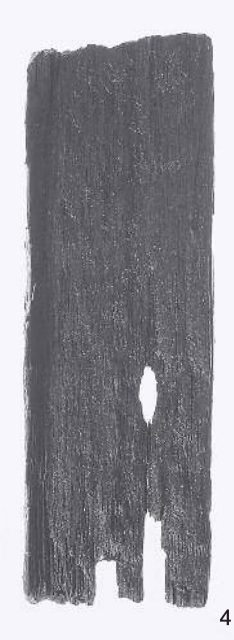
2．山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（26）（第 56 図）





1. 山持遺跡 6 区⑦ 10 層出土土器（27）（第 56 図）





1. 山持遺跡 6 区⑦　10 層出土木製品（第 57 図）

報　告　書　抄　録

フリガナ	ザンモチイセキ
書名	山持遺跡 Vol.7（6 区）
副書名	
巻次	
シリーズ名	国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	9
編著者名	今岡一三　（株）加速器分析研究所
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
所在地	〒 690 － 0131　島根県松江市打出町 33 番地 TEL 0852-36-8608（代）　E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp　http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 31 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
山持（ザンモチ）	シマネケンイズモシ 島根県出雲市 ニシハヤシギチョウ 西林木町	32203	W108	35° 23′ 50″	132° 45′ 55″	20090713 ～ 20091013	1,200㎡	道路建設

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山持	集落	縄文時代		縄文土器	縄文時代晩期の土器が出土
		弥生時代	土坑、土器群、溝	弥生土器 楽浪土器　石器、木製品	朝鮮半島系楽浪土器がほぼ完全な形で出土
		古墳時代	自然河道	土師器 須恵器	古墳時代中期の土器が出土

要約

本書は平成 21 年度に実施した出雲市山持遺跡の調査成果を収録している。当遺跡は出雲平野北側の北山山系南麓に位置する縄文時代から近世に至る複合遺跡である。調査成果としては、シルト系堆積層から弥生時代後期後葉の多量の土器が出土し、その下層の砂礫層から縄文時代晩期～弥生時代前期前半の土器と共に朝鮮半島系の楽浪土器がほぼ完全な形で出土した。

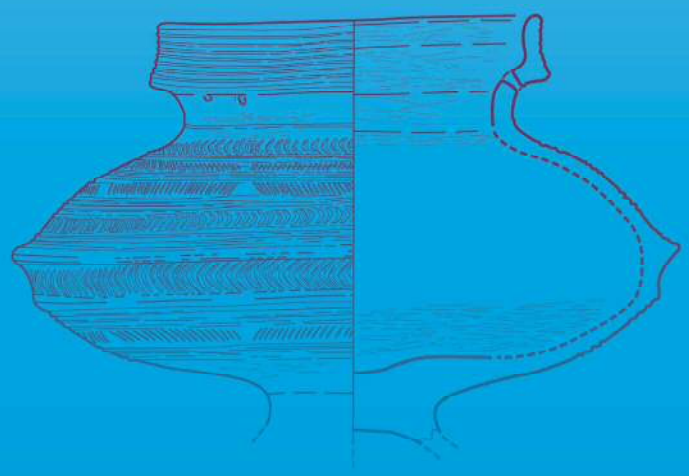
山持遺跡 Vol.7（6 区）

国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9

2011 年 3 月発行

編集　島根県埋蔵文化財調査センター
〒 690-0131
島根県松江市打出町 33
TEL　0852-36-8608
印刷　渡部印刷株式会社

ZANMOCHI SITE
Vol. 7
Loc. Ⅵ Excavation Report

March,2011

Shimane Prefectual Board of Education